

感染症発生動向調査事業報告書

平成28年（2016年）



東京都福祉保健局

序

感染症発生動向調査事業は、感染症発生状況の把握・分析、情報提供による感染症の発生及びまん延防止を目的として行われており、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」に基づく事前対応型の感染症対策として位置づけられています。

東京都健康安全研究センターでは、所内に東京都感染症情報センターを設置し、一類感染症から五類感染症および新型インフルエンザ等のうち全症例の届出が義務付けられている疾患や、定点医療機関からの届出対象となる五類感染症等について、都内の発生状況や病原体の検出状況等を迅速に把握し、解析・評価を行ったうえで都民や医療機関等に情報提供を行っています。

さて、2015 年からブラジルを中心に中南米および周辺地域で流行したジカウイルス感染症は、妊娠中のジカウイルス感染と胎児の小頭症との関連が強く示唆され、新たな健康への脅威となっています。本症はヒトスジシマカの媒介によって、日本国内において流行する恐れがあり、2016 年 2 月 5 日に感染症法上の四類感染症に指定されています。2016 年夏のリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの期間を前後して流行国との人の往來の増加があり、我が国へのジカウイルス感染症の侵入と感染拡大が危惧されましたが、幸いにして都内での届け出は 3 例ですべてが国外での感染でした。

しかし、ジカウイルス感染症やデング熱など、海外からの患者や無症状病原体保有者を通じて都内にウイルスが持ち込まれ流行するおそれがある疾患の予防に関しては、今後とも、蚊の発生抑制・早期診断体制の整備・国内患者発生時の感染拡大を未然に防止する取り組みなどを効果的に進めていかなければなりません。

また、近年増加を続けている梅毒については、今年も流行拡大の勢いが止まらず、届け出数は 1,673 例を数え、この 6 年間に 10 倍に増加しました。早急に、感染経路やハイリスクな行為を特定して、効果的な予防策を講じる必要があります。

本報告書は、東京都感染症予防検討委員会における 2016 年の感染症発生情報の評価や予防策の検討の結果をまとめたものです。各疾患の動向につきましては、「小児科・内科疾患（インフルエンザ）」と「基幹定点における疾患」は長岡常雄委員長に、「眼科疾患」は井上賢治委員に執筆をお願いしました。また、「一、二、三、四、五類感染症（全数届出）」及び「性感染症」につきましては当センターの疫学情報担当が、「病原体情報」につきましては同じく微生物部が担当しました。

末筆になりましたが、感染症発生動向調査事業にご協力くださいました東京都医師会、定点医療機関および保健所等の関係者の皆様方に厚く御礼を申し上げます。

関係各位におかれましては、感染症対策の一助として本書を広くご活用くださいますようお願い申し上げます。

平成 29 年 4 月

東京都健康安全研究センター所長 大井 洋

目 次

第1章 東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告	3
1 発生動向調査の概略	
(1) 調査対象疾患	4
(2) 定点医療機関	4
表1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数	4
(3) 運営方法	4
(4) 情報発信	5
2 本年（2016年）の概況	
(1) 一～四類、五類（全数把握対象）	5
(2) 五類感染症（定点把握対象）	8
(3) 疑似症（法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）	10
表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（一～四類、五類全数）	11
表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（全数動物）	12
表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ定点・小児科定点）	13
表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）	14
表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点週報告分）	14
表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点月報告分）	15
表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（性感染症定点）	15
表2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（疑似症定点）	15
3 各疾患の動向	
(1) 一～四類、五類感染症（全数把握対象）	16
ア 一類感染症	16
イ 二類感染症	16
ウ 三類感染症	16
エ 四類感染症	21
オ 五類感染症（全数把握対象）	28
表3-1 一～四類、五類（全数把握）感染症 週別患者報告数	47
表3-2 一～四類、五類（全数把握）感染症 保健所別患者報告数	50
表3-3 一～四類、五類（全数把握）感染症 年齢階級別患者報告数	53
(2) 小児科・内科疾患	
ア インフルエンザ	56
イ R S ウイルス感染症	57
ウ 咽頭結膜熱	58

エ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	59
オ	感染性胃腸炎	60
カ	水痘	61
キ	手足口病	62
ク	伝染性紅斑	63
ケ	突発性発しん	64
コ	百日咳	65
サ	ヘルパンギーナ	66
シ	流行性耳下腺炎	67
ス	不明発しん症	68
セ	川崎病	69
(3) 眼科疾患		
ア	急性出血性結膜炎	70
イ	流行性角結膜炎	71
(4) 基幹定点医療機関における週報告疾患		
ア	細菌性髄膜炎	72
イ	無菌性髄膜炎	73
ウ	マイコプラズマ肺炎	74
エ	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	75
オ	感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）	76
カ	インフルエンザ入院	77
(5) 基幹定点医療機関における月報告疾患		
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症	78
イ	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	79
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症	80
(6) 性感染症		
ア	性器クラミジア感染症	81
イ	性器ヘルペスウイルス感染症	82
ウ	尖圭コンジローマ	83
エ	淋菌感染症	84
オ	膣トリコモナス症	85
表 4-1	週別患者報告数	86
表 4-2	週別定点当たり患者報告数	88
表 5-1	保健所別患者報告数	90
表 5-2	保健所別定点当たり患者報告数	92
表 6	年齢階級別患者報告数	94
表 7-1	二次医療圏別患者報告数	95

表 7-2	二次医療圏別定点当たり患者報告数	96
表 8-1	月別患者報告数（基幹）	97
表 8-2	月別定点当たり患者報告数（基幹）	97
表 8-3	月別・性別患者報告数（基幹）	97
表 8-4	性別・年齢階級別患者報告数（基幹）	98
表 9-1	月別患者報告数（性感染症）	98
表 9-2	月別定点当たり患者報告数（性感染症）	98
表 9-3	月別・性別患者報告数（性感染症）	99
表 9-4	月別・性別定点当たり患者報告数（性感染症）	99
表 9-5	保健所別、二次医療圏別患者報告数（性感染症）	100
表 9-6	保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（性感染症）	101
表 9-7	年齢階級別患者報告数（性感染症）	102
表 10	検査結果別報告数（基幹）	102
表 11	疑似症サーベイランス報告数	103

第2章 東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・内科・基幹病原体定点医療機関からの搬入検体

ア	インフルエンザ	108
イ	RSウイルス感染症、ウ 咽頭結膜熱	112
エ	感染性胃腸炎	113
オ	水痘、カ 手足口病	114
キ	伝染性紅斑、ク 突発性発しん、ケ ヘルパンギーナ	115
コ	流行性耳下腺炎、サ 不明発しん症	116
シ	川崎病、ス 無菌性髄膜炎、セ その他	117

(2) 眼科定点からの搬入検体

(3) 性感染症（STI）定点からの搬入検体

(4) 積極的疫学調査により検出されたウイルス検査結果

2 細菌検査結果

(1) 四類感染症の病原体検索

(2) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索

(3) 五類感染症（定点把握対象）の病原体検索

3 性感染症の病原体検索

(1) クラミジア・トラコマチス、淋菌および膣トリコモナス検査

第3章 資 料

1	東京都感染症発生動向調査定点医療機関名簿	129
2	東京都感染症予防検討委員会委員名簿	145
3	東京都感染症発生動向調査事業の流れ	146
	東京都感染症発生動向調査事業実施要綱	147
	別表1 感染症法に基づく感染症の分類	
1	一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症	156
2	五類感染症（全数把握）	157
3	新型インフルエンザ等感染症	158
4	五類感染症（定点把握）	158
5	疑似症	158
	別表2 五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期	159
	別表3 疑似症の調査単位と報告時期	159
	別記様式一覧表	160
	別記様式1	161
	別記様式2	162
	別記様式3	163
	別記様式4	164
	別記様式5	165
	別記様式6-1	166
	別記様式6-2	167
	別記様式7	168
	別記様式8	169
	保健所における麻しん対応調査票	170
	別記様式9	171
	別記様式10	172

第 1 章

東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告

2016 年

(2016 年 1 月 4 日～2017 年 1 月 1 日)

2015 年の 5 月以降中南米を中心にジカウイルス感染症が広がっており、感染後にギラン・バレー症候群の発症や流行地域で小頭症の新生児の増加が報告されています。2016 年 2 月 1 日には WHO は感染がほかの地域にも広がる恐れがあるとして緊急事態を宣言しました。日本では 2016 年 2 月 5 日にジカウイルス感染症を感染症法上の 4 類感染症に指定し、全数報告によるサーベイランスを開始し検査体制も整備されました。同時に検疫感染症にも追加され検疫における監視体制も開始されました。2016 年 8 月 5 日にはリオデジャネイロオリンピックが開幕しましたが、112 年ぶりに復活したゴルフ競技で世界のトップ選手の出場辞退が続出しました。これは屋外競技となるゴルフでのジカウイルス感染症を恐れたことが大きな原因だったようです。

一方、全数把握疾患では梅毒の報告数が急激に増えています。2005 年までは東京都の年間の報告数は 100 件に満たなかったのですが 2006 年には 132 件となり、その後 2011 年に 248 件、2012 年に 297 件、2013 年に 419 件、2014 年に 507 件、2015 年に 1,044 件、2016 年に 1,673 件と、特にここ数年の増加が著しい状況です。原因の究明とともに対策が急がれます。

定点把握疾患であるインフルエンザの 2016/17 シーズンの流行の開始は全国的にも例年より早く、東京都でも 2016 年 46 週（11.14～11.20）から報告数が定点当たり 1.00 件を超え流行開始となりましたが、流行のピークは 2017 年 4 週（1.23～1.29）とおおむね例年と同時期の流行になりました。

基幹定点における月報告疾患であるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告数は着実に減少がみられます。

本年の報告書を取りまとめるにあたり、調査事業にご協力をいただきました定点医療機関の諸先生方と関係者の皆様方に厚く御礼を申し上げます。またご指導いただきました東京都医師会の鳥居明理事、副委員長の岡部信彦、萩原温久の両先生を始めとする検討委員会の先生方、事務局の皆さまに感謝申し上げます。

平成 29 年 7 月

東京都医師会感染症予防検討委員会
委員長 長岡常雄

1 発生動向調査の概略

(1) 調査対象疾患

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」及び「感染症発生動向調査事業実施要綱」に定められている全数把握対象疾患及び定点把握対象疾患に加え、厚生労働省令で定める二つの疑似症をサーベイランスの調査対象としている。また、東京都が独自に指定する調査対象疾患として、不明発しん症と川崎病を小児科疾患、膣トリコモナス症を性感染症に加えている。

2016年2月に、ジカウイルス感染症が新たに四類感染症として追加指定された。

(2) 定点医療機関

患者定点となる医療機関数は、小児科定点 264、内科定点 155、眼科定点 39、基幹定点 25、性感染症定点 55、疑似症単独定点 24 が設定され、このうち 70 医療機関が病原体定点を兼ねている。なお、小児科定点はインフルエンザ定点及び疑似症定点としての機能も果たし、内科定点は疑似症定点としての機能も果たしている。

表 1 東京都感染症発生動向調査事業定点医療機関数

(2016 年 12 月 31 日現在)

定 点 種 別 (疾患数)	患 者 定 点 数	病 原 体 定 点 数
小 児 科 定 点 (14)	264	26
内 科 定 点 (1)	155	15
眼 科 定 点 (2)	39	4
基 幹 定 点 (9)	25	21
性 感 染 症 定 点 (5)	55	4
疑 似 症 単 独 定 点 (2)	24	

(3) 運営方法

全数把握対象疾患は、診断後直ちに（五類感染症は 7 日以内、ただし侵襲性髄膜炎菌感染症及び麻しんは診断後直ちに）保健所に届出が行われるほか、小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾患（薬剤耐性菌による感染症）については月単位となっている。

週単位で報告される疾患については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者を、小児科、内科、眼科の各定点医療機関は年齢別の患者数、基幹定点医療機関は年齢及び検出病原体名を所定の調査票に記入し保健所に送付する。

月単位で報告される疾患については、性感染症定点医療機関は当該月の年齢別患者数、基幹定点医療機関は当該月の患者の年齢、検体採取部位を所定の調査票に記入し保健所に送付する。

疑似症サーベイランスでは、疑似症定点医療機関において報告基準を満たす患者が発生した場合に、症例分類、年齢、性別を、所定の調査票に記入し直ちに保健所に送付する（疑似症単独定点は、疑似症サーベイランスシステムへ直接入力する）。なお、発生がない場合であってもその旨週単位で報告する。

医療機関から届いた情報は、保健所が発生動向調査システム及び疑似症サーベイランスシステムに

入力する。東京都健康安全研究センター疫学情報担当（基幹地方感染症情報センター）は、保健所からの情報を確認後、国へ送信する。

（４）情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果と共に、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページ（<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp>）で公開され、広く都民に情報還元が図られている。さらに都医ニュースの特定の感染症を取り上げ、週報に「感染症豆知識」として掲載している。

また、隔月第４木曜日を目途に開催される東京都感染症予防検討委員会において直近２か月分の情報について討議し、その情報は東京都医師会雑誌に「感染症だより」として掲載されている。

２ 本年（2016 年）の概況

（１）一～四類、五類（全数把握対象）

ア 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

イ 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）の届出はなく、結核については別途「東京都における結核の概況」として報告する。

ウ 三類感染症

コレラ：2016 年は 2 人の届出があった。性別はすべて男性で推定感染地は国外であった。

細菌性赤痢：2016 年は 40 人の届出があった。菌種は *sonnei* 32 件、*flexneri* 7 件、*sonnei* および *flexneri* 1 件であった。推定感染地は国内 7 人、国外 33 人であった。国内感染と推定された 7 人のうち同性間性的接触によると推定される感染例が 1 例報告された。

腸管出血性大腸菌感染症：2016 年は 452 人の届出があり、過去 5 年間で最も多い届出数となった。症状別では患者 306 人、無症状病原体保有者 145 人、検案死体からの検出が 1 人あった。溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断されたものは 17 人であった。届出はほぼ 1 年を通して見られたが、特に梅雨期及び晩夏期に集団事例の発生に伴い増加した。症例の集積は、第 25～26 週に O145VT2 及び O 血清群不明 VT1 による老人ホーム関連が 20 人、第 32～36 週に O157 VT1・VT2 を主とする国内飲食店関連が 7 人、第 35～37 週に O157 VT1・VT2 による老人ホーム関連が 49 人であり、うち死亡例が 1 人あった。血清型・毒素型は O157 VT1・VT2 が 197 件で最多であった。推定感染地は国内 434 人、国外 13 人であった。

腸チフス：2016 年は 18 人の届出があった。症状別では患者 16 人、無症状病原体保有者 2 人だった。推定感染地は国外 16 人、国内 2 人であった。ファージ型判明者の内訳は E1 が 11 人、DVS が 3 人、UVS1 が 1 人、UVS4 が 1 人であった。

パラチフス：2016 年は 8 人の届出があった。推定感染地はすべて国外で、ファージ型は 1 が 7 人、UT (untypeable) 1 人であった。

エ 四類感染症

E型肝炎：2016年は37人の届出があった。推定感染地は国内35人、国外2人であった。推定感染経路は経口感染が23人、不明が14人で、経口感染のうちレバーが6人、鹿肉の喫食が2人（うち1人は猪肉も摂取）、馬刺し1人、豚肉1人であった。

A型肝炎：2016年は65人の届出があり、2003年以来最多となった。推定感染地は国内38人、国外22人、国内または国外5人であった。推定感染経路は、飲食物を介した経口感染48人、性的接触5人、不明12人（うち2人は家族内感染）であり、経口感染の推定原因食品は魚介類が14人と最も多かった。

オウム病：2016年は2人の届出があった。推定感染地はすべて国内、感染経路は不明であった。

コクシジオイデス症：2016年は2人の届出があった。推定感染地はすべて国外（米国）であった。

ジカウイルス感染症：届出対象疾患となった2016年2月15日以降3件の届出があった。推定感染地はすべて国外で、推定感染国はベトナム2人、ドミニカ1人であった。

チクングニア熱：2016年は4人の届出があった。推定感染地はすべて国外で、推定感染国はインド2人、キューバ1人、アンゴラ1人であった。

つつが虫病：2016年は7人の届出があった。推定感染地はすべて国内で、推定感染地は東京都6人（多摩地区3人、島しょ地区3人）、不明1人であった。

デング熱：2016年は90人（うちデング出血熱3人）の届出があった。血清型は59件報告されており、その内訳は1型15件、2型21件、3型16件、4型6件、1型及び3型1件であった。推定感染地はすべて国外であった。

ブルセラ症：2016年は1人の届出があった。推定感染国はタンザニアであった。推定感染経路は不明であった。

ボツリヌス症：2016年は1人の届出があり、2005年の届出に次ぐ2人目となった。病型は乳児型、性別は女性で、年齢階級別は10歳未満であった。毒素はA型であった。推定感染地は国内だが、推定感染経路は不明であった。

マラリア：2016年は18人の届出があった。推定感染地はすべて国外であった。

レジオネラ症：2016年は143人の届出があった。病型は肺炎型133人、ポンティアック熱型7人、無症状病原体保有者3人であった。死亡例はなかった。推定感染地は国内137人、国外4人、国外又は国内2人であった。推定感染経路は水系感染59人、塵埃感染10人、エアコン由来1人、不明73人であった。公共浴場施設（温泉を含む）での感染と推定されたのは37人であった。

レプトスピラ症：2016年は7人の届出があった。推定感染地は国内5人、国外2人であった。

オ 五類感染症（全数把握対象）

アメーバ赤痢：222人の届出があった。腸管アメーバ症189人、腸管外アメーバ症22人、腸管及び腸管外アメーバ症11人であった。性別は男性203人、女性19人で、年齢階級別では10歳未満1人、20～29歳17人、30～39歳26人、40～49歳71人、50～59歳63人、60～69歳30人、70歳以上14人であった。推定感染地は国内175人、国外35人、国内又は国外12人であり、推定感染経路は、性的接触79人、飲食物による経口感染42人、2経路以上7人、不明94人であった。

ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）：69人の届出があった。内訳は、B型肝炎57人、C型肝炎12人であった。B型肝炎の推定感染地は国内50人、国外7人で、推定感染経路は性的接触48人、針等の鋭利なものの刺入による感染1人、不明8人であった。C型肝炎の性別はすべて男

性で、推定感染地は国内 11 人、国外 1 人で、推定感染経路は性的接触 12 人（すべて同性間）であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症：190 人の届出があった。分離された菌種のうち *Enterobacter cloacae* が 76 件、*Enterobacter aerogenes* が 52 件、*Klebsiella pneumoniae* が 23 件、*Escherichia coli* が 15 件、*Citrobacter freundii* が 6 件、*Serratia marcescens* が 5 件、2 菌種以上が 2 件（*Klebsiella pneumoniae* 及び *Escherichia coli*、*Klebsiella pneumoniae* 及び *Citrobacter freundii*）であった。

急性脳炎：85 人の届出があった。年齢階級別では 10 歳未満が多く 64 人（うち 5 歳未満 43 人）だった。病原体はインフルエンザウイルス 30 件、単純ヘルペスウイルス 5 件、マイコプラズマ 3 件、RS ウイルス 3 件、ヒトヘルペスウイルス 2 件、エンテロウイルス、ノロウイルス、ロタウイルス、ムンプスウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス、ヒトヘルペスウイルス及びアデノウイルスが各 1 件、不明 36 件であった。

クリプトスポリジウム症：2 人の届出があった。推定感染地は国内 1 人、国外 1 人であった。推定感染経路は国内の 1 人は動物（牛）からの感染、国外の 1 人は性的接触であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD)：16 人の届出があった。孤発性プリオン病が 12 人（確実 1 人、ほぼ確実 11 人）であり、うち古典型 CJD が 11 人を占めた。また遺伝性プリオン病が 4 人あり、すべて家族性 CJD であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症：65 人の届出があり、過去 10 年で最も多い届出数となった。死亡例は 12 人（40～49 歳 1 人、50～59 歳 1 人、60～69 歳 3 人、70 歳以上 7 人）報告された。推定感染経路は創傷感染 24 人、飛沫・飛沫核感染 3 人、創傷感染又は経口感染 1 人、不明 37 人であった。

後天性免疫不全症候群：464 人の届出があり、AIDS 患者 97 人、HIV 感染者 367 人（指標疾患以外の有症者 64 人、無症候性キャリア 303 人）であった。推定感染地は国内 372 人、国外 32 人、国内又は国外 4 人、不明 56 人であった。推定感染経路は性的接触 416 人（同性間 339 人、異性間 59 人、両性間 16 人、不明 2 人）、静注薬物使用 1 人、2 経路以上 4 人（すべて同性間性的接触又は静注薬物使用）、不明 43 人であった。

ジアルジア症：17 人の届出があった。推定感染地は国内 7 人、国外 10 人であった。推定感染経路は、経口感染 7 人、性的接触 4 人（同性間 3 人、異性間 1 人）、経口感染又は水系感染 2 人、経口感染又は同性間性的接触 1 人、不明 3 人であった。

侵襲性インフルエンザ菌感染症：46 人届出があった。血清型は f 群 5 人、無莢膜型 1 人、型別不明 32 人、検査未実施 8 人であった。Hib ワクチン接種歴は、4 回接種が 1 人、3 回接種が 3 人、1 回接種が 2 人のほか、接種なし 13 人、不明 27 人であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症：5 人の届出があった。死亡例は 3 人報告された。血清型 B 群 2 人、Y 群及び W-135 群 1 人、不明 2 人であった。推定感染地は国内 4 人、国内又は海外 1 人だった。

侵襲性肺炎球菌感染症：356 人の届出があった。死亡例は 24 人報告された。ワクチン接種歴は 4 回接種 37 人、3 回接種 14 人、2 回接種 2 人、1 回接種 7 人、接種有かつ詳細不明 20 人、なし 157 人、不明 119 人であった。血清型は 124 人が判明した（12F 型 23 人、3 型 11 人、24F 型 10 人、15C 型 9 人、7F 型、10A 型、22F 型、35B 型 7 人、15A 型、19A 型 4 人、6B 型、6C 型、23A 型、33F 型 3 人、1 型、6A 型、7F 型、19F 型、20 型、23B 型、24B 型、38 型 2 人、その他 7 人）。

水痘（入院例）：56 人の届出があった。死亡例の報告はなかった。ワクチン接種歴は 2 回接種 4 人、1 回接種 8 人、なし 21 人、不明 23 人であった。

梅毒：1,673 人の届出があり、1999 年以来最多となった。早期顕症梅毒Ⅰ期 535 人、早期顕症梅毒Ⅱ期 664 人、晩期顕症梅毒 23 人、無症候 449 人、先天梅毒 2 人であった。20～49 歳の男性が全体の 58.4%を占めた一方で、20～29 歳においては 49.8%が女性であった。推定感染地は国内 1,629 人で、推定感染経路は性的接触 1,597 人、母子感染 3 人、針等の鋭利なものの刺入による感染 3 人、静注薬物常用 2 人、輸血・血液製剤 1 人であった。

播種性クリプトコックス症：20 人の届出があった。推定感染国は国内 19 人、国外 1 人であった。推定感染原因は免疫不全 15 人、鳥類の糞などとの接触 2 人、ステロイド加療中又は鳥類の糞などとの接触 1 人、不明 2 人であった。

破傷風：4 人の届出があった。推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は創傷感染 3 人、針等の鋭利なものの刺入による感染 1 人であった。破傷風含有ワクチン接種歴はすべて不明であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症：2 人の届出があった。菌種はすべて *Enterococcus faecium*、耐性遺伝子は vanB1 人、不明 1 人であった。

風しん：届出は 19 人であった。検査診断例 12 人（うち PCR 陽性例は 2 例）、臨床診断例 7 人であった。推定感染地はすべて国内であった。風しん含有ワクチン接種歴は、1 回接種 4 人、接種歴なし 3 人、不明 12 人であった。先天性風疹症候群はなかった。

麻疹：22 人の届出があった。検査診断例 17 人、臨床診断例 2 人、修飾麻疹 3 人であり、脳炎の合併が 1 件報告された。肺炎の合併の報告はなかった。症例の集積は、第 35 週に首都圏でのコンサート参加者関連が 2 人（遺伝子型 H1）、第 37 週に首都圏内の空港利用者関連が 2 人（遺伝子型 D8）であった。推定感染地は国内 11 人、国外 11 人であった。国外感染例 11 人の推定感染国はインドネシア 6 人、タイ 2 人、モンゴル 1 人、インドネシア又はシンガポール 2 人であった。麻疹含有ワクチン接種歴は、2 回接種 1 人、1 回接種 5 人、接種なし 4 人、不明 12 人であった。PCR 検査で麻疹ウイルス陽性が確認された例は 22 件あり、それらの遺伝子型別の内訳は D8 型 16 件、H1 型 3 人、A 型 3 件であった。

薬剤耐性アシネトバクター感染症：1 人の届出があった。推定感染原因は医療器具関連感染（中心静脈カテーテル）であった。

五類感染症のうちバンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症の届出はなかった。

（２）五類感染症（定点把握対象）

ア 小児科・内科疾患

2015 年と比較して定点当たり 10%以上報告数が減少した疾患は A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、百日咳、不明発しん症の 6 疾患であった。定点当たりの報告数が前年並みであった疾患は RS ウイルス感染症、咽頭結膜熱、突発性発しん、川崎病の 4 疾患であった。定点当たり前年比 10%以上増加した疾患はインフルエンザ、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎の 4 疾患であった。

〔前年比減少疾患〕

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎：2016 年の報告数は 31,211 件、定点当たり 120.13 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.89 であった。

水痘：2016 年の報告数は 5,541 件、定点当たり 21.34 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.82 であった。

手足口病：2016 年の報告数は 6,993 件。定点当たり 26.97 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.21 であった。

伝染性紅斑：2016 年の報告数は 2,485 件、定点当たり 9.57 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.24 であった。

百日咳：2016 年の報告数は 181 件、定点当たり 0.70 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.60 であった。

不明発しん症：2016 年の報告数は 983 件、定点当たり 3.79 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.75 であった。

[前年並みであった疾患]

RS ウイルス感染症：2016 年の報告数は 7,021 件、定点当たり 27.06 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.97 であった。

咽頭結膜熱：2016 年の報告数は 5,026 件、定点当たり 19.38 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.93 であった。

突発性発しん：2016 年の報告数は 7,231 件、定点当たり 27.87 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.93 であった。

川崎病：2016 年の報告数は 208 件、定点当たり 0.80 件であった。定点当たりの当年/前年比は 1.05 であった。

[前年比増加疾患]

インフルエンザ：2016 年の報告数は 125,207 件、定点当たり 302.31 件であった。定点当たりの当年/前年比は 2.08 であった。

感染性胃腸炎：2016 年の報告数は 110,239 件、定点当たり 423.72 件であった。定点当たりの当年/前年比は 1.21 であった。

ヘルパンギーナ：2016 年の報告数は 13,094 件、定点当たり 50.69 件であった。定点当たりの当年/前年比は 1.82 であった。

流行性耳下腺炎：2016 年の報告数は 8,526 件、定点当たり 32.88 件であった。定点当たりの当年/前年比は 1.75 であった。

イ 眼科疾患

急性出血性結膜炎：報告数は 11 人、定点当たり 0.28 人だった。過去 10 年間の定点あたり報告数は徐々に減少し、2016 年は最少数だった。

流行性角結膜炎：報告数は 1,201 人、定点当たり 31.03 人だった。2007 年と 2012 年と 2015 年に報告数が多かったが、2016 年はそれらの年と同等に多い報告だった。

ウ 基幹定点における週報告疾患

細菌性髄膜炎：2016 年の報告数は 33 件で、定点当たり 1.32 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.87 であった。

無菌性髄膜炎：2016 年の報告数は 77 件で、定点当たり 3.08 件であった。定点当たりの当年/前年比は 1.05 であった。

マイコプラズマ肺炎：2016 年の報告数は 1,047 件、定点当たり 41.88 件であった。定点当たりの当年/前年比は 1.36 であった。

クラミジア肺炎（オウム病を除く）：2016 年の報告数は 50 件、定点当たり 2.00 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.85 であった。

感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：2016 年は 108 件、定点当たり 4.32 件であった。定点当たりの当年/前年比は 1.09 であった。

インフルエンザ入院：2016 年の報告数は 649 件、定点当たり 25.96 件であった。定点当たりの当年/前年比は 1.34 であった。

エ 基幹定点における月報告疾患

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：2016 年の報告数は 867 件、定点当たり 34.68 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.99 であった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：2016 年の報告数は 138 件、定点当たり 5.52 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.87 であった。

薬剤耐性緑膿菌感染症：2016 年の報告数は 22 件、定点当たり 0.88 件であった。定点当たりの当年/前年比は 0.79 であった。

オ 性感染症

性器クラミジア感染症：報告数は 2,712 人であり、そのうち男性は 1,533 人、定点当たり 28.28 人（前年比 1.02）、女性は 1,159 人、定点当たり 21.11 人（前年比 0.99）であった。

性器ヘルペスウイルス感染症：報告数は 1,400 人であった。男性 966 人、定点当たり 17.59 人（前年比 1.04）、女性 434 人、定点当たり 7.91 人（前年比 1.05）で、2006 年以降男性に多い状況が続いている。

尖圭コンジローマ：報告数は 1,321 人であった。男性 1,017 人、定点当たり 18.53 人（前年比 1.08）、女性 304 人、定点当たり 5.53 人（前年比 1.02）で、男性が多い。

淋菌感染症：報告数は 1,528 人であった。男性 1,196 人、定点当たり 21.78 人（前年比 1.18）、女性 332 人、定点当たり 6.05 人（前年比 0.85）で、男性は女性の 2 倍以上の報告数が続いている。

膣トリコモナス症：報告数は 117 人であり、男性 4 人、定点当たり 0.07 人（前年比 0.40）、女性 113 人、定点当たり 2.06 人（前年比 0.80）であった。

（３）疑似症（法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）

摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）は 49 人、発熱及び発しん又は水疱は 5 人報告があった。

表2-1(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数

(一～四類、五類全数)

		2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	痘そう	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	1	-	-	-	-	-
	結核	3,045	3,022	2,874	2,671	2,533	2,306	集計中
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-	-	-	-
	中東呼吸器症候群 ^{*10}	/	/	/	/	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1) ^{*1}	-	-	-	-	-	-	-
三類	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*7}	/	/	/	-	-	-	-
	コレラ	2	3	-	-	3	1	2
	細菌性赤痢	86	86	75	36	41	53	40
	腸管出血性大腸菌感染症	339	257	258	382	362	335	452
	腸チフス	12	6	13	23	27	14	18
	パラチフス	5	9	11	20	8	9	8
四類	E型肝炎	9	9	21	32	27	39	37
	ウエストナイル熱	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎	45	27	35	19	38	39	65
	エキノкокクス症	1	2	1	-	-	1	-
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-
	オウム病	-	3	-	2	3	-	2
	オムスク出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	回帰熱	-	-	1	-	-	-	-
	キャサナル森林病	-	-	-	-	-	-	-
	Q熱	-	-	-	3	-	-	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	1	2	1	4	-	2	2
	サル痘	-	-	-	-	-	-	-
	ジカウイルス感染症 ^{*11}	/	/	/	/	/	/	3
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*4}	/	/	/	-	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-
	チクングニア熱 ^{*2}	/	-	3	4	5	7	4
	つつが虫病	14	13	19	12	18	14	7
	デング熱	70	27	56	66	163	92	90
	東部ウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	1	1	-	-	-	1	-
	日本脳炎	-	1	-	-	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	-	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	-	4	2	1
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-
	ボツリヌス症	-	-	-	-	-	-	1
	マラリア	27	27	24	12	27	16	18
	野兔病	-	-	-	-	-	-	-

		2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
四 類	ライム病	1	3	－	7	2	2	－
	リッサウイルス感染症	－	－	－	－	－	－	－
	リフトバレー熱	－	－	－	－	－	－	－
	類鼻疽	1	－	－	1	－	1	－
	レジオネラ症	55	72	60	80	107	153	143
	レプトスピラ症	2	5	6	6	6	10	7
	ロッキー山紅斑熱	－	－	－	－	－	－	－
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	180	178	198	187	229	205	222
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	48	40	60	72	48	53	69
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 *8	/	/	/	/	56	236	190
	急性脳炎	14	19	33	46	52	47	85
	クリプトスポリジウム症	3	2	2	7	82	3	2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	15	13	18	19	17	24	16
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	19	30	23	37	41	62	65
	後天性免疫不全症候群	509	409	461	469	512	435	464
	ジアルジア症	13	13	16	22	15	19	17
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 *5	/	/	/	12	22	29	46
	侵襲性髄膜炎菌感染症 *5	/	/	/	11	9	8	5
	侵襲性肺炎球菌感染症 *5	/	/	/	124	225	323	356
	水痘 (入院例) *8	/	/	/	/	11	55	56
	髄膜炎菌性髄膜炎 *6	－	2	－	－	/	/	/
	先天性風しん症候群	－	－	－	13	3	－	－
	梅毒	173	248	297	419	507	1,044	1,673
	播種性クリプトコックス症 *8	/	/	/	/	4	11	20
	破傷風	5	8	5	4	10	2	4
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	－	－	－	－	－	－	－
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	17	6	10	8	6	2	2
	風しん *3	15	32	672	3,445	99	33	19
	麻しん *3	76	178	84	69	94	10	22
	薬剤耐性アシネトバクター感染症 *9	/	/	/	/	3	13	1

*1 2008年5月12日より追加指定。

*2 2011年2月1日より追加指定。

*3 2008年1月1日より五類(定点把握対象)から五類(全数把握対象)に変更。

*4 2013年3月4日より追加指定。

*5 2013年4月1日より髄膜炎菌性髄膜炎に替わり指定。

*6 2003年11月5日より四類(全数把握対象)から五類(全数把握対象)に変更となった後、2013年4月1日より届出対象から除外。

*7 2013年4月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更。

*8 2014年9月19日より追加指定。

*9 2011年2月1日より五類(定点把握対象)に追加指定、2014年9月19日に五類(全数把握対象)に変更。

*10 2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更。

病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。

*11 2016年2月15日より追加指定。

表2-1(2) 東京都感染症発生動向調査年別患畜報告数 (全数動物)

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
エボラ出血熱のサル	－	－	－	－	－	－	－
マールブルグ病のサル	－	－	－	－	－	－	－
ペストのプレーリードッグ	－	－	－	－	－	－	－
重症急性呼吸器症候群のイタチアナグマ	－	－	－	－	－	－	－
重症急性呼吸器症候群のタヌキ	－	－	－	－	－	－	－
重症急性呼吸器症候群のハクビシン	－	－	－	－	－	－	－
結核のサル	－	－	－	－	－	－	－
中東呼吸器症候群のラクダ *1	/	/	/	/	－	－	－
鳥インフルエンザ (H5N1又はH7N9)の鳥類	－	－	－	－	－	－	－
細菌性赤痢のサル	－	－	－	－	－	－	－
ウエストナイル熱の鳥類	－	－	－	－	－	－	－
エキノコックス症の犬	－	－	－	－	－	－	－

*1 2014年7月26日より追加指定

表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(インフルエンザ定点・小児科定点)

上段:年間報告数

下段:定点当たり

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
小児科定点数 *1	150	150	150	150	264	264	264	264	264	264
インフルエンザ定点数 *2	290	290	290	290	419	419	419	419	419	419
インフルエンザ	53,927	23,059	142,140	12,614	99,940	135,064	75,328	152,421	59,435	125,207
	191.41	80.47	495.53	43.97	240.03	323.29	181.11	367.55	145.11	302.31
RSウイルス感染症 *3	1,403	1,722	845	2,153	3,628	6,349	6,058	6,183	7,197	7,021
	9.57	11.71	5.73	14.52	13.94	24.51	23.48	23.70	27.82	27.06
咽頭結膜熱	2,793	2,927	1,339	1,979	4,936	5,510	6,184	5,607	5,385	5,026
	18.96	19.86	9.07	13.37	18.95	21.20	23.89	21.54	20.77	19.38
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	11,913	13,925	10,058	11,231	25,487	25,224	24,801	27,581	35,039	31,211
	81.32	93.97	68.03	75.80	97.66	96.60	95.29	105.60	134.57	120.13
感染性胃腸炎	46,783	58,681	37,599	63,372	95,910	118,967	102,987	84,091	91,052	110,239
	318.41	395.92	254.50	427.41	367.56	455.28	395.81	322.84	350.13	423.72
水 痘	8,874	8,682	7,079	9,472	15,679	12,995	11,452	10,314	6,765	5,541
	60.77	58.68	47.94	63.93	60.11	49.75	44.22	39.69	26.04	21.34
手足口病	4,382	4,487	3,426	6,257	24,786	5,411	29,320	6,089	32,599	6,993
	29.73	30.60	23.36	42.52	95.84	20.90	114.72	23.44	126.39	26.97
伝染性紅斑	2,879	1,168	1,558	2,929	6,317	1,626	1,608	5,069	10,174	2,485
	19.73	7.90	10.54	19.79	24.23	6.23	6.19	19.44	39.08	9.57
突発性発しん	4,691	4,944	4,463	4,397	8,447	8,547	8,299	8,120	7,816	7,231
	31.95	33.49	30.24	29.74	32.44	32.85	32.00	31.18	30.10	27.87
百日咳	151	278	225	506	450	286	91	158	300	181
	1.02	1.88	1.53	3.42	1.73	1.10	0.35	0.61	1.15	0.70
風しん *4	35									
	0.24									
ヘルパンギーナ	6,804	6,470	2,574	8,400	14,431	13,548	8,480	15,874	7,200	13,094
	46.10	44.08	17.63	57.06	55.78	52.28	33.06	61.25	27.91	50.69
麻しん *4	303									
	2.05									
流行性耳下腺炎	1,940	3,662	5,175	5,154	4,488	3,089	2,549	3,003	4,883	8,526
	13.24	24.83	35.05	34.87	17.23	11.88	9.83	11.57	18.83	32.88
不明発しん症 *5	665	734	657	622	1,506	1,400	1,094	1,158	1,312	983
	4.52	4.98	4.48	4.21	5.78	5.40	4.24	4.45	5.06	3.79
川崎病 *5	110	109	71	89	217	177	221	180	199	208
	0.75	0.73	0.48	0.60	0.83	0.68	0.85	0.69	0.77	0.80

*1 2007年は、12月末時点の定点数

*2 2007年は、12月末時点の定点数

*3 2003年45週より実施

*4 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

*5 東京都独自疾患

表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(眼科定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
定点数*	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39
急性出血性結膜炎	82	64	53	74	31	19	17	13	14	11
	2.15	1.66	1.37	1.91	0.84	0.50	0.45	0.34	0.36	0.28
流行性角結膜炎	968	865	703	951	842	1,140	891	913	1,256	1,201
	32.04	22.41	18.28	24.60	22.73	30.01	23.68	23.79	32.49	31.03

* 2007年は、12月末時点の定点数

表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点週報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
定点数	25	24	24	25	25	25	25	25	25	25
細菌性髄膜炎	28	24	24	18	52	42	48	22	38	33
	1.14	1.01	1.02	0.76	2.14	1.68	1.93	0.88	1.52	1.32
無菌性髄膜炎	50	34	28	38	96	121	126	102	73	77
	2.03	1.42	1.17	1.61	3.91	4.86	5.06	4.09	2.92	3.08
マイコプラズマ肺炎	247	298	305	416	1,143	1,067	514	234	770	1,047
	10.11	12.53	12.93	17.76	46.78	42.84	20.66	9.37	30.85	41.88
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	20	25	46	20	18	14	40	21	59	50
	0.81	1.05	1.96	0.85	0.74	0.56	1.60	0.84	2.36	2.00
感染性胃腸炎*1 (ロタウイルスによる)							22	134	99	108
							0.88	5.36	3.96	4.32
インフルエンザ入院*2					12	610	518	735	486	649
					0.48	24.40	20.89	29.40	19.44	25.96
成人麻しん*3	262									
	10.70									

*1 2013年42週より実施

*2 2011年36週より実施

*3 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点月報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
定点数	25	24	24	25	25	25	25	25	25	25
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1,758 70.53	1,606 66.92	1,290 54.44	1,312 55.36	1,136 46.67	1,074 43.25	918 37.26	908 36.44	877 35.21	867 34.68
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	624 25.08	554 23.08	552 23.30	635 26.77	596 24.55	440 17.72	467 18.94	186 7.47	158 6.36	138 5.52
薬剤耐性緑膿菌感染症	48 1.93	26 1.08	22 0.93	26 1.10	37 1.52	24 0.97	32 1.29	21 0.84	28 1.12	22 0.88
薬剤耐性アシネト* バクテリア感染症					0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00		

* 2011年2月より2014年9月18日まで実施。

表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(性感染症定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
定点数 *1	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
性器クラミジア感染症	2,485 48.08	2,605 47.51	2,295 42.51	2,376 44.07	2,426 44.37	2,315 42.64	2,286 42.46	2,427 44.90	2,678 49.09	2,712 49.39
性器ヘルペスウイルス感染症	989 19.40	946 17.25	954 17.69	1,194 22.15	1,236 22.60	1,311 24.17	1,216 22.60	1,298 24.00	1,329 24.36	1,400 25.49
尖圭コンジローマ	801 15.39	926 16.88	727 13.47	842 15.62	837 15.31	877 16.17	959 17.84	986 18.22	1,237 22.68	1,321 24.06
淋菌感染症	1,013 19.63	1,096 19.99	950 17.61	1,067 19.81	1,212 22.15	1,035 19.09	1,070 19.87	1,259 23.31	1,394 25.55	1,528 27.82
膺トリコモナス症 *2	233 4.69	169 3.08	138 2.55	150 2.78	136 2.49	129 2.38	113 2.10	127 2.36	151 2.77	117 2.13
梅毒様疾患 *2	103 1.99	82 1.50	94 1.74	83 1.54	117 2.14	120 2.21	136 2.53	135 2.50	221 4.05	

*1 2007年は、12月末時点の定点数

*2 東京都独自疾患、梅毒様疾患は2015年末で終了

表2-7 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(疑似症定点)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
定点数		315	315	315	443	443	443	443	443	443
発熱及び呼吸器症状 *		11	147	20	9	10	38	147	126	49
発熱及び発しん・水疱 *		8	6	9	4	15	16	20	21	5

* 2008年7月より実施

3 各疾患の動向

(1) 一～四類、五類感染症（全数把握対象）

ア 一類感染症

一類感染症（エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱）は届出がなかった。

イ 二類感染症

① 結核

結核の発生動向は別途、「東京都における結核の概況」で報告する。

② その他の二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）は届出がなかった。

ウ 三類感染症

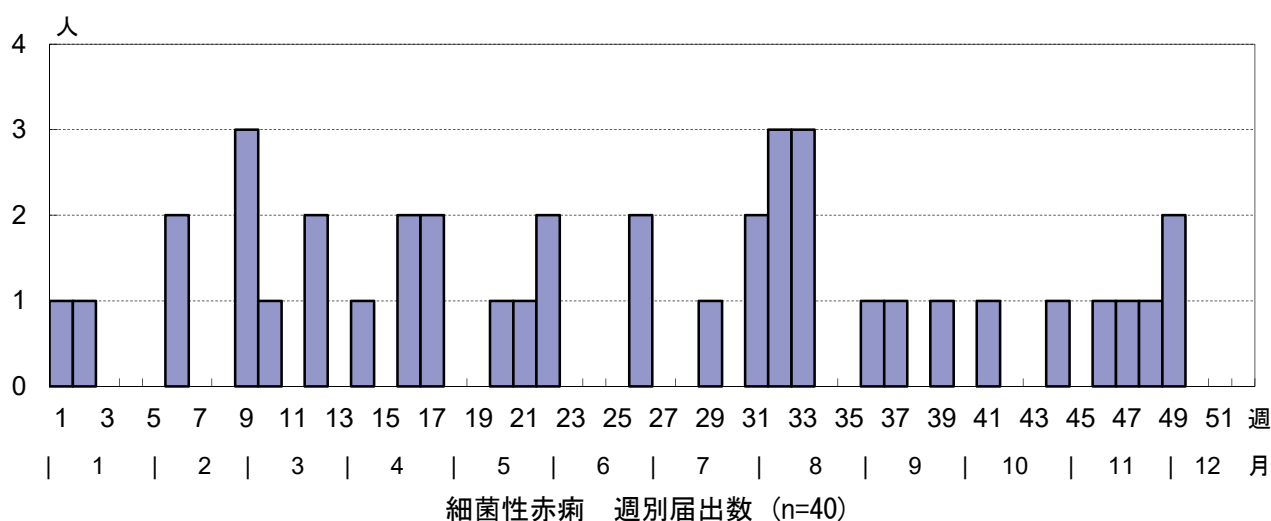
① コレラ

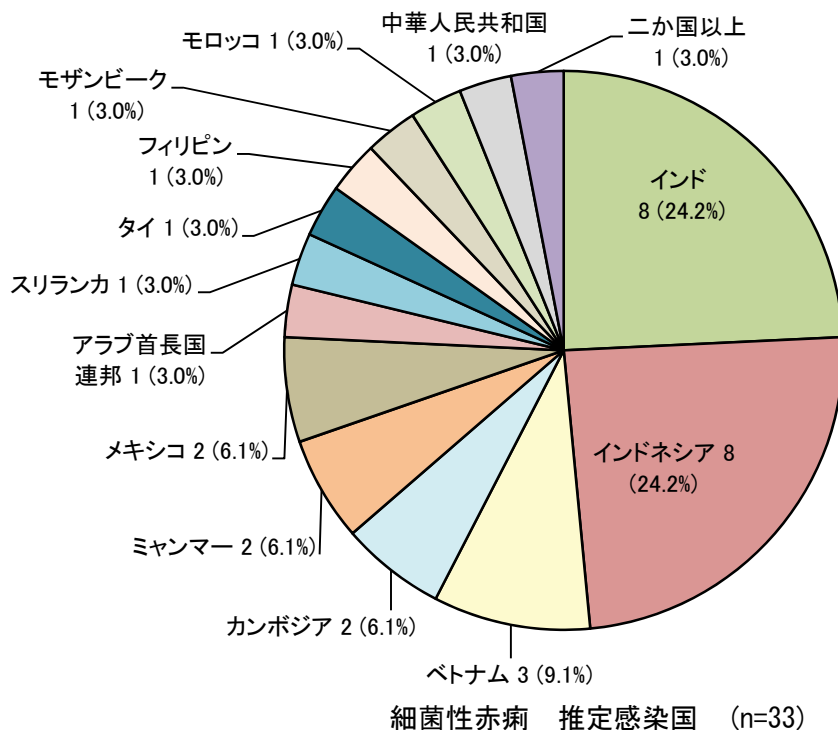
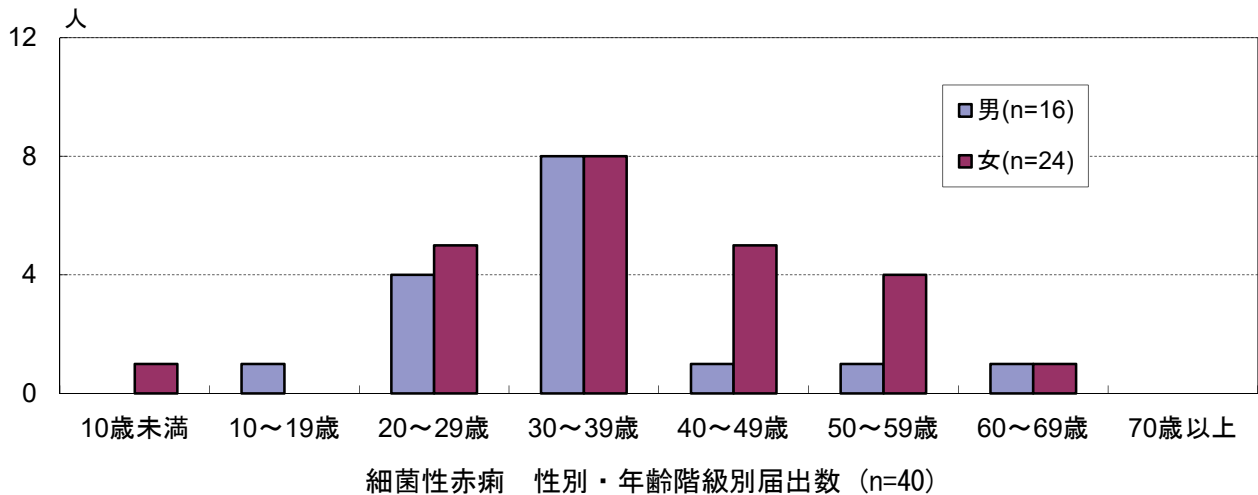
2016年は2人の届出があった。性別はすべて男性で、年齢階級別は30～39歳1人、60～69歳1人であった。菌型はO1エルトル小川型が1人、不明が1人であった。推定感染地はフィリピンが1人、インドが1人であった。

② 細菌性赤痢

2016年は40人の届出があった。菌種は *sonnei* 32件、*flexneri* 7件、*sonnei* および *flexneri* 1件であった。性別は男性16人、女性24人で、年齢階級別では10歳未満1人、10～19歳1人、20～29歳9人、30～39歳16人、40～49歳6人、50～59歳5人、60～69歳2人であった。

推定感染地は国内7人、国外33人であった。国内感染と推定された7人のうち同性間性的接触によると推定される感染例が1例報告された。



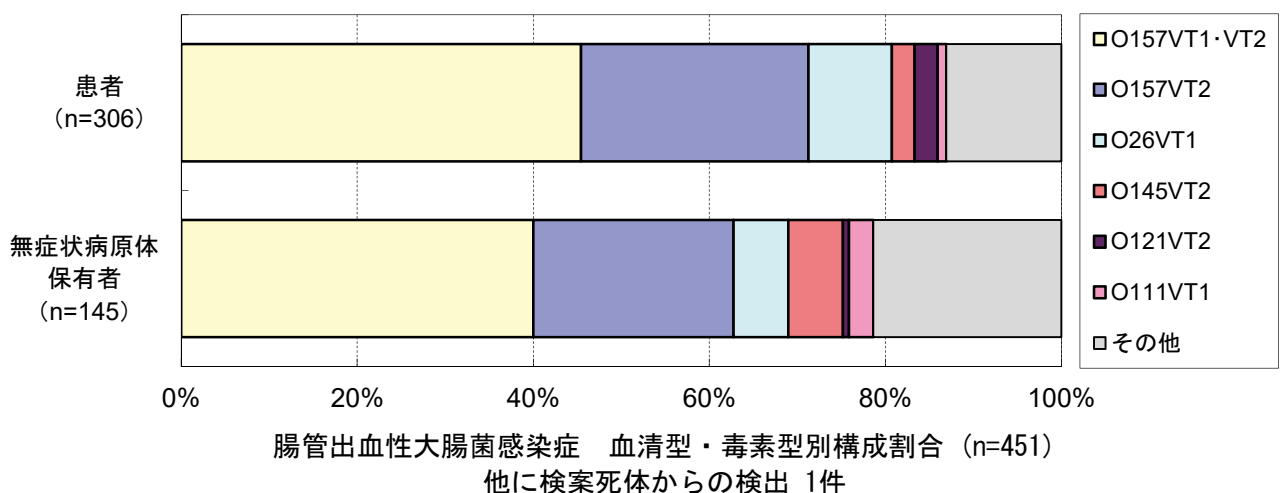
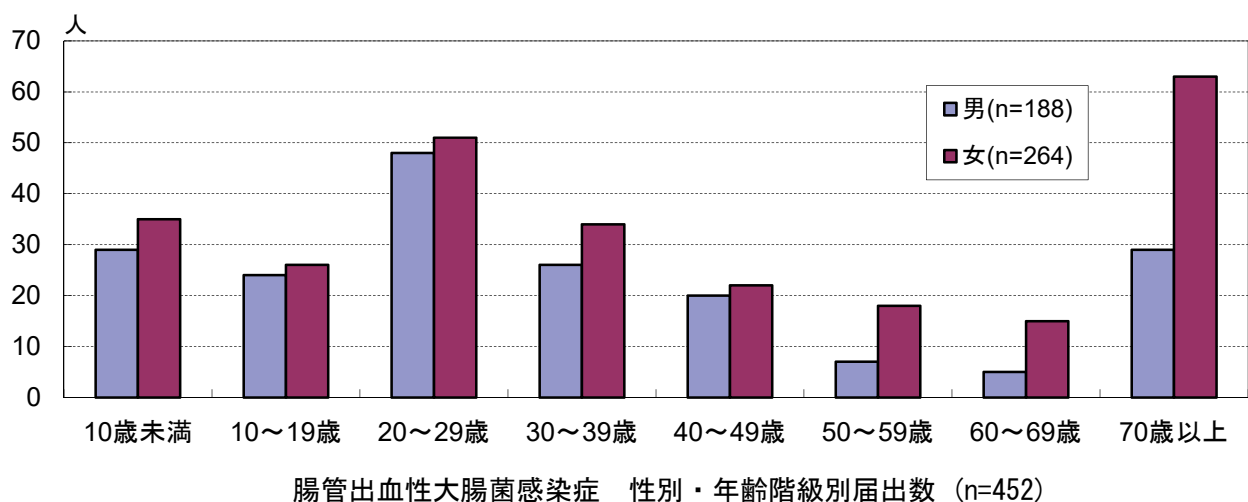
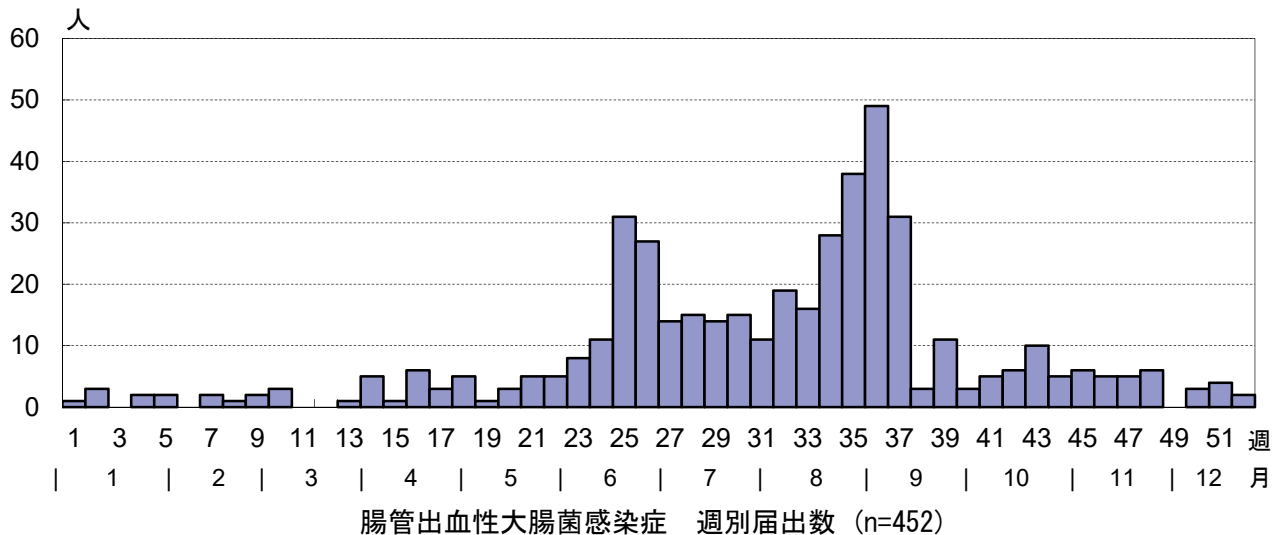


③ 腸管出血性大腸菌感染症

2016年は452人の届出があり、過去5年間で最も多い届出数となった。症状別では患者306人、無症状病原体保有者145人、検案死体からの検出が1人あった。死亡例は検案死体からの検出事例を含めて2人あった。届出はほぼ1年を通して見られたが、特に梅雨期及び晩夏期に集団事例の発生に伴い増加した。性別は男性188人、女性264人で、年齢階級別では10歳未満64人（うち5歳未満26人）、10～19歳50人、20～29歳99人、30～39歳60人、40～49歳42人、50～59歳25人、60～69歳20人、70歳以上92人であった。血清型・毒素型はO157 VT1・VT2が197件で最多であった。推定感染地は国内434人、国外13人（タイ3人、フィリピン2人、ミャンマー2人、韓国1人、イギリス1人、米国（ハワイ）1人、インドネシア又はシンガポール1人、オランダ又はイスラエル1人、アルゼンチン又はアラブ首長国連邦1人）、国内または国外5人（米国1人、韓国1人、渡航先不明3人）であった。

症例の集積は、第 25～26 週に O145VT2 及び O 血清群不明 VT1 による老人ホーム関連が 20 人、第 32～36 週に O157 VT1・VT2 を主とする国内飲食店関連が 7 人、第 35～37 週に O157 VT1・VT2 による老人ホーム関連が 49 人であり、うち死亡例が 1 人あった。

溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断されたものは 17 人であった。



腸管出血性大腸菌感染症 血清型・毒素型別届出数 (n=452)

血清型	毒素型	件数	血清型	毒素型	件数
O8	VT2	1	O125	VT1・VT2	1
O15	VT1・VT2	1*	O126	VT1	1
O25	不明	1	O128	VT1・VT2	1
O26	VT1	38		不明	1
	VT2	1	O142	VT1・VT2	1
	VT1・VT2	1	O145	VT1	1
	不明	3*		VT2	17
O91	VT1	3	O157	VT1	4
	VT1・VT2	1		VT2	113
	不明	1		VT1・VT2	199*
O103	VT1	3		不明	13
O111	VT1	7	O165	VT1・VT2	2
	VT1・VT2	2	不明	VT1	10*
O121	VT2	9		VT2	6
	VT1・VT2	1*		VT1・VT2	4
	不明	1*	不明	不明	6
O124	VT2	1			

* 他の血清型・毒素型との重複感染例を含む

溶血性尿毒症症候群発症例 (n=17)

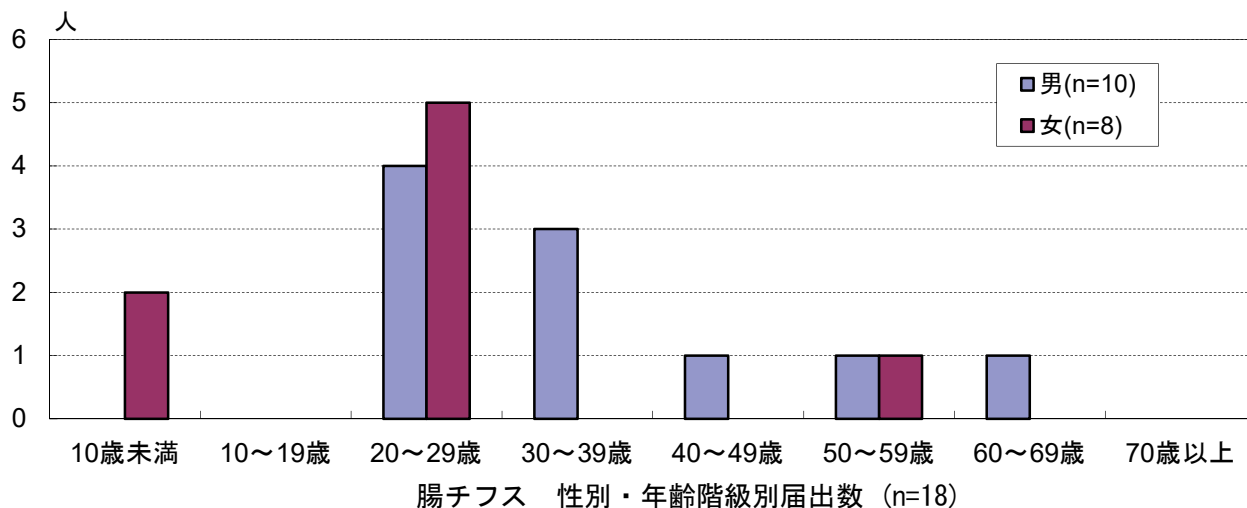
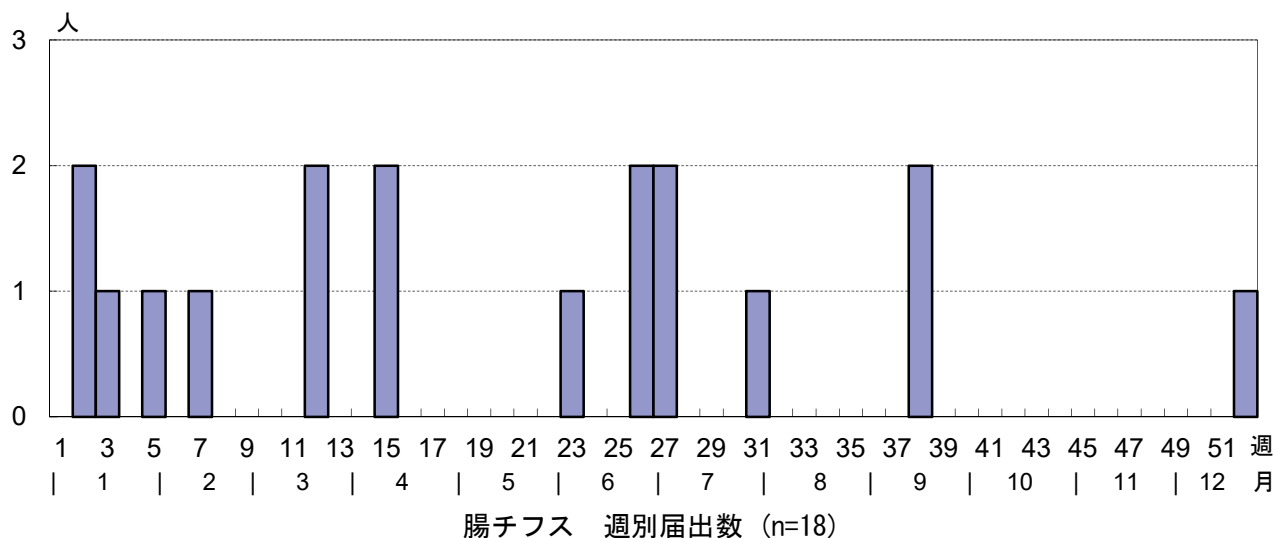
受理日	性別	年齢	血清型・毒素型	推定感染地	推定感染経路等
1/12	女	3	O26VT1・VT2	国内	
6/7	女	74	O157VT1・VT2	国内	生もの、作り置き食品を喫食
7/4	女	25	O157VT2	国内	
7/25	女	24	O157VT2	国内	発症1週間前に飲食店
7/29	女	71	O157VT2	国内	マグロの喫食
8/23	男	5	O157VT2	国内	
8/24	女	82	O157VT1・VT2	国内	
8/29	女	2	O157VT2	国内	ハンバーグの喫食
9/1	女	2	血清型・毒素型不明	国内	
9/1	女	82	O157VT1・VT2	国内	老人ホームの集団食中毒
9/1	女	83	O157VT1・VT2	国内	老人ホームの集団食中毒
9/7	女	3	O157VT1・VT2	国内	
9/7	女	23	O157VT1・VT2	国内	
9/7	女	88	O157VT1・VT2	国内	老人ホームの集団食中毒
9/16	男	7	O157VT1・VT2	国内	
11/4	女	7	血清型・毒素型不明	国内	飲食店
11/10	女	17	O157VT 型不明	国内	冷凍食品の喫食

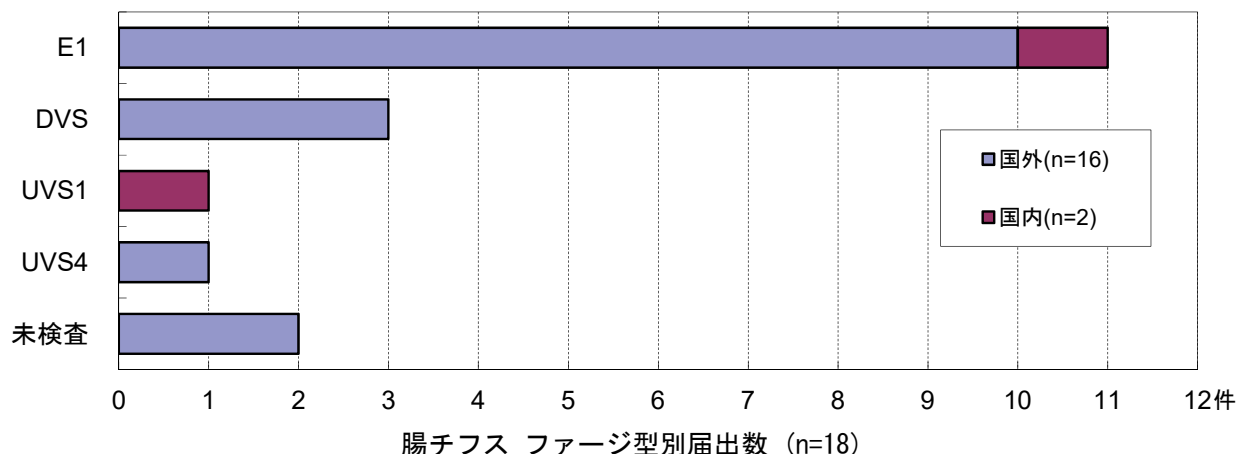
④ 腸チフス

2016 年は 18 人の届出があった。症状別では患者 16 人、無症状病原体保有者 2 人、性別では男性 10 人、女性 8 人、年齢階級別では 10 歳未満 2 人、20～29 歳 9 人、30～39 歳 3 人、40～49 歳 1 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 1 人であった。

ファージ型判明者の内訳は E1 が 11 人、DVS が 3 人、UVS1 が 1 人、UVS4 が 1 人であった。

推定感染地は国外 16 人、国内 2 人であった。国外感染例 16 人を推定感染地域別に見ると、南アジア 10 人、東南アジア 4 人、北アメリカ 1 人、2 地域 1 人であり、推定感染国はインド 4 人、バングラデシュ 4 人、ミャンマー 3 人、ネパール 2 人のほか、タイ、メキシコ、香港又はミャンマー各 1 人であった。





⑤ パラチフス

2016 年は 8 人の届出があった。性別は男性 5 人、女性 3 人であり、年齢階級別では 10～19 歳 2 人、20～29 歳 3 人、30～39 歳 2 人、40～49 歳 1 人であった。

ファージ型は 1 が 7 人、UT (untypeable) 1 人であった。

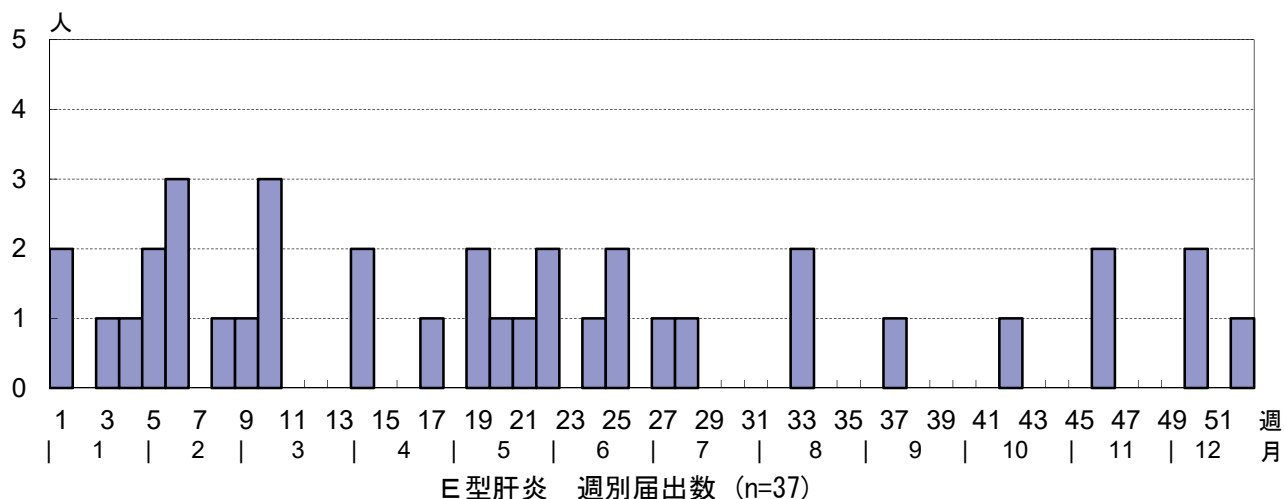
推定感染地はすべて国外で、推定感染国はインド 2 人、インドネシア 1 人、ミャンマー 3 人、タイ又はインドネシア又はシンガポール 1 人、渡航先不明 1 人であった。

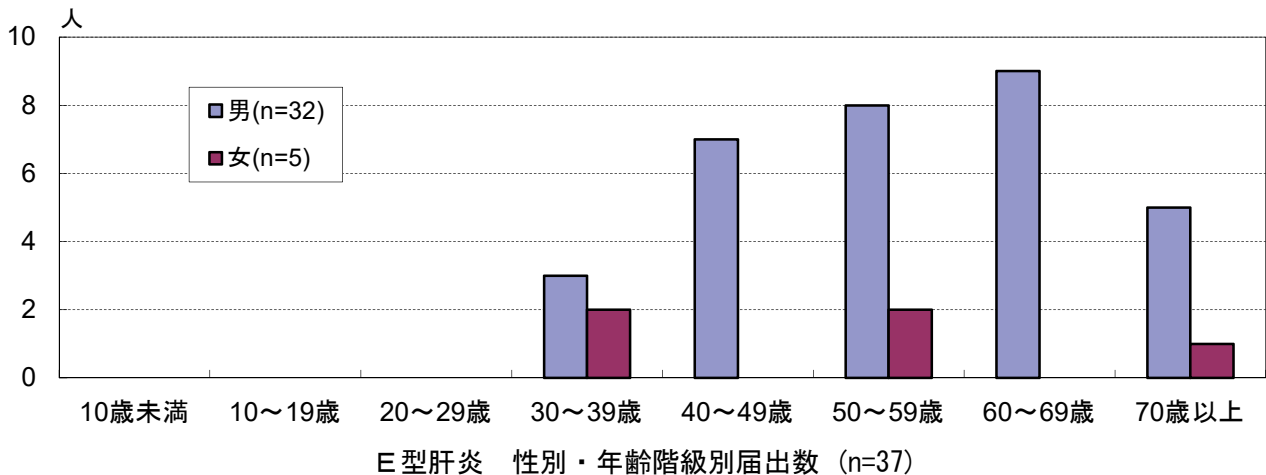
エ 四類感染症

① E 型肝炎

2016 年は 37 人の届出があった。性別は男性 32 人、女性 5 人で、年齢階級別では 30～39 歳 5 人、40～49 歳 7 人、50～59 歳 10 人、60～69 歳 9 人、70 歳以上 6 人であった。

推定感染地は国内 35 人、タイ 1 人、ベトナム 1 人であった。推定感染経路は経口感染が 23 人、不明が 14 人で、経口感染のうちレバーが 6 人（うち 2 人は豚レバー、3 人は他に豚肉、馬刺し、水も摂取）、生もの摂取 5 人（キジ、サザエ各 1 人、牛と魚 1 人、不明生ものと豚肉喫食 1 人）、鹿肉の喫食が 2 人（うち 1 人は猪肉も喫食）、馬刺し喫食 1 人、豚肉喫食 1 人であった。



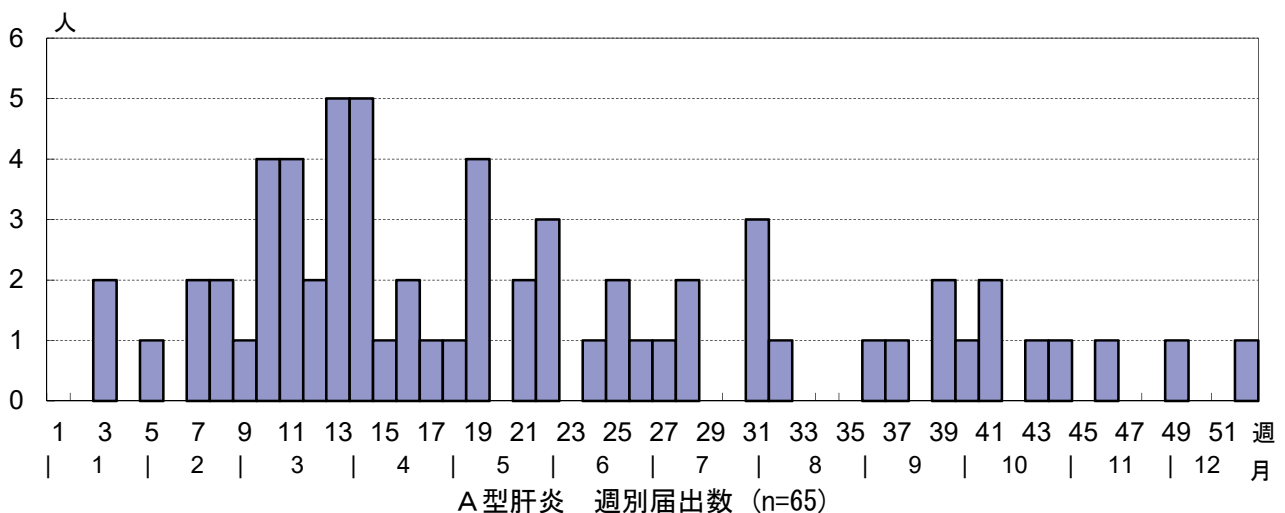


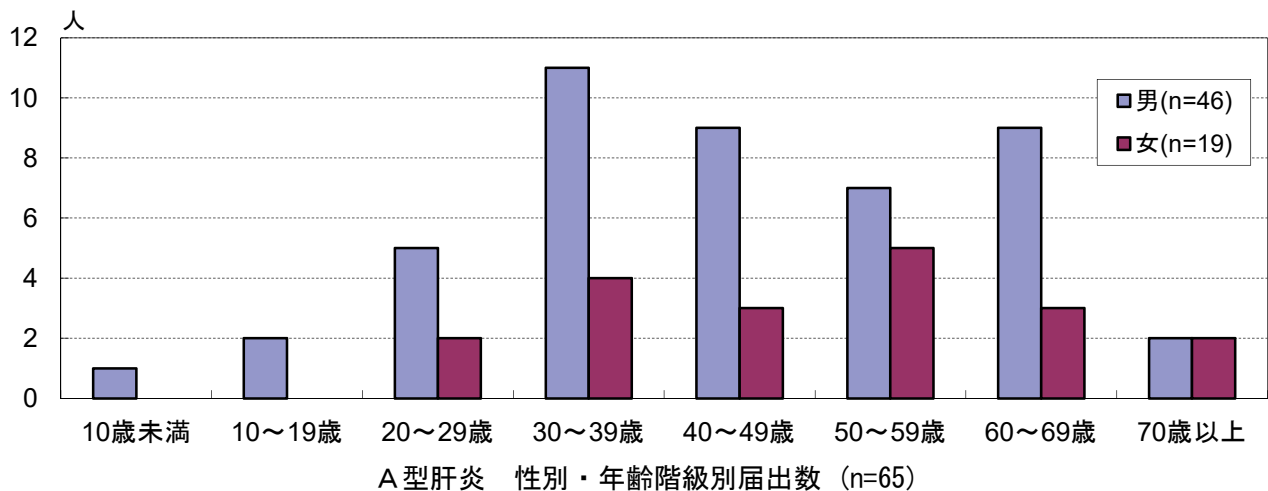
② A型肝炎

2016年は65人の届出があり、2003年以来最多となった。性別は男性46人、女性19人で、年齢階級別では10歳未満1人、10～19歳2人、20～29歳7人、30～39歳15人、40～49歳12人、50～59歳12人、60～69歳12人、70歳以上4人であった。

推定感染地は国内38人、国外22人、国内または国外5人（中国1人、台湾1人、フィリピン1人、南アフリカ1人、渡航先不明1人）であった。国外感染と推定された22人の推定感染国はフィリピン3人、台湾3人、米国2人（ハワイ1人、グアム1人）、中国、韓国、インド、カンボジア、マレーシア、ネパール、モロッコ、パプアニューギニア各1人、ベトナム又はインドネシア又はマレーシア1人、ベトナム又はカンボジア又はエジプト1人、中国又は香港又はマカオ1人、インド又はタイ1人、インド又はフィリピン1人、ペルー又はボリビア1人であった。

推定感染経路は、飲食物を介した経口感染48人、性的接触5人、不明12人（うち2人は家族内感染）であり、経口感染48人の推定原因食品は魚介類が14人（うちカキ12人、カキ又はハマグリ1人）、不明飲食物3人、寿司2人、生もの1人、生水1人、生ものまたは水1人、回虫の自己摂取1人、不明25人であった。





③ オウム病

2016年は2人の届出があった。性別は男性1人、女性1人で、年齢階級別では20～29歳1人、60～69歳1人であった。推定感染地はすべて国内、感染経路は不明であった。

④ コクシジオイデス症

2016年は2人の届出があった。性別はすべて女性で、年齢階級別は40～49歳1人、60～69歳1人であった。推定感染地はすべて国外（米国）であった。推定感染経路は塵埃感染2人であった。

⑤ ジカウイルス感染症

中南米地域での流行により、世界保健機関（WHO）が緊急事態を宣言したジカウイルス感染症は、四類感染症の届出対象となった2016年2月15日以降3件の届出があった。性別は男性2人、女性1人であり、年齢階級別は30～39歳1人、40～49歳2人であった。推定感染地はすべて国外で、推定感染国はベトナム2人、ドミニカ1人であった。

⑥ チクングニア熱

2016年は4人の届出があった。性別は男性3人、女性1人であり、年齢階級別は20～29歳2人、40～49歳2人であった。推定感染地はすべて国外で、推定感染国はインド2人、キューバ1人、アンゴラ1人であった。

⑦ つつが虫病

2016年は7人の届出があった。性別は男性5人、女性2人であった。年齢階級別は20～29歳1人、40～49歳1人、60～69歳1人、70歳以上4人であった。

推定感染地はすべて国内で、国内の推定感染地は東京都6人（多摩地区3人、島しょ地区3人）、不明1人であった。

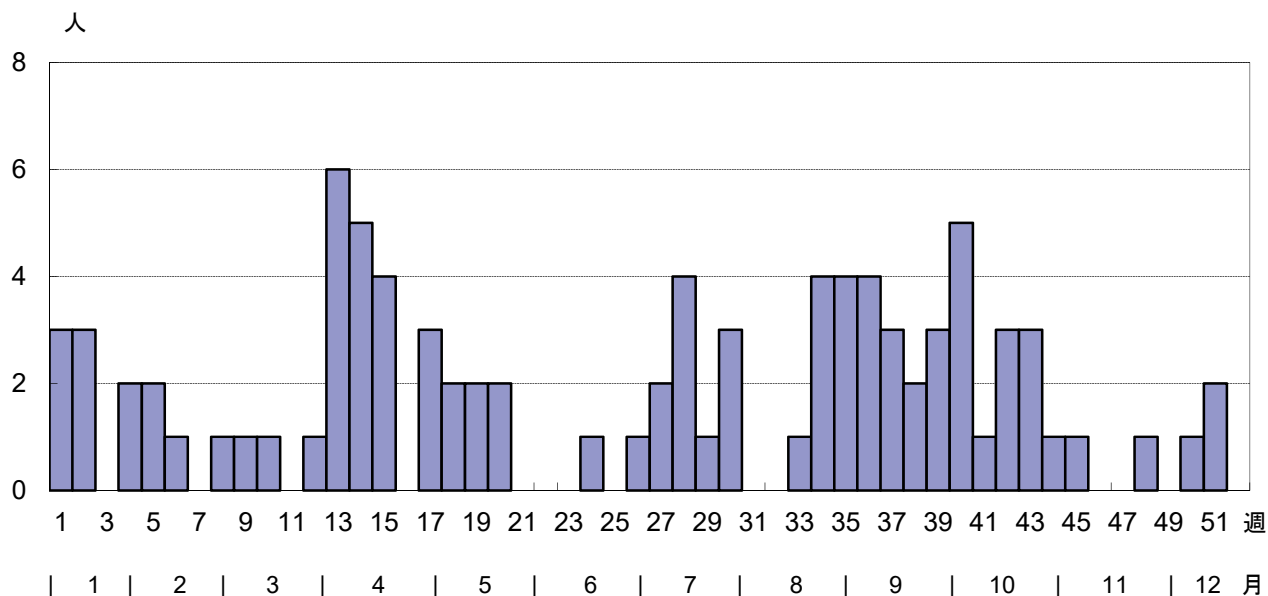
つつが虫病届出例 (n=7)

受理日	性別	年齢	推定感染地	野外地への旅行、立入り歴等
11/1	男	23	国内	山中で作業中
11/4	男	81	国内	自宅近隣
11/14	男	71	国内	不明
11/15	女	69	国内	飼い猫に寄生
11/15	女	81	国内	庭仕事
12/7	男	75	国内	野外で飼育の猫が捕獲したネズミ
12/20	男	47	国内	ゴルフなどの草むらでの活動

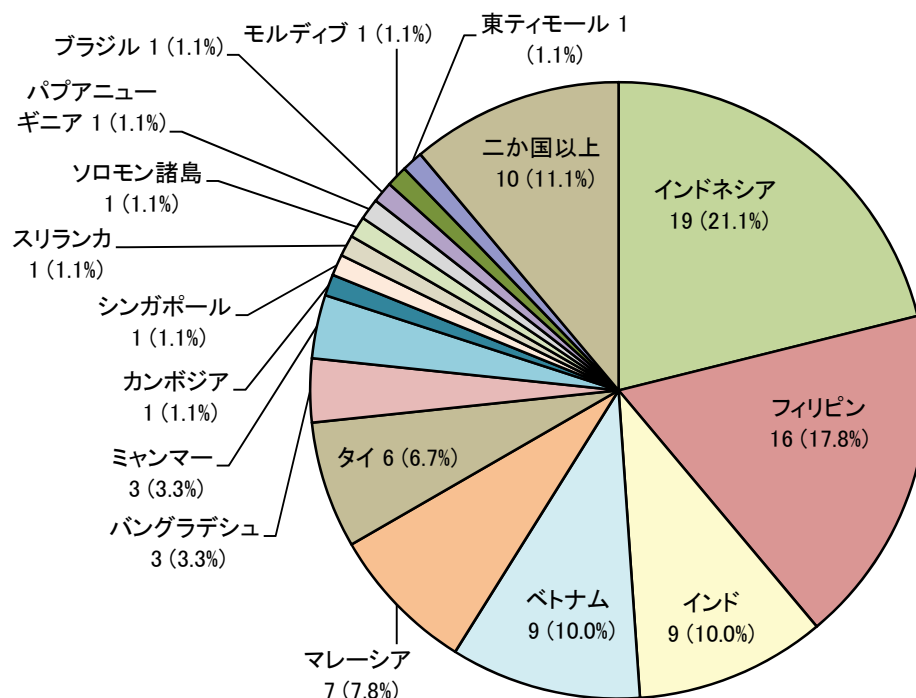
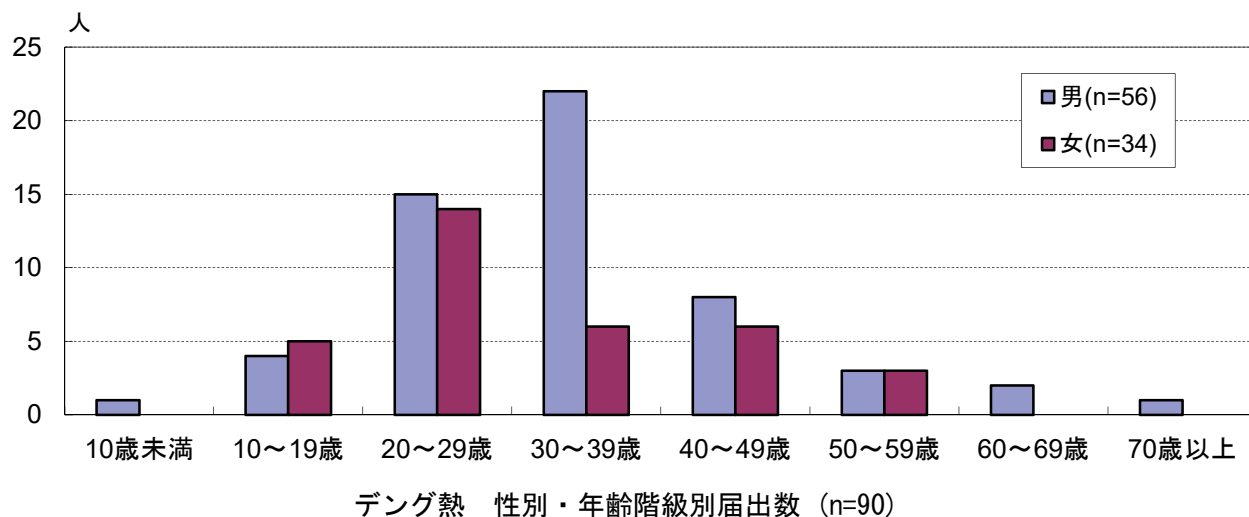
⑧ デング熱

2016 年は 90 人（うちデング出血熱 3 人）の届出があった。性別は男性 56 人、女性 34 人、年齢階級別は 10 歳未満 1 人、10～19 歳 9 人、20～29 歳 29 人、30～39 歳 28 人、40～49 歳 14 人、50～59 歳 6 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 1 人であった。血清型は 59 件報告されており、その内訳は 1 型 15 件、2 型 21 件、3 型 16 件、4 型 6 件、1 型及び 3 型 1 件であった。

推定感染地はすべて国外であった。



デング熱 週別届出数 (n=90)



⑨ ブルセラ症

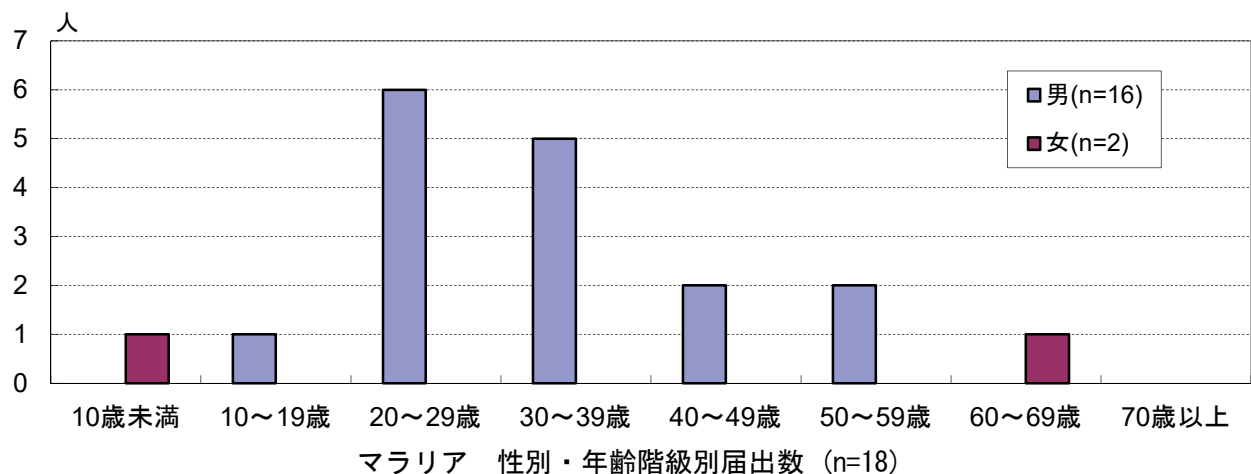
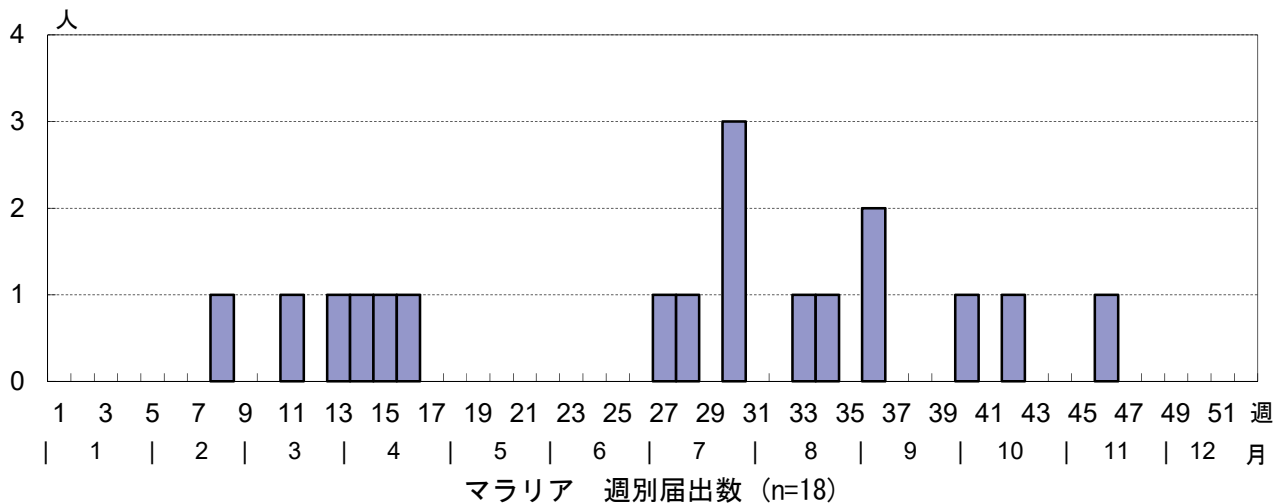
2016 年は 1 人の届出があった。性別は男性で、年齢階級別は 60～69 歳であった。推定感染地は国外で、推定感染国はタンザニアであった。感染経路は不明であった。

⑩ ボツリヌス症

2016 年は 1 人の届出があり、2005 年の届出に次ぐ 2 人目となった。性別は女性で、年齢階級別は 10 歳未満であった。病型は乳児型、毒素は A 型であった。推定感染地は国内であった。感染経路は不明であった。

⑪ マラリア

2016 年は 18 人の届出があった。性別は男性 16 人、女性 2 人、年齢階級別は 10 歳未満 1 人、10～19 歳 1 人、20～29 歳 6 人、30～39 歳 5 人、40～49 歳 2 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 1 人であった。推定感染地はすべて国外であった。



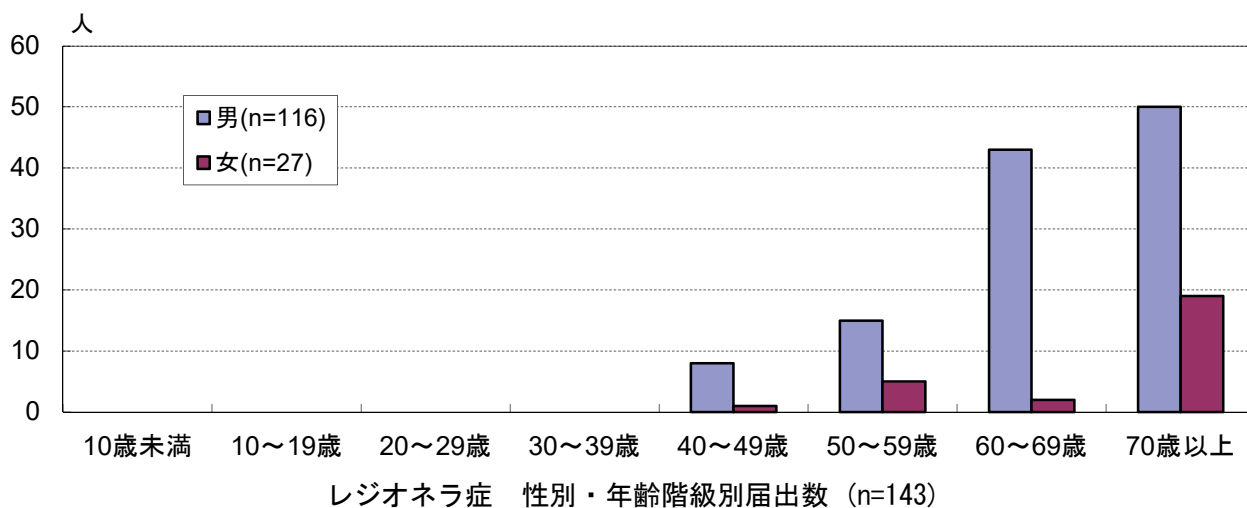
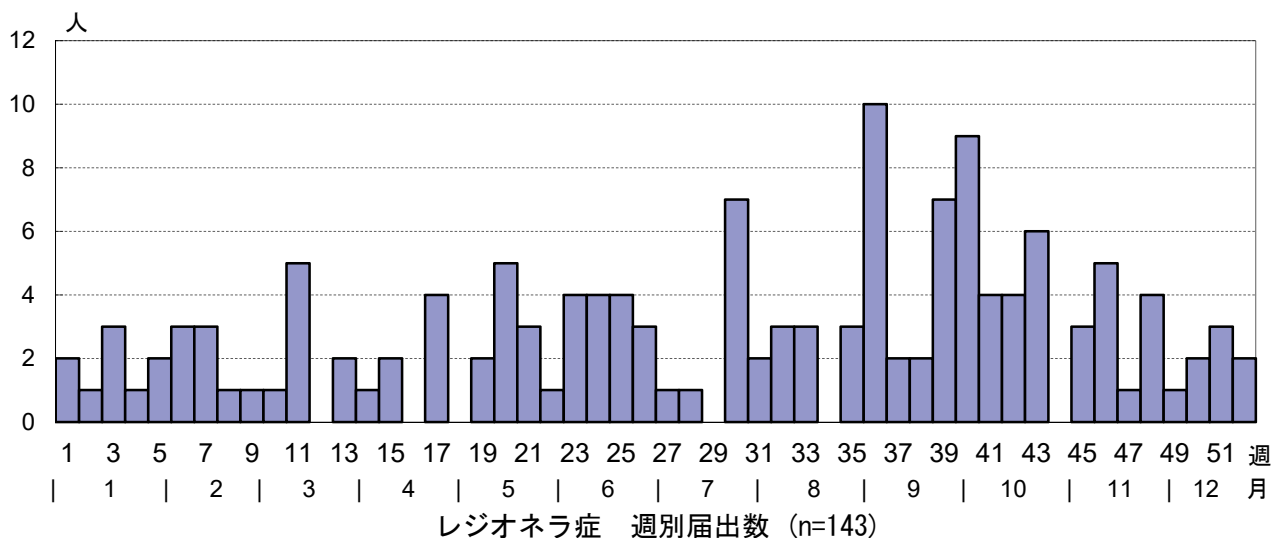
マラリア 病型別推定感染国 (n=18)

病型	人数	推定感染国	人数
熱帯熱	12	カメルーン	3
		ナイジェリア	2
		ガーナ、ギニア、コートジボワール、コンゴ民主共和国、チャド、マダガスカル	各 1
		リベリア又はシエラレオネ	1
熱帯熱または卵形	1	コンゴ共和国	1
卵形	2	ザンビア、コートジボワール	各 1
三日熱	2	インド、アフガニスタン	各 1
不明	1	ガーナ	1
合計	18		18

⑫ レジオネラ症

2016 年は 143 人の届出があった。病型は肺炎型 133 人、ポンティアック熱型 7 人、無症状病原体保有者 3 人であった。死亡例はなかった。性別は男性 116 人、女性 27 人、年齢階級別は 40～49 歳 9 人、50～59 歳 20 人、60～69 歳 45 人、70 歳以上 69 人であった。

推定感染地は国内 137 人、国外 4 人（中国、インドネシア、ウクライナ、中国又はインドネシア各 1 人）、国外又は国内 2 人であった。推定感染経路は水系感染 59 人、塵埃感染 10 人、エアコン由来 1 人、不明 73 人であった。水系感染のうち、公共浴場施設（温泉を含む）での感染と推定されたのは 37 人であった。



⑬ レプトスピラ症

2016 年は 7 人の届出があった。性別は男性 6 人、女性 1 人、年齢階級別は 10～19 歳 2 人、30～39 歳 2 人、50～59 歳 3 人であった。推定感染地は国内 5 人、国外 2 人であった。

レプトスピラ症届出例 (n=7)

受理日	性別	年齢	推定感染地	推定感染経路、接触場所、滞在歴
8/5	女	36	タイ	池
8/22	男	36	国内	下水（職業は土木業）
8/25	男	11	国内	西表島の滝つぼ及び川遊び
8/31	男	50	国内	淡水
9/7	男	56	国内	ネズミ（厨房）
9/16	男	14	国内	西表島での川下りのツアー
10/5	男	53	ミャンマー	川

⑭ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、エキノコックス症、黄熱、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q 熱、狂犬病、サル痘、重症熱性血小板減少症候群（病原体がフレボウイルス族 SFTS ウイルスであるものに限る。）、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ（H5N1 及び H7N9 を除く）、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱

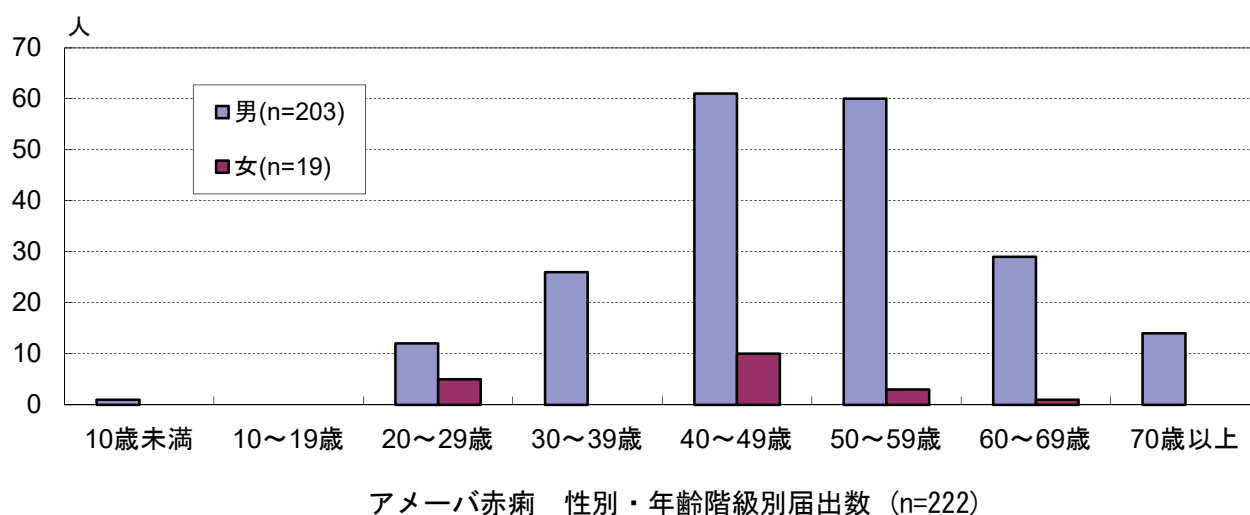
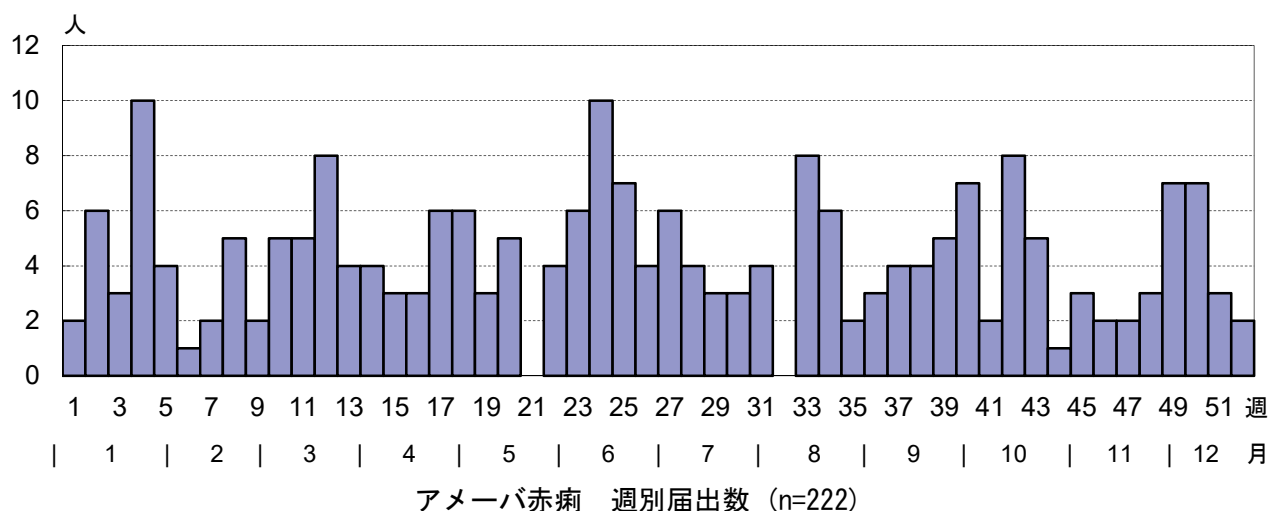
オ 五類感染症（全数把握対象）

① アメーバ赤痢

2016 年は 222 人の届出があった。腸管アメーバ症 189 人、腸管外アメーバ症 22 人、腸管及び腸管外アメーバ症 11 人であった。性別は男性 203 人、女性 19 人で、年齢階級別では 10 歳未満 1 人、20～29 歳 17 人、30～39 歳 26 人、40～49 歳 71 人、50～59 歳 63 人、60～69 歳 30 人、70 歳以上 14 人であった。

推定感染地は国内 175 人、国外 35 人、国内又は国外 12 人であり、国外感染例 35 人を推定感染地域別にみると、東南アジア 17 人、東アジア 3 人、南アジア 3 人、北アメリカ 2 人、南アメリカ 1 人、2 地域以上 3 人、渡航先不明 6 人であった。渡航先不明の人を除く推定感染国はタイ 7 人、インド 3 人、インドネシア、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、米国各 2 人、中国、台湾、香港、カンボジア、ブラジル各 1 人のほか、インドネシア又はマレーシア、タイ又はベトナム又は香港、シンガポール又は台湾又は香港、オーストラリア又はニュージーランド又は香港各 1 人であった。

推定感染経路は、性的接触 79 人（同性間 31 人、異性間 34 人、両性間 2 人、性別不明 12 人）、飲食物による経口感染 42 人、2 経路以上 7 人、不明 94 人であった。

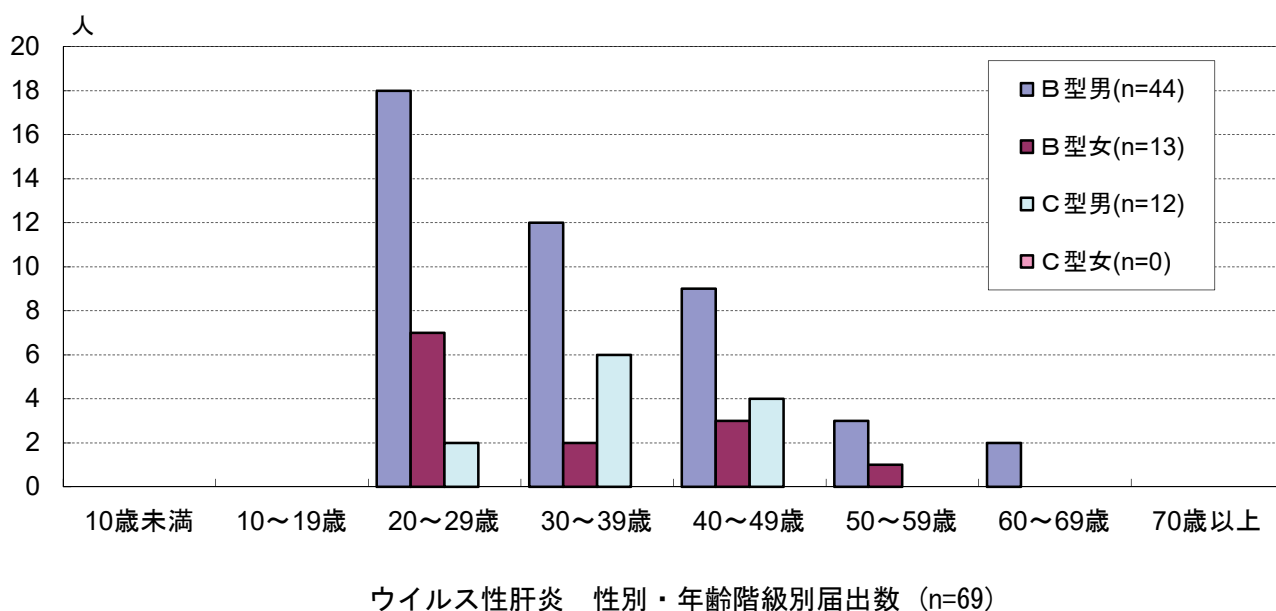
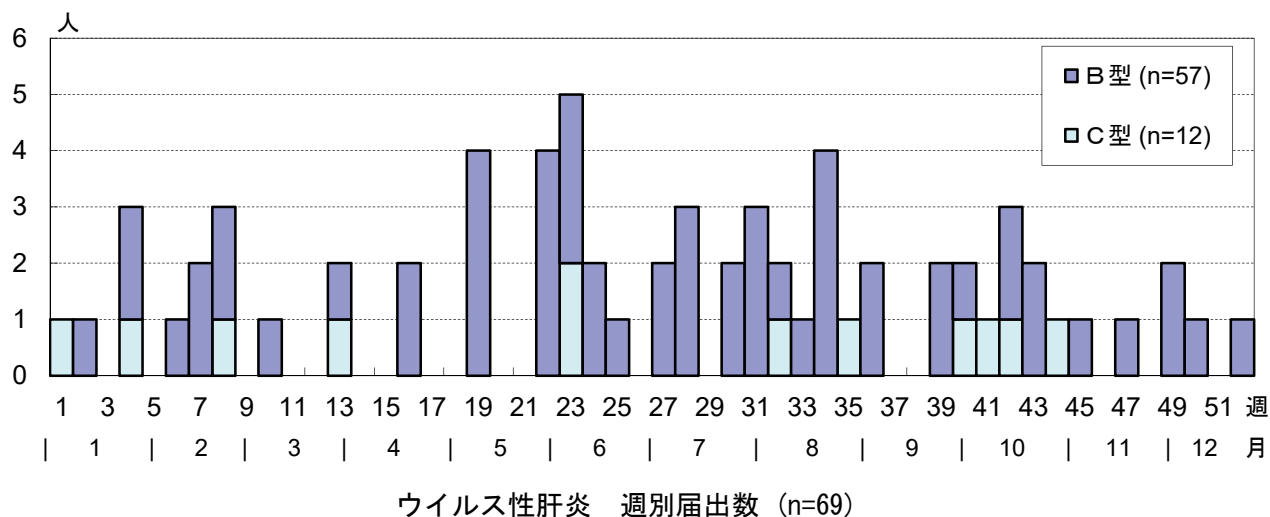


② ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）

2016年は69人の届出があった。内訳は、B型肝炎57人、C型肝炎12人であった。

B型肝炎57人の届出のうち男性は44人、女性は13人で、年齢階級別では20～29歳25人、30～39歳14人、40～49歳12人、50～59歳4人、60～69歳2人であった。推定感染地は国内50人、国外7人（タイ2人、韓国1人、ナイジェリア1人、フィリピン又はインドネシア、中国又はインドネシア又はアメリカ各1人、渡航先不明1人）で、推定感染経路は性的接触48人（同性間15人、異性間21人、両性間1人、性別不明11人）、針等の鋭利なものの刺入による感染1人、不明8人であった。

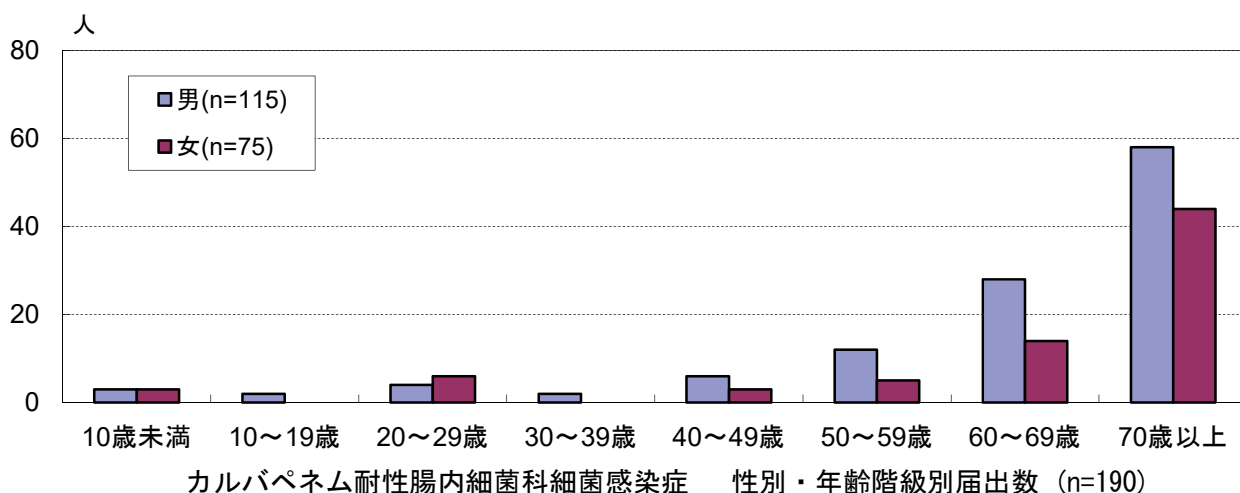
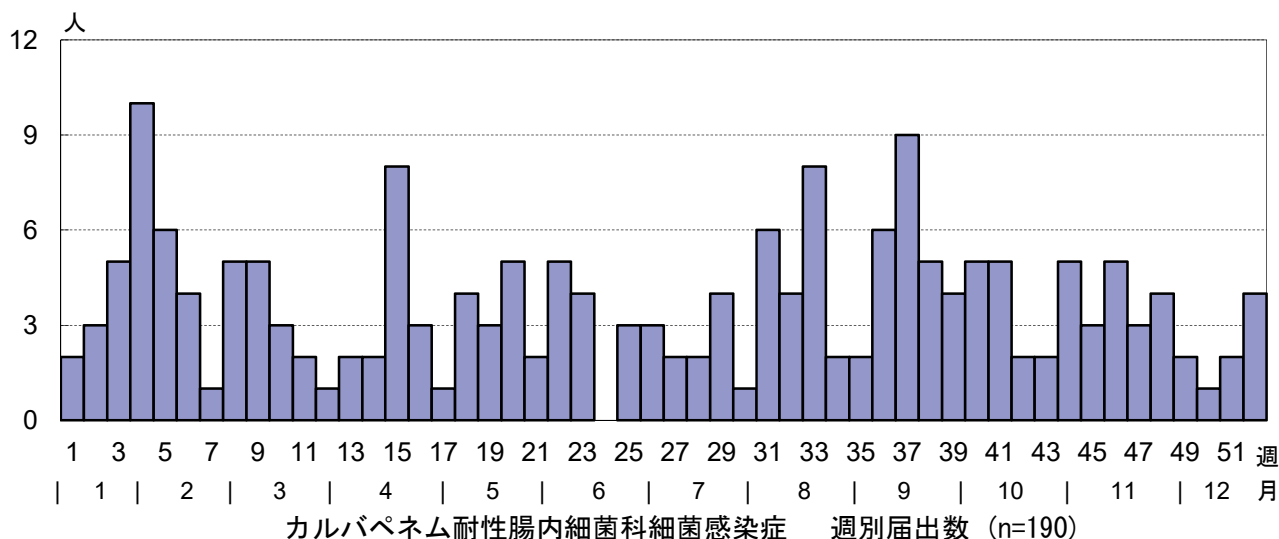
C型肝炎12人の性別はすべて男性で、年齢は20～29歳2人、30～39歳6人、40～49歳4人であった。推定感染地は国内11人、国外（台湾）1人で、推定感染経路は性的接触12人（すべて同性間）であった。



③ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

2016年は190人の届出があった。性別は男性115人、女性75人で、年齢階級別では10歳未満6人、10～19歳2人、20～29歳10人、30～39歳2人、40～49歳9人、50～59歳17人、60～69歳42人、70歳以上102人であった。死亡例は9人（50～59歳1人、60～69歳2人、70歳以上6人）が報告された。推定感染地は国内188人、国外（シンガポール）1人、国内または国外（米国（ハワイ））1人であった。

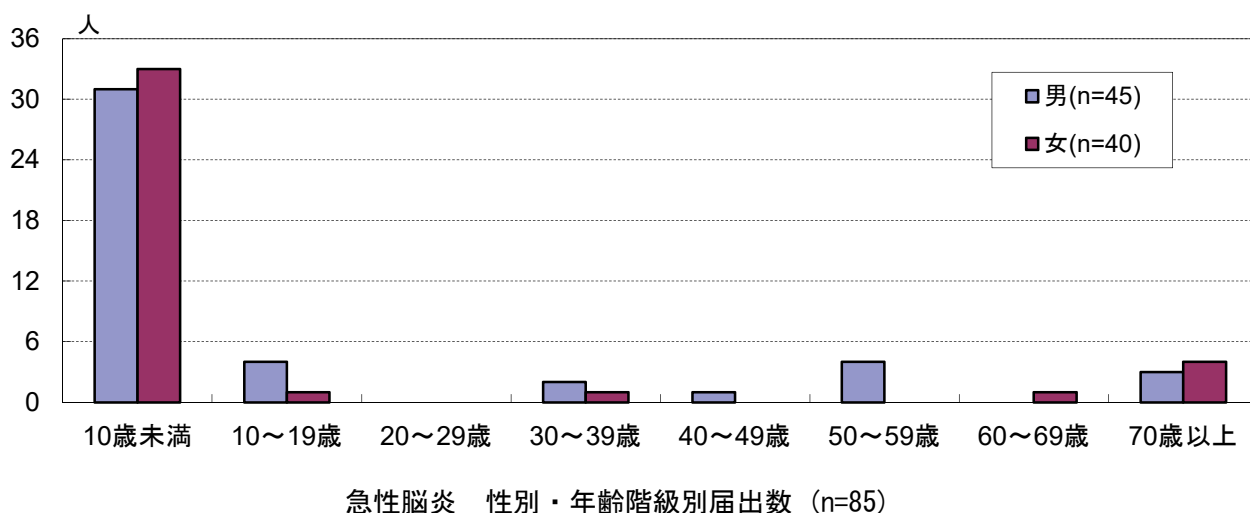
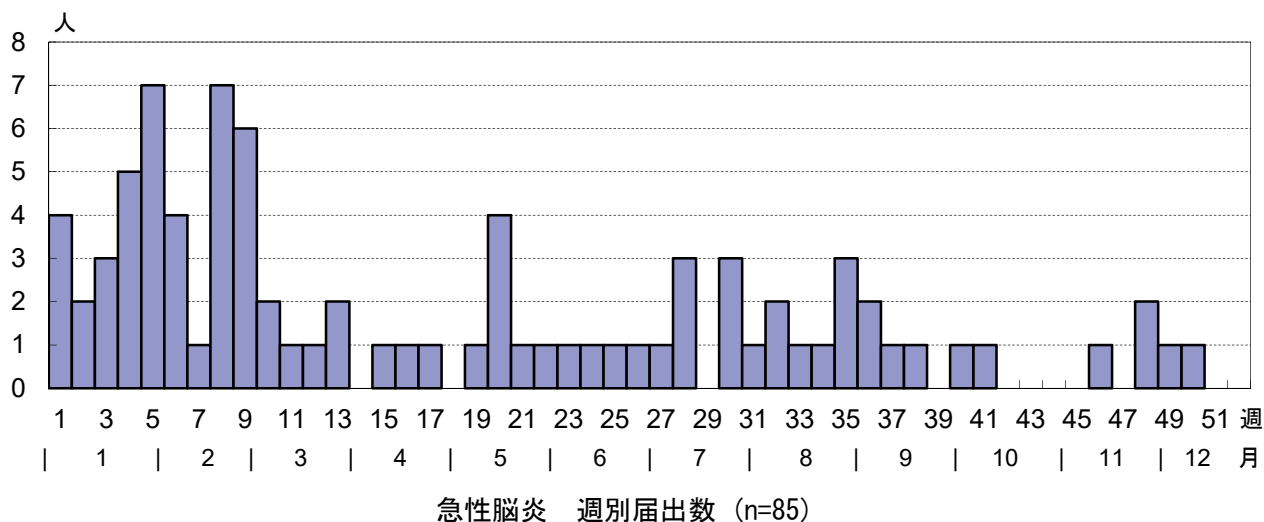
分離された菌種のうち *Enterobacter cloacae* が76件、*Enterobacter aerogenes* が52件、*Klebsiella pneumoniae* が23件、*Escherichia coli* が15件、*Citrobacter freundii* が6件、*Serratia marcescens* が5件、2菌種以上が2件（*Klebsiella pneumoniae* 及び *Escherichia coli*、*Klebsiella pneumoniae* 及び *Citrobacter freundii*）であった。



④ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

2016 年は 85 人の届出があった。性別は男性 45 人、女性 40 人で、年齢階級別では 10 歳未満 64 人（うち 5 歳未満 43 人）、10～19 歳 5 人、30～39 歳 3 人、40～49 歳 1 人、50～59 歳 4 人、60～69 歳 1 人、70 歳以上 7 人、推定感染地は国内 83 人、国内または国外 2 人（タイ 1 人、渡航先不明 1 人）であった。

病原体はインフルエンザウイルス 30 件、単純ヘルペスウイルス 5 件、マイコプラズマ 3 件、RS ウイルス 3 件、ヒトヘルペスウイルス 2 件、エンテロウイルス、ノロウイルス、ロタウイルス、ムンプスウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス、ヒトヘルペスウイルス及びアデノウイルスが各 1 件、不明 36 件であった。



⑤ クリプトスポリジウム症

2016 年は 2 人の届出があった。性別は男性 1 人、女性 1 人で、年齢はすべて 20～29 歳であった。推定感染地は国内 1 人、国外（ベトナム）1 人であった。推定感染経路は国内の 1 人は動物（牛）からの感染、国外の 1 人は性的接触であった。

⑥ クロイツフェルト・ヤコブ病（CJD）

2016 年は 16 人の届出があった。孤発性プリオン病が 12 人（確実 1 人、ほぼ確実 11 人）であり、うち古典型 CJD が 11 人を占めた。また遺伝性プリオン病が 4 人で、すべて家族性 CJD であった。性別は男性 7 人、女性 9 人で、年齢階級別では 50～59 歳 1 人、60～69 歳 7 人、70 歳以上 8 人であった。

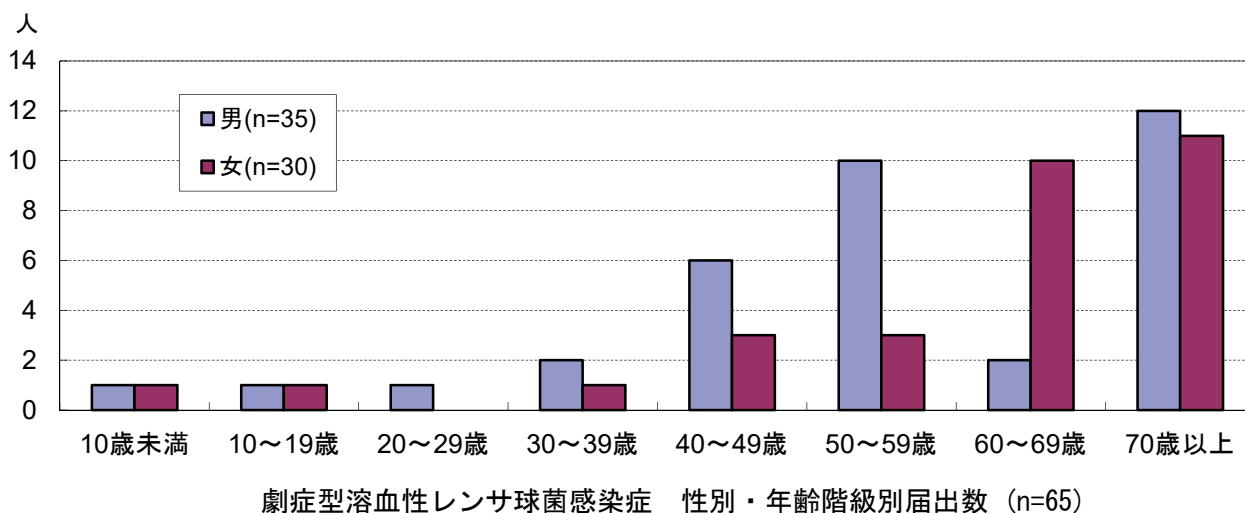
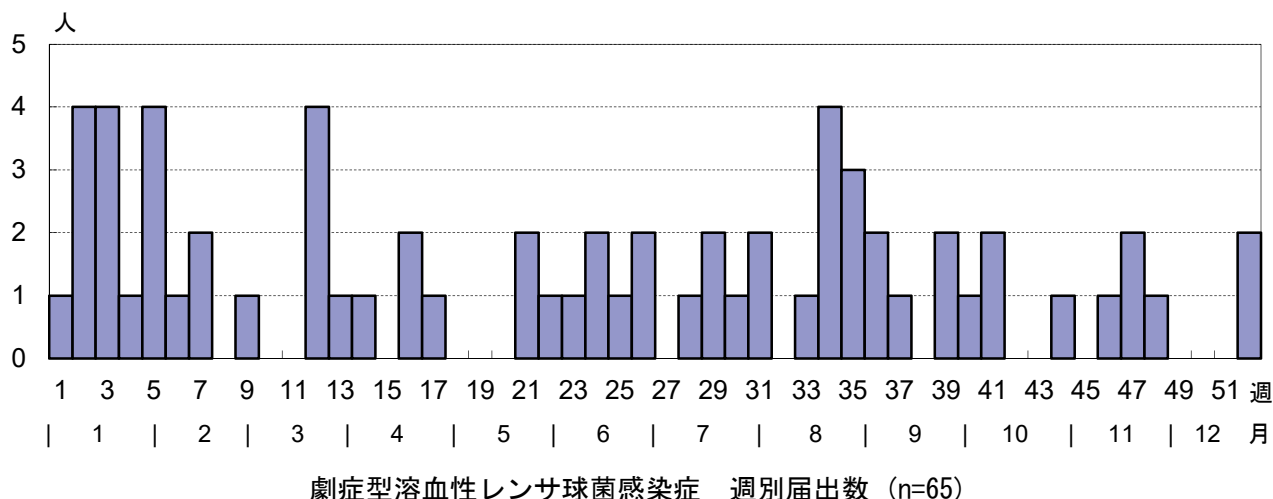
孤発性プリオン病 12 人の症状のうち、進行性認知症が 12 人すべてに認められたほか、ミオクロヌス 11 人、錐体路症状 6 人、記憶障害 6 人、小脳症状 5 人、無動性無言状態 5 人、精神・知能障害 5 人、錐体外路症状 4 人、視覚異常 2 人、筋強剛 2 人、痙性対麻痺、失語症各 1 人が認められた。

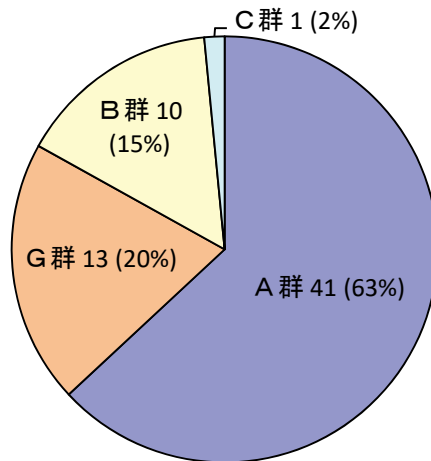
遺伝性プリオン病 4 人の症状のうち、進行性認知症 3 人、錐体外路症状 3 人、ミオクロヌス、錐体路症状、無動性無言状態、記憶障害、筋強剛、失語・失行各 1 人が認められた。

⑦ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2016年は65人の届出があり、過去10年で最も多い届出数となった。性別は男性35人、女性30人で、年齢階級別では10歳未満2人（すべて5歳未満）、10～19歳2人、20～29歳1人、30～39歳3人、40～49歳9人、50～59歳13人、60～69歳12人、70歳以上23人であった。死亡例は12人（40～49歳1人、50～59歳1人、60～69歳3人、70歳以上7人）報告された。

また、推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は創傷感染24人、飛沫・飛沫核感染3人、創傷感染又は経口感染1人、不明37人であった。





劇症型溶血性レンサ球菌感染症 血清群別割合 (n=65)

⑧ 後天性免疫不全症候群

2016 年は 464 人の届出があり、AIDS 患者 97 人、HIV 感染者 367 人（指標疾患以外の有症者 64 人、無症候性キャリア 303 人）であった。

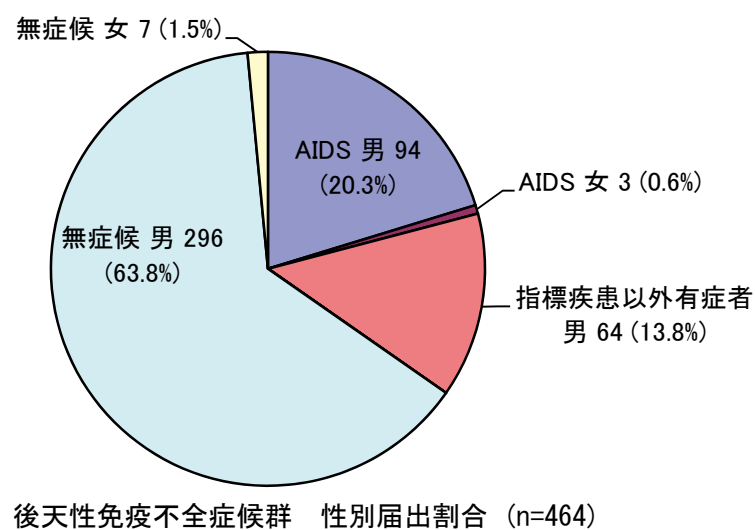
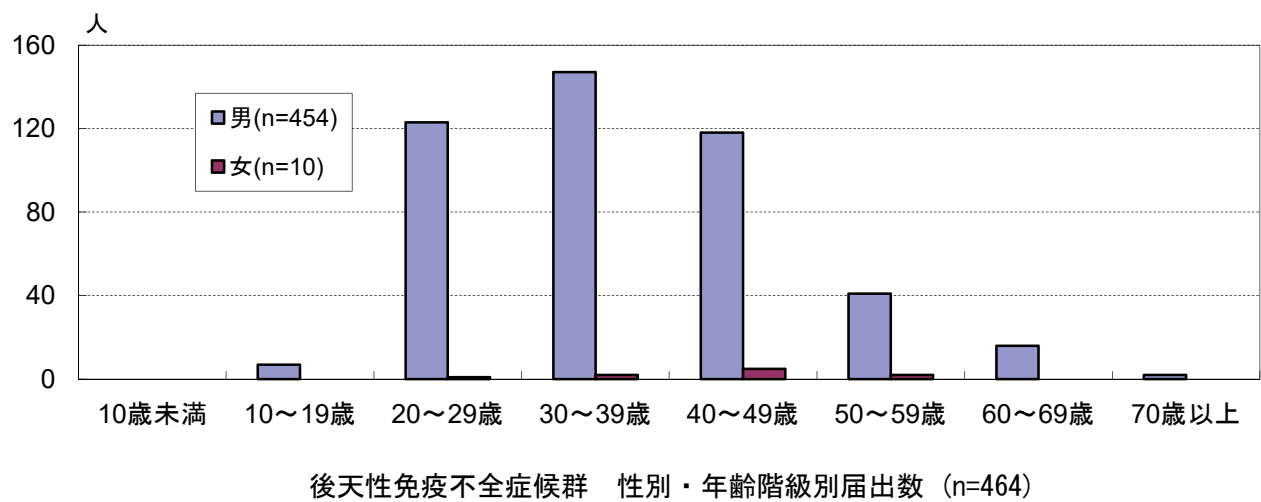
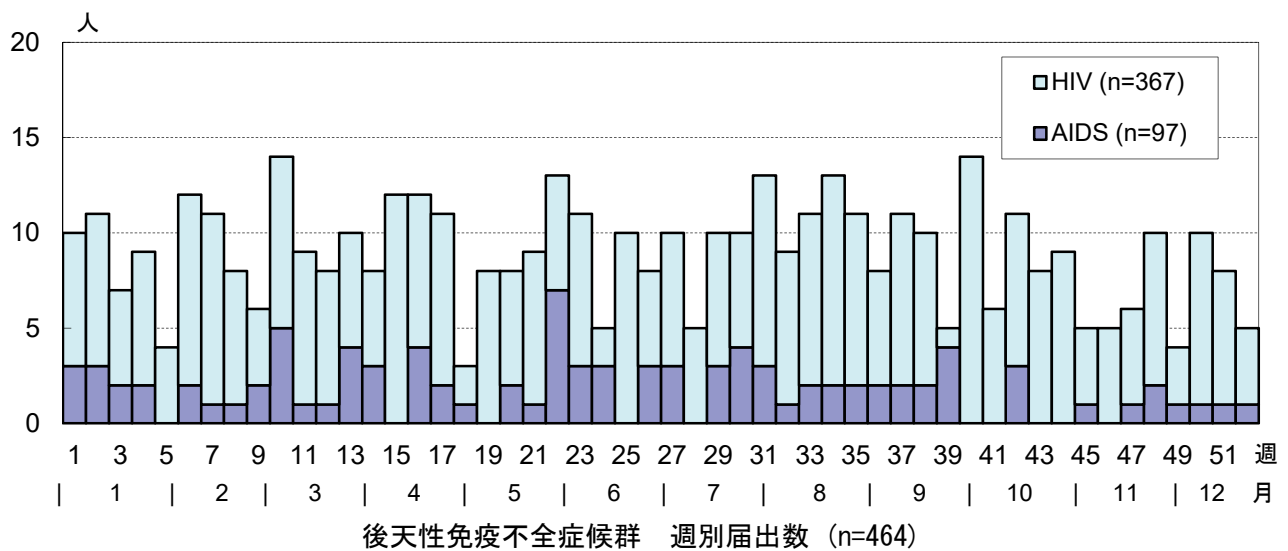
AIDS 患者 97 人の内訳は男性 94 人、女性 3 人で、年齢階級別では 20～29 歳 13 人、30～39 歳 30 人、40～49 歳 35 人、50～59 歳 12 人、60～69 歳 6 人、70 歳以上 1 人であった。

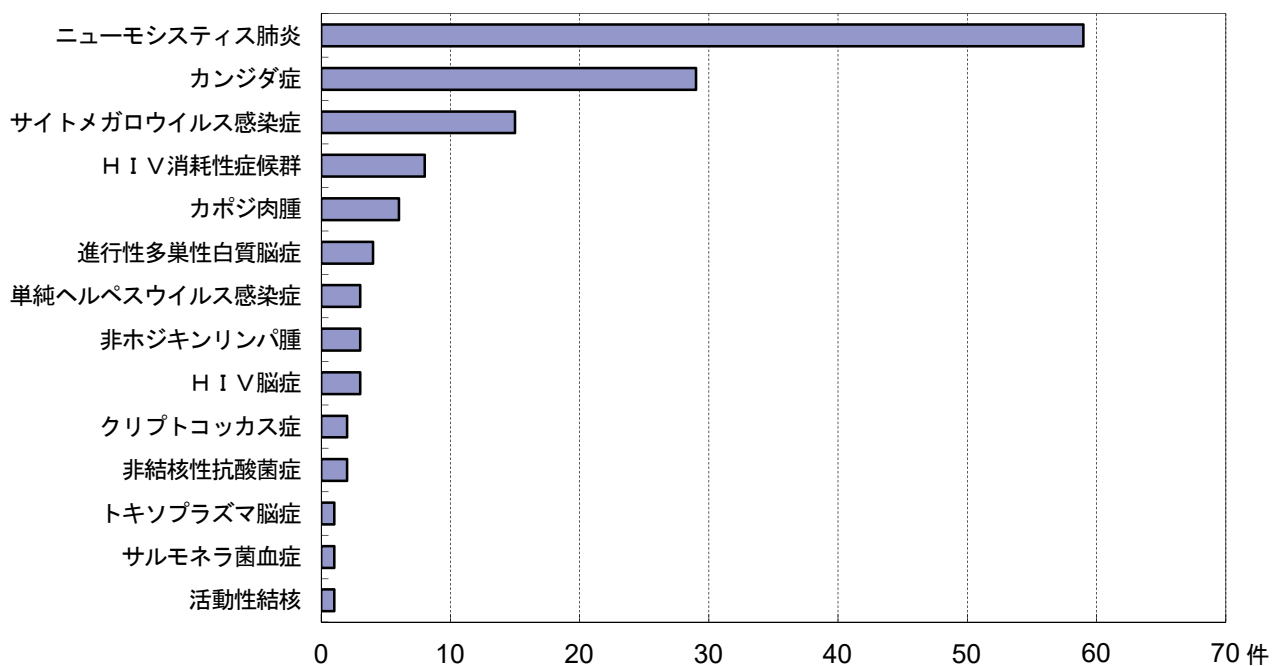
HIV 感染者のうち指標疾患以外の有症者の 64 人はすべて男性で、年齢階級別では 10～19 歳 3 人、20～29 歳 23 人、30～39 歳 14 人、40～49 歳 13 人、50～59 歳 5 人、60～69 歳 6 人であった。

HIV 感染者のうち無症候性キャリアの 303 人は男性 296 人、女性 7 人で、年齢階級別では 10～19 歳 4 人、20～29 歳 88 人、30～39 歳 105 人、40～49 歳 75 人、50～59 歳 26 人、60～69 歳 4 人、70 歳以上 1 人であった。

推定感染地は国内 372 人、国外 32 人、国内又は国外 4 人、不明 56 人であった。国外感染例 32 人の推定感染地域は、東南アジア 11 人、東アジア 10 人、ヨーロッパ 2 人、北アメリカ 2 人、南アジア 1 人、アフリカ 1 人、2 地域以上 1 人、不明 4 人であった。推定感染国別に見ると、中国 7 人、タイ 4 人、インドネシア 2 人、フィリピン 2 人、米国 2 人、ベトナム、カンボジア、バングラデシュ、韓国、台湾、香港、イタリア、ロシア、ボツワナ、インドネシア又はシンガポール、タイ又は韓国各 1 人、渡航先不明 4 人であった。

推定感染経路は性的接触 416 人（同性間 339 人、異性間 59 人、両性間 16 人、不明 2 人）、静注薬物使用 1 人、2 経路以上 4 人（すべて同性間性的接触又は静注薬物使用）、不明 43 人であった。





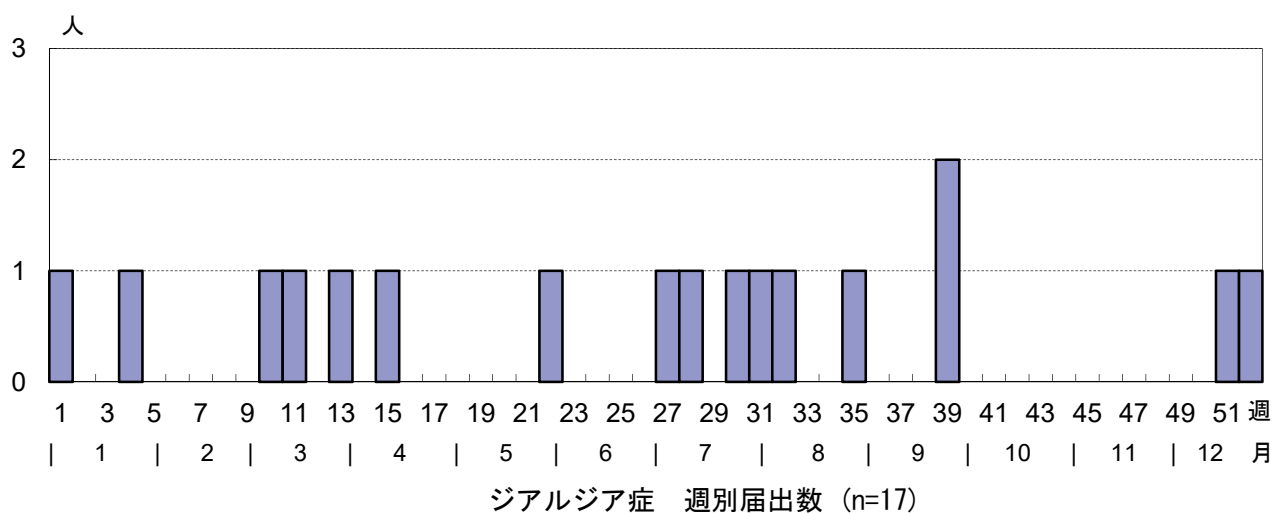
AIDSと診断した指標疾患（n=97、重複あり）

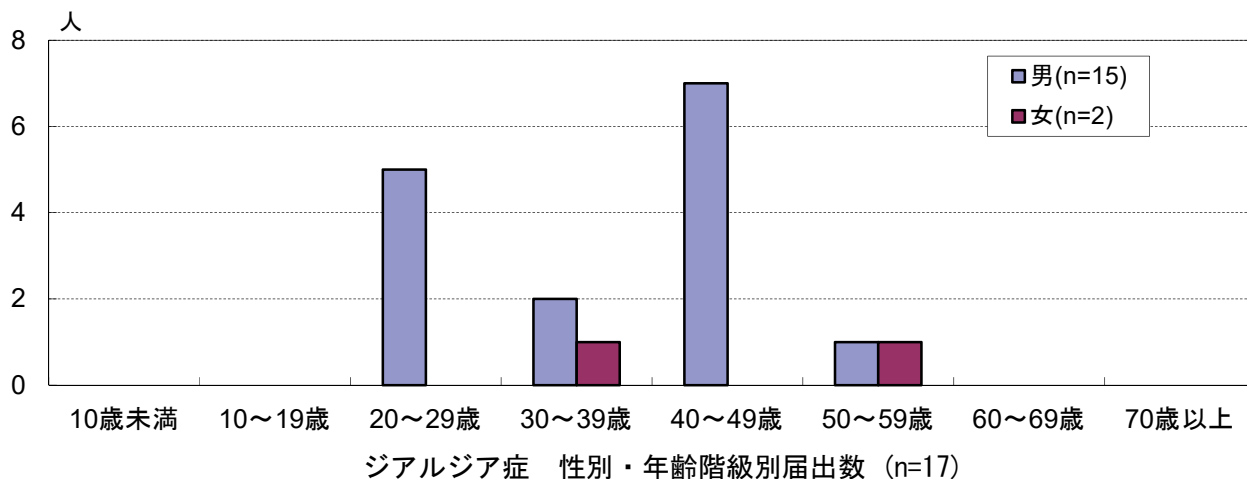
⑨ ジアルジア症

2016 年は 17 人の届出があった。性別は男性 15 人、女性 2 人で、年齢階級別では 20～29 歳 5 人、30～39 歳 3 人、40～49 歳 7 人、50～59 歳 2 人であった。

推定感染地は国内 7 人、国外 10 人であった。国外感染例 10 人を推定感染国別に見ると、インド 5 人、ミャンマー 2 人、コンゴ、米国またはメキシコ、インド又はタイ又はフィリピン各 1 人であった。

推定感染経路は、経口感染 7 人、性的接触 4 人（同性間 3 人、異性間 1 人）、経口感染又は水系感染 2 人、経口感染又は同性間性的接触 1 人、不明 3 人であった。



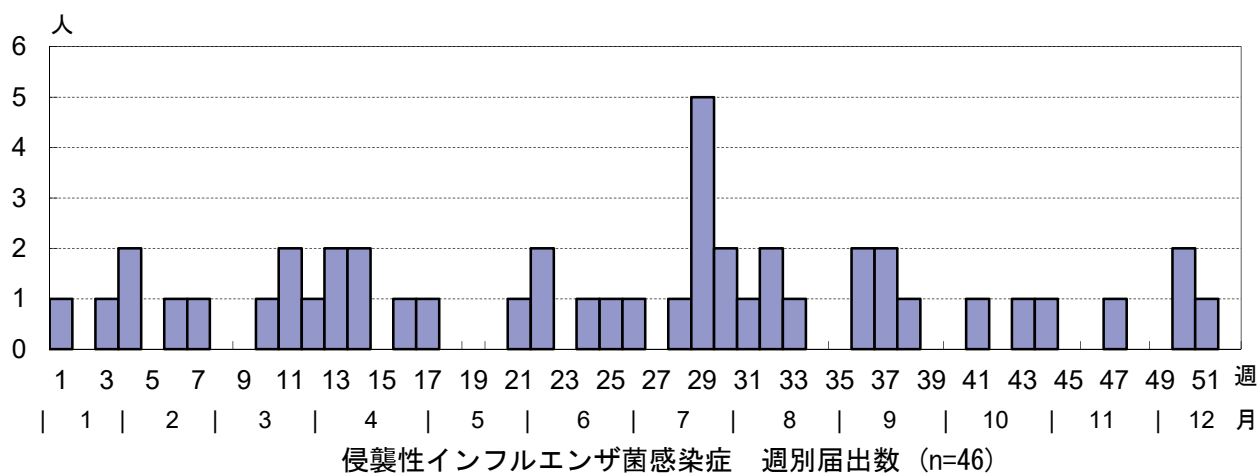


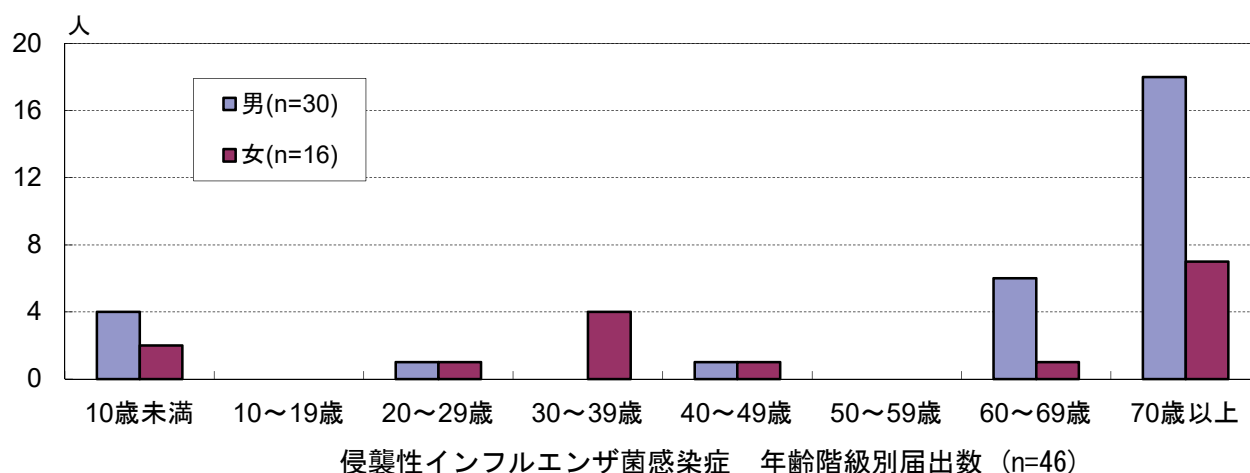
⑩ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

2016 年は 46 人の届出があった。性別は男性 30 人、女性 16 人で、年齢階級別では 10 歳未満 6 人（うち 5 歳未満 4 人）、20～29 歳 2 人、30～39 歳 4 人、40～49 歳 2 人、60～69 歳 7 人、70 歳以上 25 人で、死亡例は 5 人報告された。

血清型 f 型 5 人、無莢膜型 1 人、型別不明 32 人、検査未実施 8 人であった。

推定感染地は国内 45 人、国外（フランス）1 人であった。推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 9 人、接触感染（性的接触の疑い）1 人、不明 36 人であった。Hib ワクチン接種歴は 4 回接種が 1 人、3 回接種が 3 人、1 回接種が 2 人（いずれも 10 歳未満）のほか、接種なし 13 人、不明 27 人であった。





⑪ 侵襲性髄膜炎菌感染症

2016 年は 5 人の届出があった。性別は男性 3 人、女性 2 人であった。年齢階級別では 5 歳未満 1 人、20～29 歳 2 人、40～49 歳 1 人、60～69 歳 1 人で、死亡例は 3 人報告された。

血清群は B 群 2 人、Y 群及び W-135 群 1 人、不明 2 人であった。

推定感染地は国内 4 人、国内又は国外（渡航先不明）1 人で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 1 人、不明 4 人であった。ワクチン接種歴は、なし 2 人、不明 3 人であった。

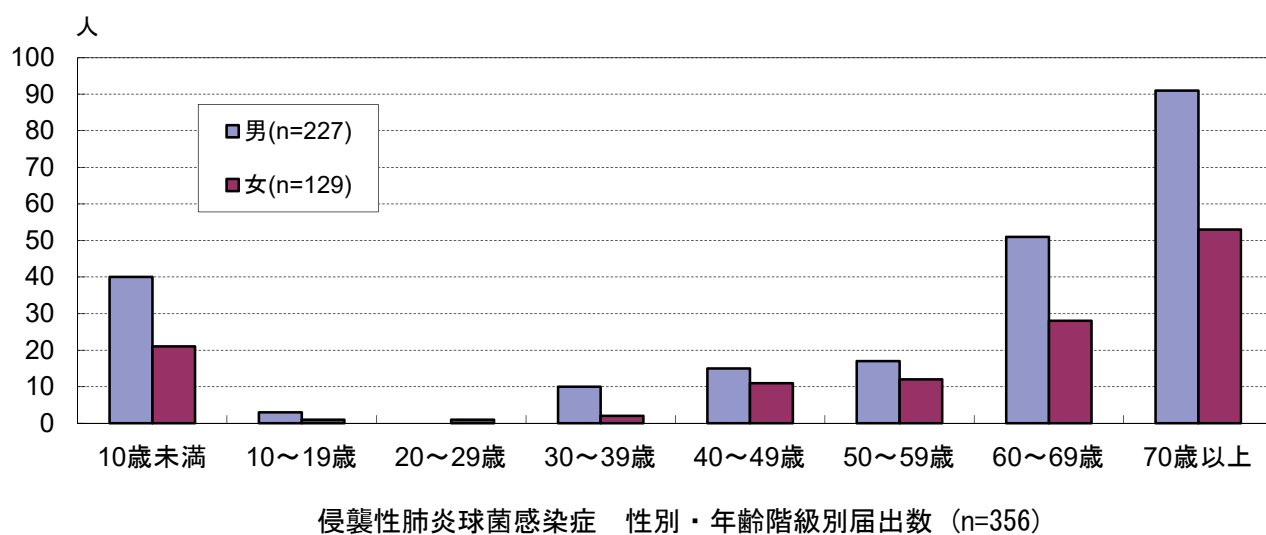
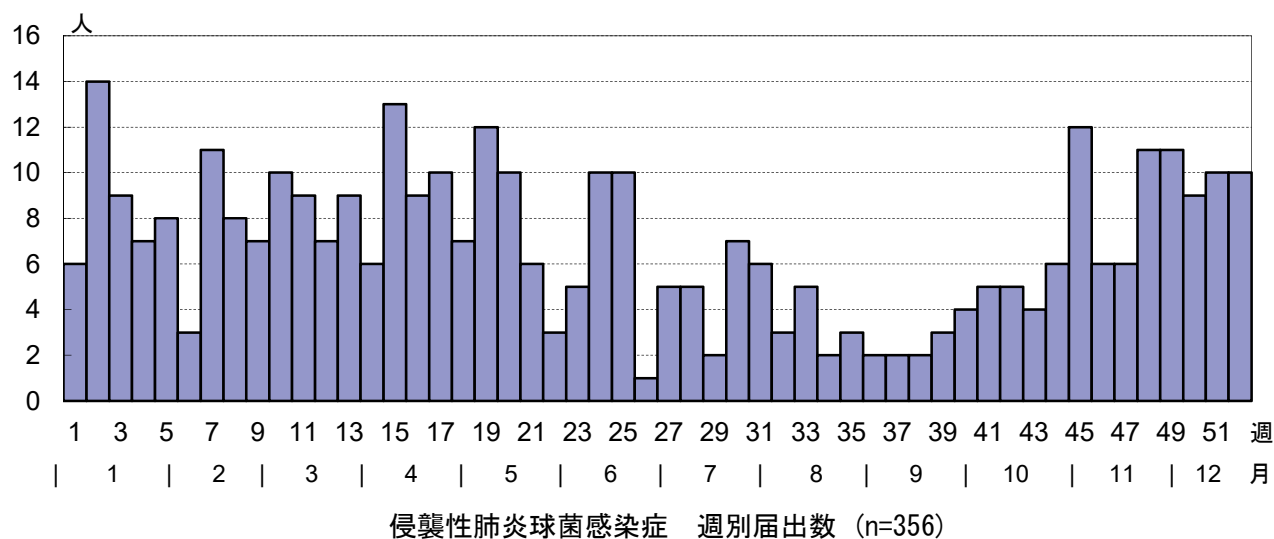
⑫ 侵襲性肺炎球菌感染症

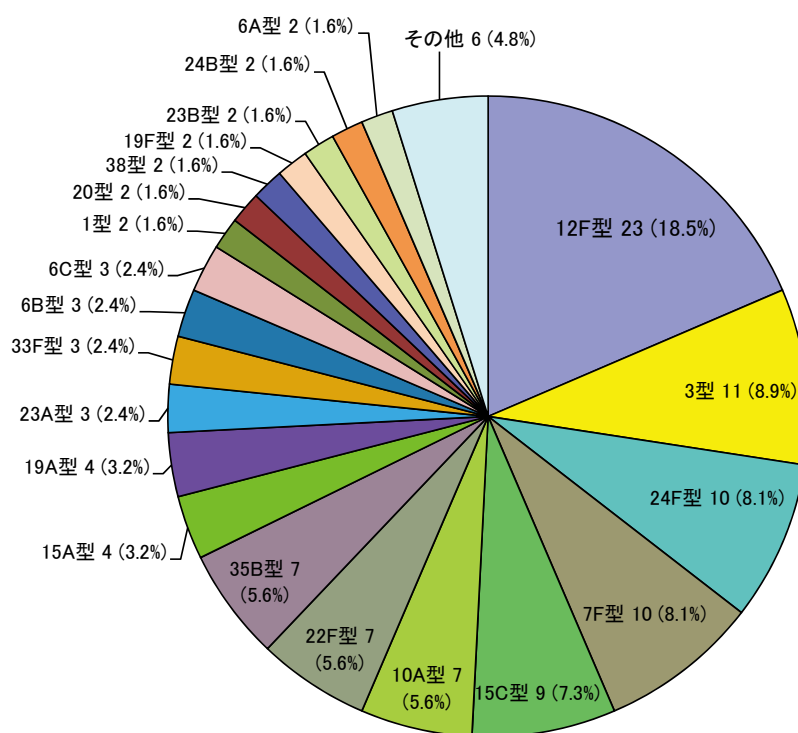
2016 年は 356 人の届出があった。性別は男性 227 人、女性 129 人であった。年齢階級別では 10 歳未満 61 人（うち 5 歳未満 52 人）、10～19 歳 4 人、20～29 歳 1 人、30～39 歳 12 人、40～49 歳 26 人、50～59 歳 29 人、60～69 歳 79 人、70 歳以上 144 人で、死亡例は 24 人報告された。

推定感染地は国内 349 人、国外 2 人（中国 1 人、イタリア又はスペイン 1 人）、国内又は国外 5 人（インド 1 人、米国 1 人、渡航先不明 3 人）であり、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 132 人、接触感染 8 人、飛沫・飛沫核感染又は接触感染 2 人、不明 214 人であった。ワクチン接種歴は 4 回接種 37 人、3 回接種 14 人、2 回接種 2 人、1 回接種 7 人、接種有かつ詳細不明 20 人、なし 157 人、不明 119 人であった。届出のうち、血清型が判明したのは 124 人であった。

年齢階級別・種類別ワクチン接種歴 (n=80)

	7 価 4 回	7 価 3 回	7 価 2 回	13 価 4 回	13 価 3 回	13 価 1 回	23 価 1 回	7 価 13 価 混合接種	詳細不明	合計
5 歳未満	6			28	13	1		1	1	50
5～9 歳	3	1	1						1	6
10～64 歳										0
65 歳以上						1	5		18	24
合 計	9	1	1	28	13	2	5	1	20	80



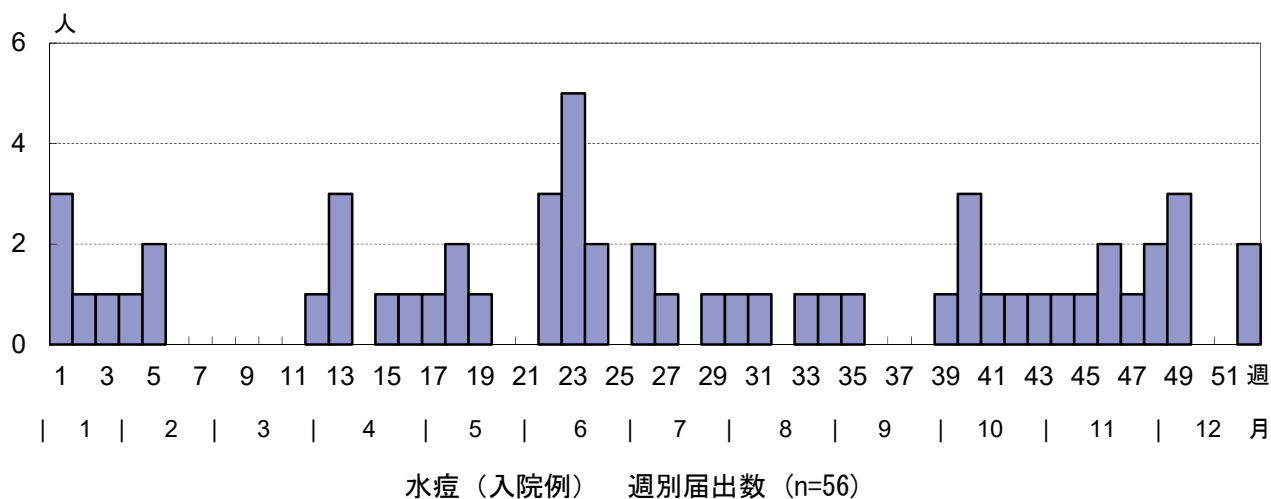


侵襲性肺炎球菌感染症 血清型 (n=124)

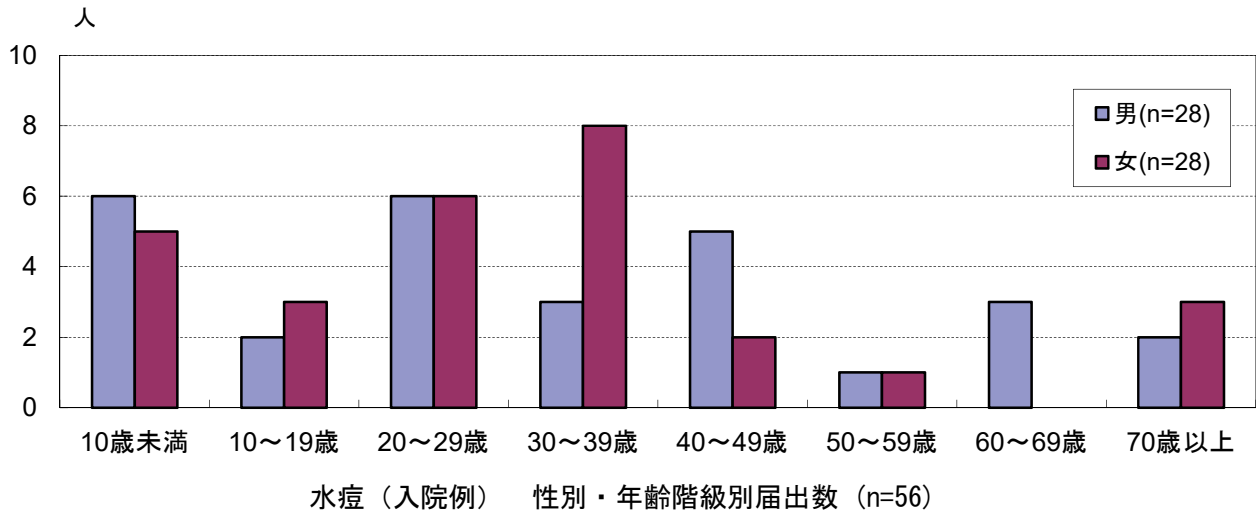
⑬ 水痘（入院例）

2016年は56人の届出があった。性別は男性28人、女性28人で、年齢階級別では10歳未満11人、10～19歳5人、20～29歳12人、30～39歳11人、40～49歳7人、50～59歳2人、60～69歳3人、70歳以上5人であった。死亡例の報告はなかった。

推定感染地は国内55人、国外（ニュージーランド）1人で、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染22人、接触感染7人、飛沫・飛沫核感染又は接触感染1人、免疫不全2人、不明24人であった。ワクチン接種歴は2回接種4人、1回接種8人、なし21人、不明23人であった。



水痘（入院例） 週別届出数 (n=56)

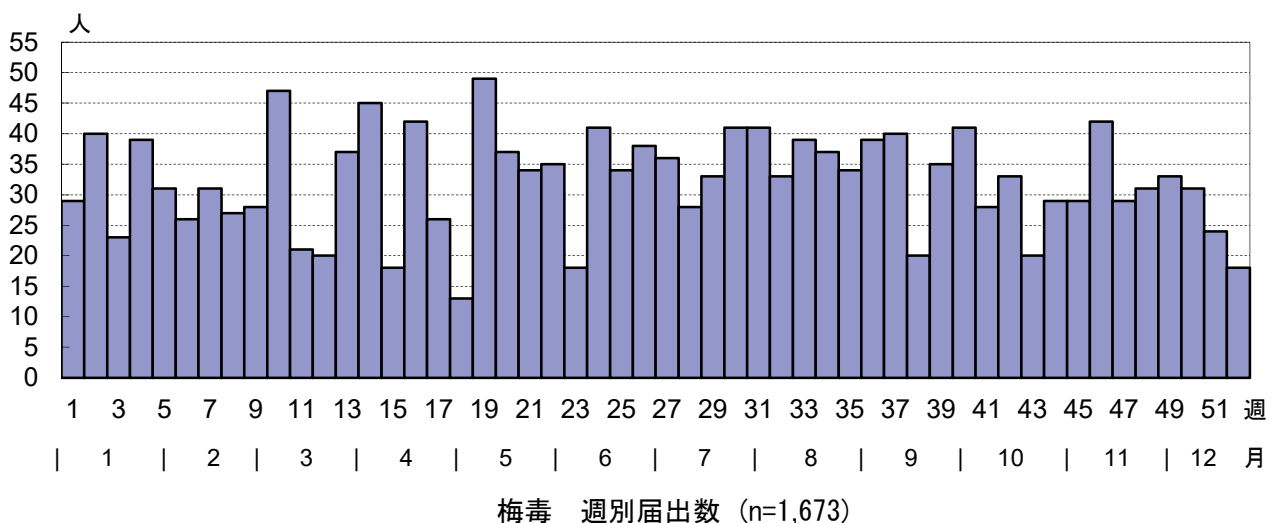


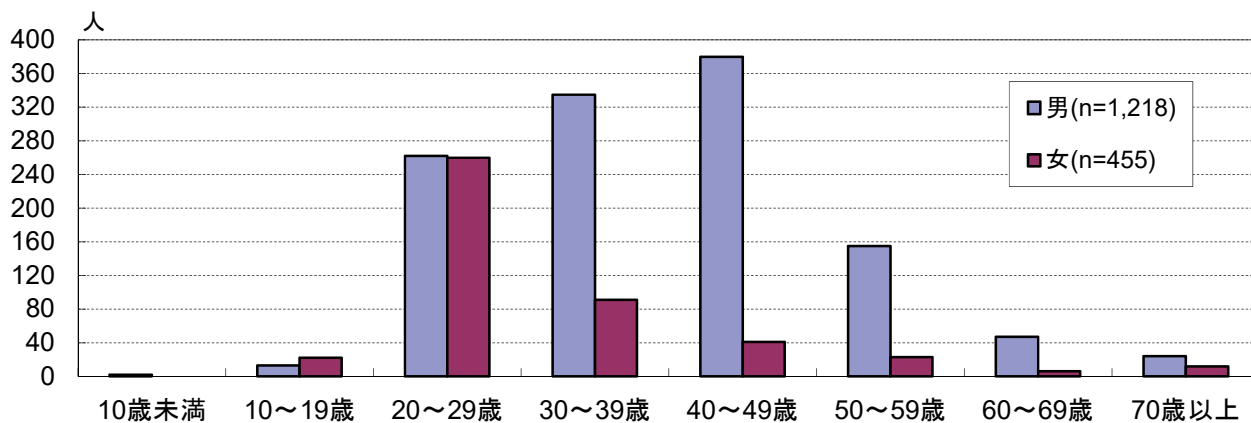
⑭ 梅毒

2016 年は 1,673 人の届出があり、1999 年以来最多となった。早期顕症梅毒Ⅰ期 535 人、早期顕症梅毒Ⅱ期 664 人、晩期顕症梅毒 23 人、無症候 449 人、先天梅毒 2 人であった。性別は男性 1,218 人、女性 455 人であった。年齢階級別では 10 歳未満 2 人、10～19 歳 35 人、20～29 歳 522 人、30～39 歳 426 人、40～49 歳 421 人、50～59 歳 178 人、60～69 歳 53 人、70 歳以上 36 人で、20～49 歳の男性が 977 人で全感染者の 58.4%を占めた。一方、20～29 歳では、522 人のうち女性が 260 人で 49.8%を占めた。

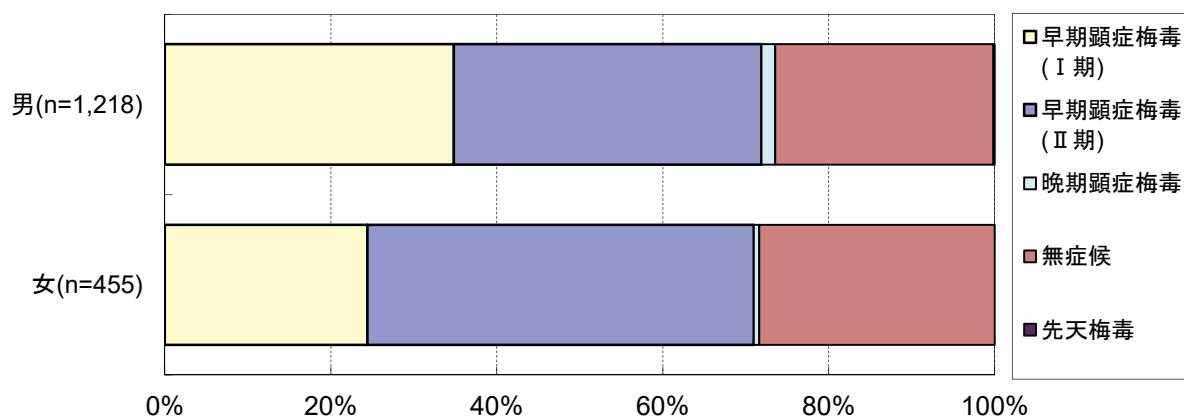
推定感染地は国内 1,629 人、国外 26 人、国内又は国外 18 人であり、国外感染例 26 人の推定感染国は、中国 7 人、シンガポール 3 人、フィリピン 2 人、台湾 2 人、タイ、インドネシア、ミャンマー、ラオス、ネパール、韓国、香港、アメリカ、イギリス、南アフリカ各 1 人、渡航先不明 2 人であった。

推定感染経路は性的接触 1,597 人（同性間 445 人、異性間 929 人、両性間 9 人、性別不明 214 人）、母子感染 3 人、針等の鋭利なものの刺入による感染 3 人、静注薬物常用 2 人、輸血・血液製剤 1 人、性的接触（同性間）又は静注薬物常用 3 人、性別不明性的接触又は針等の鋭利なものの刺入による感染 1 人、不明 63 人となった。

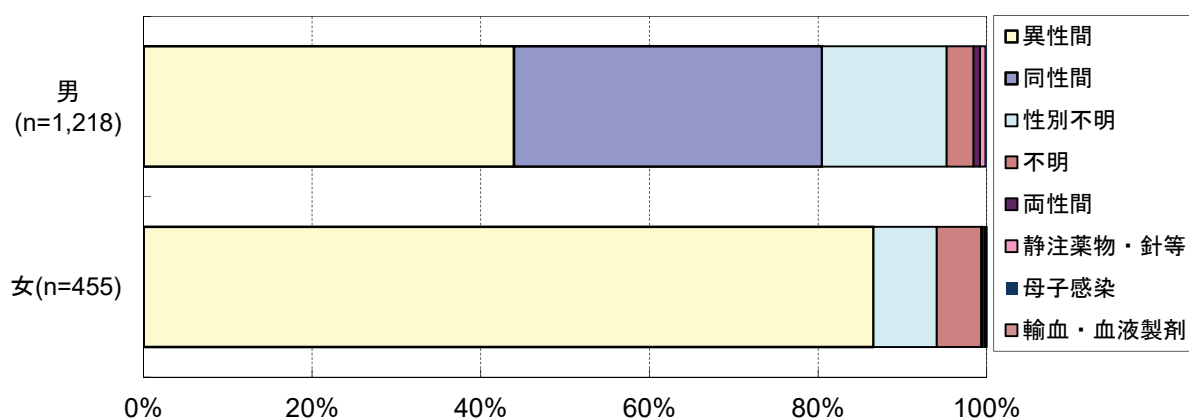




梅毒 性別・年齢階級別届出数 (n=1,673)



梅毒 性別病型届出数 (n=1,673)



梅毒 性別推定感染経路 (n=1,673)

⑮ 播種性クリプトコックス症

2016 年は 20 人の届出があった。性別は男性 15 人、女性 5 人で、年齢階級別では 40～49 歳 2 人、50～59 歳 2 人、60～69 歳 2 人、70 歳以上 14 人であった。推定感染地は国内 19 人、国外（カナダ又はミャンマー又はロシア）1 人であった。推定感染原因は免疫不全 15 人（ステロイド加療中 6 人、肝硬変 3 人、白血病 2 人、血液悪性腫瘍、骨髄抑制、水疱性類天疱瘡、HIV 各 1 人）、鳥類の糞などとの接触 2 人、ステロイド加療中又は鳥類の糞などとの接触 1 人、不明 2 人であった。

⑯ 破傷風

2016 年は 4 人の届出があった。性別は男性 2 人、女性 2 人で、年齢階級別では 30～39 歳 1 人、60～69 歳 1 人、70 歳以上 2 人であった。推定感染地はすべて国内で、推定感染経路は創傷感染 3 人、針等の鋭利なものの刺入による感染（電動ドリルにより骨折し手術後症状出現）1 人であった。破傷風含有ワクチン接種歴はすべて不明であった。

⑰ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

2016 年は 2 人の届出があった。性別は男性 1 人、女性 1 人、年齢階級別では 50～59 歳 1 人、70 歳以上 1 人であった。菌種はすべて *Enterococcus faecium*、耐性遺伝子は *vanB* が 1 人、不明 1 人であった。

推定感染地はすべて国内であった。推定感染経路はいずれも不明であった。

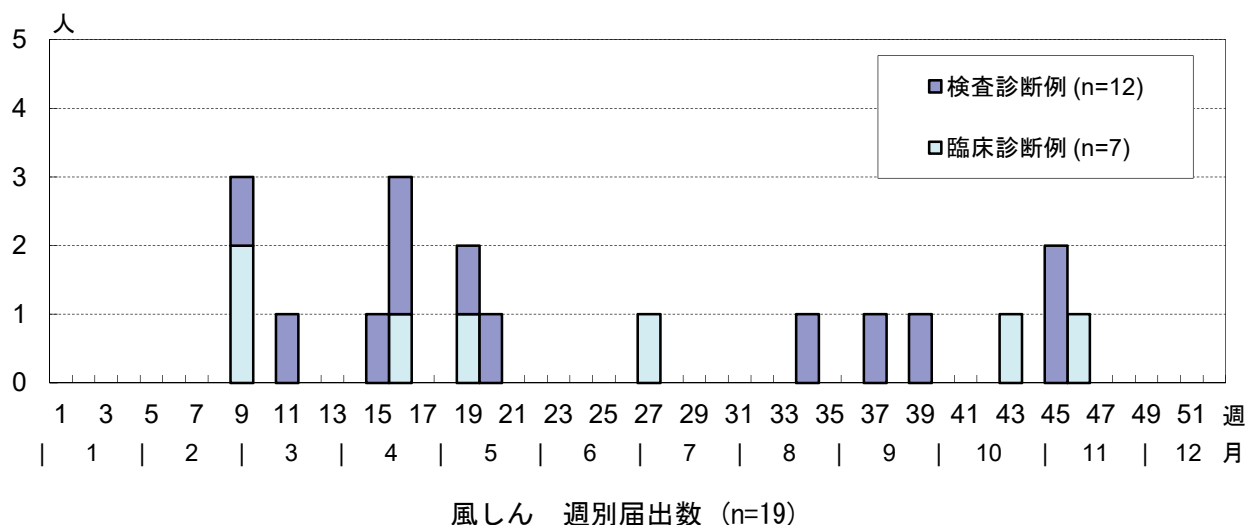
⑱ 風しん

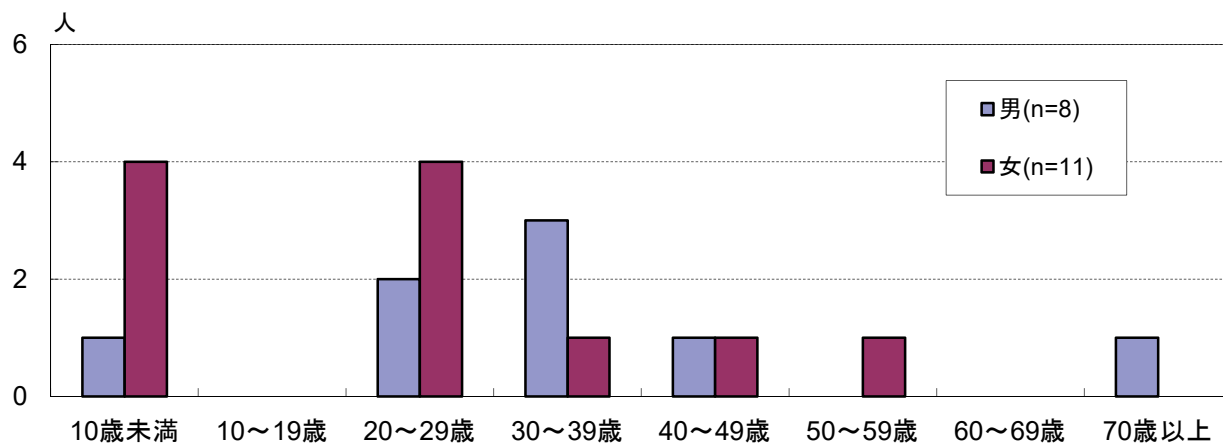
2016 年の届出は 19 人であった。検査診断例 12 人（うち PCR 陽性例は 2 例）、臨床診断例 7 人であった。

性別は男性 8 人、女性 11 人で、年齢階級別では 10 歳未満 5 人（うち 5 歳未満 4 人）、20～29 歳 6 人、30～39 歳 4 人、40～49 歳 2 人、50～59 歳 1 人、70 歳以上 1 人であった。

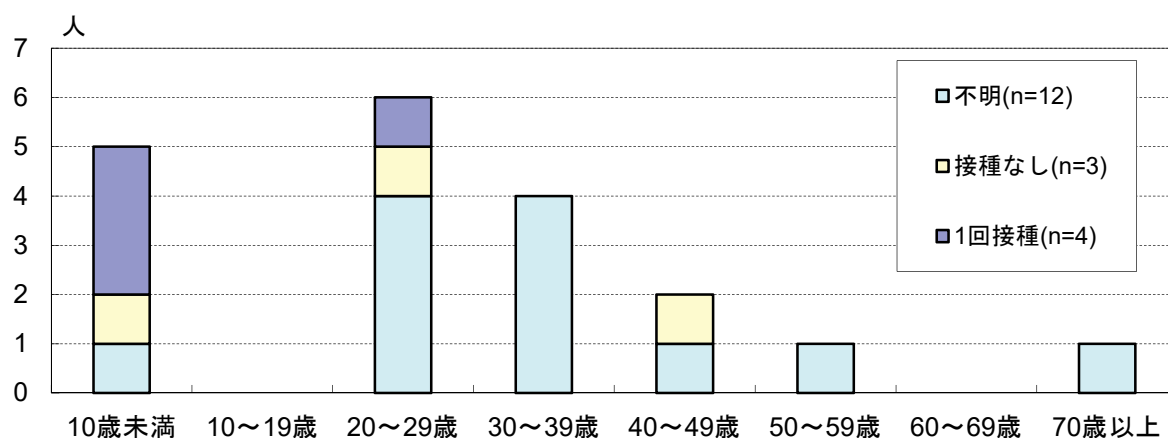
推定感染地はすべて国内であった。

風しん含有ワクチン接種歴は、1 回接種 4 人、接種歴なし 3 人、不明 12 人であった。





風しん 性別・年齢階級別届出数 (n=19)



風しん 年齢別・接種歴別届出数 (n=19)

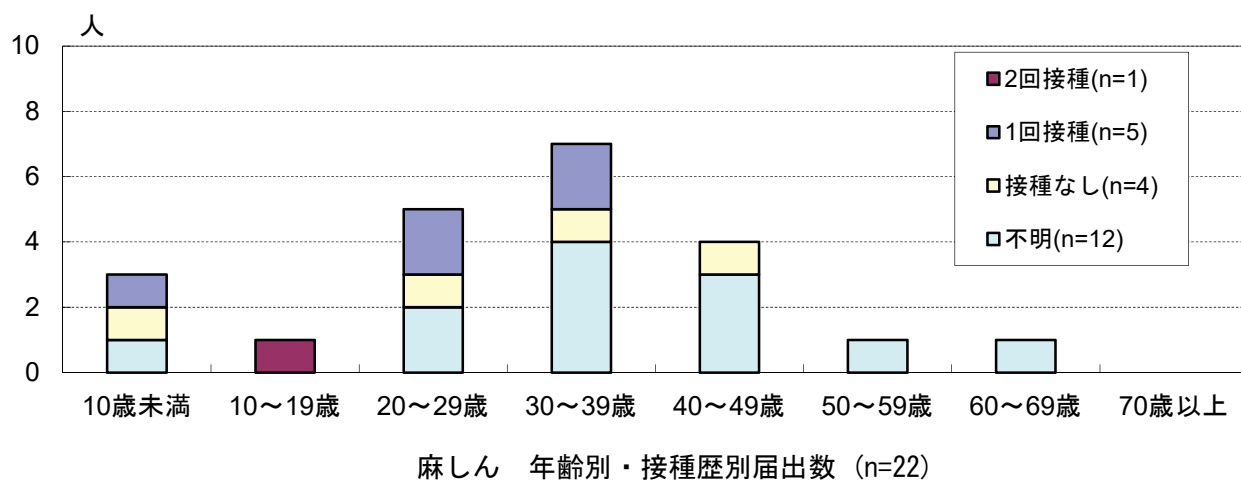
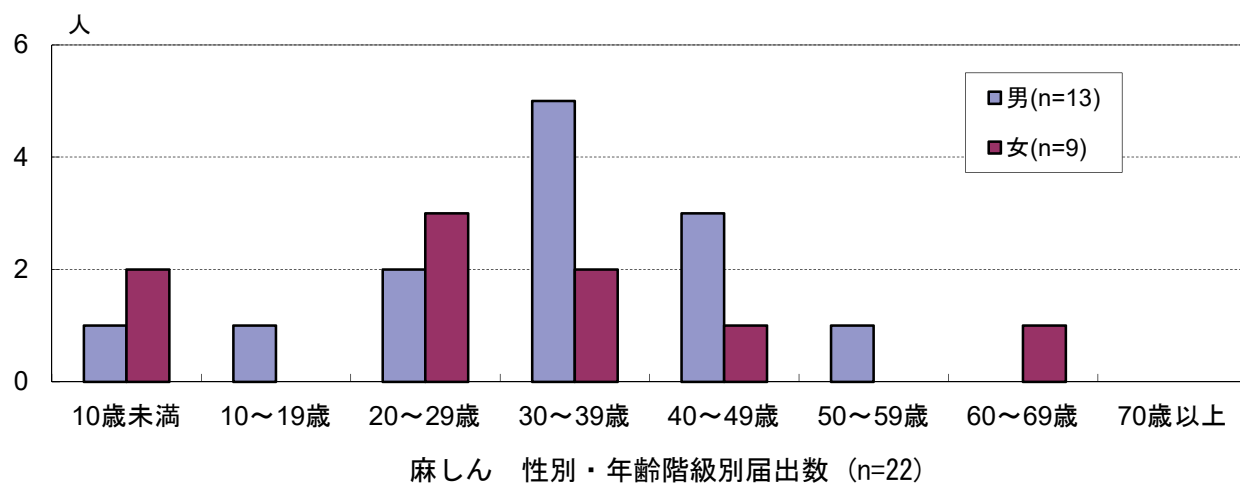
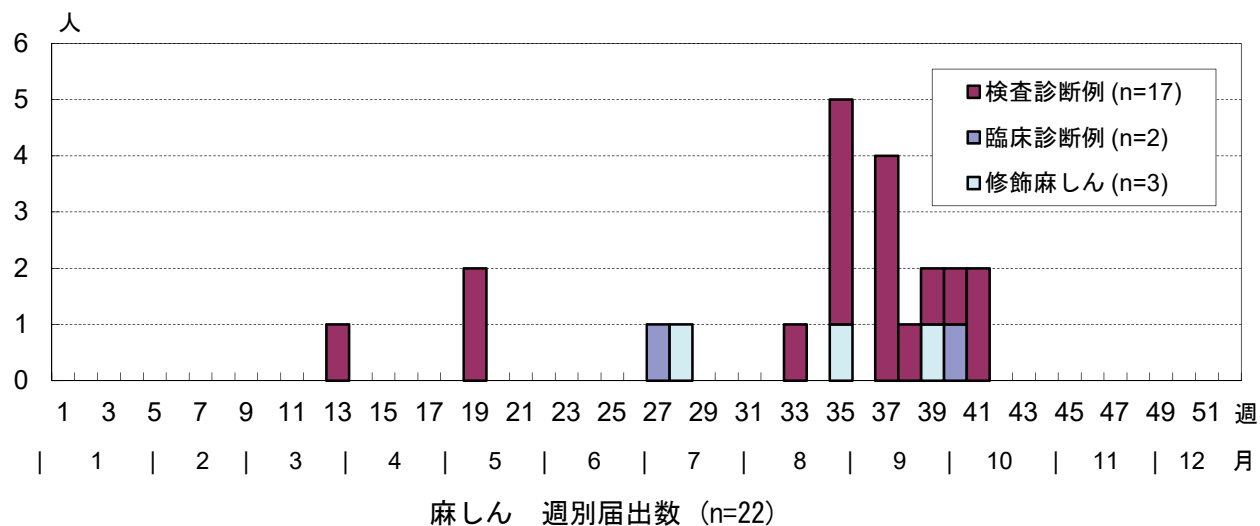
⑨ 麻疹

2016年は22人の届出があった。検査診断例17人、臨床診断例2人、修飾麻疹3人であり、脳炎の合併が1件報告された。肺炎の合併の報告はなかった。症例の集積は、第35週に首都圏でのコンサート参加者関連が2人（遺伝子型H1）、第37週に首都圏内の空港利用者関連が2人（遺伝子型D8）であった。

性別は男性13人、女性9人で、年齢階級別では10歳未満3人（すべて5歳未満）、10～19歳1人、20～29歳5人、30～39歳7人、40～49歳4人、50～59歳1人、60～69歳1人であった。推定感染地は国内11人、国外11人であった。国外感染例11人の推定感染国はインドネシア6人、タイ2人、モンゴル1人、インドネシア又はシンガポール2人であった。

麻疹含有ワクチン接種歴は、2回接種1人、1回接種5人、接種なし4人、不明12人であった。

2016年にPCR検査で麻疹ウイルス陽性が確認された例は22件あり、それらの遺伝子型別の内訳はD8型16件、H1型3人、A型（ワクチン株のため届出対象外）3件であった。



麻しん届出例 (n=22)

受理日	性別	年齢	遺伝子型	推定感染地域	ワクチン接種歴
3/30	男	32	H1	国外（モンゴル）	無
5/10	男	0	D8	国外（インドネシア）	不明
5/12	男	23	D8	国外（インドネシア又はシンガポール）	不明
7/6	男	16	検査未実施	国内	2回
7/12	女	47	検査未実施	国内	無
8/18	男	44	D8	国外（タイ）	不明
8/29	女	27	H1	国内	1回
8/31	女	38	D8	国内	不明
9/1	男	28	H1	国内	不明
9/1	男	51	D8	国外（インドネシア又はシンガポール）	不明
9/2	男	43	D8	国外（タイ）	不明
9/12	男	46	D8	国内	不明
9/13	男	34	D8	国内	不明
9/16	男	36	D8	国内	1回
9/17	女	64	D8	国内	不明
9/21	男	30	D8	国外（インドネシア）	不明
9/26	女	28	D8	国内	無
9/29	男	36	D8	国外（インドネシア）	1回
10/4	女	35	検査未実施	国内	不明
10/5	女	2	D8	国外（インドネシア）	1回
10/13	女	1	D8	国外（インドネシア）	無
10/13	女	27	D8	国外（インドネシア）	1回

⑳ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

2016年は1人の届出があった。性別は男性で、年齢階級別は50～59歳であった。推定感染地は国内で、推定感染原因は医療器具関連感染（中心静脈カテーテル）であった。

㉑ その他の五類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

先天性風しん症候群（CRS）、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

表3-1(1) 一、二、三類感染症 週別患者報告数

2016 年第 1 週～2016 年第 52 週

週	期 間	一 類							二 類							三 類				
		エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	鳥インフルエンザ (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
1	1. 4～ 1.10																1	1		
2	1.11～ 1.17																1	3	2	2
3	1.18～ 1.24																		1	
4	1.25～ 1.31																	2		
5	2. 1～ 2. 7																	2	1	
6	2. 8～ 2.14																2			
7	2.15～ 2.21																	2	1	
8	2.22～ 2.28																	1		
9	2.29～ 3. 6																3	2		
10	3. 7～ 3.13																1	3		
11	3.14～ 3.20																			
12	3.21～ 3.27																2		2	
13	3.28～ 4. 3																	1		
14	4. 4～ 4.10																1	5		1
15	4.11～ 4.17																	1	2	
16	4.18～ 4.24																2	6		1
17	4.25～ 5. 1																2	3		
18	5. 2～ 5. 8																	5		
19	5. 9～ 5.15																	1		
20	5.16～ 5.22																1	3		
21	5.23～ 5.29																1	5		
22	5.30～ 6. 5																2	5		
23	6. 6～ 6.12																	8	1	
24	6.13～ 6.19																	11		
25	6.20～ 6.26																	31		1
26	6.27～ 7. 3																2	27	2	
27	7. 4～ 7.10																	14	2	
28	7.11～ 7.17																	15		
29	7.18～ 7.24																1	14		
30	7.25～ 7.31																	15		
31	8. 1～ 8. 7																2	11	1	
32	8. 8～ 8.14																3	19		
33	8.15～ 8.21																3	16		
34	8.22～ 8.28																	28		
35	8.29～ 9. 4																	38		
36	9. 5～ 9.11															1	1	49		
37	9.12～ 9.18																1	31		1
38	9.19～ 9.25																	3	2	
39	9.26～10. 2																1	11		
40	10. 3～10. 9																	3		
41	10.10～10.16																1	5		
42	10.17～10.23																	6		1
43	10.24～10.30															1		10		
44	10.31～11. 6																1	5		1
45	11. 7～11.13																	6		
46	11.14～11.20																1	5		
47	11.21～11.27																1	5		
48	11.28～12. 4																1	6		
49	12. 5～12.11																2			
50	12.12～12.18																	3		
51	12.19～12.25																	4		
52	12.26～ 1. 1																	2	1	
合 計																2	40	452	18	8

* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-1(2) 四類感染症 週別患者報告数

2016 年第 1 週～2016 年第 52 週

週	期 間	四 類												
		E 型肝炎	A 型肝炎	オウム病	コクシジオイデス症	ジカウイルス感染症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	ブルセラ症	ボツリヌス症	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症
1	1. 4～ 1.10	2							3				2	
2	1.11～ 1.17								3				1	
3	1.18～ 1.24	1	2										3	
4	1.25～ 1.31	1							2				1	
5	2. 1～ 2. 7	2	1						2				2	
6	2. 8～ 2.14	3							1				3	
7	2.15～ 2.21		2										3	
8	2.22～ 2.28	1	2						1			1	1	
9	2.29～ 3. 6	1	1				1		1				1	
10	3. 7～ 3.13	3	4						1				1	
11	3.14～ 3.20		4									1	5	
12	3.21～ 3.27		2						1					
13	3.28～ 4. 3		5				1		6			1	2	
14	4. 4～ 4.10	2	5						5			1	1	
15	4.11～ 4.17		1						4			1	2	
16	4.18～ 4.24		2							1	1			
17	4.25～ 5. 1	1	1						3				4	
18	5. 2～ 5. 8		1		1				2					
19	5. 9～ 5.15	2	4						2				2	
20	5.16～ 5.22	1							2				5	
21	5.23～ 5.29	1	2										3	
22	5.30～ 6. 5	2	3				1						1	
23	6. 6～ 6.12												4	
24	6.13～ 6.19	1	1						1				4	
25	6.20～ 6.26	2	2		1								4	
26	6.27～ 7. 3		1						1				3	
27	7. 4～ 7.10	1	1	1					2			1	1	
28	7.11～ 7.17	1	2						4			1	1	
29	7.18～ 7.24								1					
30	7.25～ 7.31								3			3	7	
31	8. 1～ 8. 7		3							1			2	1
32	8. 8～ 8.14		1										3	
33	8.15～ 8.21	2							1			1	3	
34	8.22～ 8.28								4			1		2
35	8.29～ 9. 4								4				3	1
36	9. 5～ 9.11		1						4			2	10	1
37	9.12～ 9.18	1	1			1	1		3				2	1
38	9.19～ 9.25					1			2				2	
39	9.26～10. 2		2						3				7	
40	10. 3～10. 9		1						5			1	9	1
41	10.10～10.16		2						1				4	
42	10.17～10.23	1							3			1	4	
43	10.24～10.30		1						3				6	
44	10.31～11. 6		1					2	1					
45	11. 7～11.13			1					1				3	
46	11.14～11.20	2	1					3				1	5	
47	11.21～11.27					1							1	
48	11.28～12. 4								1				4	
49	12. 5～12.11		1					1					1	
50	12.12～12.18	2							1				2	
51	12.19～12.25							1	2				3	
52	12.26～ 1. 1	1	1										2	
合 計		37	65	2	2	3	4	7	90	1	1	18	143	7

表3-1(3) 五類(全数把握)感染症 週別患者報告数

2016 年第 1 週～2016 年第 52 週

週	期 間	五 類																			
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻疹	薬剤耐性アシネトバクター感染症
1	1. 4～ 1.10	2	1	2	4		1	1	10	1	1		6	3	29						
2	1.11～ 1.17	6	1	3	2			4	11				14	1	40						
3	1.18～ 1.24	3		5	3		1	4	7		1		9	1	23	1					
4	1.25～ 1.31	10	3	10	5				1	9	1	2	7	1	39						
5	2. 1～ 2. 7	4		6	7		2	4	4				8	2	31						
6	2. 8～ 2.14	1	1	4	4			1	12		1		3		26						
7	2.15～ 2.21	2	2	1	1			2	11		1		11		31						
8	2.22～ 2.28	5	3	5	7				8				8		27						
9	2.29～ 3. 6	2		5	6		1	1	6				7		28	1			3		
10	3. 7～ 3.13	5	1	3	2				14	1	1		10		47	2					
11	3.14～ 3.20	5		2	1		1		9	1	2		9		21	1			1		
12	3.21～ 3.27	8		1	1			4	8		1		7	1	20	1					
13	3.28～ 4. 3	4	2	2	2			1	10	1	2		9	3	37					1	
14	4. 4～ 4.10	4		2				1	8		2		6		45	1					
15	4.11～ 4.17	3		8	1		1		12	1		1	13	1	18	1			1		
16	4.18～ 4.24	3	2	3	1			2	12		1		9	1	42	1	1		3		
17	4.25～ 5. 1	6		1	1		2	1	11		1		10	1	26		1				
18	5. 2～ 5. 8	6		4					3				7	2	13						
19	5. 9～ 5.15	3	4	3	1				8				12	1	49				2	2	
20	5.16～ 5.22	5		5	4				8				10		37		1		1		1
21	5.23～ 5.29			2	1			2	9		1	1	6		34						
22	5.30～ 6. 5	4	4	5	1			1	13	1	2		3	3	35						
23	6. 6～ 6.12	6	5	4	1			1	11				5	5	18						
24	6.13～ 6.19	10	2		1			2	5		1		10	2	41						
25	6.20～ 6.26	7	1	3	1			1	10		1		10		34						
26	6.27～ 7. 3	4		3	1		1	2	8		1		1	2	38						
27	7. 4～ 7.10	6	2	2	1				10	1		1	5	1	36				1	1	
28	7.11～ 7.17	4	3	2	3			1	5	1	1		5		28					1	
29	7.18～ 7.24	3		4				2	10		5		2	1	33	1					
30	7.25～ 7.31	3	2	1	3		1	1	10	1	2		7	1	41						
31	8. 1～ 8. 7	4	3	6	1			2	13	1	1		6	1	41						
32	8. 8～ 8.14		2	4	2				9	1	2		3		33						
33	8.15～ 8.21	8	1	8	1		1	1	11		1		5	1	39					1	
34	8.22～ 8.28	6	4	2	1			4	13				2	1	37			1	1		
35	8.29～ 9. 4	2	1	2	3			3	11	1			3	1	34		1	1		5	
36	9. 5～ 9.11	3	2	6	2			2	8		2		2		39						
37	9.12～ 9.18	4		9	1		2	1	11		2		2		40	1			1	4	
38	9.19～ 9.25	4		5	1	1			10		1		2		20					1	
39	9.26～10. 2	5	2	4				2	5	2			3	1	35	1			1	2	
40	10. 3～10. 9	7	2	5	1			1	14				4	3	41	1				2	
41	10.10～10.16	2	1	5	1			2	6		1	1	5	1	28					2	
42	10.17～10.23	8	3	2					11				5	1	33	2					
43	10.24～10.30	5	2	2					8		1		4	1	20				1		
44	10.31～11. 6	1	1	5			1	1	9		1		6	1	29						
45	11. 7～11.13	3	1	3					5			1	12	1	29				2		
46	11.14～11.20	2		5	1			1	5				6	2	42	2			1		
47	11.21～11.27	2	1	3		1		2	6		1		6	1	29						
48	11.28～12. 4	3		4	2		1	1	10				11	2	31						
49	12. 5～12.11	7	2	2	1				4				11	3	33	1					
50	12.12～12.18	7	1	1	1				10		2		9		31						
51	12.19～12.25	3		2					8	1	1		10		24						
52	12.26～ 1. 1	2	1	4				2	5	1			10	2	18	2					
合 計		222	69	190	85	2	16	65	464	17	46	5	356	56	1,673	20	4	2	19	22	1

表3-2(1) 一、二、三類感染症 保健所別患者報告数

2016 年第 1 週～2016 年第 52 週

	一 類							二 類						三 類					
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフル (H5N1)	鳥インフル (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
千代田									／							1	4		
中央区									／							2	6		
みなと									／							8	16	2	1
新宿区									／							5	11	3	4
文京									／							7	9	3	
台東									／								1		
墨田区									／							1	10	2	
江東区									／							1	4		
品川区									／							1	12	1	
目黒区									／								7		1
大田区									／						1	1	25		
世田谷									／							3	34	1	
渋谷区									／							1	7		
中野区									／							1	10		
杉並									／							3	10	2	
池袋									／								11		
北区									／								4		
荒川区									／								6		
板橋区									／								12		
練馬区									／								23		1
足立									／								14		
葛飾区									／								8		
江戸川									／						1		23	2	
八王子市									／								14		
町田市									／								9		
西多摩									／								55		
南多摩									／								12		
多摩立川									／							1	18	1	
多摩府中									／							3	38	1	
多摩小平									／							1	36		1
島しょ									／								3		
合 計									／						2	40	452	18	8

* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-2(2) 四類感染症 保健所別患者報告数

2016 年第 1 週～2016 年第 52 週

	四 類												
	E 型肝炎	A 型肝炎	オウム病	コクシジオイデス症	ジカウイルス感染症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	ブルセラ症	ボツリヌス症	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症
千代田	1	1											
中央区		5				1		2				2	
みなと		9			1			8			2	6	1
新宿区	4	9		1	2	3		39	1		12	8	1
文京	5	7	2					5				7	1
台東		1										1	
墨田区		1		1				4			2	3	
江東区		3										4	
品川区	4	4										3	
目黒区	1							3				5	
大田区	4	3						8		1	2	5	
世田谷								2				3	
渋谷区	3	3						4				2	
中野区	1											2	
杉並	2	2					1					2	
池袋								1					
北区		1										4	
荒川区												1	
板橋区	2	2						4				27	
練馬区		4										6	
足立	2	1										5	
葛飾区								3				7	
江戸川	1	1										4	
八王子市		1						1				4	
町田市												1	
西多摩	2						3					6	
南多摩	1											7	
多摩立川	1	3										4	
多摩府中	1	3						6				9	2
多摩小平	2	1										5	2
島しょ							3						
合 計	37	65	2	2	3	4	7	90	1	1	18	143	7

表3-2(3) 五類(全数把握)感染症 保健所別患者報告数

2016 年第 1 週～2016 年第 52 週

	五 類																	
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	麻しん
千代田	12		4					5				6	1	20	1			1
中央区	15	1	4	3			1	1				3		23	1			1
みなと	17	3	9	1			3	27	1	2		11		165	1	1	1	3
新宿区	33	26	22	4	1	2	5	145	6	2		24	11	623				3
文京	21	2	21	2		4	12	48	2	7	2	22	6	59	3			1
台東	6		2					5						135				
墨田区	6		1	2			2	10	2	1		10	1	39				3
江東区	5	2	11	1		1		1				3		28			1	
品川区	8	3	12				4	6		4		23	3	19				2
目黒区	2		4	5			2	8	1	1		15	2	8			1	
大田区	9	4	7	14			1	12	1	2		12	3	30			3	1
世田谷	12		2	15		1	1	6		3		19	1	30		1		1
渋谷区	7	7	8			1	2	82	1	1		12	3	31			1	
中野区	6	3	3					15		1	1	4	1	29			3	
杉並	4	2	2				3	7	2	1		6	4	13				
池袋	3	1		1				4		1		6		135				
北区	2		2	4			1	3				3		18				1
荒川区	1		2	6		2	2	1			1	3		17				
板橋区	12	3	28	3			5	13	1	2	1	40	9	32	3			1
練馬区	2	3	2	1			3	3		3		11		18	1		1	
足立	3		3	1			1	3		2		9		5	1		1	2
葛飾区	4	2	1				1	6				5	1	28			1	
江戸川	3	1		3			1	3				9		23				
八王子市	4		2	3		1		8		1		6	1	13		1	2	1
町田市								3				7		1				
西多摩	4		1			2	1	1				6	2	8				
南多摩	4		5		1		1	3		1		6	4	29	2		1	1
多摩立川	4		3	1			2	5		2		16	1	31	1		1	
多摩府中	9	6	19	10		2	4	25		4		47	2	46	3	1		2
多摩小平	3		10	5			7	5		5		12		17	3			
島しょ	1																	
合 計	222	69	190	85	2	16	65	464	17	46	5	356	56	1,673	20	4	2	19

表3-3(1) 一、二、三類感染症 年齢階級別患者報告数

2016 年第 1 週～2016 年第 52 週

	一 類							二 類							三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 *	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	中東呼吸器症候群	鳥インフルエンザ (H5N1)	鳥インフルエンザ (H7N9)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
0歳																	1		
1～4歳																1	25	2	
5～9歳																	38		
10～14歳																1	20		
15～19歳																	30		2
20～24歳																4	64	5	1
25～29歳																5	35	4	2
30～34歳															1	8	33	1	1
35～39歳																8	27	2	1
40～44歳																5	23	1	1
45～49歳																1	19		
50～54歳																4	12	1	
55～59歳																1	13	1	
60～64歳																1	9	1	
65～69歳															1	1	11		
70歳以上																	92		
合 計															2	40	452	18	8

* 結核については、別途「東京都における結核の概況」として報告する。

表3-3(2) 四類感染症 年齢階級別患者報告数

2016 年第 1 週～2016 年第 52 週

	四 類												
	E 型肝炎	A 型肝炎	オウム病	コクシジオイデス症	ジカウイルス感染症	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	ブルセラ症	ボツリヌス症	マラリア	レジオネラ症	レプトスピラ症
0歳										1			
1～4歳		1						1					
5～9歳											1		
10～14歳								1					2
15～19歳		2						8			1		
20～24歳		2				1	1	14			2		
25～29歳		5	1			1		15			4		
30～34歳	3	7						18			3		
35～39歳	2	8			1			10			2		2
40～44歳	2	7		1	1			12			2	5	
45～49歳	5	5			1	2	1	2				4	
50～54歳	5	7						3			1	5	2
55～59歳	5	5						3			1	15	1
60～64歳	4	5	1					2			1	21	
65～69歳	5	7		1			1		1			24	
70歳以上	6	4					4	1				69	
合 計	37	65	2	2	3	4	7	90	1	1	18	143	7

表3-3(3) 五類(全数把握)感染症 年齢階級別患者報告数

2016 年第 1 週～2016 年第 52 週

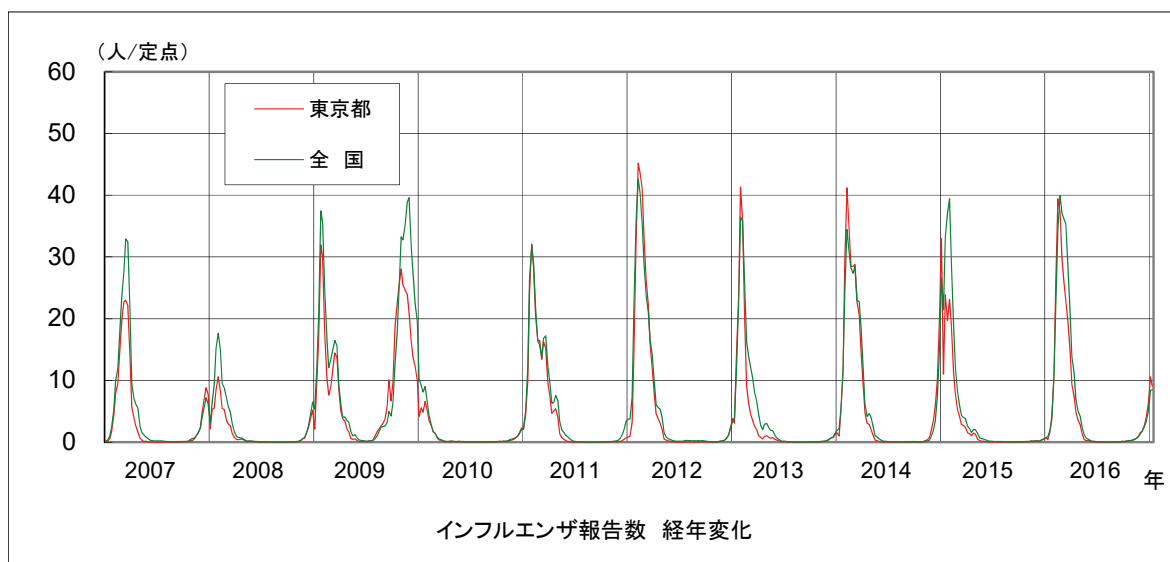
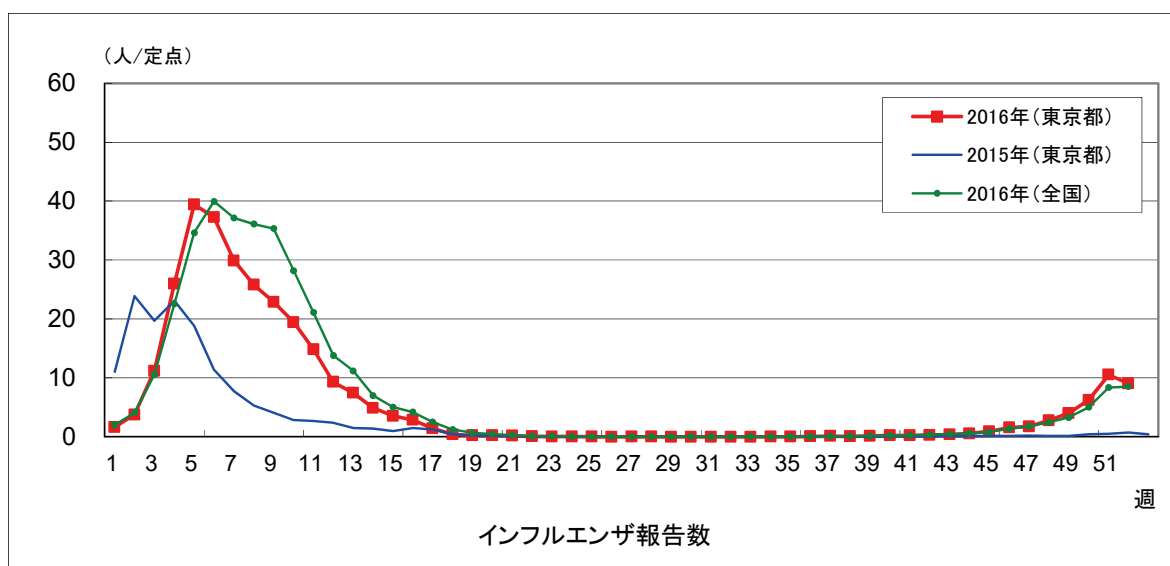
	五 類																	
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎（A型・E型を除く）	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん
0歳			4	5			2				1	7	2	2				1
1～4歳	1		1	38						4		45	5					3
5～9歳			1	21						2		9	4					1
10～14歳			2	4			1					4						
15～19歳				1			1	7					5	35				1
20～24歳	6	12	5		1		1	48	3	1			4	251				4
25～29歳	11	15	5		1			76	2	1	2	1	8	271				2
30～34歳	6	12		1			2	79	1	1		6	5	201		1		2
35～39歳	20	8	2	2			1	70	2	3		6	6	225				2
40～44歳	32	8	3	1			4	74	3	1		13	3	247	1			2
45～49歳	39	8	6				5	49	4	1	1	13	4	174	1			2
50～54歳	34	2	7	3		1	7	32	2			6	1	113	1			1
55～59歳	29	2	10	1			6	11				23	1	65	1		1	
60～64歳	18	1	18	1		4	4	9			1	23	1	29	1			1
65～69歳	12	1	24			3	8	7		7		56	2	24	1	1		
70歳以上	14		102	7		8	23	2		25		144	5	36	14	2	1	1
合 計	222	69	190	85	2	16	65	464	17	46	5	356	56	1,673	20	4	2	19
																		22
																		1

（２） 小児科・内科疾患

ア インフルエンザ

2016 年の報告数は 125,207 人、定点当たり 302.31 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 237.08 人であり 2016 年は例年に比べてやや多い報告数であった。2015/16 シーズンの流行は 2015 年最終週の 53 週（12.28～1.3）に定点当たりの報告数は 0.43 人であったが、2016 年の 1 週（1.4～1.10）に定点当たりの報告数が 1.66 人と 1.00 人を超え流行期に入り 3 週（1.18～1.24）には定点当たり 11.19 人と 10.00 人を超え、5 週（2.1～2.7）には 39.43 人と 30.00 人を超えてピークに達した。その後 7 週（2.15～2.21）には 29.91 人と 30.00 人を割り込み、12 週（3.21～3.27）に 9.30 人と 10.00 人以下となり、18 週（5.2～5.8）に 0.43 人と 1.00 人以下となって流行は終息した。2016/17 シーズンは 2016 年 46 週（11.14～11.20）に 1.57 人と 1.00 人を超え、その後報告数は増加して 51 週（12.19～12.25）には 10.56 人と 10.00 人をこえた。しかし 2016 年最終の 52 週（12.26～1.1）は 9.06 人となった。その後 2017 年 4 週（1.23～1.29）に 38.73 人とピークに達した。

2016 年の保健所別定点当たりの報告数では最多が八王子市の 442.50 人、最小が品川区の 175.58 人であった。年齢階級別報告数では 1 歳未満 1,552 人（1.2%）、1 歳～10 歳未満 63,843 人（51.0%）、10 歳～20 歳未満 24,277 人（19.4%）、20 歳～60 歳未満 30,953 人（24.7%）、60 歳以上 4,582 人（3.7%）であった。



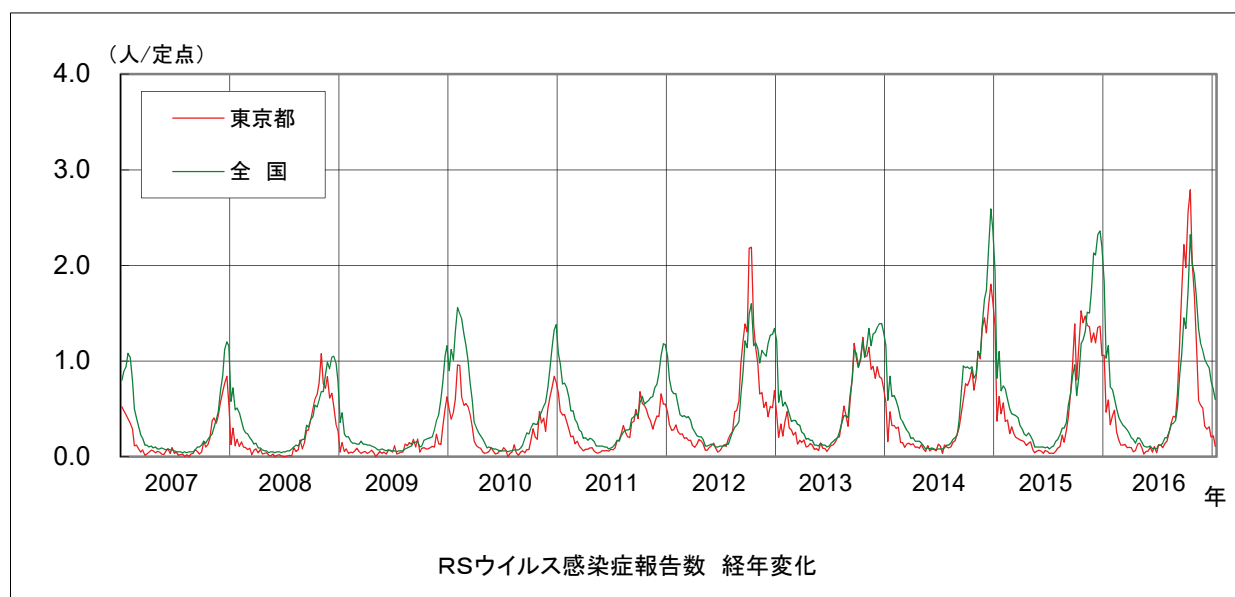
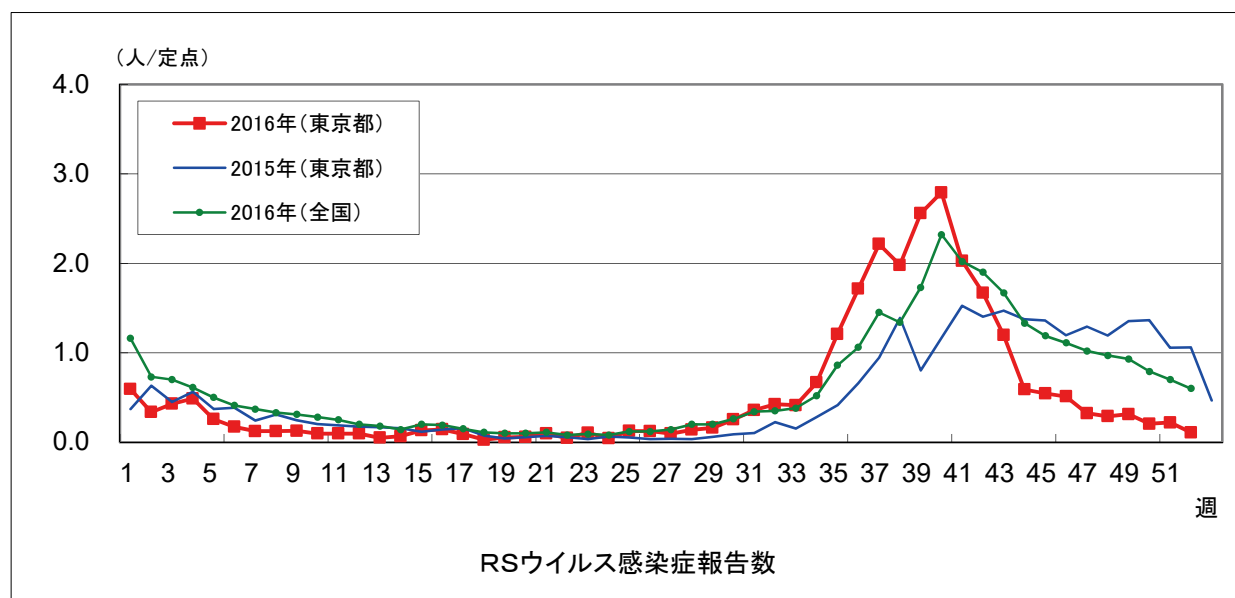
イ RS ウイルス感染症

2016 年の報告数は 7,021 人、定点当たりの報告数は 27.06 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 18.20 人であり、2016 年はここ 10 年では 2015 年の 27.82 人に次いで 2 番目に多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数では 34 週（8.22～8.28）から 46 週（11.14～11.20）にかけて 0.50 人を超える山があり、ピークは 40 週（10.3～10.9）の 2.79 人であった。

保健所別定点当たりの報告数の最も多かったのは前年と同じく荒川区の 89.00 人であった。

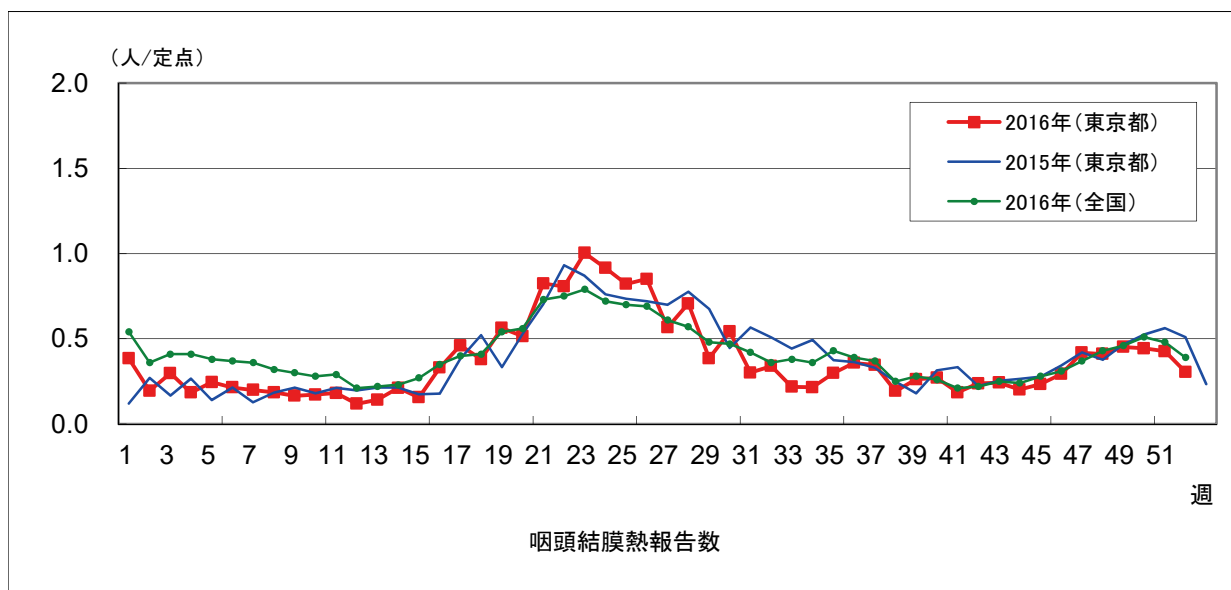
年齢階級別報告数では 6 か月未満が 901 人（12.8%）、6 か月～1 歳未満が 1,660 人（23.6%）、1 歳代が 2,803 人（39.9%）、2 歳代が 996 人（14.2%）と 2 歳代以下で 90.6%を占めている。



ウ 咽頭結膜熱

2016 年の報告数は 5,026 人、定点当たりの報告数は 19.38 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 18.70 人であり、2016 年は例年並みの報告数であった。

週別定点当たりの報告数では 19 週（5.9～5.15）から 30 週（7.25～7.31）にかけておおむね 0.50 人を超える山がありピークは 23 週（6.6～6.12）の 1.00 人であった。保健所別定点当たりの報告数では、みなと 46.90 人、台東 43.50 人、多摩小平 42.47 人が多かった。年齢階級別報告数では 1 歳代が 1,419 人（28.2%）と最も多く、5 歳代以下で 82.7%を占めている。

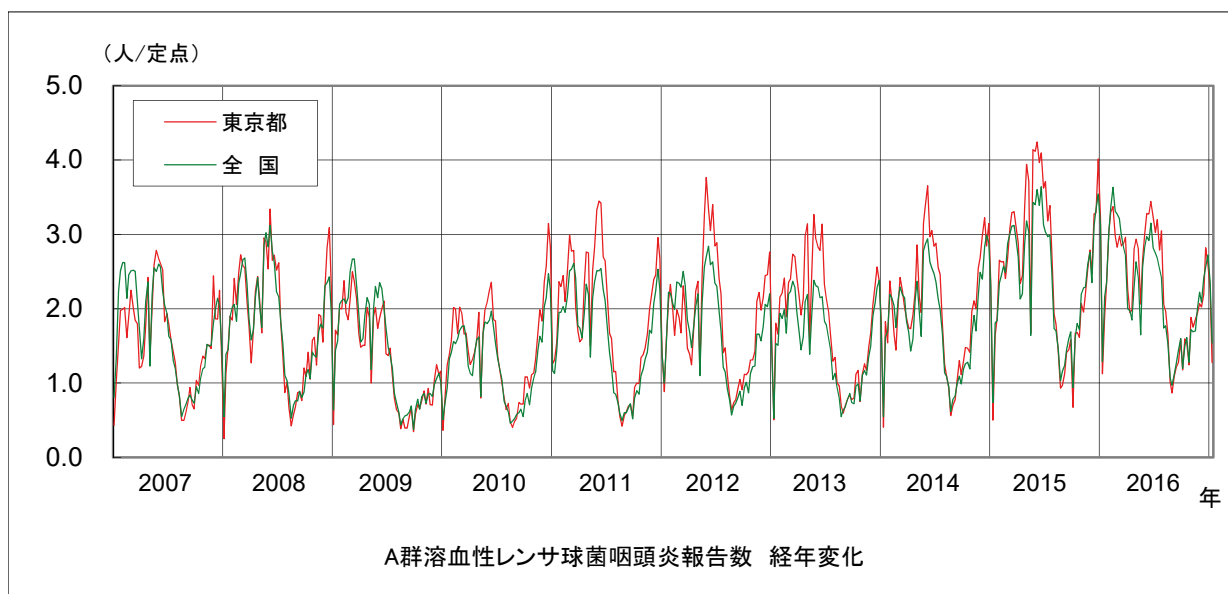
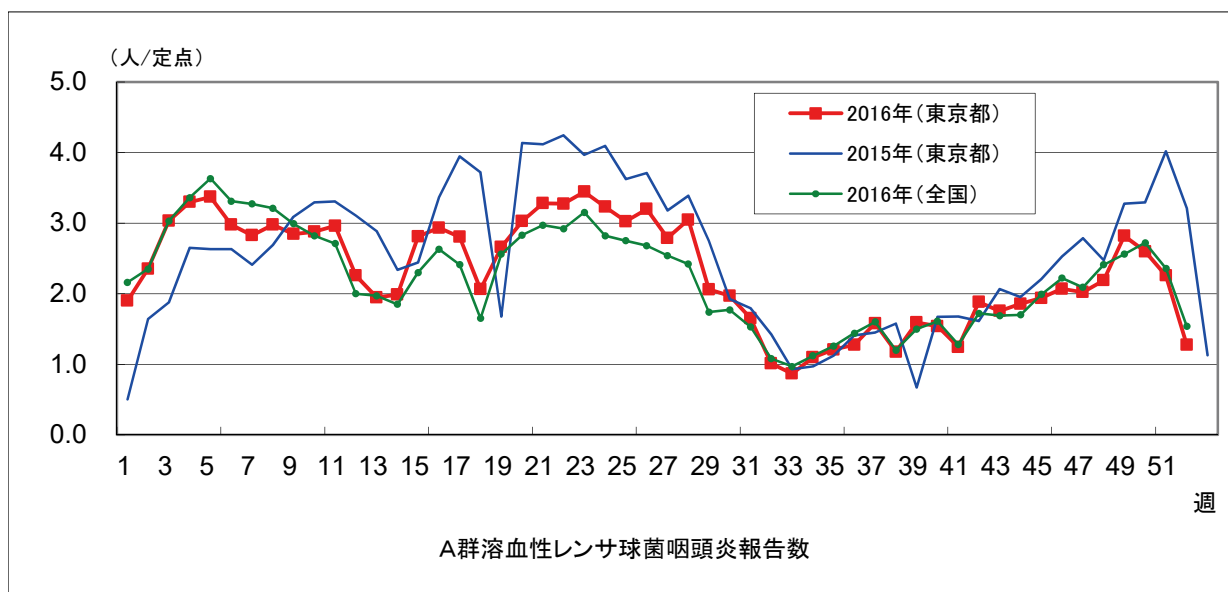


エ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2016 年の報告数は 31,211 人、定点当たりの報告数は 120.13 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 96.90 人であり、2016 年は 2015 年の 134.57 人に次いで 2 番目に多かった。

週別定点当たりの報告数では 3 週（1.18～1.24）～11 週（3.14～3.20）、15 週（4.11～4.17）～28 週（7.11～7.17）、49 週（12.5～12.11）～50 週（12.12～12.18）にかけておおむね 2.50 人を超える山があり、ピークは 23 週（6.6～6.12）の 3.44 人であった。

保健所別定点当たりの報告数では多摩小平が 221.40 人で最多であった。年齢階級別報告数では 4 歳代が 3,982 人（12.8%）、と最も多く 4 歳代から 7 歳代で 48.4%を占めている。

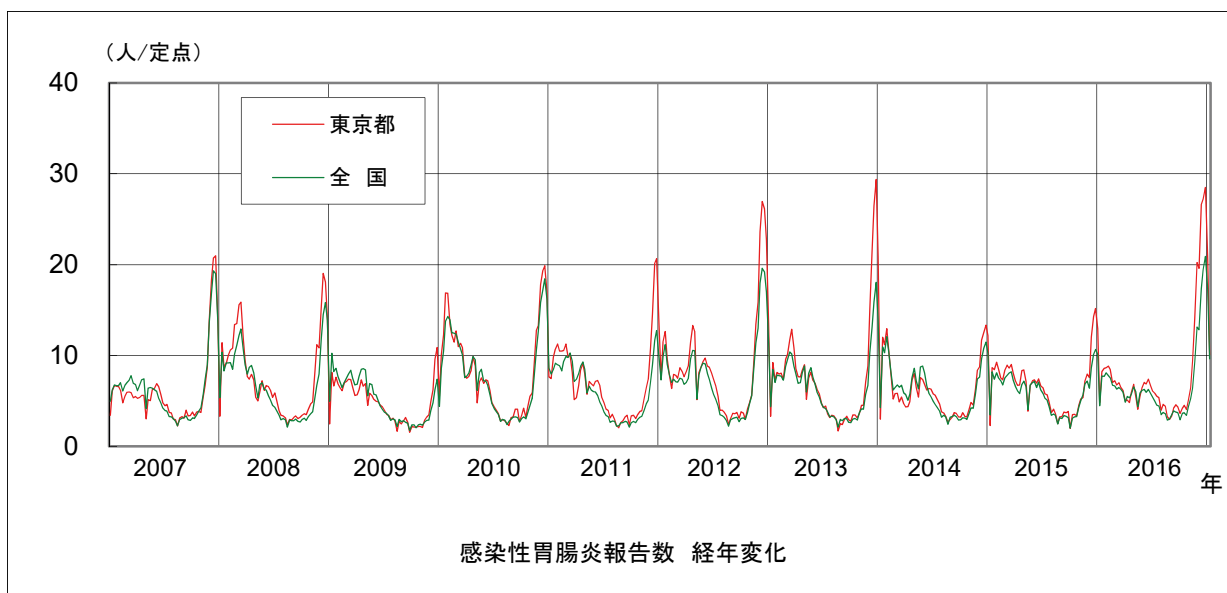
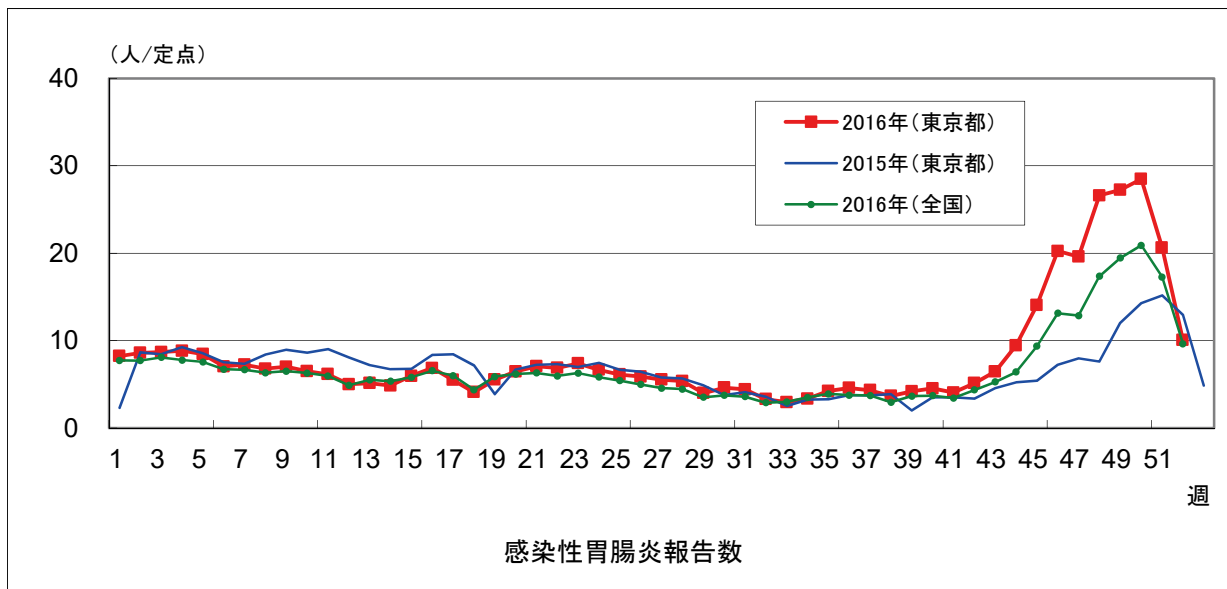


オ 感染性胃腸炎

2016 年の報告数は 110,239 人、定点当たりの報告数は 423.72 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 371.16 人であり、2016 年は例年に比べやや多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数では 45 週（11.7～11.13）～52 週（12.26～1.1）にかけて 10.00 人を超える山がありピークは 50 週（12.12～12.18）の 28.49 人である。

保健所別定点当たりの報告数では中野区 729.67 人、江東区 717.89 人が多かった。年齢階級別報告数では 1 歳代が 13,454 人（12.2%）と最も多い。

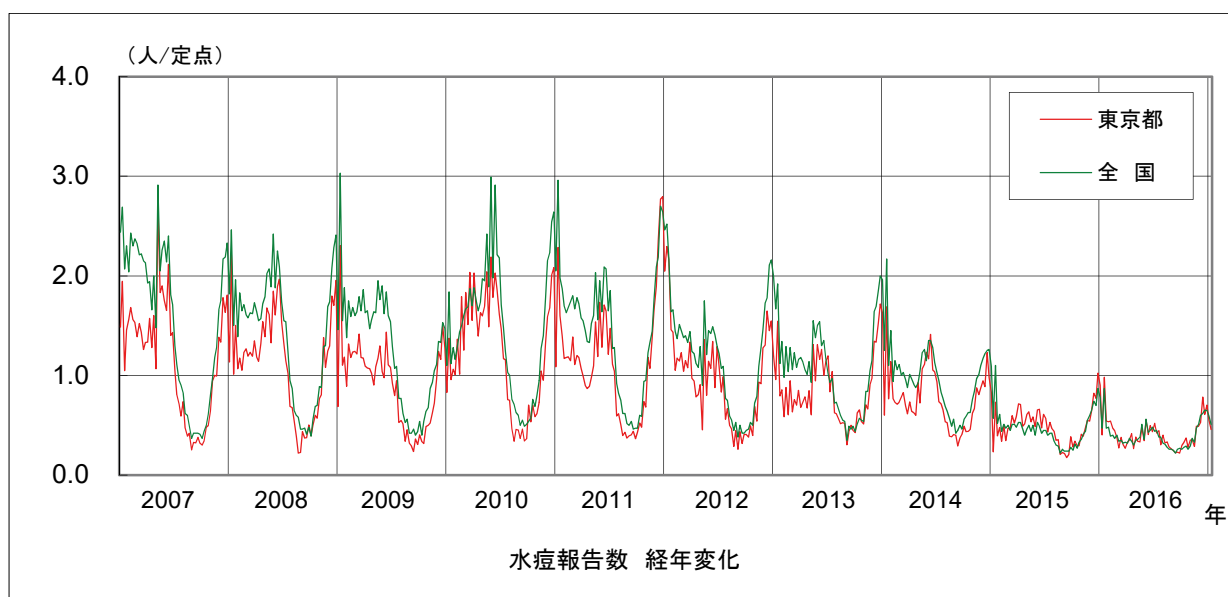
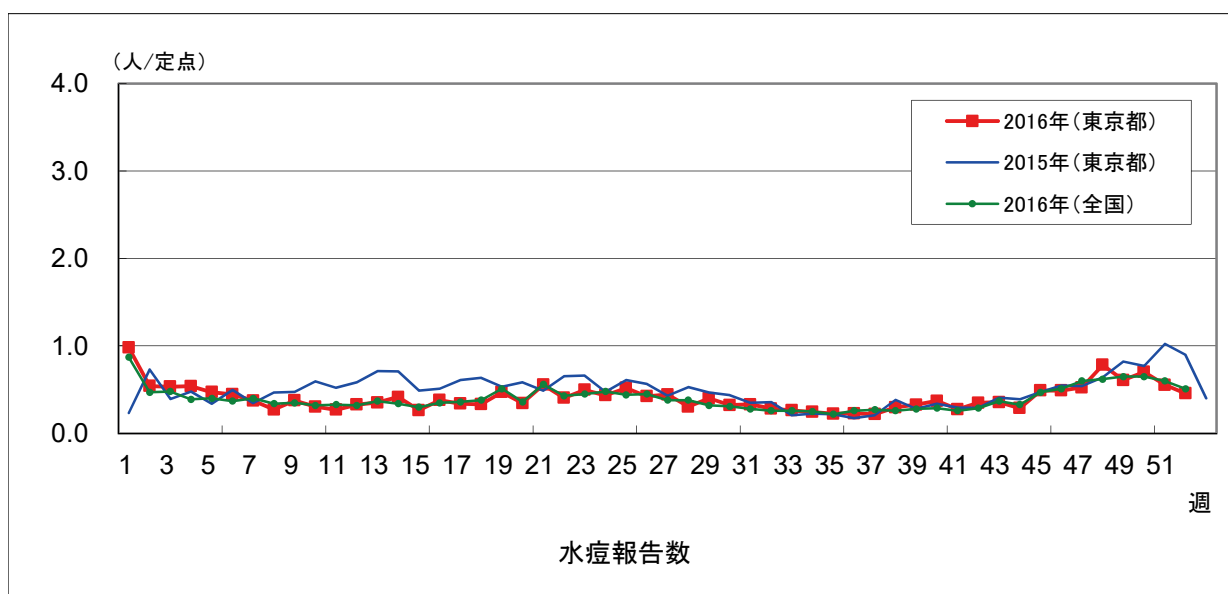


カ 水痘

2016 年の報告数は 5,541 人であり、定点当たりの報告数は 21.34 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 47.25 人であり、ここ 10 年で最も少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では 1 週 (1.4～1.10) ～4 週 (1.25～1.31)、21 週 (5.23～5.29) ～25 週 (6.20～6.26)、47 週 (11.21～11.27) ～51 週 (12.19～12.25) にかけておおむね 0.50 人を超える小さな山があるが季節変動は少ない。ピークは 1 週 (1.4～1.10) の 0.98 人であった

保健所別定点当たりの報告数では八王子市 35.09 人、中野区 32.33 人が多かった。年齢階級別報告数では 5 歳代が 842 人 (15.2%) と最も多く 4 歳代から 7 歳代で 52.2% を占めている。なお前年と比較すると平均罹患年齢が 1 歳程度高くなっている。

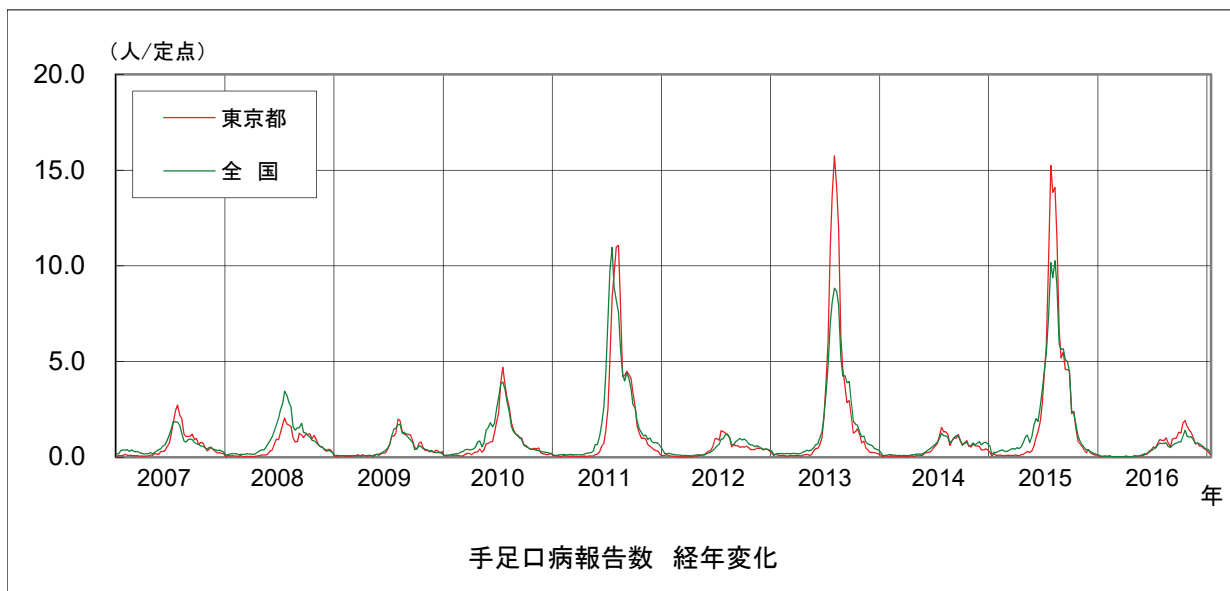
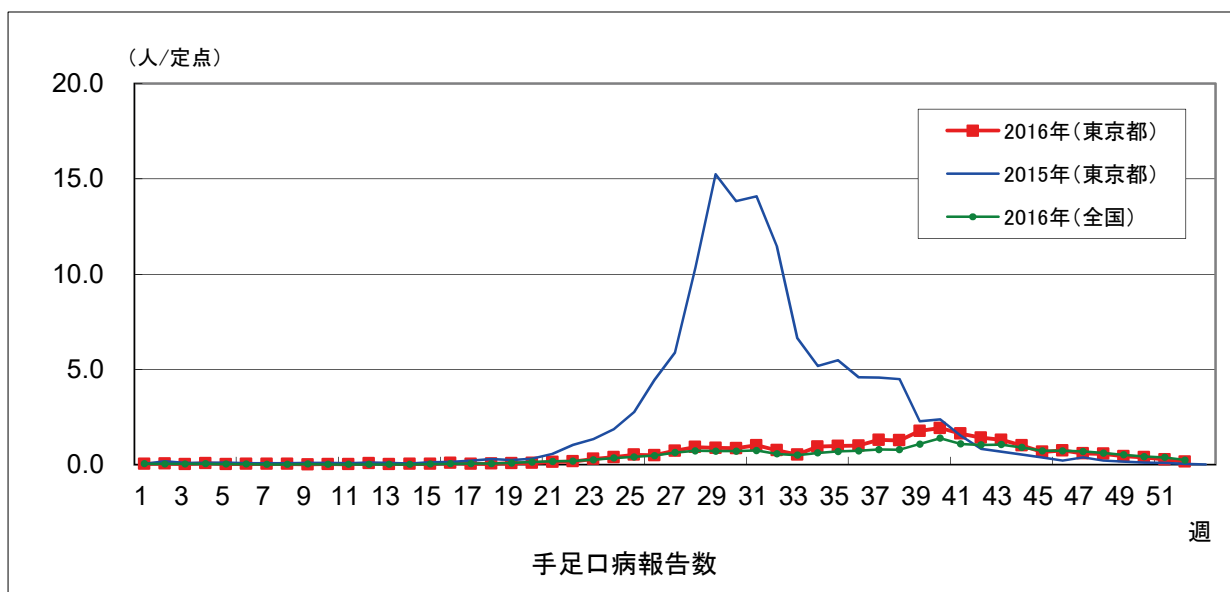


キ 手足口病

2016 年の報告数は 6,993 人、定点当たりの報告数は 26.97 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 53.45 人であり、前年の 2015 年が 126.39 人とここ 10 年で最多であったのに比べ大幅に減少している。

週別定点当たりの報告数では 31 週（8.1～8.7）から 44 週（10.31～11.6）にかけておおむね 1.00 人を超える緩やかな山がありピークは 40 週（10.3～10.9）の 1.92 人であった

保健所別定点当たりの報告数では台東が 101.75 人と最多であった。年齢階級別報告数では 1 歳代が 2,751 人（39.3%）と最多となっており前年と変わらない。

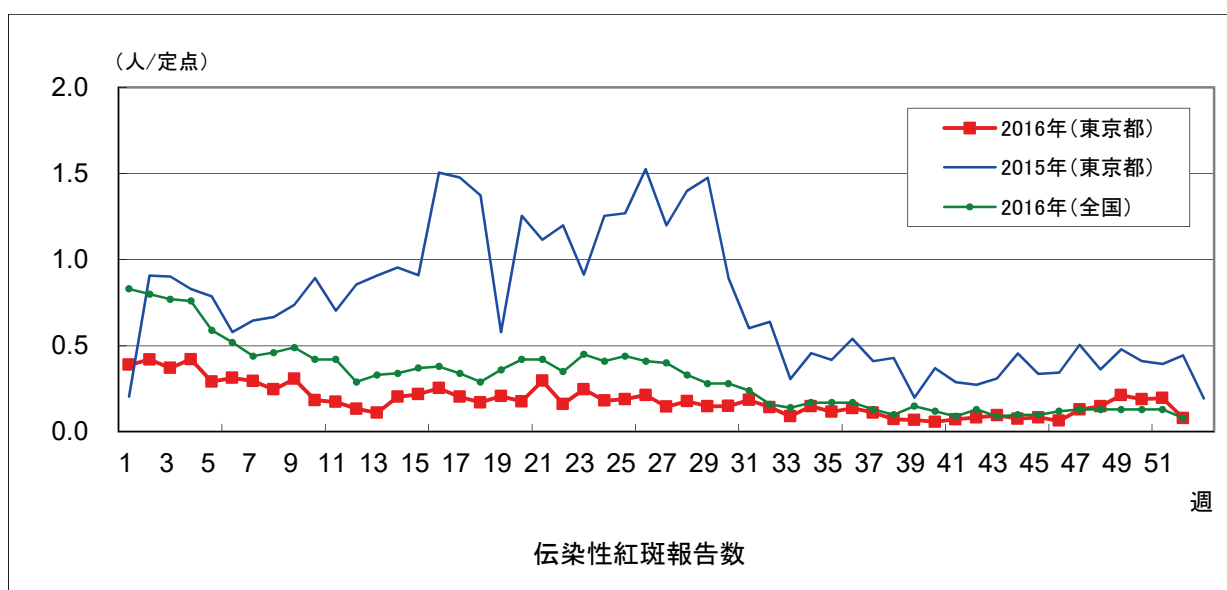


ク 伝染性紅斑

2016 年の報告数は 2,485 人、定点当たりの報告数 9.57 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 16.27 人であり、前年の 2015 年が 39.08 人とここ 10 年で最多であったのに比べ大幅に減少している。

週別定点当たりの報告数では前年の大きな流行の名残で 1 週（1.4～1.10）から 9 週（2.29～3.6）にかけておおむね 0.30 人を超える山がありピークは 2 週（1.11～1.17）と 4 週（1.25～1.31）の 0.42 人であったが年末にかけて報告数の減少がみられた。

保健所別定点当たりの報告数では中野区 20.50 人、葛飾区 20.43 人が多かった。年齢階級別報告数では 5 歳代が 418 人（16.8%）で最も多く、3 歳代から 6 歳代で 57.1%を占めている。

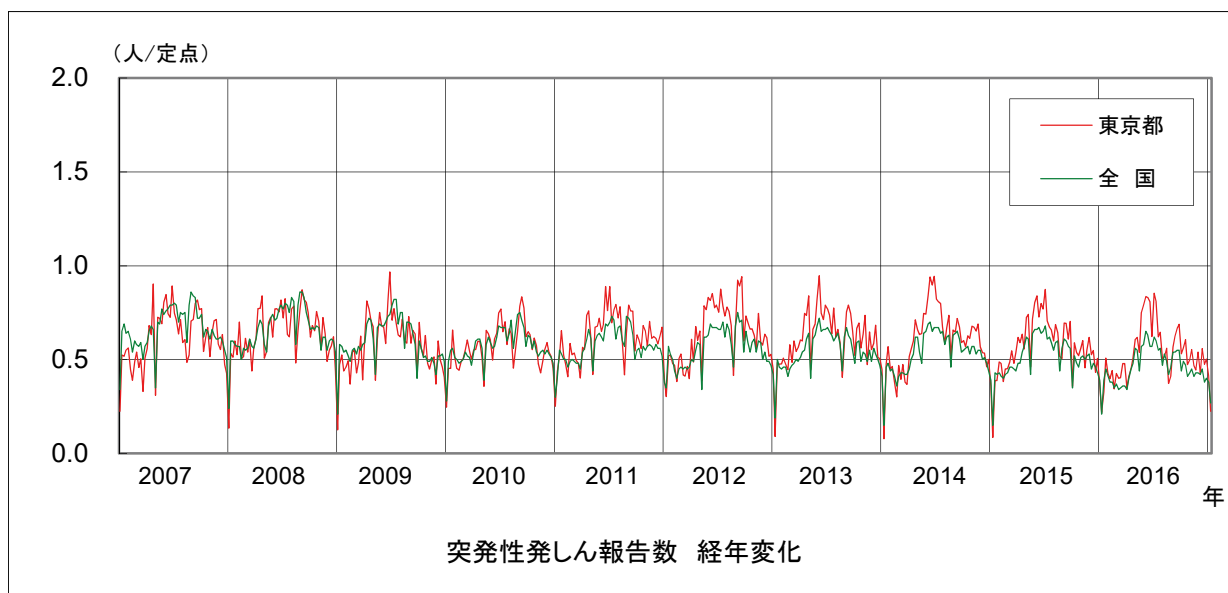
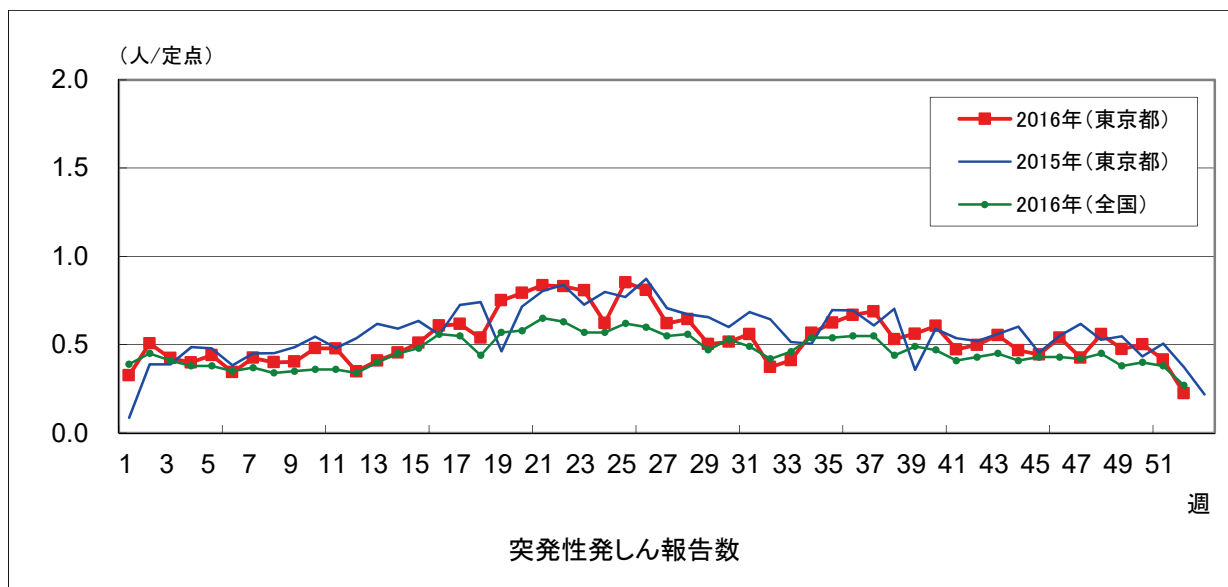


ケ 突発性発しん

2016年の報告数は7,231人、定点当たりの報告数は27.87人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は31.19人であり各年の変動幅は非常に小さいが、ここ10年で最も少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では21週（5.23～5.29）から26週（6.27～7.3）にかけておおむね0.80人を超えるなだらかな山がありピークは25週（6.20～6.26）の0.85人であった。

保健所別定点当たりの報告数では中野区が47.00人、台東45.00人と多かった。年齢階級別報告数では1歳代が3,737人（51.7%）、6か月～1歳未満が2,341人（32.4%）と両方で84.1%を占めている。

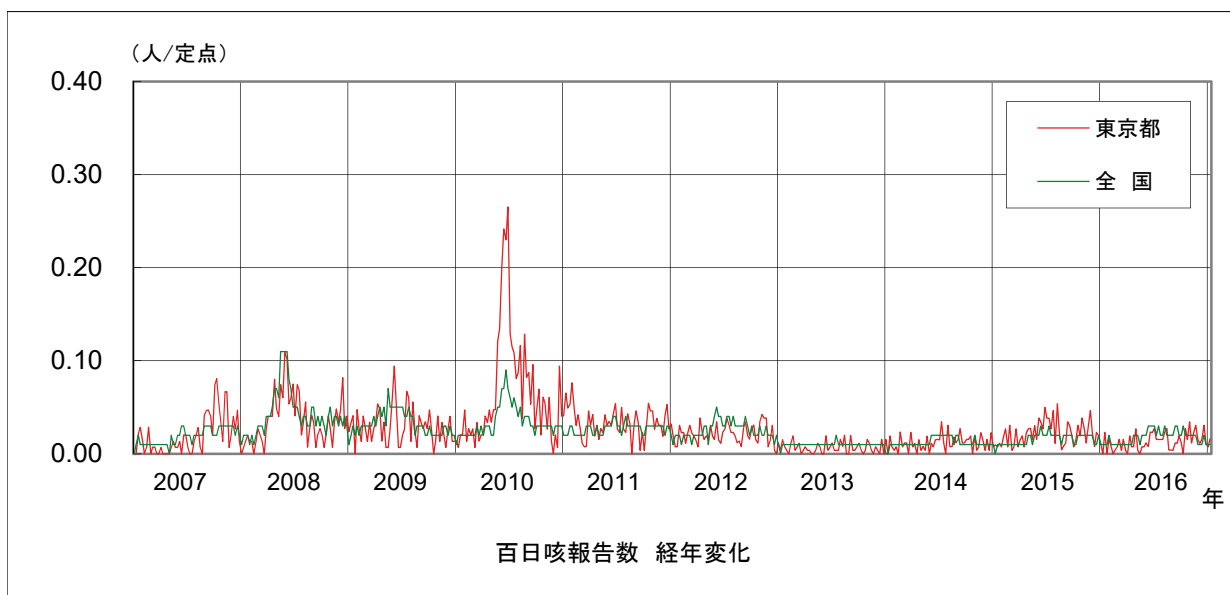
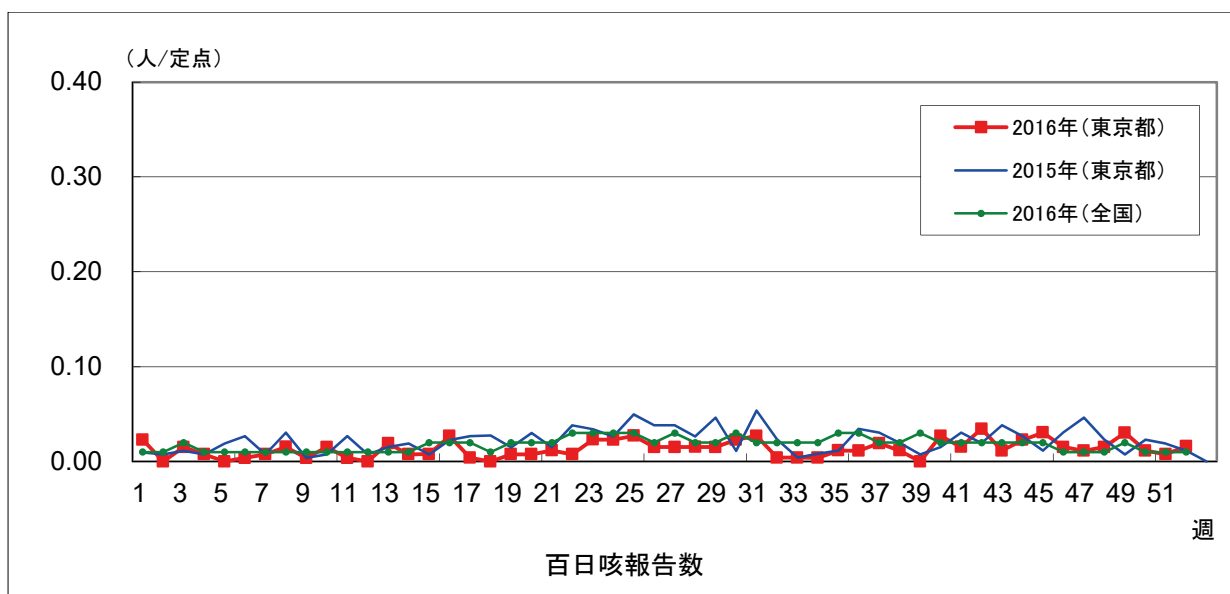


コ 百日咳

2016 年の報告数は 181 人、定点当たりの報告数は 0.70 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 1.35 人であり、2010 年の流行以降少ない報告数が続いている。

週別定点当たりの報告数では前年と同様季節変動は明らかではない。

保健所別定点当たりの報告数では荒川区が 2.75 人と最多であった。年齢階級別報告数では 10 歳未満が 73 人、10 歳代が 40 人、20 歳以上が 68 人報告されている。

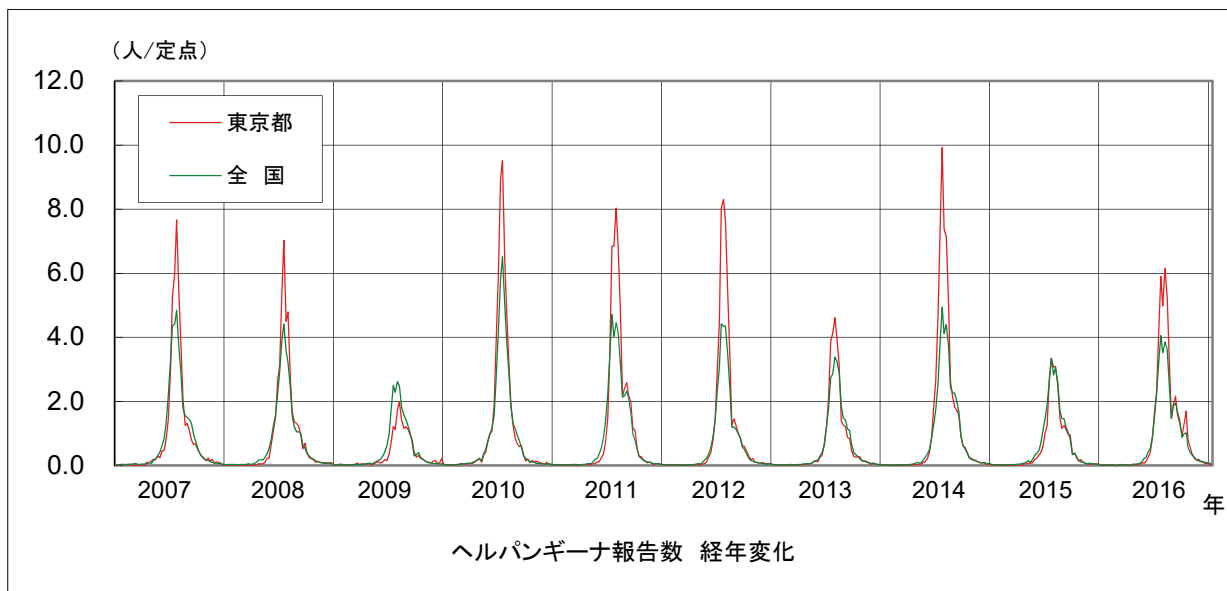
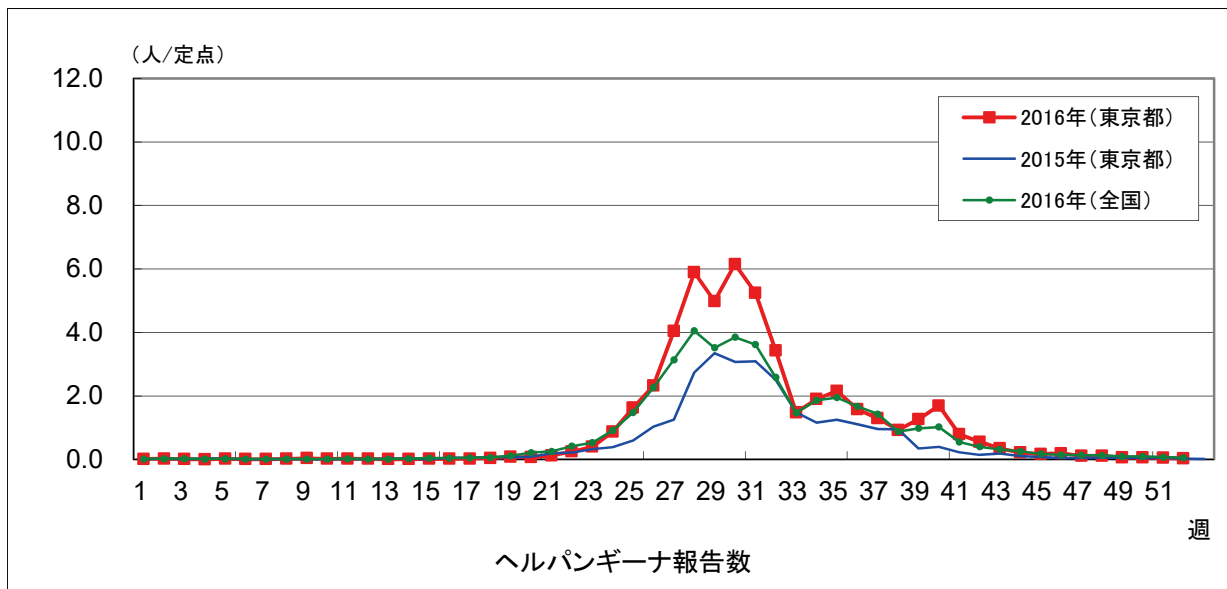


サ ヘルパンギーナ

2016 年の報告数は 13,094 人、定点当たりの報告数は 50.69 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 44.58 人であり、2016 年は平均的な報告数であった。

週別定点当たりの報告数では 27 週（7.4～7.10）から 32 週（8.8～8.14）にかけて 3.00 人を超える山がありピークは 30 週（7.25～7.31）の 6.15 人であった。

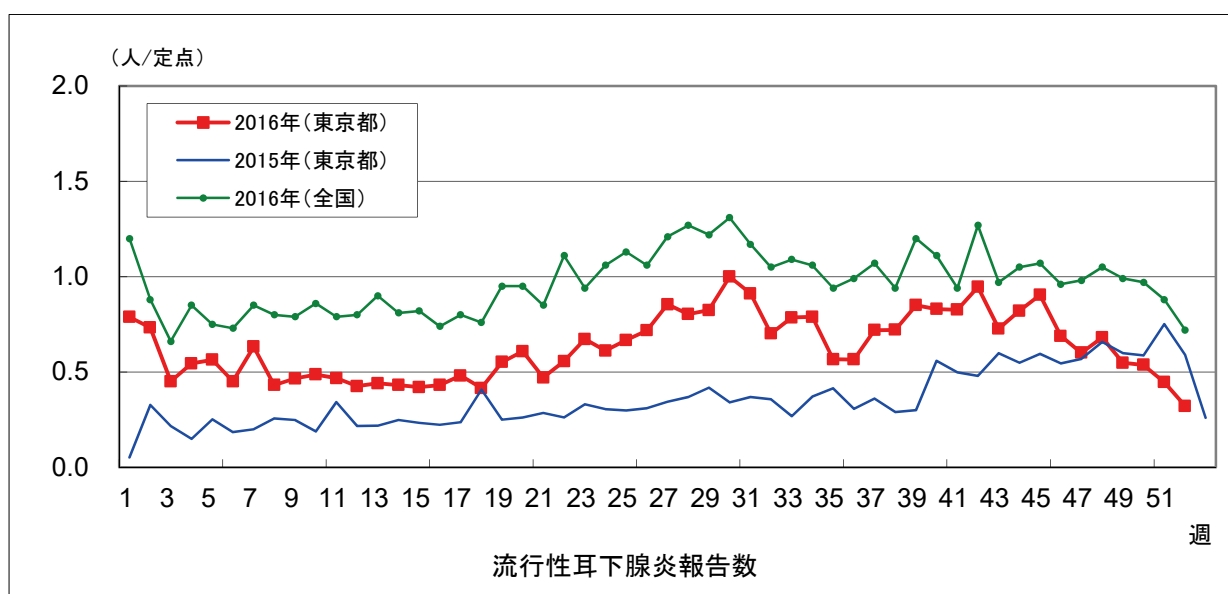
保健所別定点当たりの報告数では台東 107.50 人、中央区 104.17 人が多かった。年齢階級別報告数では 1 歳代が 4,016 人（30.7%）と最も多く 5 歳代以下で 91.2%を占めている。



シ 流行性耳下腺炎

2016年の報告数は8,526人、定点当たりの報告数は32.88人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は21.02人であり、2016年は2009年、2010年に次いで3番目に多い報告数であった。経年変化を見ると2010年に大きな流行の山があり2013年に流行の底となり、その後再び増加に転じている。

週別定点当たりの報告数では27週(7.4～7.10)から31週(8.1～8.7)にかけてと39週(9.26～10.2)から42週(10.17～10.23)にかけて0.80人を超える山がありピークは30週(7.25～7.31)の1.00人であった。保健所別定点当たりの報告数では八王子市が94.40人と最多であった。年齢階級別報告数では5歳代が1,210人(14.2%)と最も多いのは前年と変わりはない。6歳代以下で51.5%を占めている。

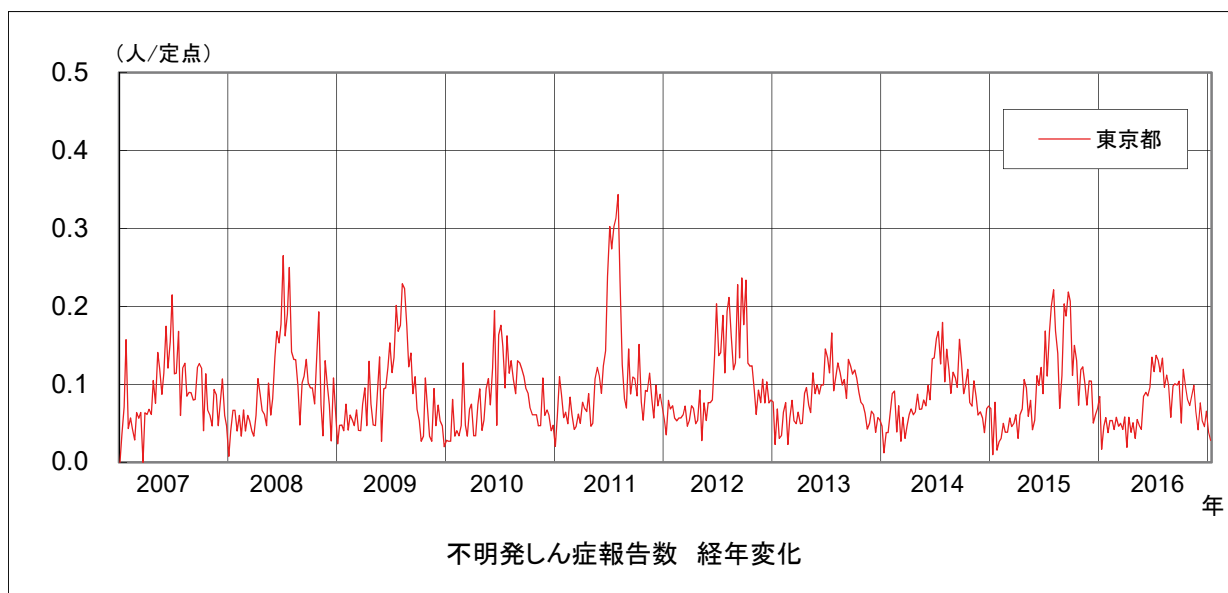
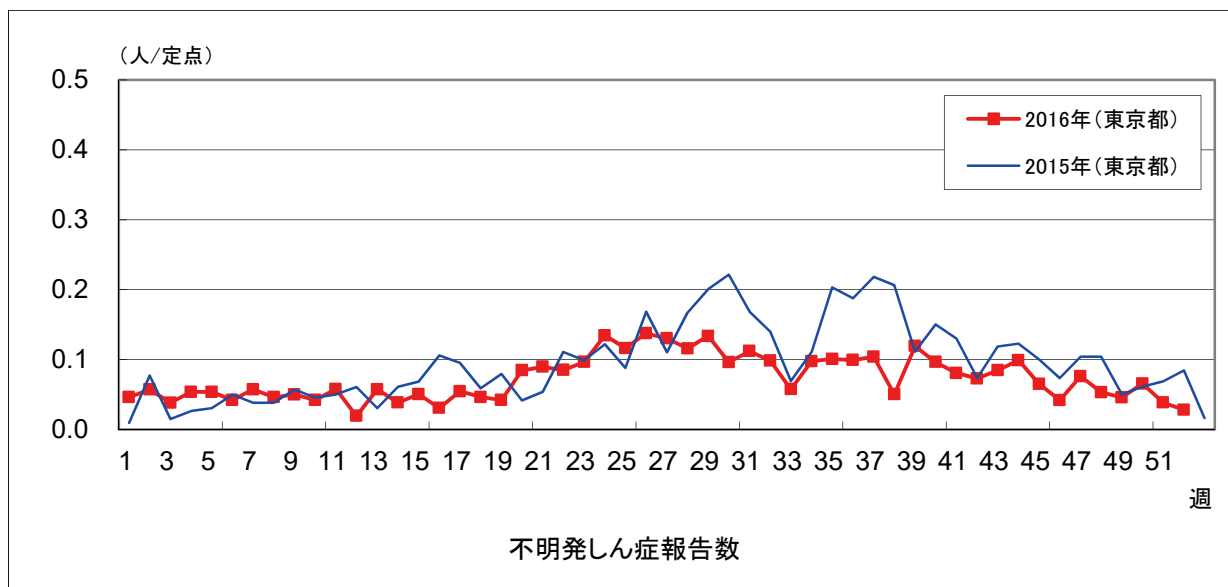


ス 不明発しん症

2016 年の報告数は 983 人、定点当たりの報告数 3.79 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 4.69 人であり、2016 年はここ 10 年では最も少ない報告数であった。

週別定点当たりの報告数では季節変動は明確ではないが 23 週（6.6～6.12）から 44 週（10.31～11.6）にかけておおむね 0.10 人を超える緩やかな山がありピークは 26 週（6.27～7.3）の 0.14 人であった。

保健所別定点当たりの報告数では町田市が 12.63 人と最多であった。年齢階級別報告数では 1 歳代が 314 人（31.9%）と最も多く、4 歳代以下で 79.3%を占めている。

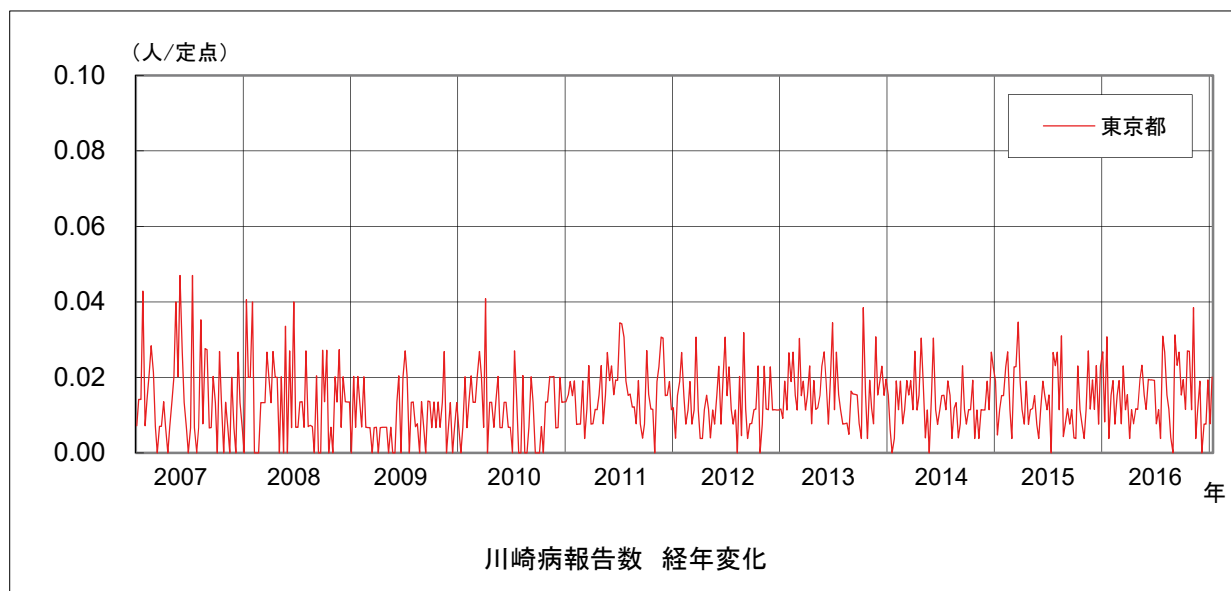
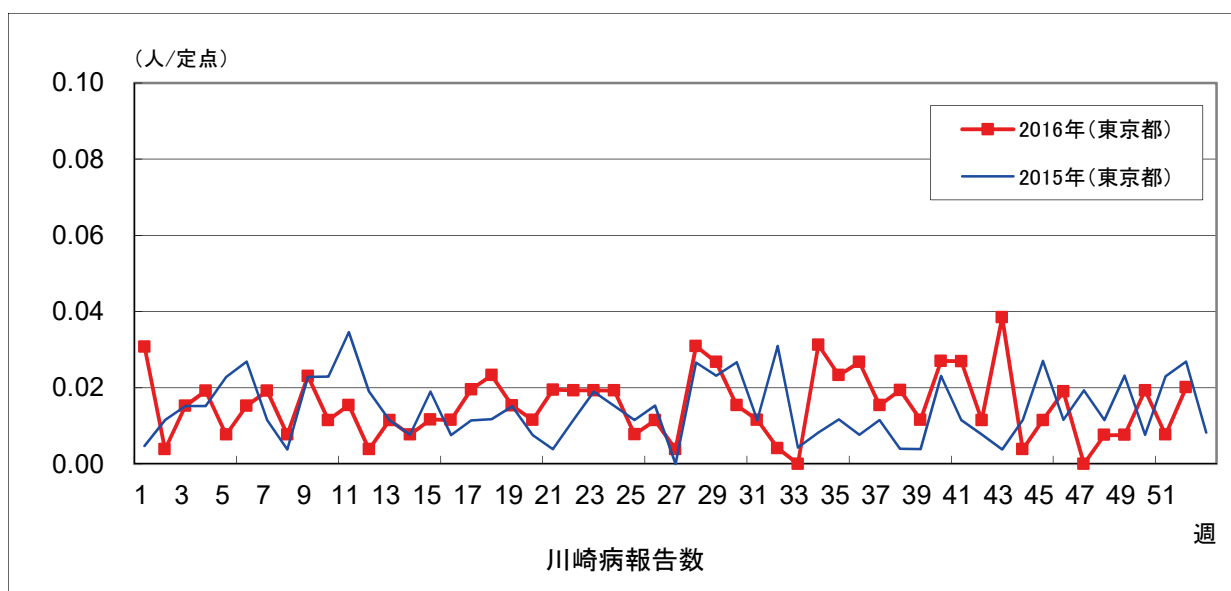


セ 川崎病

2016 年の報告数は 208 人、定点当たりの報告数 0.80 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 0.72 人であり、2016 年は 2013 年、2011 年に次いで 3 番目に多い報告数であった。

週別定点当たりの報告数では例数は少ないが季節に偏りなく通年で報告されている。

保健所別定点当たりの報告数では前年と同じく新宿区が 4.25 人と最多であった。年齢階級別報告数では 1 歳代が 65 人 (31.3%) と最も多いのは前年と変わりはなく、4 歳代以下で 89.9%を占めている。



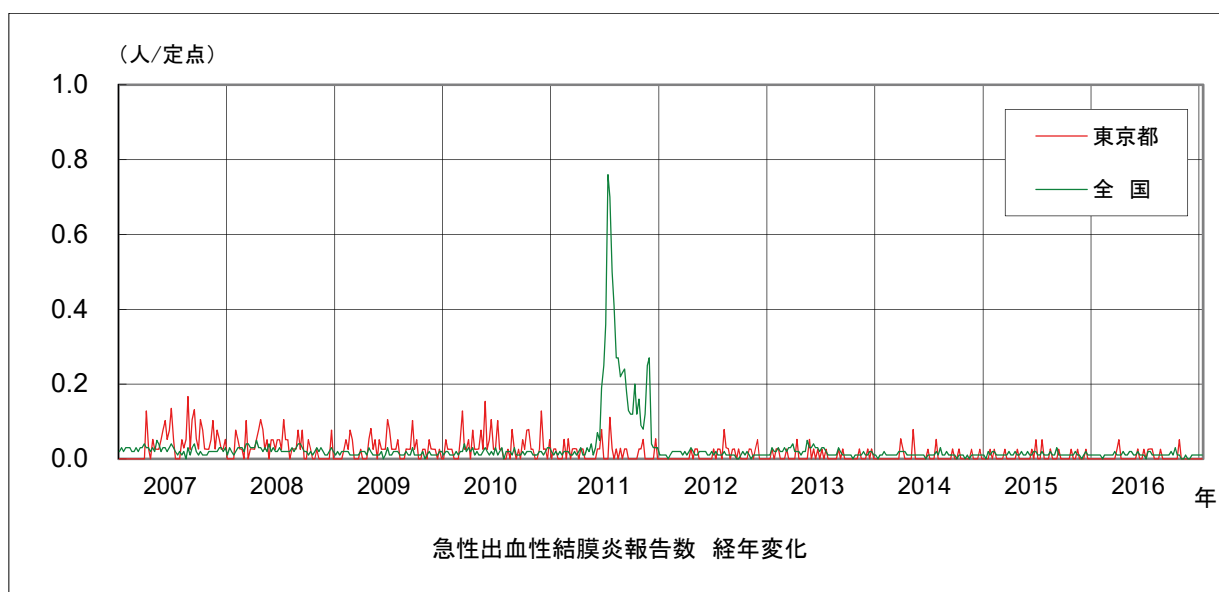
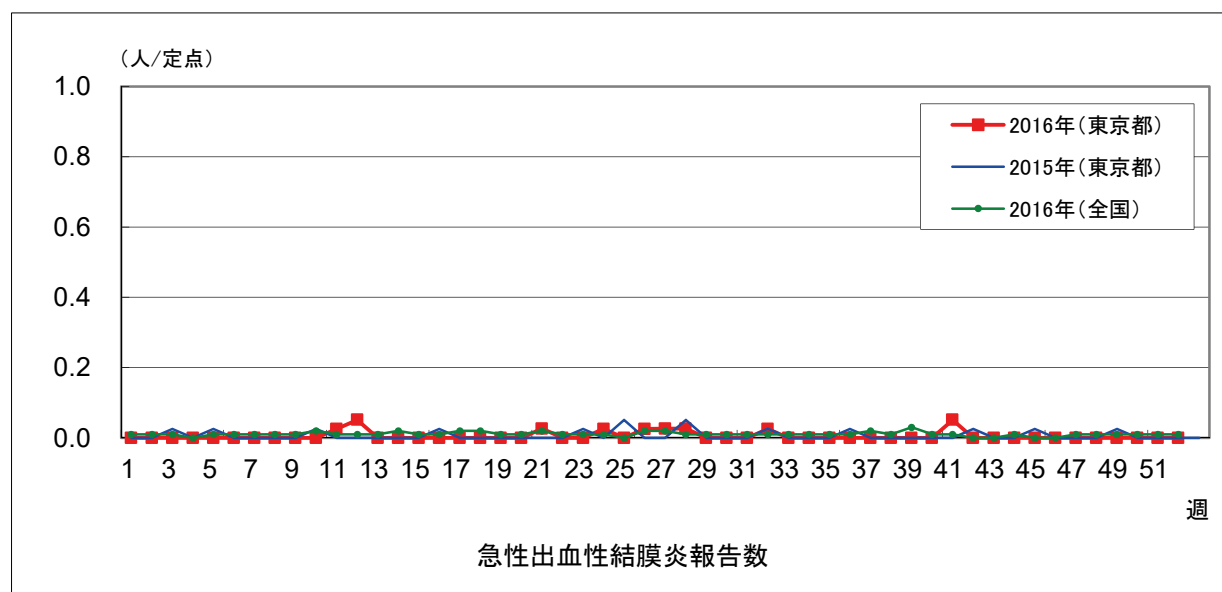
(3) 眼科疾患

ア 急性出血性結膜炎

2016年の報告数は11人、定点当たり0.28人であった。眼科定点数が増加した2007年以降では最少だった2014年(0.34人)より少ない報告だった。

患者発生数の推移には1年を通じてあまり特徴がなく、12週(3.21～3.27)と41週(10.10～10.16)に2人発生した以外は各週1人以下で、年間43週は発生がなかった。全国的にも低いレベルで分散した発生が続いており、東京も同様だった。

二次医療圏別では眼科定点のある12医療圏のうち、報告のあったのは6医療圏で区西部圏、北多摩南部圏、区西北部圏が多かった。報告年齢は分散していたが、20歳以上の成人が8人と全体の72.7%を占めた。幼少児では2歳児、6歳児に各1人(9.1%)みられた。

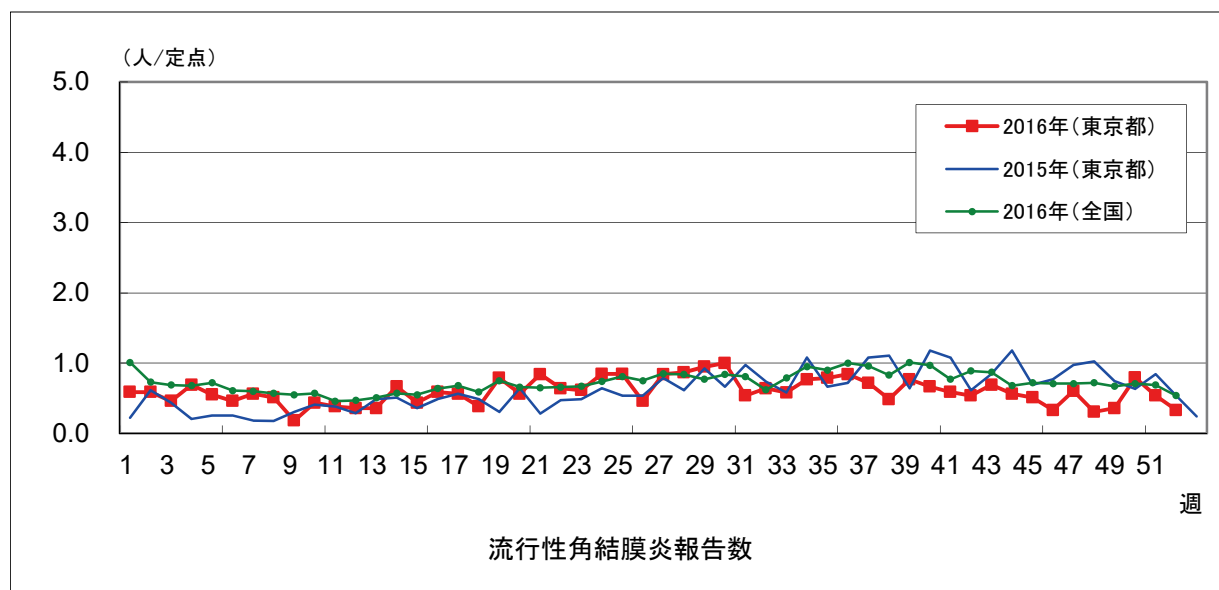


イ 流行性角結膜炎

2016 年の報告数は 1,201 人、定点当たり 31.03 人であった。過去 10 年間では 2007 年（定点当たり 32.04 人）、2012 年（30.01 人）、2015 年（32.49 人）と同じ位多い報告数だった。

患者発生数は第 9 週（2.29～3.6）のみ定点当たり 0.18 人と少なく、その他は 0.31 人～1.00 人とほぼ平坦化していた。全国と比較しても同様であった。

二次医療圏別では、定点当たり報告数では区東北部圏 60.25 人、区中央部圏 55.50 人、区西北部圏 45.47 人で多かった。報告年齢は 20 歳から 49 歳が 638 人と 53.1%を占め、20 歳以上の成人が 840 人（69.9%）であった。10 歳未満は 290 人（24.1%）で、各年齢層に分散していた。

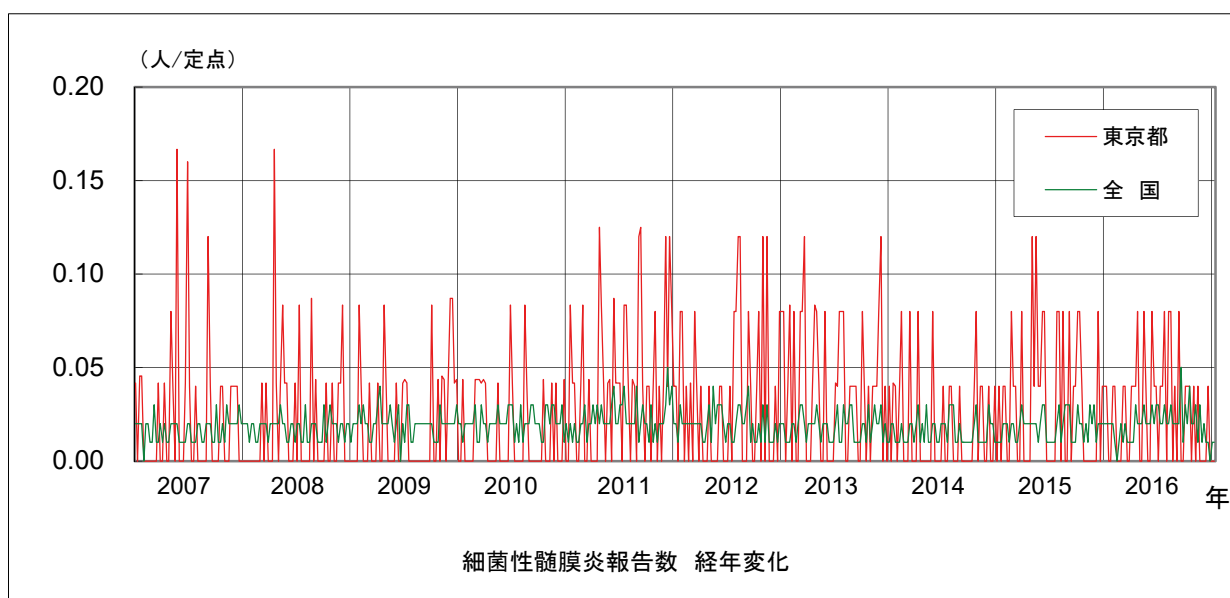
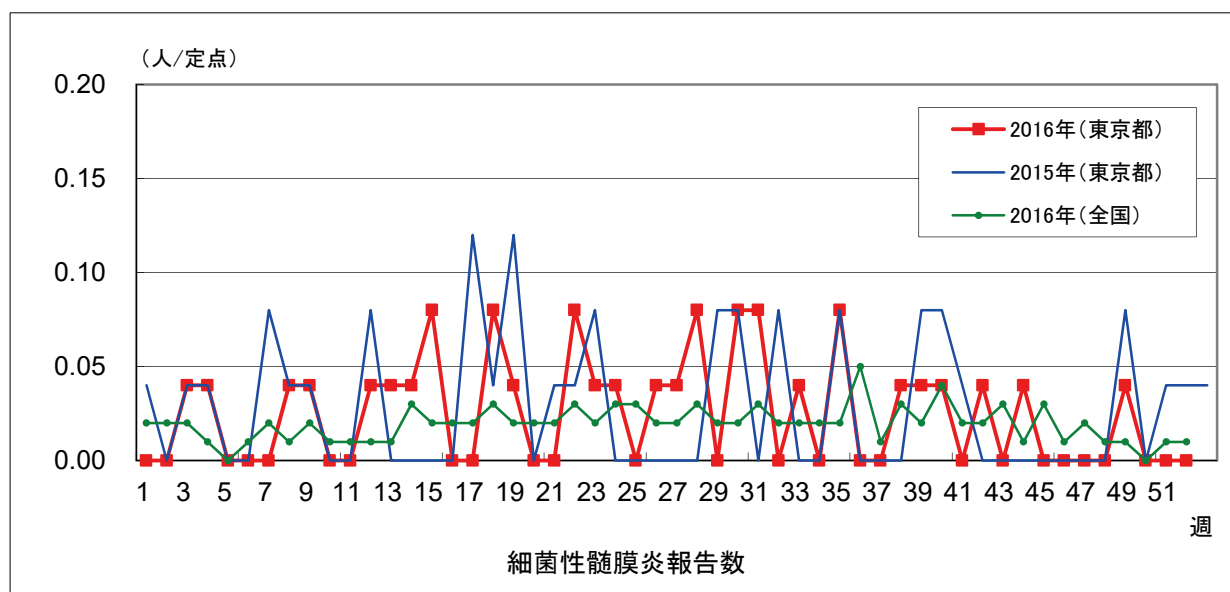


(4) 基幹定点医療機関における週報告疾患

ア 細菌性髄膜炎

2016年の報告数は33人、定点当たりの報告数は1.32人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.34人であり、2016年の報告数は例年並みであった。

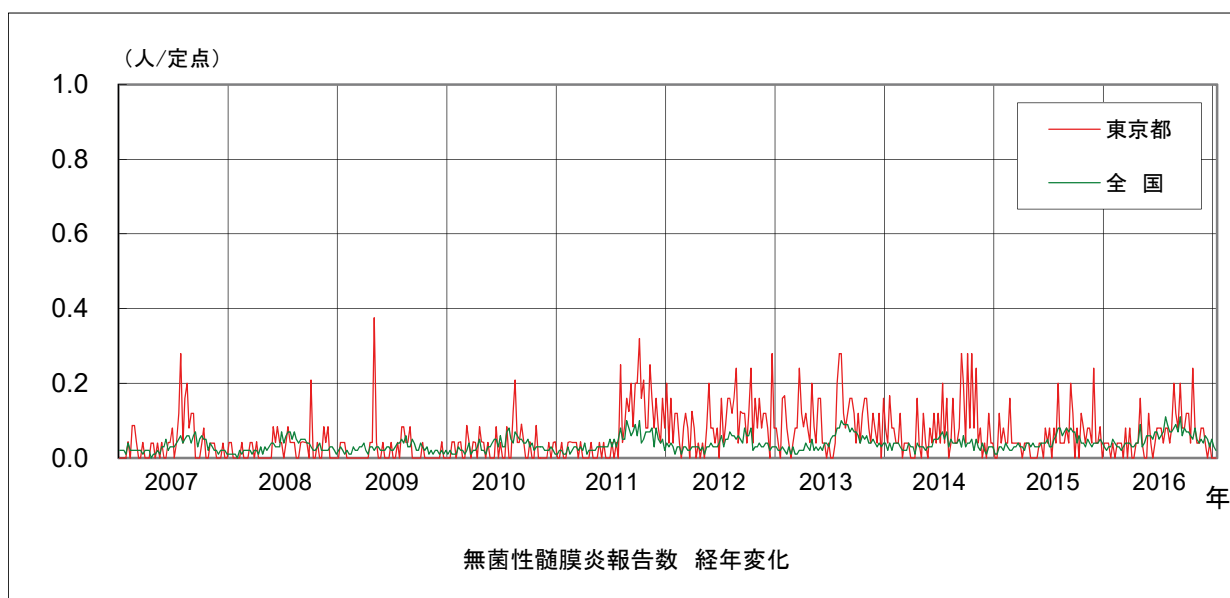
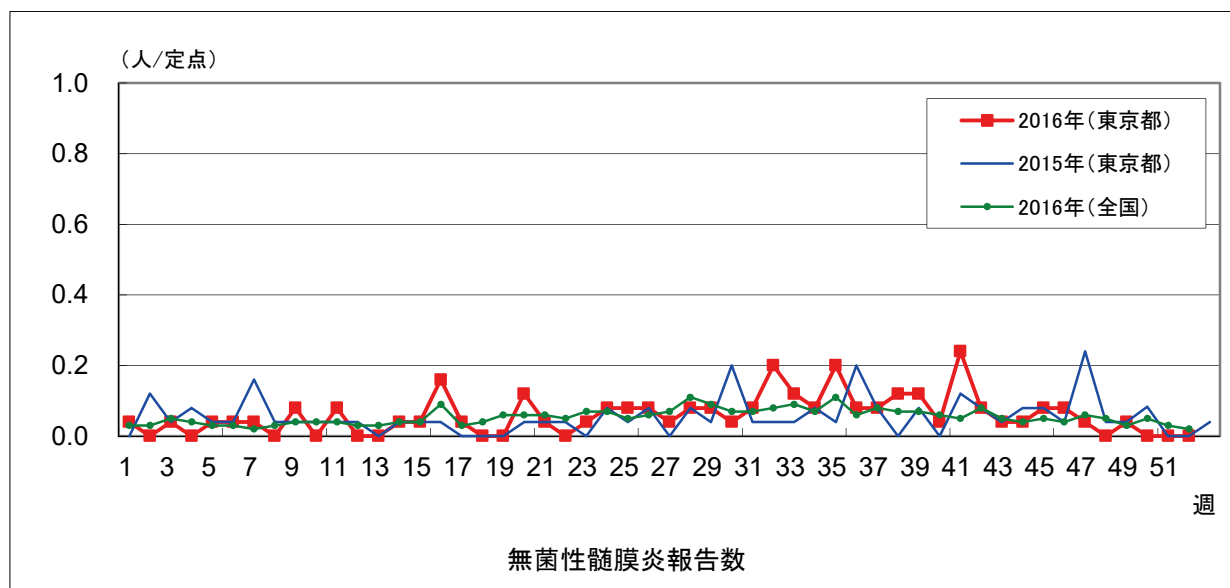
週別定点当たりの報告数では報告数が少ないため季節変動は明らかではないが通年で報告されている。保健所別定点当たりの報告数では墨田区が8.00人と最多であった。年齢階級別報告数では6か月未満が12人(36.4%)、60歳代以上が7人(21.2%)報告された。



イ 無菌性髄膜炎

2016年の報告数は77人であり、定点当たりの報告数は3.08人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は3.02人であり、2016年の報告数は例年並みであった。

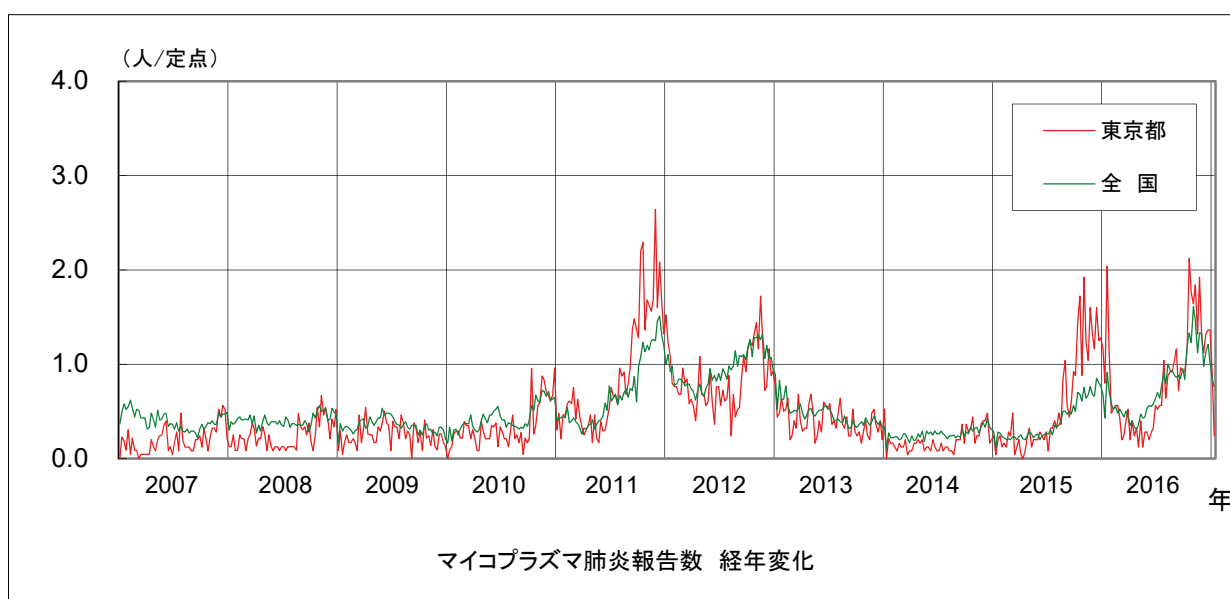
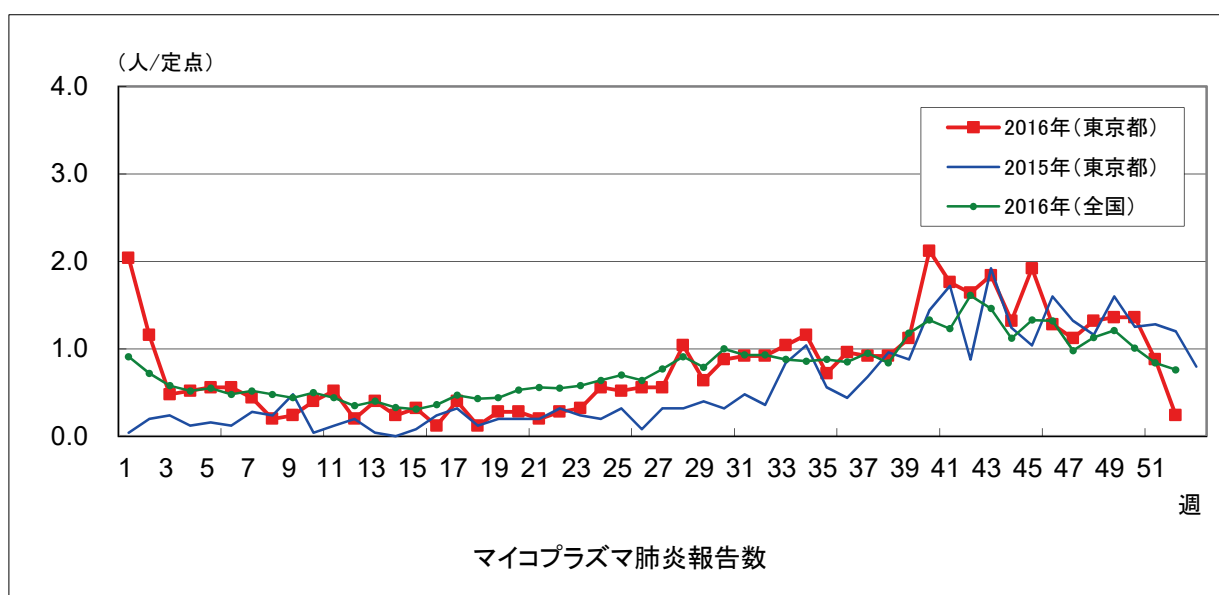
週別定点当たりの報告数では季節変動は明らかではないが、最多の報告は41週（10.10～10.16）の0.24人であった。保健所別定点当たりの報告数では墨田区が24.00人と最多であった。年齢階級別報告数では6か月未満が16人（20.8%）報告された。



ウ マイコプラズマ肺炎

2016 年の報告数は 1,047 人であり、定点当たりの報告数は 41.88 人であった。ここ 10 年の定点当たりの報告数の平均は 24.57 人であり、2016 年は 2011 年、2012 年に次いで 3 番目に多い報告数であった。

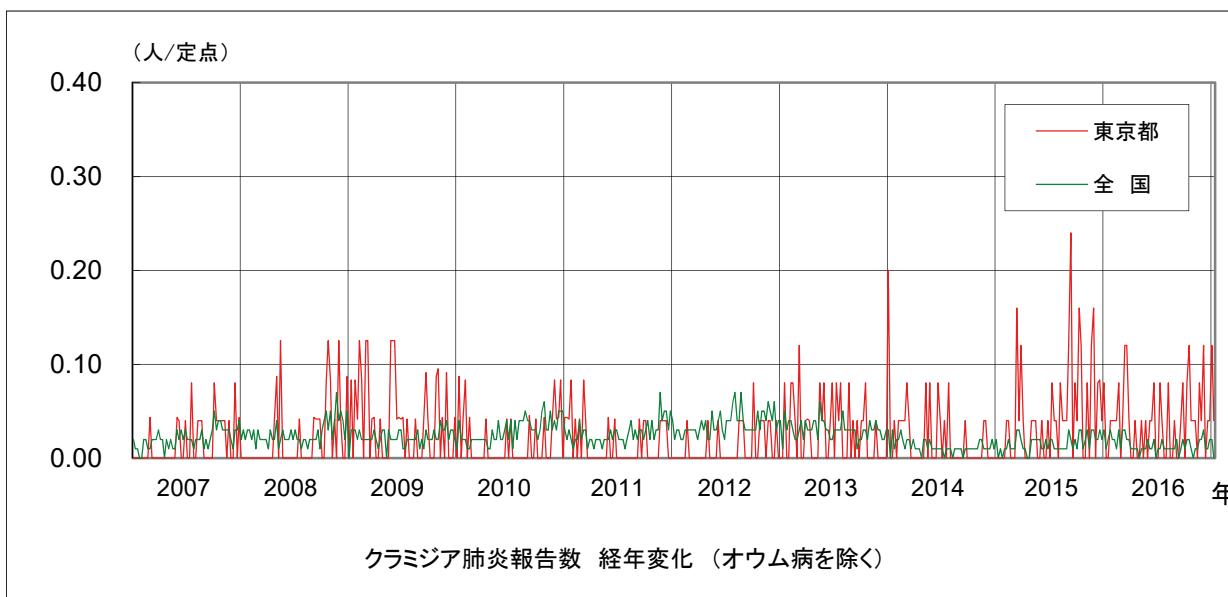
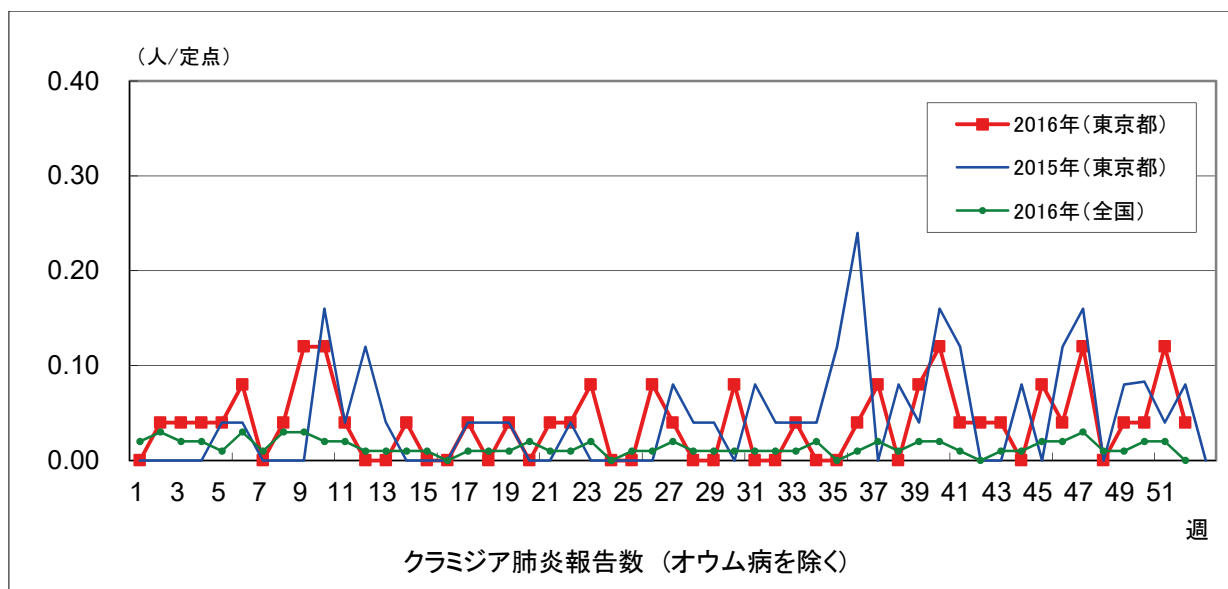
週別定点当たりの報告数では 1 週（1.4～1.10）と、40 週（10.3～10.9）から 45 週（11.7～11.13）にかけておおむね 1.50 人を超える山がありピークは 40 週（10.3～10.9）の 2.12 人であった。保健所別定点当たりの報告数では葛飾区が 132.00 人と最多であった。年齢階級別報告数では 10 歳未満が 628 人（60.0%）、10 歳代が 245 人（23.4%）、20 歳代～60 歳未満が 141 人（13.5%）、60 歳代以上が 33 人（3.2%）であった。



エ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

2016年の報告数は50人、定点当たりの報告数は2.00人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.28人で、2016年は2015年に次いで多かった。

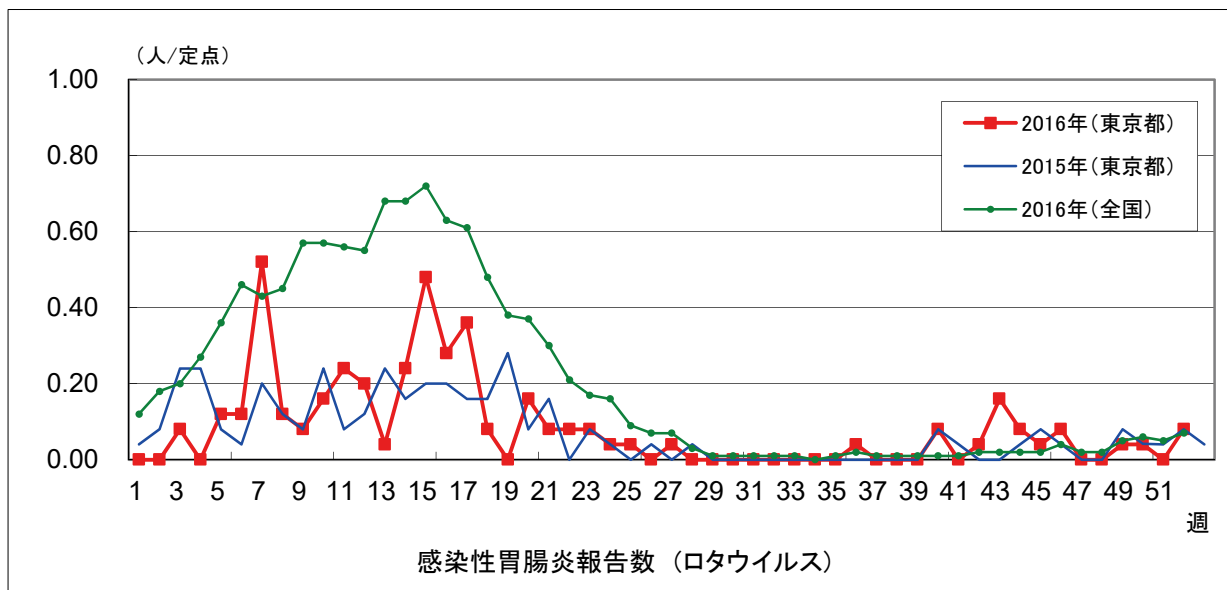
週別定点当たりの報告数では通年の発生がみられ季節変動は明らかではない。保健所別定点当たりの報告数では、みなとが35.00人と多かった。年齢階級別報告数では60歳代以上が27人（54.0%）であった。



オ 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）

2016年の報告数は108人、定点当たりの報告数は4.32人であった。ロタウイルスによる感染性胃腸炎の報告は2013年42週から開始され、通年としては2014年からの報告数が集計されており2014年～2016年の平均報告数は113.67人であった。

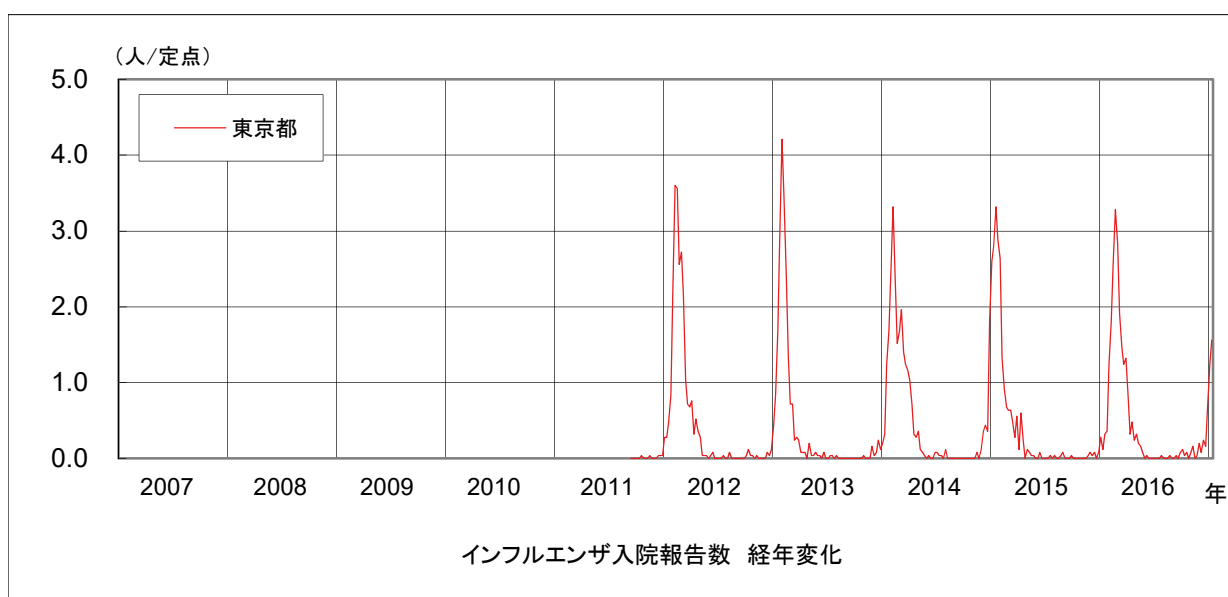
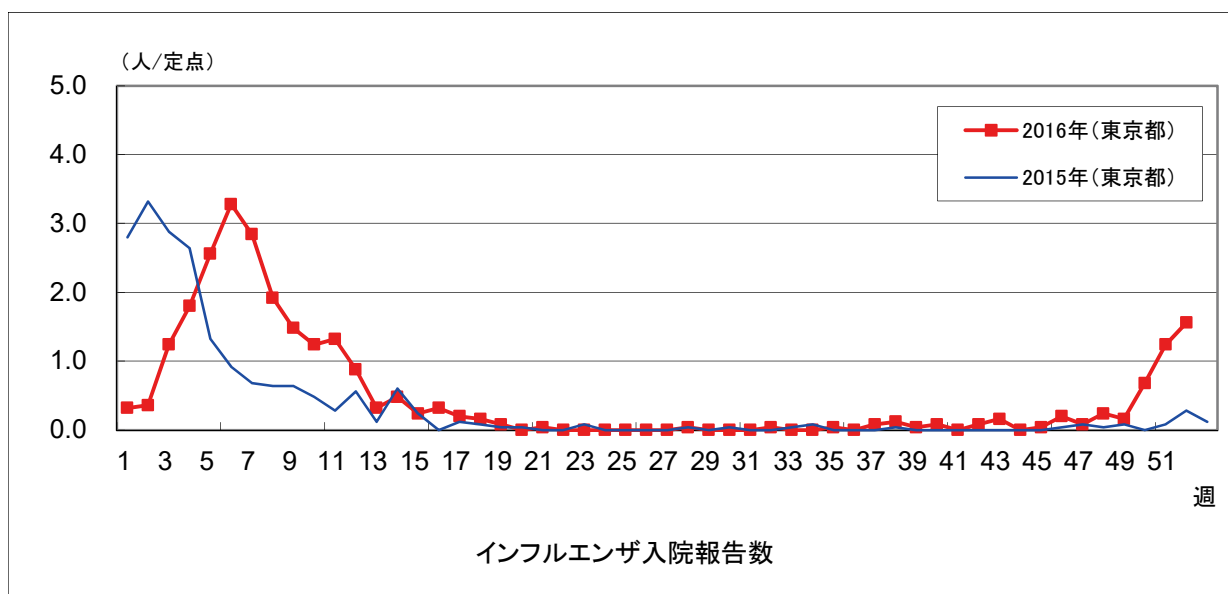
週別定点当たりの報告数では5週（2.1～2.7）から17週（4.25～5.1）にかけておおむね0.10人を超える山がありピークは7週（2.15～2.21）の0.52人であった。保健所別定点当たりの報告数では葛飾区が25.00人と最多であった。年齢階級別報告数では1歳代が22人（20.4%）と最も多く4歳代以下で70.4%を占めている。



カ インフルエンザ入院

2016年の報告数は649人、定点当たりの報告数は25.96人であった。インフルエンザ入院の報告は2011年36週より開始され、通年としては2012年からの報告数が集計されている。2012年～2016年の平均報告数は559.60人で、定点当たりの報告数は24.02人であった。

週別定点当たりの報告数では3週（1.18～1.24）から11週（3.14～3.20）と51週（12.19～12.25）から52週（12.26～1.1）にかけて1.00人を超える山がありピークは6週（2.8～2.14）の3.28人であった。保健所別定点当たりの報告数では世田谷が57.50人と最多であった。年齢階級別報告数では10歳未満248人（38.2%）、10歳代39人（6.0%）、20歳代～50歳代82人（12.6%）、60歳代48人（7.4%）、70歳代86人（13.3%）、80歳代以上146人（22.5%）であった。



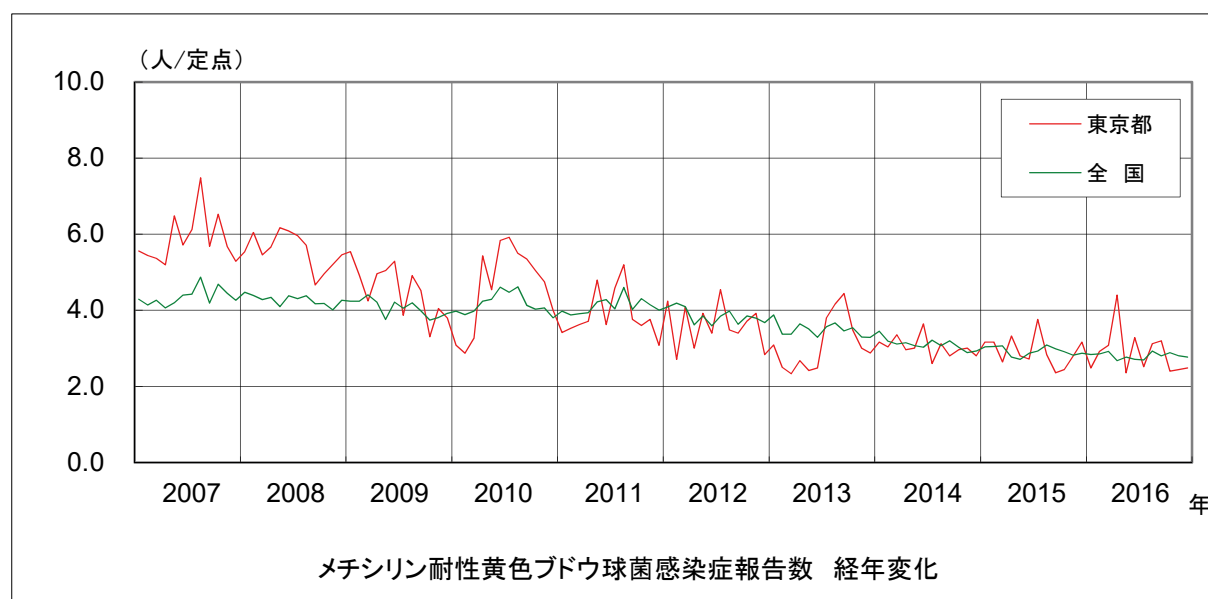
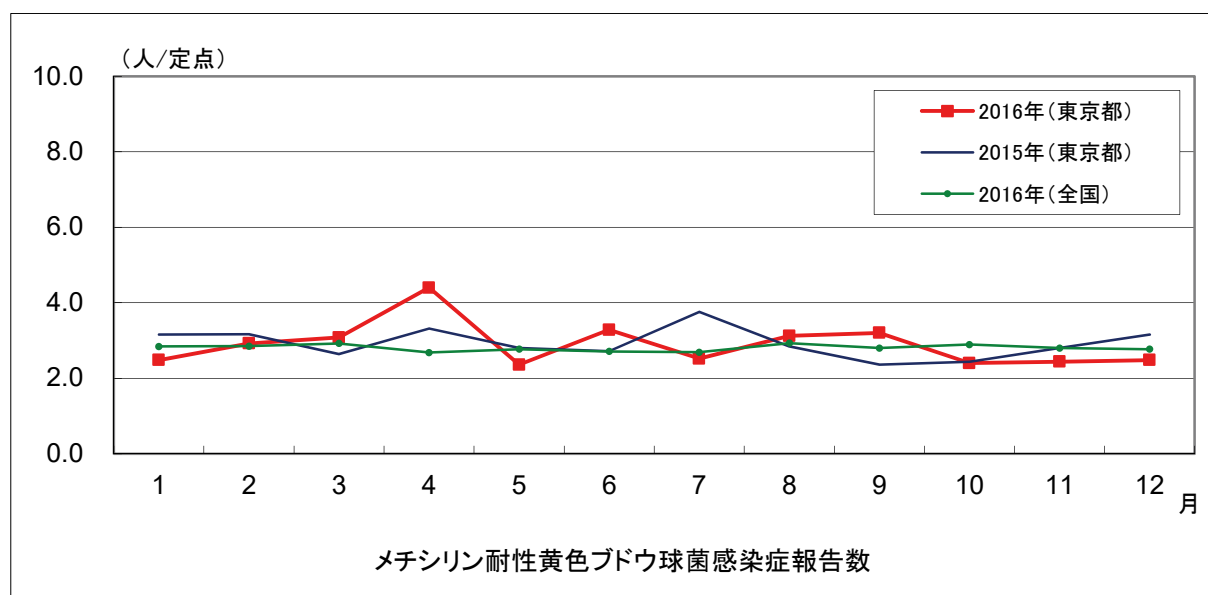
（５） 基幹定点医療機関における月報告疾患

ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症

2016年の報告数は867人、定点当たりの報告数は34.68人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は48.08人であり、2016年はここ10年で最も少ない報告数であった。経年変化でも右肩下がり傾向が見られている。

月別の報告数の変動は明らかではないが4月が110人と最多であった。

性別では男性519人（59.9%）、女性348人（40.1%）と例年と同様に男性が多かった。年齢階級別報告数では10歳未満が298人（34.4%）、70歳以上が346人（39.9%）と若年者と高齢者に多くなっている。

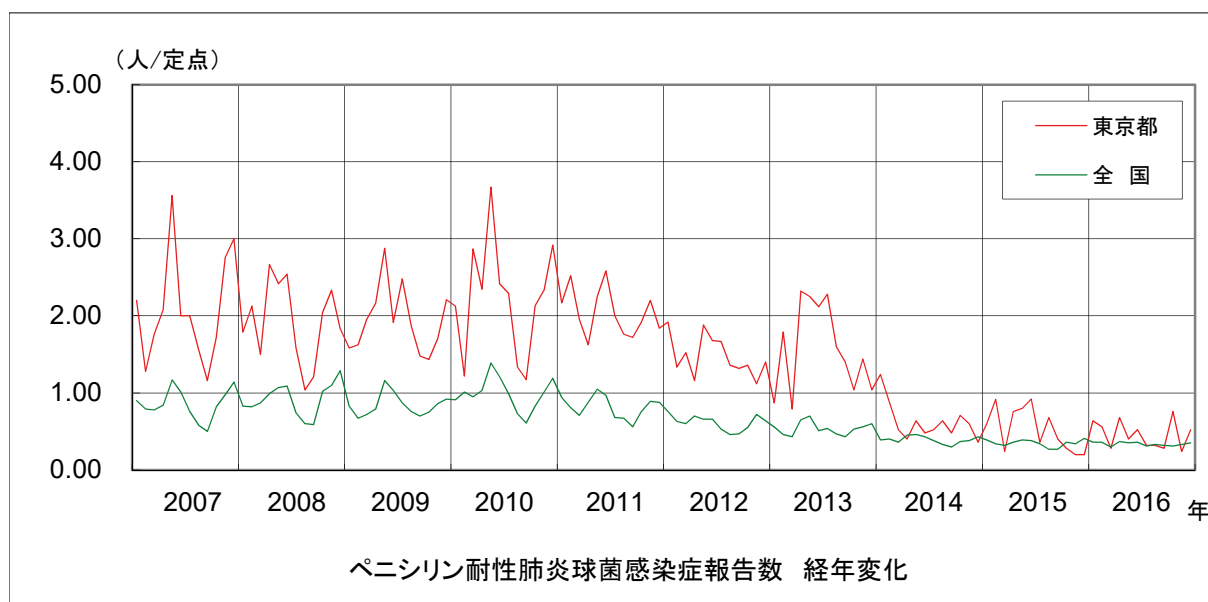
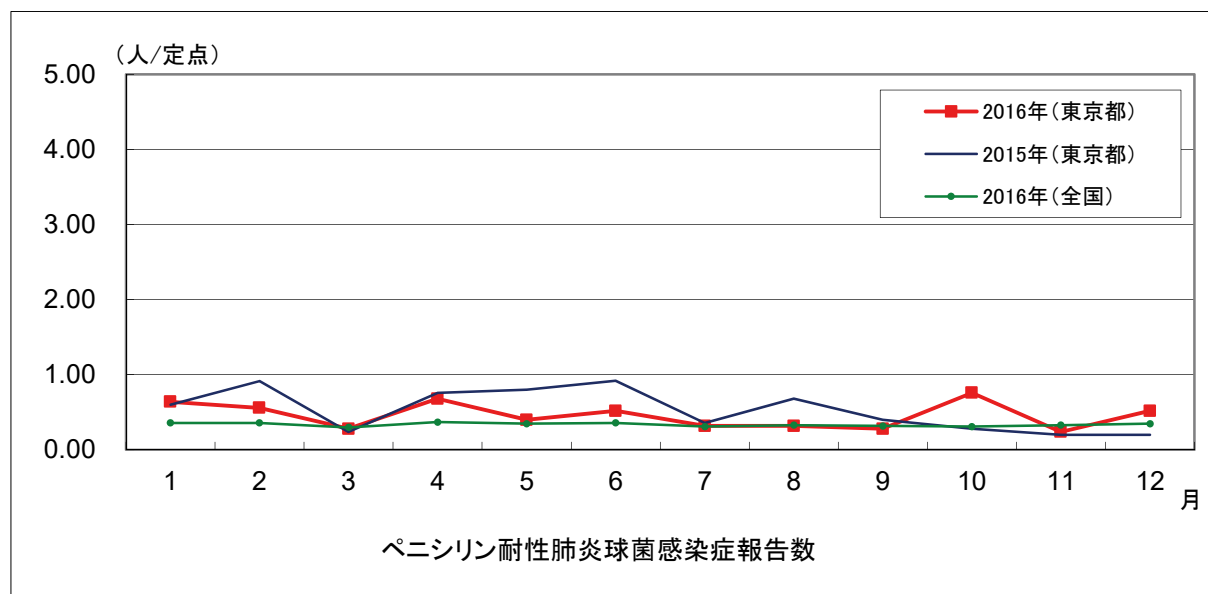


イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2016年の報告数は138人、定点当たりの報告数5.52人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は17.88人であり、2016年はここ10年で最も少ない報告数であった。経年変化を見ると特に2014年以降減少が明らかである。

月別の報告数の変動は明らかではないが10月が19人と最多であった。

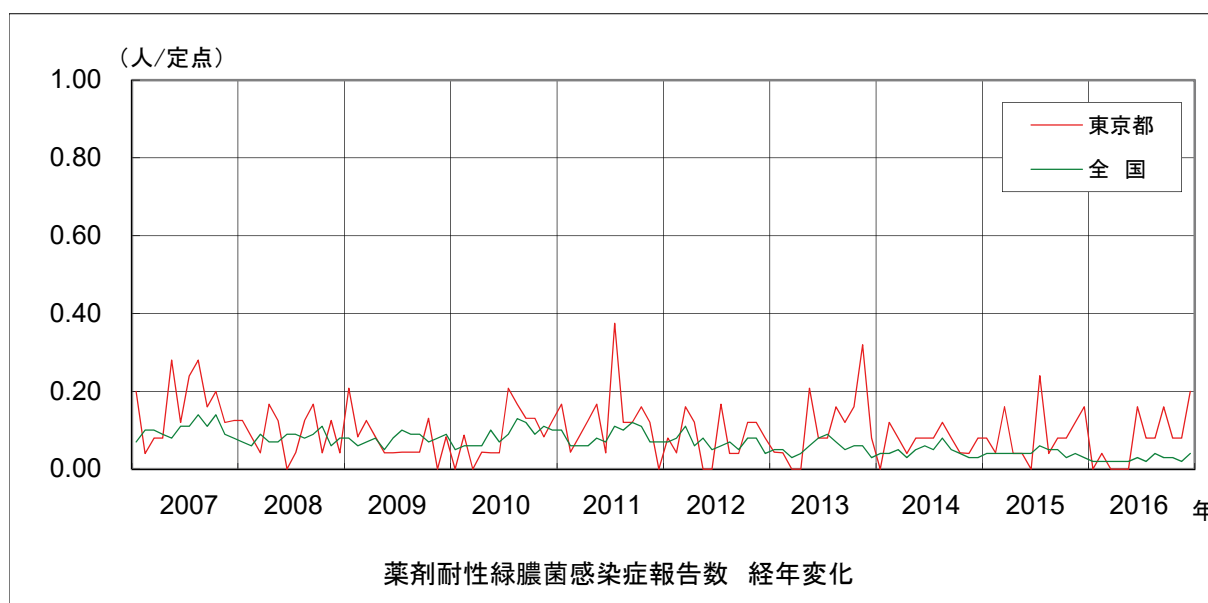
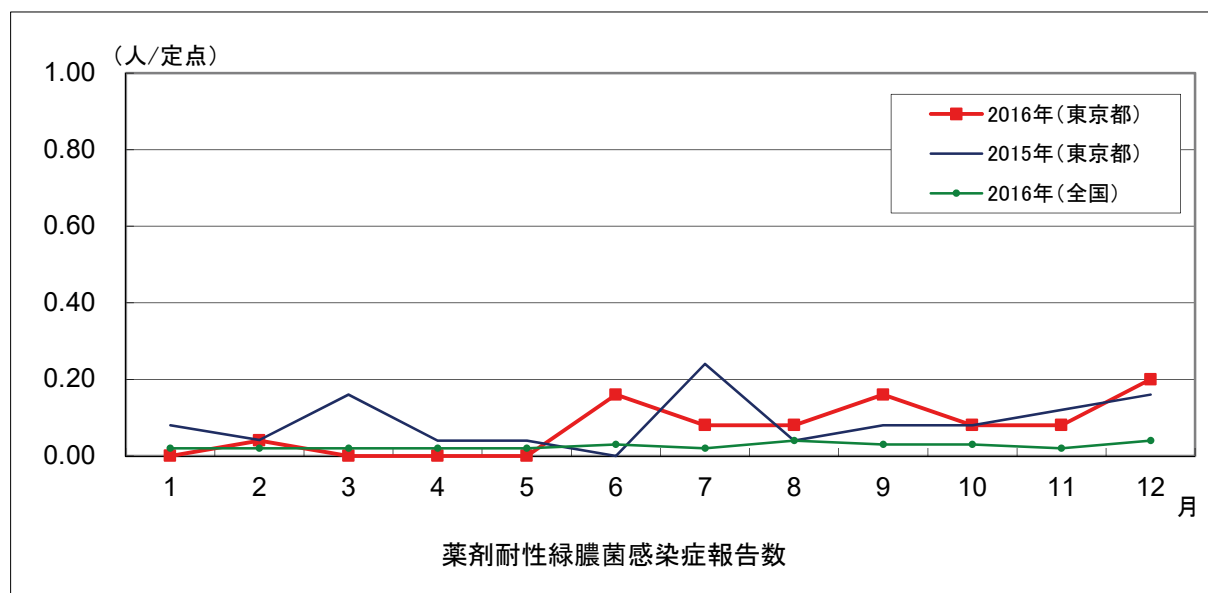
性別では男性81人（58.7%）女性57人（41.3%）と男性が多かった。年齢階級別報告数では10歳未満が77人（55.8%）、70歳以上が30人（21.7%）であった。



ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症

2016年の報告数は22人、定点当たりの報告数0.88人であった。ここ10年の定点当たりの報告数の平均は1.17人であり、2016年はここ10年で2014年に次いで少ない報告数であった。

月別の報告数の変動は明らかではないが12月が5人と最多であった。性別では男性が16人(72.7%)、女性が6人(27.3%)であった。年齢階級別報告数では70歳以上が8人(36.4%)であった。



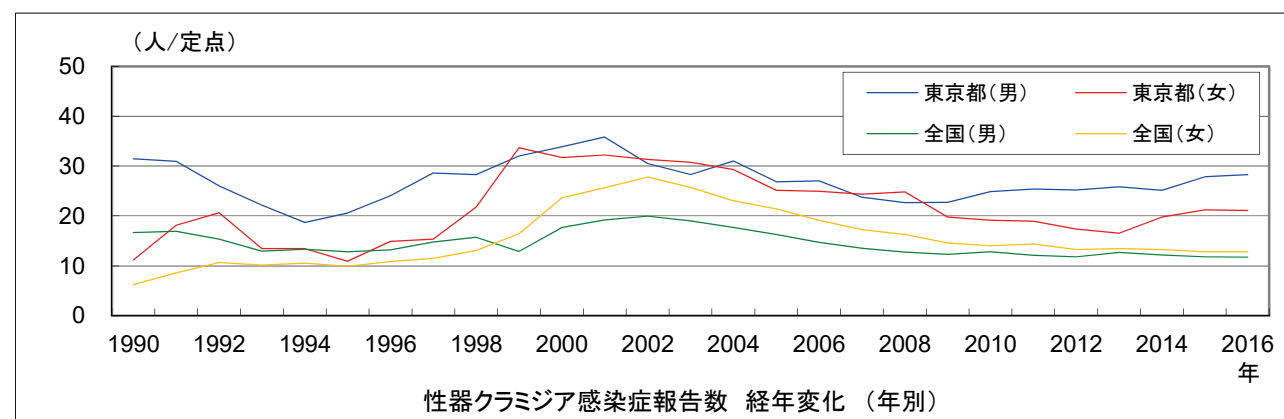
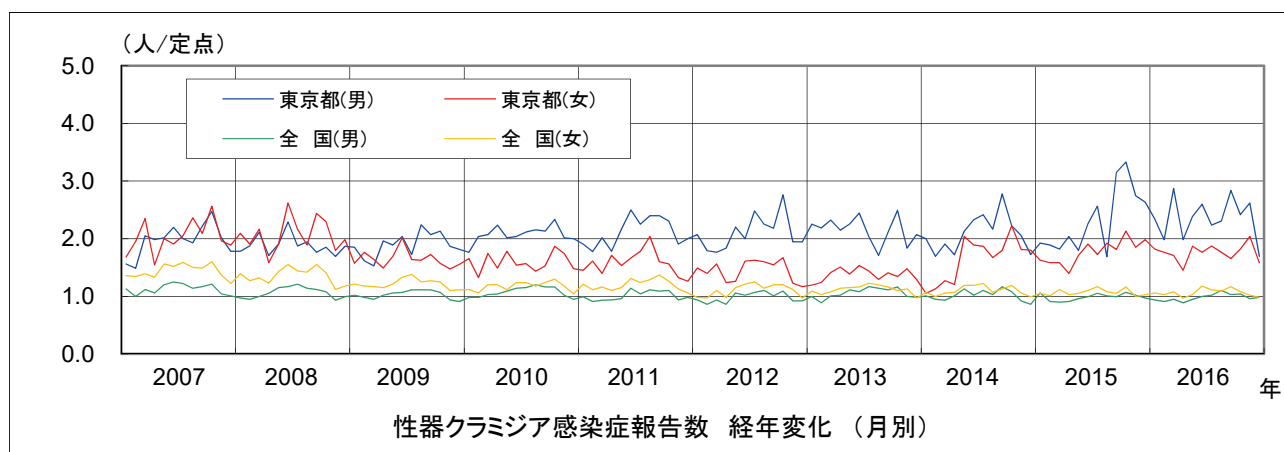
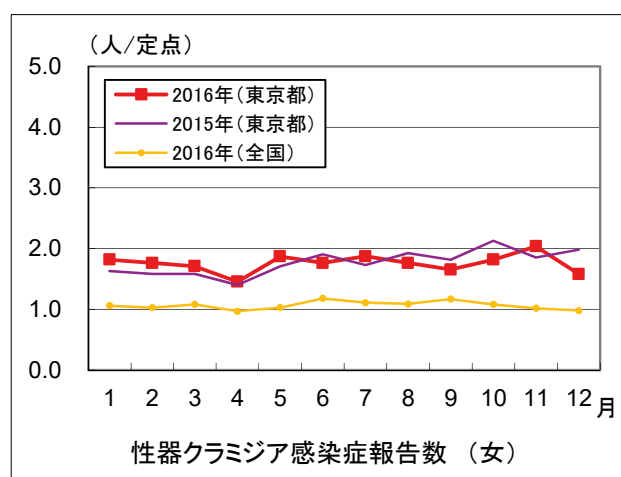
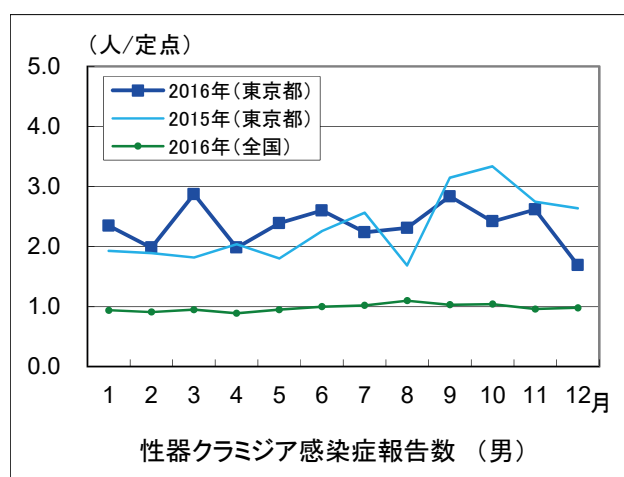
(6) 性感染症

ア 性器クラミジア感染症

2016年の報告数は2,712人、定点当たり49.39人であり、男性の報告数は1,533人、定点当たり28.28人（前年比1.02）、女性の報告数は1,159人、定点当たり21.11人（前年比0.99）であった。

定点当たり報告数を月別に見ると、男性は3月が2.87人で最多、12月が1.69人で最少、女性では11月が2.04人で最多、12月が1.58人で最少であった。保健所別では、男性は渋谷区の82.20人、女性は多摩立川の75.00人が最多であった。

年齢階級別報告数では、男性は30～34歳の308人が最多で、20歳代と30歳代で男性全体の67.0%を占めた。女性では20～24歳の313人が最多で、20歳代と30歳代で女性全体の79.2%を占めた。

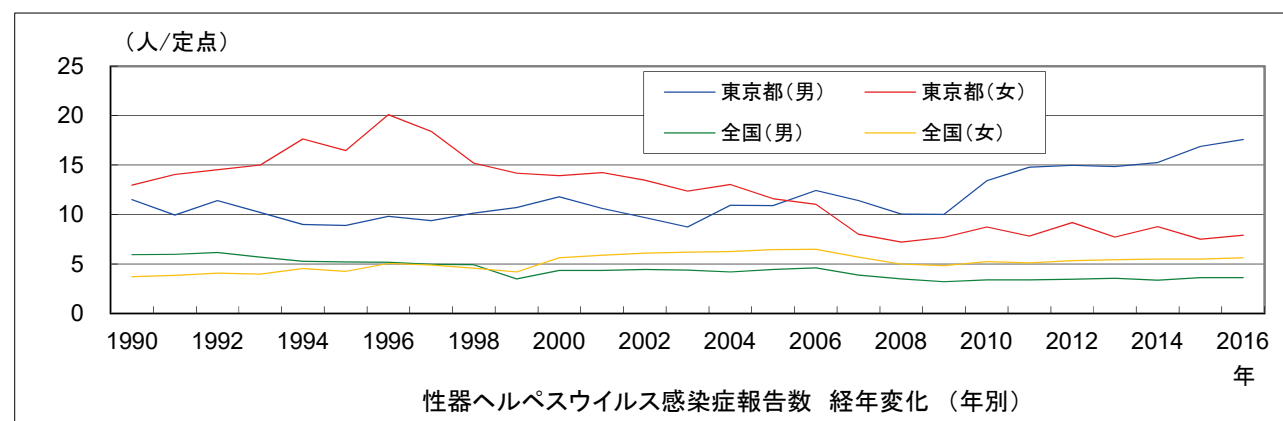
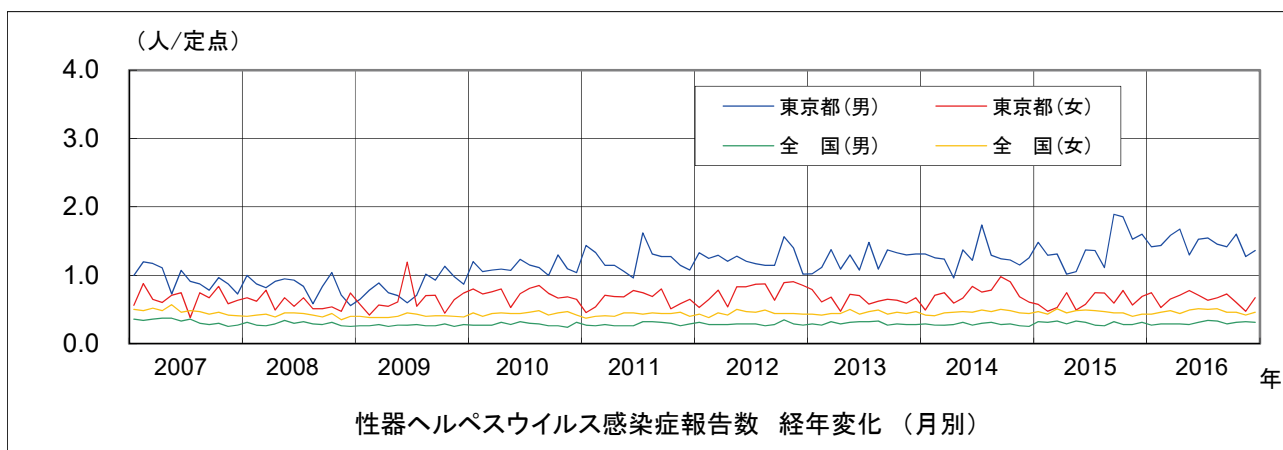
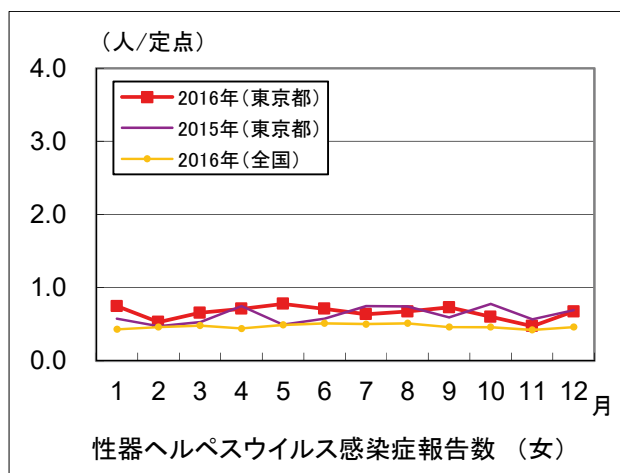
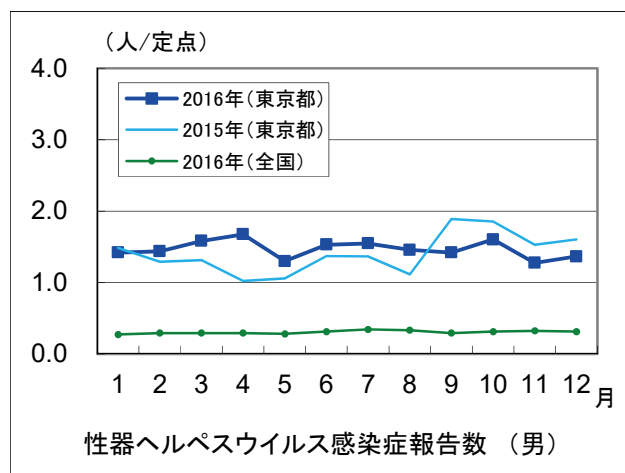


イ 性器ヘルペスウイルス感染症

2016年の報告数は1,400人、定点当たり25.49人であり、男性の報告数は966人、定点当たり17.59人（前年比1.04）、女性の報告数は434人、定点当たり7.91人（前年比1.05）で、2006年以降男性に多い状況が続いている。

月別の定点当たり報告数は、男性は4月が1.67人で最多、11月が1.27人で最少、女性は5月が0.78人で最多、11月が0.47人で最少であった。保健所別では、男性はみなとが最多で193.00人、女性は町田市が最多で23.00人であった。

年齢階級別報告数では、男性は30～34歳と35～39歳が148人の同数で最多で、30歳代と40歳代で男性全体の58.5%を占めた。女性では20～24歳と30～34歳が81人で最多で、20歳代と30歳代で女性全体の67.1%を占めた。

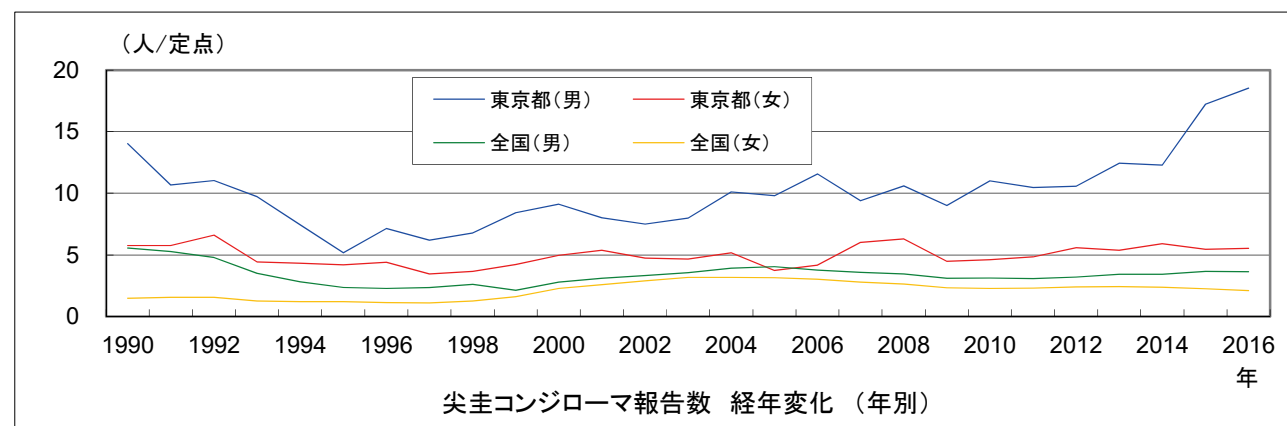
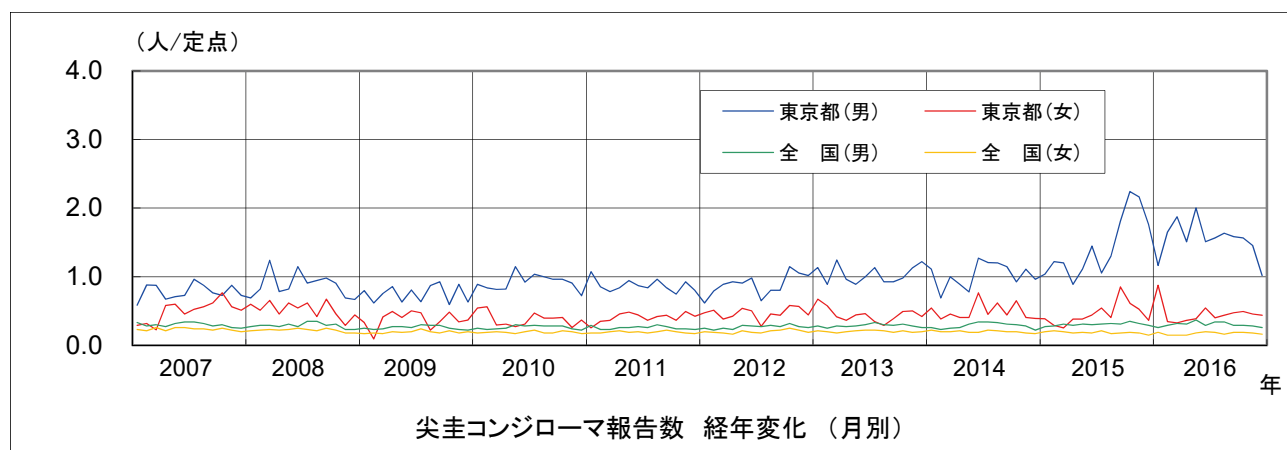
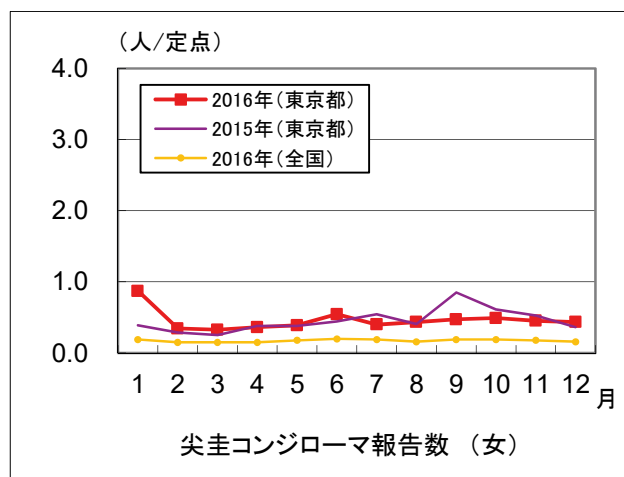
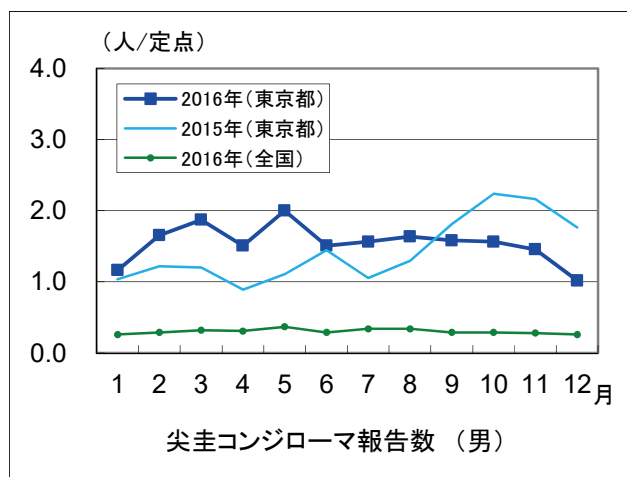


ウ 尖圭コンジローマ

2016年の報告数は1,321人、定点当たり24.06人であり、男性の報告数は1,017人、定点当たり18.53人（前年比1.08）、女性の報告数は304人、定点当たり5.53人（前年比1.02）で、男性が多かった。

月別定点当たり報告数は、男性は5月が2.00人で最多、12月が1.02人で最少、女性は1月が0.87人で最多、3月が0.33人で最少であった。保健所別では、男性が渋谷区の58.60人、女性が新宿区の22.29人がそれぞれ最多であった。

年齢階級別報告数では、男性は35～39歳の197人が最多で、30歳代と40歳代で男性全体の66.1%を占めた。女性では20～24歳と25～29歳で84人の同数で最多で、20歳代と30歳代で女性全体の80.9%を占めた。

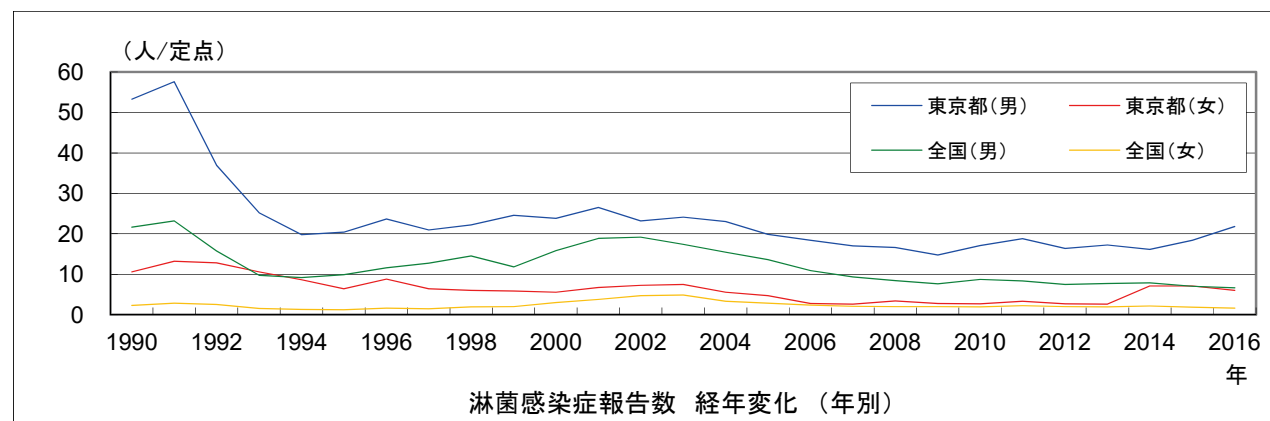
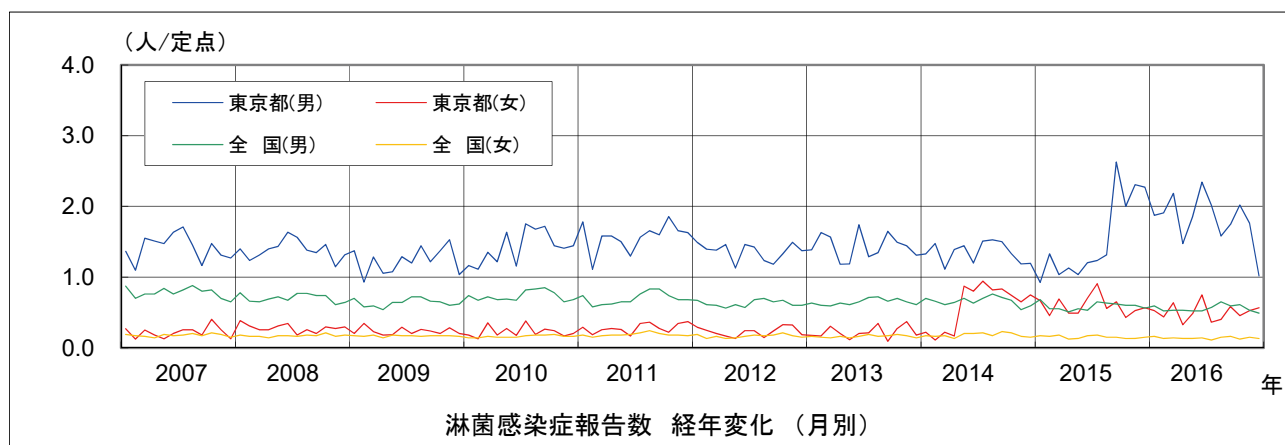
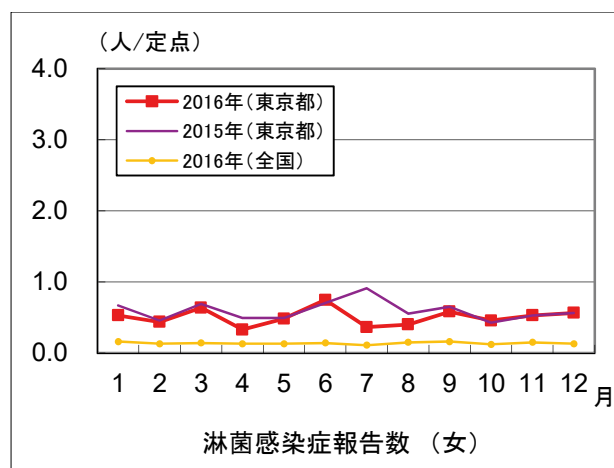
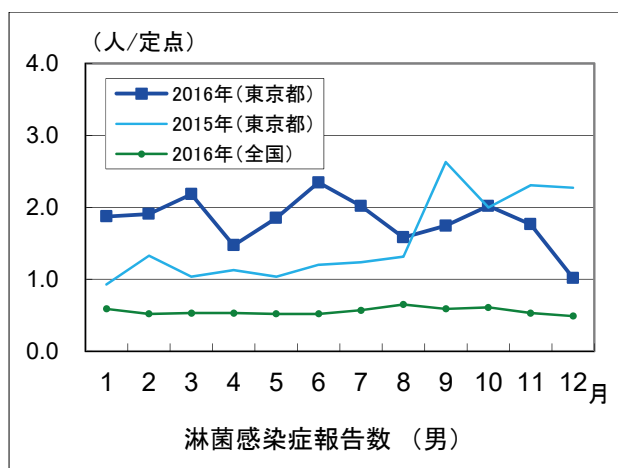


エ 淋菌感染症

2016年の報告数は1,528人、定点当たり27.82人であり、男性の報告数は1,196人、定点当たり21.78人（前年比1.18）、女性の報告数は332人、定点当たり6.05人（前年比0.85）であった。

月別定点当たり報告数は、男性は6月が2.35人で最多、12月が1.02人で最少であった。女性は6月が0.75人で最多、4月が0.33人で最少であった。保健所別では、男性は渋谷区の96.40人、女性は台東の93.00人が最多であった。

年齢階級別報告数では、男性は30～34歳の250人が最多で、20歳代と30歳代が男性全体の69.7%を占めた。女性は20～24歳の78人が最多で、20歳代と30歳代が女性全体の69.0%を占めた。



オ 膣トリコモナス症

2016年の報告数は117人、定点当たり2.13人であり、男性の報告数は4人、定点当たり0.07人（前年比0.40）、女性の報告数は113人、定点当たり2.06人（前年比0.80）で、女性が全報告数の96.6%を占めた。

男性は報告数が少なく、季節や地域的傾向等に大きな変動は見られなかった。女性では、月別定点当たり患者報告数は6月が0.25人で最多、2月が0.05人で最少であった。保健所別では、台東の21.00人が最多であった。

年齢階級別報告数では女性で25～29歳が30人で最多で、20歳代と30歳代で女性全体の73.5%を占めた。

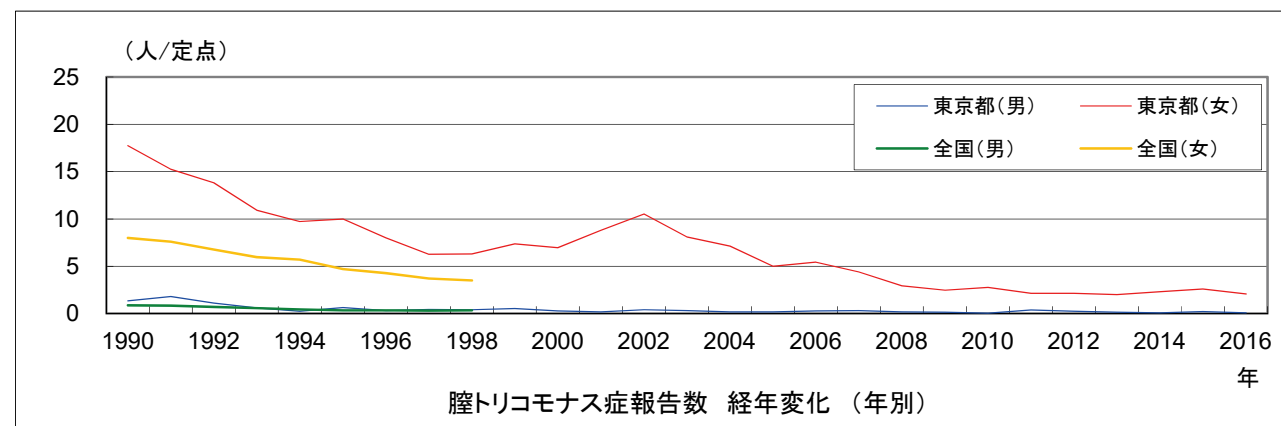
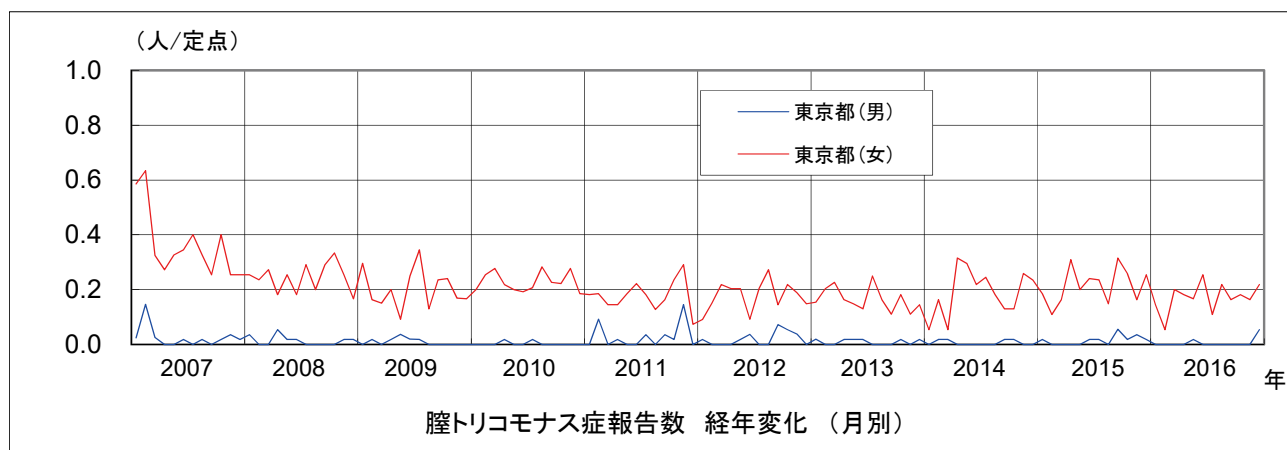
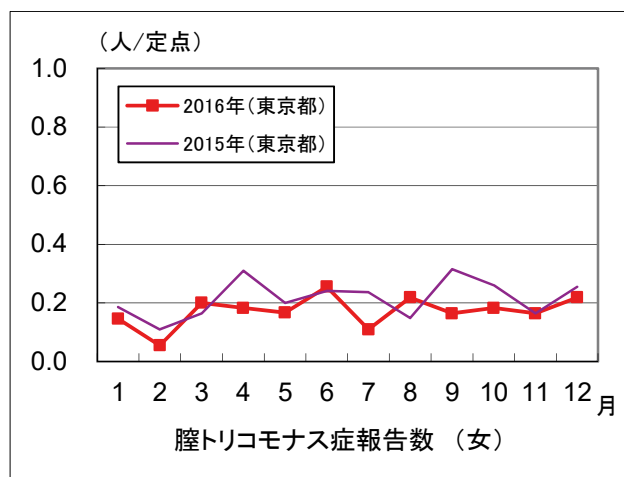
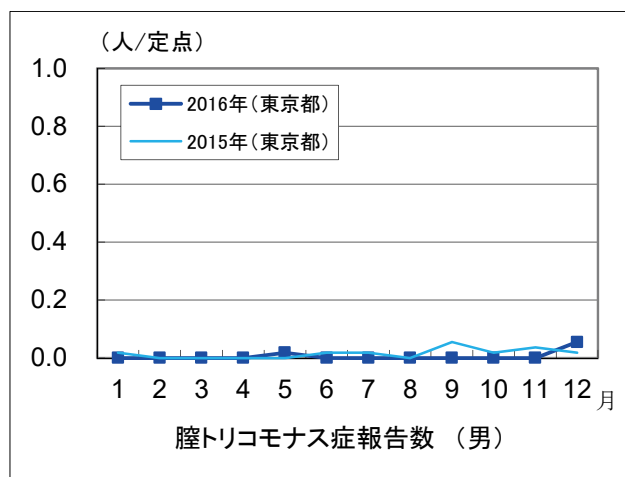


表4-1(1) 週別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2016年第1週～第52週

週	期 間	報告 定点数 (イン フル エン ザ)	イン フル エン ザ	報告 定点数 (小児 科)	R S ウ ィ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 球 菌 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
1	1. 4～ 1.10	412	683	260	154	100	494	2,142	255	11	101	85	6	3	205
2	1.11～ 1.17	416	1,573	262	88	51	616	2,253	142	16	110	133		5	192
3	1.18～ 1.24	415	4,642	262	112	78	794	2,275	140	7	97	111	4	2	118
4	1.25～ 1.31	415	10,782	261	127	48	861	2,307	141	19	110	104	2		142
5	2. 1～ 2. 7	415	16,365	261	67	64	880	2,203	123	7	76	115		4	147
6	2. 8～ 2.14	416	15,494	262	45	56	780	1,843	117	8	82	90	1	1	118
7	2.15～ 2.21	415	12,413	261	32	52	738	1,889	98	8	77	111	2	1	165
8	2.22～ 2.28	414	10,688	260	32	48	774	1,762	71	8	64	104	4	4	112
9	2.29～ 3. 6	415	9,499	260	33	43	740	1,821	98	2	80	105	1	9	121
10	3. 7～ 3.13	415	8,065	261	25	45	751	1,694	80	6	48	125	4	4	127
11	3.14～ 3.20	413	6,138	259	25	47	767	1,591	70	5	45	124	1	5	121
12	3.21～ 3.27	415	3,860	261	25	31	589	1,303	86	18	35	91		4	111
13	3.28～ 4. 3	415	3,091	261	13	37	508	1,337	92	6	29	107	5	1	115
14	4. 4～ 4.10	414	2,028	260	17	55	516	1,259	108	9	53	118	2	2	112
15	4.11～ 4.17	411	1,469	257	34	40	722	1,527	68	8	56	131	2	4	108
16	4.18～ 4.24	414	1,186	260	37	86	763	1,782	99	22	66	158	7	4	112
17	4.25～ 5. 1	409	581	256	23	118	718	1,403	87	11	52	158	1	5	123
18	5. 2～ 5. 8	412	176	258	7	98	532	1,057	86	14	44	139		11	107
19	5. 9～ 5.15	413	99	261	14	147	694	1,441	123	19	54	196	2	20	144
20	5.16～ 5.22	414	100	260	15	134	787	1,678	90	21	46	206	2	17	158
21	5.23～ 5.29	408	72	257	25	212	843	1,814	143	37	76	215	3	31	121
22	5.30～ 6. 5	413	34	259	12	209	848	1,779	105	43	42	215	2	64	144
23	6. 6～ 6.12	413	27	259	27	260	892	1,913	129	79	64	209	6	103	174
24	6.13～ 6.19	413	19	260	11	238	840	1,730	113	103	47	162	6	226	159
25	6.20～ 6.26	411	8	258	32	212	780	1,575	134	135	49	220	7	420	172
26	6.27～ 7. 3	416	7	262	32	223	838	1,537	111	130	56	212	4	608	188
27	7. 4～ 7.10	414	9	261	25	148	728	1,442	116	191	38	162	4	1,055	223
28	7.11～ 7.17	410	9	259	36	183	789	1,390	79	238	46	167	4	1,526	208
29	7.18～ 7.24	413	4	262	42	101	540	1,045	105	230	39	132	4	1,305	216
30	7.25～ 7.31	414	5	260	66	141	512	1,197	84	225	39	134	6	1,599	260
31	8. 1～ 8. 7	407	5	259	93	78	428	1,142	86	263	48	145	7	1,358	236
32	8. 8～ 8.14	389	6	244	103	83	247	802	69	184	35	91	1	838	171
33	8.15～ 8.21	392	4	243	100	53	211	718	64	129	22	100	1	359	191
34	8.22～ 8.28	409	15	256	171	55	281	855	63	243	38	145	1	486	202
35	8.29～ 9. 4	410	13	258	312	77	312	1,092	58	253	30	161	3	556	146
36	9. 5～ 9.11	415	31	262	449	94	334	1,198	60	261	36	175	3	414	148
37	9.12～ 9.18	407	54	260	576	90	411	1,124	57	337	29	179	5	337	187
38	9.19～ 9.25	408	39	258	511	50	304	942	77	328	19	137	3	239	186
39	9.26～10. 2	414	63	260	665	68	414	1,089	85	461	18	146		329	221
40	10. 3～10. 9	411	96	259	723	70	399	1,170	96	498	15	157	7	438	215
41	10.10～10.16	413	98	260	527	48	324	1,052	72	423	19	123	4	206	215
42	10.17～10.23	412	126	261	436	62	491	1,338	91	371	22	130	9	144	247
43	10.24～10.30	410	159	260	311	63	456	1,681	93	339	25	144	3	90	189
44	10.31～11. 6	415	242	263	155	53	488	2,486	76	265	20	123	6	57	216
45	11. 7～11.13	414	390	261	142	61	506	3,671	128	176	22	116	8	44	236
46	11.14～11.20	416	652	263	134	77	544	5,322	129	197	17	142	4	50	181
47	11.21～11.27	416	728	263	85	110	532	5,154	138	154	34	112	3	29	158
48	11.28～12. 4	417	1,160	263	76	108	576	6,997	206	149	39	147	4	29	179
49	12. 5～12.11	417	1,675	263	82	119	741	7,164	160	117	56	125	8	15	144
50	12.12～12.18	413	2,576	259	53	115	673	7,380	182	99	49	130	3	15	139
51	12.19～12.25	413	4,361	260	57	111	587	5,368	144	73	51	108	2	12	116
52	12.26～ 1. 1	396	3,588	249	27	76	318	2,505	114	37	20	56	4	6	80
合 計			125,207		7,021	5,026	31,211	110,239	5,541	6,993	2,485	7,231	181	13,094	8,526

表4-1(2) 週別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2016年第1週～第52週

週	期 間	報告定点数(小児科)	不明発しん症	川崎病	報告定点数(眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	(オウム病を除く) クラミジア肺炎	(ロタウイルスによる) 感染性胃腸炎	報告定点数(基幹)	インフルエンザ入院
1	1. 4～ 1. 10	260	12	8	39		23	25		1	51			25	8
2	1. 11～ 1. 17	262	15	1	39		23	25			29	1		25	9
3	1. 18～ 1. 24	262	10	4	39		18	25	1	1	12	1	2	25	31
4	1. 25～ 1. 31	261	14	5	39		27	25	1		13	1		25	45
5	2. 1～ 2. 7	261	14	2	38		21	25		1	14	1	3	25	64
6	2. 8～ 2. 14	262	11	4	39		18	25		1	14	2	3	25	82
7	2. 15～ 2. 21	261	15	5	39		22	25		1	11		13	25	71
8	2. 22～ 2. 28	260	12	2	39		20	25	1		5	1	3	25	48
9	2. 29～ 3. 6	260	13	6	38		7	25	1	2	6	3	2	25	37
10	3. 7～ 3. 13	261	11	3	39		17	25			10	3	4	25	31
11	3. 14～ 3. 20	259	15	4	39	1	15	25		2	13	1	6	25	33
12	3. 21～ 3. 27	261	5	1	39	2	14	25	1		5		5	25	22
13	3. 28～ 4. 3	261	15	3	39		14	25	1		10		1	25	8
14	4. 4～ 4. 10	260	10	2	39		26	25	1	1	6	1	6	25	12
15	4. 11～ 4. 17	257	13	3	39		17	25	2	1	8		12	25	6
16	4. 18～ 4. 24	260	8	3	39		23	25		4	3		7	25	8
17	4. 25～ 5. 1	256	14	5	39		22	25		1	10	1	9	25	5
18	5. 2～ 5. 8	258	12	6	39		15	25	2		3		2	25	4
19	5. 9～ 5. 15	261	11	4	38		30	25	1		7	1		25	2
20	5. 16～ 5. 22	260	22	3	39		22	25		3	7		4	25	0
21	5. 23～ 5. 29	257	23	5	38	1	32	25		1	5	1	2	25	1
22	5. 30～ 6. 5	259	22	5	39		25	25	2		7	1	2	25	0
23	6. 6～ 6. 12	259	25	5	39		24	25	1	1	8	2	2	25	0
24	6. 13～ 6. 19	260	35	5	39	1	33	25	1	2	14		1	25	0
25	6. 20～ 6. 26	258	30	2	39		33	25		2	13		1	25	0
26	6. 27～ 7. 3	262	36	3	39	1	18	25	1	2	14	2		25	0
27	7. 4～ 7. 10	261	34	1	38	1	32	25	1	1	14	1	1	25	0
28	7. 11～ 7. 17	259	30	8	38	1	33	25	2	2	26			25	1
29	7. 18～ 7. 24	262	35	7	39		37	25		2	16			25	0
30	7. 25～ 7. 31	260	25	4	39		39	25	2	1	22	2		25	0
31	8. 1～ 8. 7	259	29	3	39		21	25	2	2	23			25	0
32	8. 8～ 8. 14	244	24	1	39	1	25	25		5	23			25	1
33	8. 15～ 8. 21	243	14		36		21	25	1	3	26	1		25	0
34	8. 22～ 8. 28	256	25	8	39		30	25		2	29			25	0
35	8. 29～ 9. 4	258	26	6	38		30	25	2	5	18			25	1
36	9. 5～ 9. 11	262	26	7	38		32	25		2	24	1	1	25	0
37	9. 12～ 9. 18	260	27	4	39		28	25		2	23	2		25	2
38	9. 19～ 9. 25	258	13	5	39		19	25	1	3	23			25	3
39	9. 26～ 10. 2	260	31	3	39		30	25	1	3	28	2		25	1
40	10. 3～ 10. 9	259	25	7	39		26	25	1	1	53	3	2	25	2
41	10. 10～ 10. 16	260	21	7	39	2	23	25		6	44	1		25	0
42	10. 17～ 10. 23	261	19	3	39		21	25	1	2	41	1	1	25	2
43	10. 24～ 10. 30	260	22	10	39		27	25		1	46	1	4	25	4
44	10. 31～ 11. 6	263	26	1	39		22	25	1	1	33		2	25	0
45	11. 7～ 11. 13	261	17	3	39		20	25		2	48	2	1	25	1
46	11. 14～ 11. 20	263	11	5	39		13	25		2	32	1	2	25	5
47	11. 21～ 11. 27	263	20		38		23	25		1	28	3		25	2
48	11. 28～ 12. 4	263	14	2	39		12	25			33			25	6
49	12. 5～ 12. 11	263	12	2	39		14	25	1	1	34	1	1	25	4
50	12. 12～ 12. 18	259	17	5	39		31	25			34	1	1	25	17
51	12. 19～ 12. 25	260	10	2	39		21	25			22	3		25	31
52	12. 26～ 1. 1	249	7	5	36		12	25			6	1	2	25	39
合 計			983	208		11	1,201		33	77	1,047	50	108		649

表4-2(1) 週別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2016年第1週～第52週

週	期 間	報告 定点数 (イン フル エン ザ)	イン フル エン ザ	報告 定点数 (小児科)	R S ウ ィ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 球 菌 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
1	1. 4～ 1. 10	412	1.66	260	0.59	0.38	1.90	8.24	0.98	0.04	0.39	0.33	0.02	0.01	0.79
2	1. 11～ 1. 17	416	3.78	262	0.34	0.19	2.35	8.60	0.54	0.06	0.42	0.51		0.02	0.73
3	1. 18～ 1. 24	415	11.19	262	0.43	0.30	3.03	8.68	0.53	0.03	0.37	0.42	0.02	0.01	0.45
4	1. 25～ 1. 31	415	25.98	261	0.49	0.18	3.30	8.84	0.54	0.07	0.42	0.40	0.01		0.54
5	2. 1～ 2. 7	415	39.43	261	0.26	0.25	3.37	8.44	0.47	0.03	0.29	0.44		0.02	0.56
6	2. 8～ 2. 14	416	37.25	262	0.17	0.21	2.98	7.03	0.45	0.03	0.31	0.34	0.00	0.00	0.45
7	2. 15～ 2. 21	415	29.91	261	0.12	0.20	2.83	7.24	0.38	0.03	0.30	0.43	0.01	0.00	0.63
8	2. 22～ 2. 28	414	25.82	260	0.12	0.18	2.98	6.78	0.27	0.03	0.25	0.40	0.02	0.02	0.43
9	2. 29～ 3. 6	415	22.89	260	0.13	0.17	2.85	7.00	0.38	0.01	0.31	0.40	0.00	0.03	0.47
10	3. 7～ 3. 13	415	19.43	261	0.10	0.17	2.88	6.49	0.31	0.02	0.18	0.48	0.02	0.02	0.49
11	3. 14～ 3. 20	413	14.86	259	0.10	0.18	2.96	6.14	0.27	0.02	0.17	0.48	0.00	0.02	0.47
12	3. 21～ 3. 27	415	9.30	261	0.10	0.12	2.26	4.99	0.33	0.07	0.13	0.35		0.02	0.43
13	3. 28～ 4. 3	415	7.45	261	0.05	0.14	1.95	5.12	0.35	0.02	0.11	0.41	0.02	0.00	0.44
14	4. 4～ 4. 10	414	4.90	260	0.07	0.21	1.98	4.84	0.42	0.03	0.20	0.45	0.01	0.01	0.43
15	4. 11～ 4. 17	411	3.57	257	0.13	0.16	2.81	5.94	0.26	0.03	0.22	0.51	0.01	0.02	0.42
16	4. 18～ 4. 24	414	2.86	260	0.14	0.33	2.93	6.85	0.38	0.08	0.25	0.61	0.03	0.02	0.43
17	4. 25～ 5. 1	409	1.42	256	0.09	0.46	2.80	5.48	0.34	0.04	0.20	0.62	0.00	0.02	0.48
18	5. 2～ 5. 8	412	0.43	258	0.03	0.38	2.06	4.10	0.33	0.05	0.17	0.54		0.04	0.41
19	5. 9～ 5. 15	413	0.24	261	0.05	0.56	2.66	5.52	0.47	0.07	0.21	0.75	0.01	0.08	0.55
20	5. 16～ 5. 22	414	0.24	260	0.06	0.52	3.03	6.45	0.35	0.08	0.18	0.79	0.01	0.07	0.61
21	5. 23～ 5. 29	408	0.18	257	0.10	0.82	3.28	7.06	0.56	0.14	0.30	0.84	0.01	0.12	0.47
22	5. 30～ 6. 5	413	0.08	259	0.05	0.81	3.27	6.87	0.41	0.17	0.16	0.83	0.01	0.25	0.56
23	6. 6～ 6. 12	413	0.07	259	0.10	1.00	3.44	7.39	0.50	0.31	0.25	0.81	0.02	0.40	0.67
24	6. 13～ 6. 19	413	0.05	260	0.04	0.92	3.23	6.65	0.43	0.40	0.18	0.62	0.02	0.87	0.61
25	6. 20～ 6. 26	411	0.02	258	0.12	0.82	3.02	6.10	0.52	0.52	0.19	0.85	0.03	1.63	0.67
26	6. 27～ 7. 3	416	0.02	262	0.12	0.85	3.20	5.87	0.42	0.50	0.21	0.81	0.02	2.32	0.72
27	7. 4～ 7. 10	414	0.02	261	0.10	0.57	2.79	5.52	0.44	0.73	0.15	0.62	0.02	4.04	0.85
28	7. 11～ 7. 17	410	0.02	259	0.14	0.71	3.05	5.37	0.31	0.92	0.18	0.64	0.02	5.89	0.80
29	7. 18～ 7. 24	413	0.01	262	0.16	0.39	2.06	3.99	0.40	0.88	0.15	0.50	0.02	4.98	0.82
30	7. 25～ 7. 31	414	0.01	260	0.25	0.54	1.97	4.60	0.32	0.87	0.15	0.52	0.02	6.15	1.00
31	8. 1～ 8. 7	407	0.01	259	0.36	0.30	1.65	4.41	0.33	1.02	0.19	0.56	0.03	5.24	0.91
32	8. 8～ 8. 14	389	0.02	244	0.42	0.34	1.01	3.29	0.28	0.75	0.14	0.37	0.00	3.43	0.70
33	8. 15～ 8. 21	392	0.01	243	0.41	0.22	0.87	2.95	0.26	0.53	0.09	0.41	0.00	1.48	0.79
34	8. 22～ 8. 28	409	0.04	256	0.67	0.21	1.10	3.34	0.25	0.95	0.15	0.57	0.00	1.90	0.79
35	8. 29～ 9. 4	410	0.03	258	1.21	0.30	1.21	4.23	0.22	0.98	0.12	0.62	0.01	2.16	0.57
36	9. 5～ 9. 11	415	0.07	262	1.71	0.36	1.27	4.57	0.23	1.00	0.14	0.67	0.01	1.58	0.56
37	9. 12～ 9. 18	407	0.13	260	2.22	0.35	1.58	4.32	0.22	1.30	0.11	0.69	0.02	1.30	0.72
38	9. 19～ 9. 25	408	0.10	258	1.98	0.19	1.18	3.65	0.30	1.27	0.07	0.53	0.01	0.93	0.72
39	9. 26～10. 2	414	0.15	260	2.56	0.26	1.59	4.19	0.33	1.77	0.07	0.56		1.27	0.85
40	10. 3～10. 9	411	0.23	259	2.79	0.27	1.54	4.52	0.37	1.92	0.06	0.61	0.03	1.69	0.83
41	10. 10～10. 16	413	0.24	260	2.03	0.18	1.25	4.05	0.28	1.63	0.07	0.47	0.02	0.79	0.83
42	10. 17～10. 23	412	0.31	261	1.67	0.24	1.88	5.13	0.35	1.42	0.08	0.50	0.03	0.55	0.95
43	10. 24～10. 30	410	0.39	260	1.20	0.24	1.75	6.47	0.36	1.30	0.10	0.55	0.01	0.35	0.73
44	10. 31～11. 6	415	0.58	263	0.59	0.20	1.86	9.45	0.29	1.01	0.08	0.47	0.02	0.22	0.82
45	11. 7～11. 13	414	0.94	261	0.54	0.23	1.94	14.07	0.49	0.67	0.08	0.44	0.03	0.17	0.90
46	11. 14～11. 20	416	1.57	263	0.51	0.29	2.07	20.24	0.49	0.75	0.06	0.54	0.02	0.19	0.69
47	11. 21～11. 27	416	1.75	263	0.32	0.42	2.02	19.60	0.52	0.59	0.13	0.43	0.01	0.11	0.60
48	11. 28～12. 4	417	2.78	263	0.29	0.41	2.19	26.60	0.78	0.57	0.15	0.56	0.02	0.11	0.68
49	12. 5～12. 11	417	4.02	263	0.31	0.45	2.82	27.24	0.61	0.44	0.21	0.48	0.03	0.06	0.55
50	12. 12～12. 18	413	6.24	259	0.20	0.44	2.60	28.49	0.70	0.38	0.19	0.50	0.01	0.06	0.54
51	12. 19～12. 25	413	10.56	260	0.22	0.43	2.26	20.65	0.55	0.28	0.20	0.42	0.01	0.05	0.45
52	12. 26～ 1. 1	396	9.06	249	0.11	0.31	1.28	10.06	0.46	0.15	0.08	0.22	0.02	0.02	0.32
平 均			5.81		0.52	0.37	2.31	8.15	0.41	0.52	0.18	0.54	0.01	0.97	0.63

表4-2(2) 週別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2016年第1週～第52週

週	期 間	報告定点数(小児科)	不明発しん症	川崎病	報告定点数(眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	報告定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	報告定点数(基幹)	インフルエンザ入院
1	1. 4～ 1.10	260	0.05	0.03	39		0.59	25		0.04	2.04			25	0.32
2	1. 11～ 1.17	262	0.06	0.00	39		0.59	25			1.16	0.04		25	0.36
3	1. 18～ 1.24	262	0.04	0.02	39		0.46	25	0.04	0.04	0.48	0.04	0.08	25	1.24
4	1. 25～ 1.31	261	0.05	0.02	39		0.69	25	0.04		0.52	0.04		25	1.80
5	2. 1～ 2. 7	261	0.05	0.01	38		0.55	25		0.04	0.56	0.04	0.12	25	2.56
6	2. 8～ 2.14	262	0.04	0.02	39		0.46	25		0.04	0.56	0.08	0.12	25	3.28
7	2.15～ 2.21	261	0.06	0.02	39		0.56	25		0.04	0.44		0.52	25	2.84
8	2.22～ 2.28	260	0.05	0.01	39		0.51	25	0.04		0.20	0.04	0.12	25	1.92
9	2.29～ 3. 6	260	0.05	0.02	38		0.18	25	0.04	0.08	0.24	0.12	0.08	25	1.48
10	3. 7～ 3.13	261	0.04	0.01	39		0.44	25			0.40	0.12	0.16	25	1.24
11	3.14～ 3.20	259	0.06	0.02	39	0.03	0.38	25		0.08	0.52	0.04	0.24	25	1.32
12	3.21～ 3.27	261	0.02	0.00	39	0.05	0.36	25	0.04		0.20		0.20	25	0.88
13	3.28～ 4. 3	261	0.06	0.01	39		0.36	25	0.04		0.40		0.04	25	0.32
14	4. 4～ 4.10	260	0.04	0.01	39		0.67	25	0.04	0.04	0.24	0.04	0.24	25	0.48
15	4.11～ 4.17	257	0.05	0.01	39		0.44	25	0.08	0.04	0.32		0.48	25	0.24
16	4.18～ 4.24	260	0.03	0.01	39		0.59	25		0.16	0.12		0.28	25	0.32
17	4.25～ 5. 1	256	0.05	0.02	39		0.56	25		0.04	0.40	0.04	0.36	25	0.20
18	5. 2～ 5. 8	258	0.05	0.02	39		0.38	25	0.08		0.12		0.08	25	0.16
19	5. 9～ 5.15	261	0.04	0.02	38		0.79	25	0.04		0.28	0.04		25	0.08
20	5.16～ 5.22	260	0.08	0.01	39		0.56	25		0.12	0.28		0.16	25	
21	5.23～ 5.29	257	0.09	0.02	38	0.03	0.84	25		0.04	0.20	0.04	0.08	25	0.04
22	5.30～ 6. 5	259	0.08	0.02	39		0.64	25	0.08		0.28	0.04	0.08	25	
23	6. 6～ 6.12	259	0.10	0.02	39		0.62	25	0.04	0.04	0.32	0.08	0.08	25	
24	6.13～ 6.19	260	0.13	0.02	39	0.03	0.85	25	0.04	0.08	0.56		0.04	25	
25	6.20～ 6.26	258	0.12	0.01	39		0.85	25		0.08	0.52		0.04	25	
26	6.27～ 7. 3	262	0.14	0.01	39	0.03	0.46	25	0.04	0.08	0.56	0.08		25	
27	7. 4～ 7.10	261	0.13	0.00	38	0.03	0.84	25	0.04	0.04	0.56	0.04	0.04	25	
28	7.11～ 7.17	259	0.12	0.03	38	0.03	0.87	25	0.08	0.08	1.04			25	0.04
29	7.18～ 7.24	262	0.13	0.03	39		0.95	25		0.08	0.64			25	
30	7.25～ 7.31	260	0.10	0.02	39		1.00	25	0.08	0.04	0.88	0.08		25	
31	8. 1～ 8. 7	259	0.11	0.01	39		0.54	25	0.08	0.08	0.92			25	
32	8. 8～ 8.14	244	0.10	0.00	39	0.03	0.64	25		0.20	0.92			25	0.04
33	8.15～ 8.21	243	0.06		36		0.58	25	0.04	0.12	1.04	0.04		25	
34	8.22～ 8.28	256	0.10	0.03	39		0.77	25		0.08	1.16			25	
35	8.29～ 9. 4	258	0.10	0.02	38		0.79	25	0.08	0.20	0.72			25	0.04
36	9. 5～ 9.11	262	0.10	0.03	38		0.84	25		0.08	0.96	0.04	0.04	25	
37	9.12～ 9.18	260	0.10	0.02	39		0.72	25		0.08	0.92	0.08		25	0.08
38	9.19～ 9.25	258	0.05	0.02	39		0.49	25	0.04	0.12	0.92			25	0.12
39	9.26～10. 2	260	0.12	0.01	39		0.77	25	0.04	0.12	1.12	0.08		25	0.04
40	10. 3～10. 9	259	0.10	0.03	39		0.67	25	0.04	0.04	2.12	0.12	0.08	25	0.08
41	10.10～10.16	260	0.08	0.03	39	0.05	0.59	25		0.24	1.76	0.04		25	
42	10.17～10.23	261	0.07	0.01	39		0.54	25	0.04	0.08	1.64	0.04	0.04	25	0.08
43	10.24～10.30	260	0.08	0.04	39		0.69	25		0.04	1.84	0.04	0.16	25	0.16
44	10.31～11. 6	263	0.10	0.00	39		0.56	25	0.04	0.04	1.32		0.08	25	
45	11. 7～11.13	261	0.07	0.01	39		0.51	25		0.08	1.92	0.08	0.04	25	0.04
46	11.14～11.20	263	0.04	0.02	39		0.33	25		0.08	1.28	0.04	0.08	25	0.20
47	11.21～11.27	263	0.08		38		0.61	25		0.04	1.12	0.12		25	0.08
48	11.28～12. 4	263	0.05	0.01	39		0.31	25			1.32			25	0.24
49	12. 5～12.11	263	0.05	0.01	39		0.36	25	0.04	0.04	1.36	0.04	0.04	25	0.16
50	12.12～12.18	259	0.07	0.02	39		0.79	25			1.36	0.04	0.04	25	0.68
51	12.19～12.25	260	0.04	0.01	39		0.54	25			0.88	0.12		25	1.24
52	12.26～ 1. 1	249	0.03	0.02	36		0.33	25			0.24	0.04	0.08	25	1.56
平 均			0.07	0.02		0.01	0.60		0.03	0.06	0.81	0.04	0.08		0.50

表5-1(1) 保健所別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2016年第1週～第52週

	設置 定点数 (イン フルエ ンザ)	イン フルエ ンザ	設置 定点数 (小児 科)	R S ウイ ルス 感染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘ ル パ ン ギ ー ナ
千代田	4	962	3	29	12	59	325	25	34	6	22	1	55
中央区	5	1,422	3	74	73	242	1,597	18	237	10	82	1	306
みなと	9	2,645	6	250	263	513	2,367	123	196	26	191	9	357
新宿区	12	2,550	8	357	125	734	2,258	126	84	26	165	8	259
文京	7	1,484	4	47	102	242	1,220	80	99	21	100	1	130
台東	7	1,499	4	120	174	354	2,465	68	407	55	180		430
墨田区	8	2,361	5	119	89	472	1,274	75	89	56	134		239
江東区	14	4,414	9	303	129	1,008	6,461	218	256	94	305	4	590
品川区	12	2,107	8	120	86	391	3,392	100	143	37	212		413
目黒区	8	1,684	5	214	112	554	2,361	55	235	65	145	3	271
大田区	21	5,869	13	479	449	1,916	7,221	247	404	210	387	23	767
世田谷	25	8,694	16	421	301	3,162	6,277	295	411	180	328	4	725
渋谷区	7	1,262	4	20	14	106	1,240	53	41	27	75		84
中野区	11	3,237	7	143	129	730	4,378	194	115	123	282		470
杉並	16	3,865	10	126	132	791	3,725	203	88	67	194	4	180
池袋	8	1,603	5	205	68	179	767	47	72	15	32	5	93
北区	11	2,717	7	59	51	443	2,599	69	294	24	226	4	283
荒川区	7	2,923	4	356	134	692	1,609	114	216	19	158	11	346
板橋区	16	3,013	10	34	60	383	2,427	206	194	26	225	15	183
練馬区	21	6,090	13	222	164	2,140	5,135	351	298	74	404	5	605
足立	20	5,813	13	347	201	1,431	6,134	354	311	142	337	3	665
葛飾区	13	4,415	8	68	60	968	3,914	185	212	163	250	1	384
江戸川	19	5,878	12	348	323	1,729	6,296	155	208	161	282	3	687
八王子市	18	7,965	11	531	313	1,629	7,344	382	370	141	344	17	988
町田市	13	5,010	8	115	117	1,364	4,965	254	203	93	224	3	479
西多摩	14	4,235	8	106	133	555	1,957	147	176	64	114	14	264
南多摩	14	4,928	9	303	115	940	3,415	214	170	98	258	3	546
多摩立川	21	6,234	14	273	58	1,971	4,140	274	400	108	296	2	470
多摩府中	33	10,920	21	518	384	2,025	7,360	465	593	195	704	35	912
多摩小平	23	9,042	15	714	637	3,321	5,616	443	434	159	573	2	904
島しょ	2	366	1		18	167		1	3		2		9
合 計	419	125,207	264	7,021	5,026	31,211	110,239	5,541	6,993	2,485	7,231	181	13,094
定点当たり報告数		302.31		27.06	19.38	120.13	423.72	21.34	26.97	9.57	27.87	0.70	50.69
前年定点当たり報告数		145.11		27.82	20.77	134.57	350.13	26.04	126.39	39.08	30.10	1.15	27.91
当年/前年		2.08		0.97	0.93	0.89	1.21	0.82	0.21	0.24	0.93	0.60	1.82

表5-1(2) 保健所別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2016年第1週～第52週

	設置定点数(小児科)	流行性耳下腺炎	不明発しん症	川崎病		設置定点数(眼科)	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎		設置定点数(基幹)	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	感染性胃腸炎 (ロタウイルスによる)	インフルエンザ入院
千代田	3	12	7	4						2	1		93		7	46
中央区	3	32	19	3	1		59									
みなと	6	211	4	10						1	1		42	35		45
新宿区	8	26	17	34	2	1	48			2	2	4	103		7	35
文京	4	77	3	1	1		52			1						25
台東	4	202	20	1												
墨田区	5	148	42	1	1		27			1	8	24	81			40
江東区	9	332	36	7	1		21									
品川区	8	158	11	3	1	1	14									
目黒区	5	116	34	3	1		10									
大田区	13	424	62	25	2		43			1	1					
世田谷	16	461	92	9	2	1	17			2	7	26	15			115
渋谷区	4	25	3		1		48			1	2	2	85		24	38
中野区	7	79	12	5	1		23									
杉並	10	73	24	14	1	2	48			2			74			11
池袋	5	28	1	5	1		50			1	1		75		1	40
北区	7	100	3	1	1		18									
荒川区	4	163	3	7	1		38									
板橋区	10	158	57	1	2	2	59			1			25		1	18
練馬区	13	231	27	4	2		145									
足立	13	535	20	4	2	1	156									
葛飾区	8	353	41		1		47			1	1	3	132		25	51
江戸川	12	266	25	12	2		28									
八王子市	11	1,016	80	7	2		64			1	1		33	1	6	11
町田市	8	517	101	8	1		8									
西多摩	8	215	7	2	1		9			1	1	1	30			22
南多摩	9	276	13	2	1		11									
多摩立川	14	472	26	10	2		42			1			24		21	1
多摩府中	21	1,261	127	15	3	3	30			3	5	10	180	14	16	90
多摩小平	15	552	66	10	2		86			2	2	7	55			60
島しょ	1	7								1						1
合 計	264	8,526	983	208	39	11	1,201			25	33	77	1,047	50	108	649
定点当たり報告数		32.88	3.79	0.80			0.28	31.03			1.32	3.08	41.88	2.00	4.32	25.96
前年定点当たり報告数		18.83	5.06	0.77			0.36	32.49			1.52	2.92	30.85	2.36	3.96	19.44
当年/前年		1.75	0.75	1.05			0.79	0.95			0.87	1.05	1.36	0.85	1.09	1.34

表5-2(1) 保健所別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科)

2016 年第 1 週～第 52 週

	設置 定点数 (イン フルエ ンザ)	イン フル エン ザ	設置 定点数 (小児 科)	R S ウ イ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギー ナ
千代田	4	240.50	3	9.67	4.00	19.67	108.33	8.33	11.33	2.00	7.33	0.33	18.33
中央区	5	301.45	3	25.67	25.50	91.00	580.83	6.50	80.17	3.83	29.67	0.33	104.17
みなと	9	293.89	6	41.97	43.90	85.57	395.03	20.57	32.80	4.33	31.93	1.50	59.83
新宿区	12	211.28	8	44.63	15.63	91.75	282.25	15.75	10.50	3.25	20.63	1.00	32.38
文京	7	213.14	4	11.75	25.50	60.67	305.92	20.00	24.75	5.25	25.08	0.25	32.50
台東	7	214.14	4	30.00	43.50	88.50	616.25	17.00	101.75	13.75	45.00		107.50
墨田区	8	295.13	5	23.80	17.80	94.40	254.80	15.00	17.80	11.20	26.80		47.80
江東区	14	315.29	9	33.67	14.33	112.00	717.89	24.22	28.44	10.44	33.89	0.44	65.56
品川区	12	175.58	8	15.00	10.75	48.88	424.00	12.50	17.88	4.63	26.50		51.63
目黒区	8	210.50	5	43.20	22.55	111.25	473.00	11.00	47.20	13.00	29.05	0.60	54.90
大田区	21	295.31	13	39.04	35.70	150.43	567.04	19.68	32.25	16.75	30.64	1.82	62.84
世田谷	25	347.77	16	26.54	18.88	198.33	393.00	18.51	25.80	11.32	20.63	0.25	46.22
渋谷区	7	180.79	4	5.00	3.50	26.50	310.00	13.25	10.25	6.75	18.75		21.00
中野区	11	323.70	7	23.83	21.50	121.67	729.67	32.33	19.17	20.50	47.00		78.33
杉並	16	242.02	10	11.62	12.67	76.19	353.08	19.75	8.14	6.59	18.50	0.39	16.95
池袋	8	229.00	5	51.25	17.00	44.75	191.75	11.75	18.00	3.75	8.00	1.25	23.25
北区	11	247.10	7	8.43	7.29	63.29	371.29	9.86	42.00	3.43	32.29	0.57	40.43
荒川区	7	417.57	4	89.00	33.50	173.00	402.25	28.50	54.00	4.75	39.50	2.75	86.50
板橋区	16	188.33	10	3.40	6.20	39.02	244.71	21.22	19.53	2.69	23.02	1.52	18.47
練馬区	21	290.00	13	17.08	12.65	164.92	395.28	27.03	22.97	5.71	31.11	0.38	47.00
足立	20	293.68	13	26.96	15.72	110.81	476.36	27.80	24.46	11.13	26.21	0.24	52.91
葛飾区	13	341.49	8	8.52	7.50	121.45	490.09	23.13	26.50	20.43	31.30	0.13	48.00
江戸川	19	319.14	12	30.40	28.24	150.44	542.60	13.44	18.40	13.85	24.47	0.25	60.67
八王子市	18	442.50	11	48.50	28.60	148.76	672.18	35.09	34.51	12.90	31.52	1.55	93.13
町田市	13	385.39	8	14.38	14.63	170.50	620.63	31.75	25.38	11.63	28.00	0.38	59.88
西多摩	14	302.50	8	13.25	16.63	69.38	244.63	18.38	22.00	8.00	14.25	1.75	33.00
南多摩	14	352.00	9	33.67	12.78	104.44	379.44	23.78	18.89	10.89	28.67	0.33	60.67
多摩立川	21	296.88	14	19.99	4.15	141.24	296.60	19.64	29.02	7.72	21.22	0.15	33.85
多摩府中	33	337.07	21	26.41	19.46	101.49	369.82	23.49	30.26	9.80	35.63	1.75	47.07
多摩小平	23	393.13	15	47.60	42.47	221.40	374.40	29.53	28.93	10.60	38.20	0.13	60.27
島しょ	2	183.00	1		18.00	167.00		1.00	3.00		2.00		9.00
定点当たり報告数		302.31		27.06	19.38	120.13	423.72	21.34	26.97	9.57	27.87	0.70	50.69
前年定点当たり報告数		145.11		27.82	20.77	134.57	350.13	26.04	126.39	39.08	30.10	1.15	27.91
当年/前年		2.08		0.97	0.93	0.89	1.21	0.82	0.21	0.24	0.93	0.60	1.82

表5-2(2) 保健所別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹)

2016年第1週～第52週

	設置 定点数 (小児科)	流行性 耳下腺炎	不明 発しん 症	川崎 病		設置 定点数 (眼科)	急性 出血性 結膜炎	流行性 角結膜 炎		設置 定点数 (基幹)	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	(オウム 病を除く) クラミジ ア肺炎	(ロタウイ ルスによ る) 感染性胃 腸炎	インフ ルエンザ 入院
千代田	3	4.00	2.33	1.33						2	0.50		46.50		3.50	23.00
中央区	3	11.83	6.83	1.00	1		59.00									
みなと	6	35.43	0.67	1.67						1	1.00		42.00	35.00		45.00
新宿区	8	3.25	2.13	4.25	2	0.50	24.00			2	1.00	2.00	51.50		3.50	17.50
文京	4	19.42	0.75	0.25	1		52.00			1						25.00
台東	4	50.50	5.00	0.25												
墨田区	5	29.60	8.40	0.20	1		27.00			1	8.00	24.00	81.00			40.00
江東区	9	36.89	4.00	0.78	1		21.00									
品川区	8	19.75	1.38	0.38	1	1.00	14.00									
目黒区	5	23.50	7.00	0.60	1		10.00									
大田区	13	33.56	4.86	1.94	2		21.50			1	1.00					
世田谷	16	29.02	5.80	0.56	2	0.50	8.50			2	3.50	13.00	7.50			57.50
渋谷区	4	6.25	0.75		1		48.00			1	2.00	2.00	85.00		24.00	38.00
中野区	7	13.17	2.00	0.83	1		23.00									
杉並	10	6.86	2.29	1.36	1	2.00	48.00			2			37.00			5.50
池袋	5	7.00	0.25	1.25	1		50.00			1	1.00		75.00		1.00	40.00
北区	7	14.29	0.43	0.14	1		18.00									
荒川区	4	40.75	0.75	1.75	1		38.00									
板橋区	10	16.02	5.83	0.10	2	1.00	29.50			1			25.00		1.00	18.00
練馬区	13	17.83	2.08	0.31	2		72.50									
足立	13	41.58	1.59	0.31	2	0.50	78.00									
葛飾区	8	44.21	5.13		1		47.00			1	1.00	3.00	132.00		25.00	51.00
江戸川	12	23.14	2.17	1.05	2		14.00									
八王子市	11	94.40	7.31	0.64	2		32.50			1	1.00		33.00	1.00	6.00	11.00
町田市	8	64.63	12.63	1.00	1		8.00									
西多摩	8	26.88	0.88	0.25	1		9.00			1	1.00	1.00	30.00			22.00
南多摩	9	30.67	1.44	0.22	1		11.00									
多摩立川	14	34.02	1.89	0.71	2		21.00			1			24.00		21.00	1.00
多摩府中	21	63.43	6.48	0.76	3	1.17	10.17			3	1.67	3.33	60.00	4.67	5.33	30.00
多摩小平	15	36.80	4.40	0.67	2		43.00			2	1.00	3.50	27.50			30.00
島しょ	1	7.00								1						1.00
定点当たり報告数		32.88	3.79	0.80		0.28	31.03				1.32	3.08	41.88	2.00	4.32	25.96
前年定点当たり報告数		18.83	5.06	0.77		0.36	32.49				1.52	2.92	30.85	2.36	3.96	19.44
当年/前年		1.75	0.75	1.05		0.79	0.95				0.87	1.05	1.36	0.85	1.09	1.34

表6 年齢階級別患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹) 2016年第1週～第52週

	インフルエンザ	R S ウイルス感染症	咽頭結膜熱	A 球菌咽頭炎 レンサ	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
6か月未満	274	901	24	18	824	61	67	1	121	13	81
12か月未満	1,278	1,660	418	149	6,025	184	876	38	2,341	9	1,325
1歳	3,962	2,803	1,419	1,087	13,454	339	2,751	137	3,737	12	4,016
2歳	4,650	996	698	1,788	10,400	323	1,163	146	698	5	2,772
3歳	5,831	405	676	2,870	10,355	424	655	293	180	5	1,665
4歳	7,676	164	517	3,982	10,767	711	472	405	81	5	1,263
5歳	8,668	55	403	3,965	9,630	842	323	418	35	3	818
6歳	9,093	9	245	3,805	7,898	685	200	304	12	4	406
7歳	9,351	4	166	3,341	6,225	652	118	240	10	2	227
8歳	8,118	5	110	2,679	5,293	498	79	215	5	8	162
9歳	6,494	3	73	1,948	4,057	320	52	107	8	7	84
10～14歳	18,809	4	135	3,548	10,090	413	119	135	2	29	141
15～19歳	5,468		19	310	2,448	28	11	8		11	15
20～29歳	5,974	12	123	1,721	12,773	61	107	38	1	68	119
30～39歳	9,509										
40～49歳	10,307										
50～59歳	5,163										
60～69歳	2,766										
70～79歳	1,254										
80歳以上	562										
合 計	125,207	7,021	5,026	31,211	110,239	5,541	6,993	2,485	7,231	181	13,094

	流行性耳下腺炎	不明発しん症	川崎病	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラウミア肺炎を除く	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
6か月未満		28	8		6	12	16			8	23
12か月未満	17	145	40		20		2	6		4	24
1歳	197	314	65		48	2	2	32		22	36
2歳	315	132	36	1	47		2	54		16	38
3歳	586	95	17		38	1		72		13	25
4歳	925	66	21		31	1	3	77	1	13	13
5歳	1,210	48	11		33	2		71		11	24
6歳	1,137	38	1	1	21		5	84		10	14
7歳	1,138	18	4		23			97		6	21
8歳	921	19	1		17		2	71			16
9歳	691	20	2		6		2	64		1	14
10～14歳	1,074	28	2		46	2	6	198		3	26
15～19歳	98	8		1	25	1	2	47	2	1	13
20～29歳	217	24		2	152	1	3	52	3		16
30～39歳				1	280		16	42	7		17
40～49歳				1	206	3	6	24	3		22
50～59歳				4	77	1	3	23	7		27
60～69歳					70	1	2	13	10		48
70～79歳					55	6	3	8	8		86
80歳以上							2	12	9		146
合 計	8,526	983	208	11	1,201	33	77	1,047	50	108	649

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

注：眼科定点把握対象疾患の「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

表7-1 二次医療圏別患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹)

2016年第1週～第52週

	設置 定点 数 (イン フル エン ザ)	イン フル エン ザ	設置 定点 数 (小児科)	R S ウイ ルス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ
1 区中央部圏	32	8,012	20	520	624	1,410	7,974	314	973	118	575	12	1,278	
2 区南部圏	33	7,976	21	599	535	2,307	10,613	347	547	247	599	23	1,180	
3 区西南部圏	40	11,640	25	655	427	3,822	9,878	403	687	272	548	7	1,080	
4 区西部圏	39	9,652	25	626	386	2,255	10,361	523	287	216	641	12	909	
5 区西北部圏	56	13,423	35	520	343	3,145	10,928	673	858	139	887	29	1,164	
6 区東北部圏	40	13,151	25	771	395	3,091	11,657	653	739	324	745	15	1,395	
7 区東部圏	41	12,653	26	770	541	3,209	14,031	448	553	311	721	7	1,516	
8 西多摩圏	14	4,235	8	106	133	555	1,957	147	176	64	114	14	264	
9 南多摩圏	45	17,903	28	949	545	3,933	15,724	850	743	332	826	23	2,013	
10 北多摩西部圏	21	6,234	14	273	58	1,971	4,140	274	400	108	296	2	470	
11 北多摩南部圏	33	10,920	21	518	384	2,025	7,360	465	593	195	704	35	912	
12 北多摩北部圏	23	9,042	15	714	637	3,321	5,616	443	434	159	573	2	904	
13 島しょ圏	2	366	1		18	167		1	3		2		9	
合 計	419	125,207	264	7,021	5,026	31,211	110,239	5,541	6,993	2,485	7,231	181	13,094	

	設置 定点 数 (小児 科)	流 行 性 耳 下 腺 炎	不 明 発 し ん 症	川 崎 病	設置 定点 数 (眼 科)	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	設置 定点 数 (基 幹)	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	ク ラ ミ ジ ア 肺 炎 (オ ウ ム 病 を 除 く)	感 染 性 胃 腸 炎 (ロ タ ウ イ ル ス に よ る)	イン フル エン ザ 入 院
1 区中央部圏	20	534	53	19	2		111	4	2		135	35	7	116
2 区南部圏	21	582	73	28	3	1	57	1	1					
3 区西南部圏	25	602	129	12	4	1	75	3	9	28	100		24	153
4 区西部圏	25	178	53	53	4	3	119	4	2	4	177		7	46
5 区西北部圏	35	517	88	11	6	2	272	2	1		100		2	58
6 区東北部圏	25	1,051	64	11	4	1	241	1	1	3	132		25	51
7 区東部圏	26	746	103	20	4		76	1	8	24	81			40
8 西多摩圏	8	215	7	2	1		9	1	1	1	30			22
9 南多摩圏	28	1,809	194	17	4		83	1	1		33	1	6	11
10 北多摩西部圏	14	472	26	10	2		42	1			24		21	1
11 北多摩南部圏	21	1,261	127	15	3	3	30	3	5	10	180	14	16	90
12 北多摩北部圏	15	552	66	10	2		86	2	2	7	55			60
13 島しょ圏	1	7						1						1
合 計	264	8,526	983	208	39	11	1,201	25	33	77	1,047	50	108	649

表7-2 二次医療圏別定点当たり患者報告数(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹)

2016年第1週～第52週

	（インフルエンザ） 設置 定点数	インフルエンザ	設置 定点数（小児科）	R S ウイ ルス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ
1 区中央部圏	32	253.19	20	26.22	31.67	72.04	403.44	15.93	49.07	6.02	29.26	0.61	64.34	
2 区南部圏	33	250.17	21	29.51	26.07	111.11	511.41	16.85	26.71	12.01	29.00	1.11	57.94	
3 区西南部圏	40	291.20	25	26.39	17.14	153.33	395.74	16.16	27.62	10.92	22.02	0.28	43.85	
4 区西部圏	39	253.75	25	25.30	15.75	92.45	422.23	21.38	11.58	8.87	26.17	0.49	36.93	
5 区西北部圏	56	244.09	35	15.31	10.16	92.96	322.33	19.89	25.30	4.12	26.24	0.86	34.41	
6 区東北部圏	40	331.05	25	31.02	15.93	124.33	469.49	26.44	29.86	13.07	30.02	0.60	56.76	
7 区東部圏	41	312.72	26	30.21	21.26	125.71	547.79	17.53	21.80	12.15	28.29	0.27	59.67	
8 西多摩圏	14	302.50	8	13.25	16.63	69.38	244.63	18.38	22.00	8.00	14.25	1.75	33.00	
9 南多摩圏	45	397.84	28	33.96	19.51	140.79	562.89	30.45	26.76	11.90	29.60	0.82	72.85	
10 北多摩西部圏	21	296.88	14	19.99	4.15	141.24	296.60	19.64	29.02	7.72	21.22	0.15	33.85	
11 北多摩南部圏	33	337.07	21	26.41	19.46	101.49	369.82	23.49	30.26	9.80	35.63	1.75	47.07	
12 北多摩北部圏	23	393.13	15	47.60	42.47	221.40	374.40	29.53	28.93	10.60	38.20	0.13	60.27	
13 島しょ圏	2	183.00	1		18.00	167.00		1.00	3.00		2.00		9.00	

	設置 定点数 (小児 科)	流行 性 耳 下 腺 炎	不 明 発 し ん 症	川 崎 病	設置 定点数 (眼科)	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	設置 定点数 (基 幹)	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	ク ラ ミ ジ ア 肺 炎 (オ ウ ム 病 を 除 く)	感 染 性 胃 腸 炎 (ロ タ ウ イ ル ス に よ る)	イン フル エン ザ 入 院
1 区中央部圏	20	27.07	2.70	0.96	2		55.50	4	0.50		33.75	8.75	1.75	29.00
2 区南部圏	21	28.19	3.52	1.34	3	0.33	19.00	1	1.00					
3 区西南部圏	25	24.26	5.22	0.48	4	0.25	19.00	3	3.00	9.33	33.33		8.00	51.00
4 区西部圏	25	7.21	2.15	2.17	4	0.75	29.92	4	0.50	1.00	44.25		1.75	11.50
5 区西北部圏	35	15.28	2.60	0.33	6	0.33	45.47	2	0.50		50.00		1.00	29.00
6 区東北部圏	25	42.44	2.58	0.44	4	0.25	60.25	1	1.00	3.00	132.00		25.00	51.00
7 区東部圏	26	29.21	4.06	0.79	4		19.75	1	8.00	24.00	81.00			40.00
8 西多摩圏	8	26.88	0.88	0.25	1		9.00	1	1.00	1.00	30.00			22.00
9 南多摩圏	28	65.10	6.97	0.61	4		20.83	1	1.00		33.00	1.00	6.00	11.00
10 北多摩西部圏	14	34.02	1.89	0.71	2		21.00	1			24.00		21.00	1.00
11 北多摩南部圏	21	63.43	6.48	0.76	3	1.17	10.17	3	1.67	3.33	60.00	4.67	5.33	30.00
12 北多摩北部圏	15	36.80	4.40	0.67	2		43.00	2	1.00	3.50	27.50			30.00
13 島しょ圏	1	7.00						1						1.00

表8-1 月別患者報告数(基幹)

2016年1月～12月

	報告定点数	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症
1月	25	62	16	
2月	25	73	14	1
3月	25	77	7	
4月	25	110	17	
5月	25	59	10	
6月	25	82	13	4
7月	25	63	8	2
8月	25	78	8	2
9月	25	80	7	4
10月	25	60	19	2
11月	25	61	6	2
12月	25	62	13	5
合 計		867	138	22

表8-2 月別定点当たり患者報告数(基幹)

2016年1月～12月

	報告定点数	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	薬剤耐性 緑膿菌感染症
1月	25	2.48	0.64	
2月	25	2.92	0.56	0.04
3月	25	3.08	0.28	
4月	25	4.40	0.68	
5月	25	2.36	0.40	
6月	25	3.28	0.52	0.16
7月	25	2.52	0.32	0.08
8月	25	3.12	0.32	0.08
9月	25	3.20	0.28	0.16
10月	25	2.40	0.76	0.08
11月	25	2.44	0.24	0.08
12月	25	2.48	0.52	0.20
平 均		2.89	0.46	0.07
合 計		34.68	5.52	0.88
前年合計		35.21	6.36	1.12
当年/前年		0.99	0.87	0.79

表8-3 月別・性別患者報告数(基幹) 2016年1月～12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
1月	39	23	11	5		
2月	41	32	8	6		1
3月	41	36	4	3		
4月	67	43	8	9		
5月	32	27	5	5		
6月	46	36	8	5	4	
7月	36	27	4	4	2	
8月	49	29	4	4	2	
9月	58	22	6	1	2	2
10月	36	24	10	9	2	
11月	40	21	3	3		2
12月	34	28	10	3	4	1
合 計	519	348	81	57	16	6

表8-4 性別・年齢階級別患者報告数(基幹) 2016年1月～12月

	メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
0歳	82	86	11	7		
1～4歳	55	50	23	25		
5～9歳	15	10	9	2		
10～14歳	13	11	2	3		
15～19歳	9	3	3	3		
20～24歳	6	4	1		3	
25～29歳	7	3	2		1	
30～34歳	5	3				
35～39歳	6	4				
40～44歳	5	4	2			
45～49歳	16	4	2	3	3	
50～54歳	8	7			1	
55～59歳	17	7		1	2	
60～64歳	19	14	3		2	
65～69歳	35	13	5	1	2	
70歳以上	221	125	18	12	2	6
合 計	519	348	81	57	16	6
定点当たり報告数	20.76	13.92	3.24	2.28	0.64	0.24
前年定点当たり報告数	23.08	12.13	3.79	2.57	0.68	0.44
当年／前年	0.90	1.15	0.85	0.89	0.94	0.55

表9-1 月別患者報告数(性感染症) 表9-2 月別定点あたり患者報告数(性感染症)
2016年1月～12月 2016年1月～12月

	報告 定点 数	性 器 ク ラ ミ ジ ア 感 染 症	性 感 染 症 ヘ ル ペ ス ウ イ ル ス	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	淋 菌 感 染 症	膣 ト リ コ モ ナ ス 症
1月	55	229	119	112	132	8
2月	55	206	108	110	129	3
3月	55	252	123	121	155	11
4月	55	189	131	103	99	10
5月	54	230	112	129	126	10
6月	55	240	123	113	170	14
7月	55	226	120	108	131	6
8月	55	224	117	114	109	12
9月	55	247	118	113	128	9
10月	55	233	121	113	136	10
11月	55	256	96	105	126	9
12月	55	180	112	80	87	15
合 計		2,712	1,400	1,321	1,528	117

	報告 定点 数	性 器 ク ラ ミ ジ ア 感 染 症	性 感 染 症 ヘ ル ペ ス ウ イ ル ス	尖 圭 コ ン ジ ロ ー マ	淋 菌 感 染 症	膣 ト リ コ モ ナ ス 症
1月	55	4.16	2.16	2.04	2.40	0.15
2月	55	3.75	1.96	2.00	2.35	0.05
3月	55	4.58	2.24	2.20	2.82	0.20
4月	55	3.44	2.38	1.87	1.80	0.18
5月	54	4.26	2.07	2.39	2.33	0.19
6月	55	4.36	2.24	2.05	3.09	0.25
7月	55	4.11	2.18	1.96	2.38	0.11
8月	55	4.07	2.13	2.07	1.98	0.22
9月	55	4.49	2.15	2.05	2.33	0.16
10月	55	4.24	2.20	2.05	2.47	0.18
11月	55	4.65	1.75	1.91	2.29	0.16
12月	55	3.27	2.04	1.45	1.58	0.27
平 均		4.12	2.12	2.01	2.32	0.18
合 計		49.39	25.49	24.06	27.82	2.13
前年合計		49.09	24.36	22.68	25.55	2.77
当年／前年		1.01	1.05	1.06	1.09	0.77

表9-3 月別・性別患者報告数(性感染症) 2016年1月～12月

	報告 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	129	100	78	41	64	48	103	29		8
2月	55	109	97	79	29	91	19	105	24		3
3月	55	158	94	87	36	103	18	120	35		11
4月	55	109	80	92	39	83	20	81	18		10
5月	54	129	101	70	42	108	21	100	26	1	9
6月	55	143	97	84	39	83	30	129	41		14
7月	55	123	103	85	35	86	22	111	20		6
8月	55	127	97	80	37	90	24	87	22		12
9月	55	156	91	78	40	87	26	96	32		9
10月	55	133	100	88	33	86	27	111	25		10
11月	55	144	112	70	26	80	25	97	29		9
12月	55	93	87	75	37	56	24	56	31	3	12
合 計		1,553	1,159	966	434	1,017	304	1,196	332	4	113

表9-4 月別・性別定点当たり患者報告数(性感染症) 2016年1月～12月

	報告 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	2.35	1.82	1.42	0.75	1.16	0.87	1.87	0.53		0.15
2月	55	1.98	1.76	1.44	0.53	1.65	0.35	1.91	0.44		0.05
3月	55	2.87	1.71	1.58	0.65	1.87	0.33	2.18	0.64		0.20
4月	55	1.98	1.45	1.67	0.71	1.51	0.36	1.47	0.33		0.18
5月	54	2.39	1.87	1.30	0.78	2.00	0.39	1.85	0.48	0.02	0.17
6月	55	2.60	1.76	1.53	0.71	1.51	0.55	2.35	0.75		0.25
7月	55	2.24	1.87	1.55	0.64	1.56	0.40	2.02	0.36		0.11
8月	55	2.31	1.76	1.45	0.67	1.64	0.44	1.58	0.40		0.22
9月	55	2.84	1.65	1.42	0.73	1.58	0.47	1.75	0.58		0.16
10月	55	2.42	1.82	1.60	0.60	1.56	0.49	2.02	0.45		0.18
11月	55	2.62	2.04	1.27	0.47	1.45	0.45	1.76	0.53		0.16
12月	55	1.69	1.58	1.36	0.67	1.02	0.44	1.02	0.56	0.05	0.22

表9-5 保健所別、二次医療圏別患者報告数(性感染症)

2016 年 1 月～12 月

	設置 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	92	10	23	4	46		64				225	14
中央区	3	77	13	48	2	14		32	3		2	171	20
みなと	2	115	40	386	42	116	15	44	8		2	661	107
新宿区	7	264	117	126	89	403	156	228	42		5	1,021	409
文京	1	50		18	2	12		22				102	2
台東	2	7	149	1	16		36	16	186		42	24	429
墨田区	2	32	12	12	3	6		21	1		1	71	17
江東区	2	104	16	52	4	36		84	2		1	276	23
品川区	1	50	2	16	7	15	1	18	3			99	13
大田区	2	20	72					27	1		1	47	74
渋谷区	5	411	139	213	106	293	43	482	40	1	17	1,400	345
中野区	2	26		1		1	2	10	2		5	38	9
杉並	2	48	8	3	4	14		18	3			83	15
池袋	3	144	95	55	59	30	23	89	11	3	12	321	200
北区	1	12		2		19		6				39	
荒川区	1	1	21		5		1				1	1	28
板橋区	2	29	53	2	19	6	3	22	2		1	59	78
足立	2	10	57		4	1	7	4	2		1	15	71
江戸川	2	50	71	8	3	4	3	6	4		6	68	87
八王子市	4		78		22		2		3		6		111
町田市	1		53		23		6						82
多摩立川	2	4	150		15		3		19		10	4	197
多摩府中	3	7	1		1	1	2	3				11	4
多摩小平	1		2		4		1						7
合 計	55	1,553	1,159	966	434	1,017	304	1,196	332	4	113	4,736	2,342
定点当たり報告数		28.28	21.11	17.59	7.91	18.53	5.53	21.78	6.05	0.07	2.06	86.25	42.65
前年定点当たり報告数		27.84	21.24	16.87	7.50	17.23	5.45	18.42	7.13	0.18	2.58	80.55	43.90
当年/前年		1.02	0.99	1.04	1.05	1.08	1.02	1.18	0.85	0.40	0.80	1.07	0.97

区中央部圏	10	341	212	476	66	188	51	178	197		46	1,183	572
区南部圏	3	70	74	16	7	15	1	45	4		1	146	87
区西南部圏	5	411	139	213	106	293	43	482	40	1	17	1,400	345
区西部圏	11	338	125	130	93	418	158	256	47		10	1,142	433
区西北部圏	6	185	148	59	78	55	26	117	13	3	13	419	278
区東北部圏	3	11	78		9	1	8	4	2		2	16	99
区東部圏	6	186	99	72	10	46	3	111	7		8	415	127
南多摩圏	5		131		45		8		3		6		193
北多摩西部圏	2	4	150		15		3		19		10	4	197
北多摩南部圏	3	7	1		1	1	2	3				11	4
北多摩北部圏	1		2		4		1						7

表9-6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数(性感染症)

2016年1月～12月

	設置 定 点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	46.00	5.00	11.50	2.00	23.00		32.00				112.50	7.00
中央区	3	25.67	4.33	16.00	0.67	4.67		10.67	1.00		0.67	57.00	6.67
みなと	2	57.50	20.00	193.00	21.00	58.00	7.50	22.00	4.00		1.00	330.50	53.50
新宿区	7	37.71	16.71	18.00	12.71	57.57	22.29	32.57	6.00		0.71	145.86	58.43
文京	1	50.00		18.00	2.00	12.00		22.00				102.00	2.00
台東	2	3.50	74.50	0.50	8.00		18.00	8.00	93.00		21.00	12.00	214.50
墨田区	2	16.00	6.00	6.00	1.50	3.00		10.50	0.50		0.50	35.50	8.50
江東区	2	52.00	8.00	26.00	2.00	18.00		42.00	1.00		0.50	138.00	11.50
品川区	1	50.00	2.00	16.00	7.00	15.00	1.00	18.00	3.00			99.00	13.00
大田区	2	10.00	39.50					13.50	0.50		0.50	23.50	40.50
渋谷区	5	82.20	27.80	42.60	21.20	58.60	8.60	96.40	8.00	0.20	3.40	280.00	69.00
中野区	2	13.00		0.50		0.50	1.00	5.00	1.00		2.50	19.00	4.50
杉並	2	24.00	4.00	1.50	2.00	7.00		9.00	1.50			41.50	7.50
池袋	3	48.00	31.67	18.33	19.67	10.00	7.67	29.67	3.67	1.00	4.00	107.00	66.67
北区	1	12.00		2.00		19.00		6.00				39.00	
荒川区	1	1.00	21.00		5.00		1.00				1.00	1.00	28.00
板橋区	2		26.50		9.50		1.50		1.00		0.50		39.00
足立	2	5.00	28.50		2.00	0.50	3.50	2.00	1.00		0.50	7.50	35.50
江戸川	2	25.00	35.50	4.00	1.50	2.00	1.50	3.00	2.00		3.00	34.00	43.50
八王子市	4		19.50		5.50		0.50		0.75		1.50		27.75
町田市	1		53.00		23.00		6.00						82.00
多摩立川	2	2.00	75.00		7.50		1.50		9.50		5.00	2.00	98.50
多摩府中	3	2.33	0.33		0.33	0.33	0.67	1.00				3.67	1.33
多摩小平	1		2.00		4.00		1.00						7.00
合 計	55	1,553	1,159	966	434	1,017	304	1,196	332	4	113	4,736	2,342
定点当たり報告数		28.28	21.11	17.59	7.91	18.53	5.53	21.78	6.05	0.07	2.06	86.25	42.65

区中央部圏	10	34.10	21.20	47.60	6.60	18.80	5.10	17.80	19.70		4.60	118.30	57.20
区南部圏	3	23.83	25.83	5.83	2.67	5.33	0.33	15.33	1.50		0.33	48.67	29.00
区西南部圏	5	82.20	27.80	42.60	21.20	58.60	8.60	96.40	8.00	0.20	3.40	280.00	69.00
区西部圏	11	30.73	11.36	11.82	8.45	38.00	14.36	23.27	4.27		0.91	103.82	39.36
区西北部圏	6	30.83	24.67	9.83	13.00	9.17	4.33	19.50	2.17	0.50	2.17	69.83	46.33
区東北部圏	3	3.67	26.00		3.00	0.33	2.67	1.33	0.67		0.67	5.33	33.00
区東部圏	6	31.00	16.50	12.00	1.67	7.67	0.50	18.50	1.17		1.33	69.17	21.17
南多摩圏	5		26.20		9.00		1.60		0.60		1.20		38.60
北多摩西部圏	2	2.00	75.00		7.50		1.50		9.50		5.00	2.00	98.50
北多摩南部圏	3	2.33	0.33		0.33	0.33	0.67	1.00				3.67	1.33
北多摩北部	1		2.00		4.00		1.00						7.00

表9-7 年齢階級別患者報告数(性感染症) 2016年1月～12月

	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		膺トリコモナス症		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳												
1～4歳			1								1	
5～9歳												
10～14歳		6						2				8
15～19歳	20	78	3	15	2	9	10	11		4	35	117
20～24歳	185	313	62	81	60	84	177	78	2	23	486	579
25～29歳	273	287	116	78	127	84	210	63		30	726	542
30～34歳	308	198	148	81	186	39	250	52	1	13	893	383
35～39歳	274	120	148	51	197	39	197	36		17	816	263
40～44歳	208	83	136	40	166	21	157	42	1	14	668	200
45～49歳	142	38	133	31	123	9	97	19		3	495	100
50～54歳	70	21	79	17	70	14	56	19		4	275	75
55～59歳	47	6	66	10	41	3	27	5		1	181	25
60～64歳	12	6	22	10	26	1	8	5			68	22
65～69歳	13	2	28	7	7	1	7			1	55	11
70歳以上	1	1	24	13	12					3	37	17
合 計	1,553	1,159	966	434	1,017	304	1,196	332	4	113	4,736	2,342

表10 検査結果別報告数(基幹) 2016年1月～12月

病原体	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	合計
<i>streptococcus agalactiae</i>	7					7
<i>streptococcus pneumoniae</i>	4					4
<i>staphylococcus aureus</i>	1					1
<i>staphylococcus epidermidis</i>	1					1
<i>staphylococcus sp</i>	1					1
<i>mycoplasma pneumoniae</i>		4	865			869
<i>mumps virus</i>		3				3
enterovirus nt		2				2
<i>mycobacterium tuberculosis</i>		1	1			2
herpes simplex virus 2		1				1
varicella-zoster virus		1				1
<i>mycobacterium sp</i>			5			5
<i>mycobacterium bovis</i>			1			1
<i>chlamydophila pneumoniae</i>				29		29
<i>chlamydia species unknown</i>				15		15
<i>chlamydia trachomatis</i>				3		3
rotavirus group unknown					99	99
記載無し	19	65	175	3	9	271
合 計	33	77	1,047	50	108	1,315

表11 疑似症サーベイランス報告数 2016 年第 1 週～第 52 週

週	期 間	定点数	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱
1	1. 4～ 1.10	443		
2	1.11～ 1.17	443		
3	1.18～ 1.24	443	1	
4	1.25～ 1.31	443	4	1
5	2. 1～ 2. 7	443	12	
6	2. 8～ 2.14	443	8	
7	2.15～ 2.21	443	5	1
8	2.22～ 2.28	443	1	
9	2.29～ 3. 6	443		
10	3. 7～ 3.13	443	1	
11	3.14～ 3.20	443		1
12	3.21～ 3.27	443	1	
13	3.28～ 4. 3	443		
14	4. 4～ 4.10	443		
15	4.11～ 4.17	443		
16	4.18～ 4.24	443		
17	4.25～ 5. 1	443	1	
18	5. 2～ 5. 8	443	1	
19	5. 9～ 5.15	443		
20	5.16～ 5.22	443	1	
21	5.23～ 5.29	443		
22	5.30～ 6. 5	443		
23	6. 6～ 6.12	443		
24	6.13～ 6.19	443		
25	6.20～ 6.26	443		
26	6.27～ 7. 3	443		
27	7. 4～ 7.10	443	2	1
28	7.11～ 7.17	443		
29	7.18～ 7.24	443		
30	7.25～ 7.31	443		
31	8. 1～ 8. 7	443		
32	8. 8～ 8.14	443	2	1
33	8.15～ 8.21	443		
34	8.22～ 8.28	443	1	
35	8.29～ 9. 4	443	1	
36	9. 5～ 9.11	443	2	
37	9.12～ 9.18	443	1	
38	9.19～ 9.25	443	1	
39	9.26～10. 2	443		
40	10. 3～10.16	443		
41	10.10～10.16	443		
42	10.17～10.23	443		
43	10.24～10.30	443		
44	10.31～11. 6	443		
45	11. 7～11.13	443		
46	11.14～11.20	443		
47	11.21～11.27	443		
48	11.28～12. 4	443		
49	12. 5～12.11	443		
50	12.12～12.18	443	1	
51	12.19～12.25	443	1	
52	12.26～ 1. 1	443	1	
合 計			49	5

保健所	定点数	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱
千代田	4		
中央区	5		
みなの	9	1	
新宿区	13		
文京	8	1	
台東	7		
墨田区	9		
江東区	14		
品川区	13		
目黒区	8		
大田区	22		
世田谷	28		
渋谷区	9	16	3
中野区	11		
杉並	16		
池袋	9		
北区	11		
荒川区	7		
板橋区	18	23	
練馬区	21		
足立	21		
葛飾区	13		
江戸川	19	1	
八王子市	19		
町田市	13		
西多摩	15		
南多摩	15		
多摩立川	23		
多摩府中	36	7	1
多摩小平	24		1
島しょ	3		
合 計	443	49	5

年齢階級	発熱及び 呼吸器症状	発熱及び 発しん・水疱
0歳	2	
1歳	5	1
2歳	1	1
3歳	2	
4歳	2	
5歳	5	
6歳	2	
7歳		
8歳	1	
9歳	1	
10～14歳	1	
15～19歳	1	
20～29歳	2	1
30～39歳	1	
40～49歳	1	
50～59歳	4	1
60～69歳	5	1
70～79歳	6	
80歳以上	7	
合 計	49	5

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体情報

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律により位置づけられた感染症発生動向調査事業において、東京都健康安全研究センターでは病原体定点などの医療機関から搬入された検体について病原体の検索を行っている。平成28年4月に同法と感染症発生動向調査事業実施要綱の一部改正が行われ、病原体の情報収集体制を強化することになった。

都では、これら改正の趣旨に鑑み、発生動向に係る検体提出数の基準等を下表のとおり設定し、病原体の情報収集と感染症対策向上を図っている。

定点 種別	対象疾患名		検体数
小児科	R S ウイルス感染症	伝染性紅斑	週 1 検体
	咽頭結膜熱	突発性発しん	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	百日咳	
	感染性胃腸炎	ヘルパンギーナ	
	水痘	流行性耳下腺炎	
	手足口病		
	不明発しん症（都単独）	川崎病（都単独）	月1検体（目安）
内科	インフルエンザ（鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症を除く。インフルエンザ様疾患を含む。）		流行期※：週 1 検体 非流行期：月 1 検体
眼科	急性出血性結膜炎		週 1 検体
	流行性角結膜炎		
性感染症	性器クラミジア感染症		週 1 検体
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ		
	淋菌感染症		
	膣トリコモナス症（都単独）		
基幹	クラミジア肺炎（オウム病を除く）		週 2 検体
	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）		
	細菌性髄膜炎（インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。）		
	マイコプラズマ肺炎		
	無菌性髄膜炎		
	インフルエンザ（鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症を除く。入院患者のみ。）		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
	薬剤耐性緑膿菌感染症		

※流行期：都内定点医療機関あたりの患者報告数が1を超えた週から1を下回る週まで

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・内科・基幹病原体定点医療機関からの搬入検体

ア インフルエンザ

平成 28 年（2016 年）4 月の感染症法の改正により、感染症に関する情報収集体制の強化を目的として、各病原体定点医療機関においてインフルエンザ流行期には週 1 検体、非流行期には月 1 検体を目安に検体収集を行い、調査することとされた〔感染症発生動向調査事業実施要項に記載〕。流行期とは、都内の患者報告数が定点医療機関あたり 1 を超えた時点から 1 を下回るまでの期間を指す。

① 2015/2016 年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

インフルエンザウイルスの流行シーズンは、毎年 9 月（第 36 週）を境にシーズン分けされており、2016 年の前半は 2015/2016 年シーズン、2016 年の後半は 2016/2017 年シーズンとなる。2016 年は第 1 週から第 35 週までに 436 検体（1～3 月 312 件、4 月以降 124 件）が搬入され、遺伝子検査では AH1pdm09 155 件、AH3 亜型 20 件、B 型 176 件（Victoria 系統 87 件、Yamagata 系統 89 件）の計 351 件が検出され（図 1）、ウイルス分離試験では AH1pdm09 141 株、AH3 亜型 15 株、B 型 149 株（Victoria 系統 68 株、Yamagata 系統 81 株）の計 305 株が検出された。2015/2016 年シーズンを通して遺伝子検出状況をみると、AH1pdm09 161 件（43.6%）、AH3 亜型 30 件（8.1%）、Victoria 系 B 型 88 件（23.9%）、Yamagata 系 B 型 90 件（24.4%）が検出され（図 2）、流行の主流を AH1pdm09 が占めていた事が明らかとなった。

② 2016/2017 年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

2016/2017 年シーズンは、第 36 週（2016 年 9 月 5 日～9 月 11 日）からはじまり、第 47 週の 11 月 24 日から流行期に入った。2017 年 3 月までに 404 検体が搬入され、遺伝子検査では AH1pdm09 5 件、AH3 亜型 285 件、B 型 56 件（Victoria 系統 28 件、Yamagata 系統 28 件）の計 346 件が検出された。ウイルス分離試験では AH1pdm09 4 件、AH3 亜型 247 株、B 型 53 株（Victoria 系統 27 株、Yamagata 系統 26 株）の計 304 株が検出された。2016/2017 年シーズン（3 月末まで）は、流行の大半を AH3 亜型が占めていたことが明らかとなった。

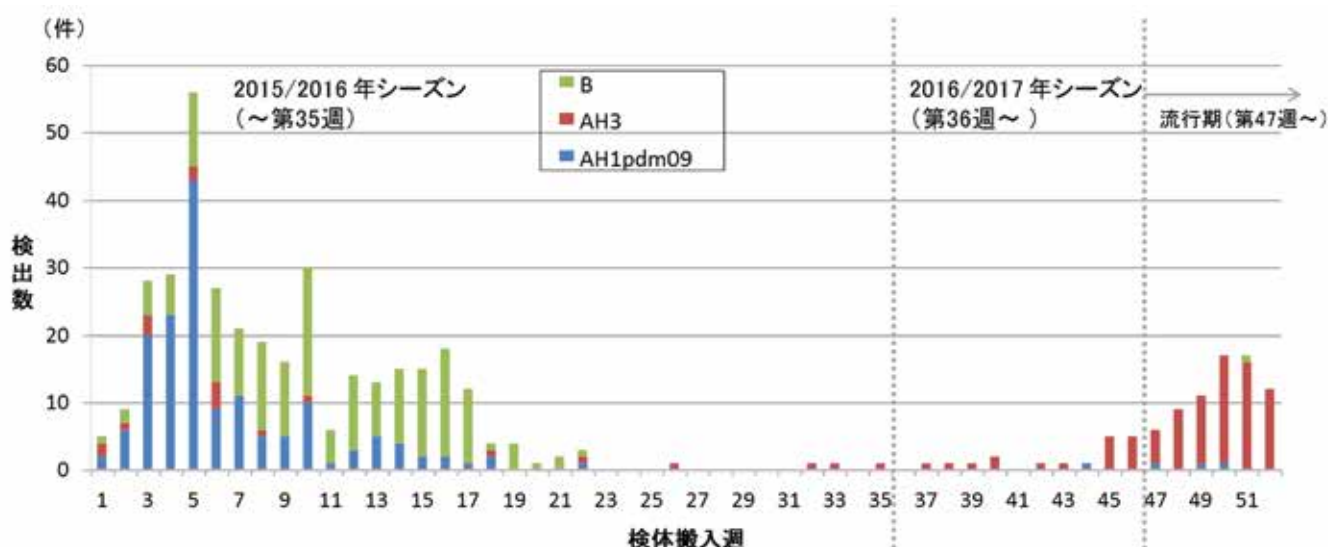


図 1. 病原体定点医療機関からの検体におけるインフルエンザウイルス遺伝子検出数

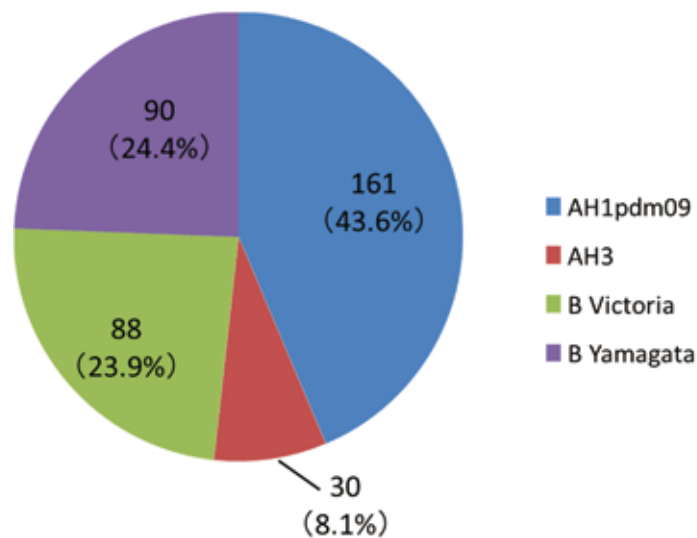


図 2. 2015/16 年シーズンのインフルエンザウイルス検出状況

③ インフルエンザウイルスの抗原解析

遺伝子解析及びワクチン株抗血清を用いた HI 試験により、2015/2016 年シーズンに流行したインフルエンザウイルスの抗原性状を比較した。遺伝子解析は、RT-nested PCR 検査によって得られた HA (ヘマグルチニン) 遺伝子の一部断片を用いてダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定し、ワクチン株と分子系統樹上で比較した。分離株の性状解析は、国立感染症研究所配布のインフルエンザサーベイランスキット抗血清を用いた HI 試験 (1.0%モルモット赤血球浮遊液を使用) により行った。

2015/2016 年シーズンの AH1pdm09 流行株とワクチン株 (A/California/07/2009) を比較したところ、解析範囲 (579bp) の遺伝子変異は 14~17 塩基、相同性は 97.1%~97.6%であった (図 3)。系統樹上では 2 つのグループに分かれたが、HI 試験では半数以上の株でワクチン株と同等の反応性がみられ、抗原性に大きな変異はないと推察された。

AH3 亜型流行株は、2015/2016 年シーズンワクチン株 (A/Switzerland/9715293/2013) と比較すると解析範囲 (330bp) で 12~15 塩基の変異がみられ、相同性は 95.5%~96.4%であった (図 4)。系統樹上では、全ての流行株はワクチン株と異なるグループに属し、HI 試験では多くの株でワクチン株との反応性の低下がみられた。2016/2017 年シーズンは、ワクチン株が A/Hong Kong /4801/2014 株に変更された。系統樹上では流行株と同じグループに属すが、HI 試験では多くの分離株でワクチン株との反応性の低下がみられた。

B 型では、Victoria 系統の流行株は 2015/2016 年シーズンワクチン株 (B/Texas/02/2013) との解析範囲 (304bp) での変異は 3~4 塩基であり、相同性は 98.7%~99.0%であった (図 5)。分離株は B/Texas/02/2013 株抗血清に対してワクチン株と同等の反応性があることから抗原性に大きな変異はないものと推察された。Yamagata 系統の流行株は、2015/2016 年シーズンワクチン株 (B/Phuket/3073/2013) との変異は 3~7 塩基であり、相同性は 97.7%~99.0%であった。ワクチン株と同等の反応性があり、抗原性に大きな変異はないものと推察された。

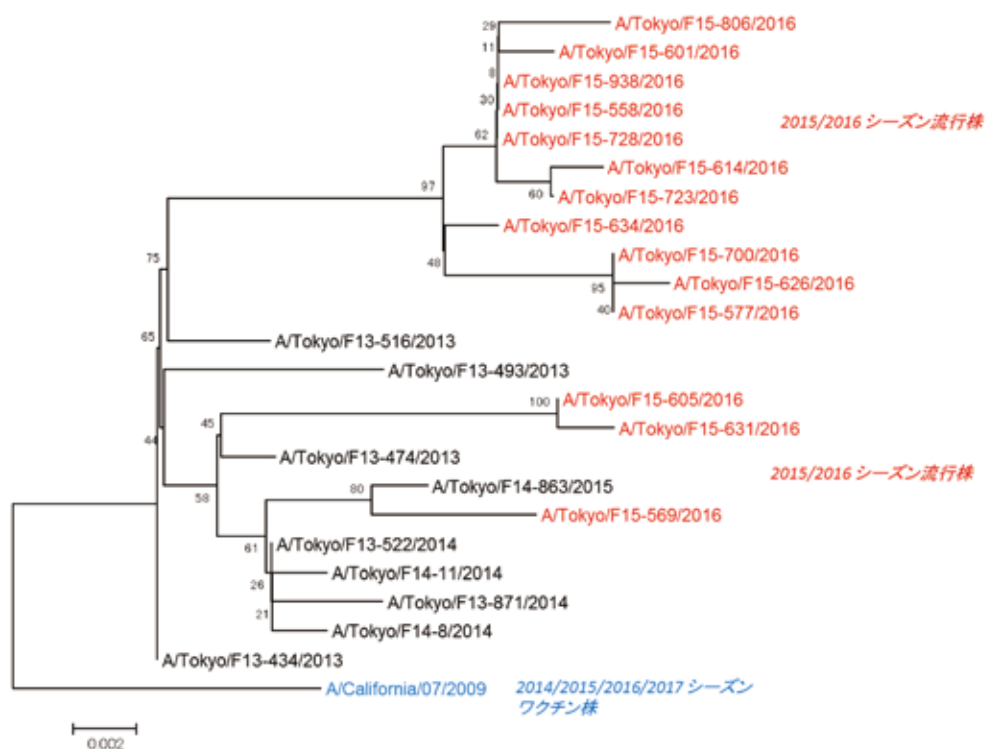


図3. 東京都における AH1pdm09 インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

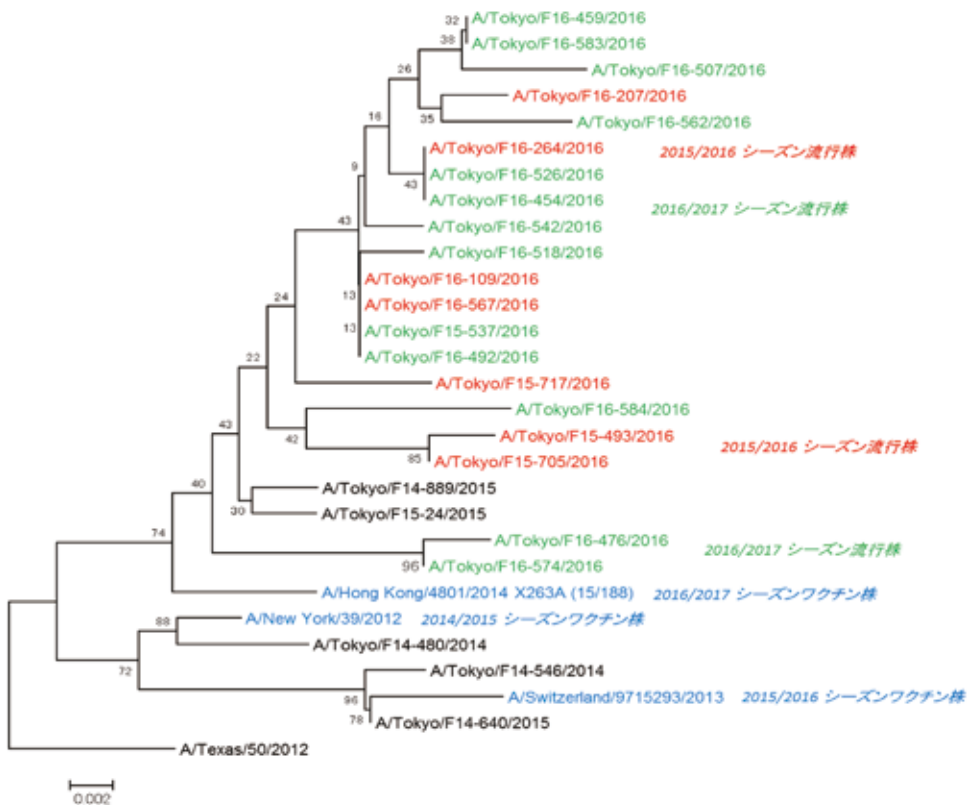


図4. 東京都における AH3 亜型インフルエンザウイルスの HA 分子系統樹

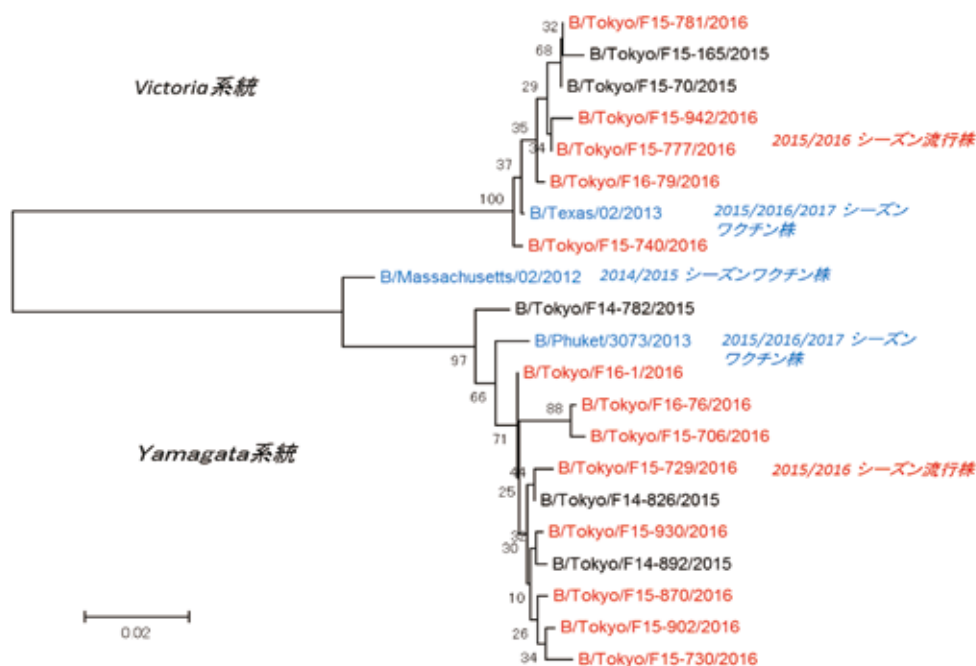


図5. 東京都におけるB型インフルエンザウイルスのHA分子系統樹

④ その他のウイルス検出状況

2016年3月まではインフルエンザの検査と同時にエンテロウイルスの遺伝子検査を、2016年4月以降はエンテロウイルス、アデノウイルス等の遺伝子検査を行った。2016年3月までに312件が搬入され、エンテロウイルス2件、ライノウイルス11件が検出された。また、インフルエンザと突発性発疹が疑われた1検体からは、HHV6型ウイルスが検出された。2016年4月～2017年3月末までに528件が搬入され、エンテロウイルス9件、ライノウイルス17件、アデノウイルス20件が検出された。ライノウイルスは、第1週から第14週（4月）の春先にかけて多く検出された。エンテロウイルスとアデノウイルスが同じ検体から検出された例が、49週と52週にそれぞれ1件ずつあった。

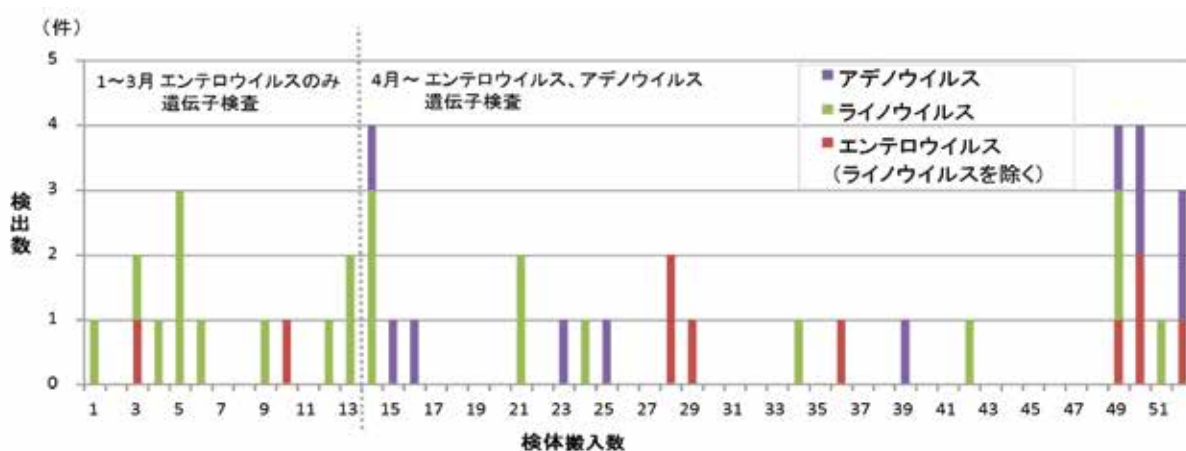


図6. 病原体定点医療機関からの検体におけるエンテロウイルス、アデノウイルス遺伝子検出数

イ RS ウイルス感染症

小児科定点医療機関でRS ウイルス感染症と診断され当センターに搬入された患者検体 30 件について、RS ウイルス等の遺伝子検査及びウイルス分離試験を実施した。このうち 21 件から RS ウイルス遺伝子が検出され（複数検出含む）、2 件からヒトメタニューモウイルス遺伝子が検出された。また RS ウイルス B 型 14 件中 1 件から RS ウイルスが分離された（表 1）。搬入週別に検出状況を見ると春先から夏にかけて散発発生があり、第 37～43 週にピークがあったことが分かった（図 7）。

表 1. RS ウイルス感染症の搬入検体数及び検出遺伝子／分離ウイルス内訳

搬入検体数			遺伝子検査 陽性検体数	検出遺伝子／分離ウイルス	遺伝子検査	分離検査
1～3月	4～12月	計				
3	27	30	23	RSウイルスA型	7	
				RSウイルスB型	14	1
				RSウイルス(型別不明)	1	
				ヒトメタニューモウイルス	2	

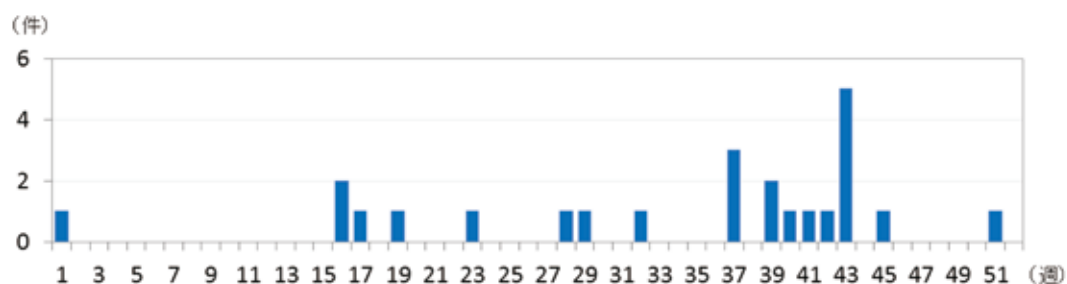


図 7. RS ウイルス感染症患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

ウ 咽頭結膜熱

小児科定点医療機関で咽頭結膜熱と診断され当センターに搬入された患者検体 54 件についてアデノウイルスの遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離試験を実施した。このうち 26 件からアデノウイルス遺伝子が検出され、14 件からアデノウイルス、1 件から単純ヘルペスウイルスが分離された（表 2）。搬入週別に検出状況を見ると、第 17～30 週と 48～52 週に発生の集中があり、例年の流行期と合致していることがわかった。（図 8）。

表 2. 咽頭結膜熱の搬入検体数及び検出遺伝子／分離ウイルス内訳

搬入検体数			遺伝子検査 陽性検体数	検出遺伝子／分離ウイルス	遺伝子検査	分離検査
1～3月	4～12月	計				
6	48	54	26	アデノウイルス1型	6	3
				アデノウイルス2型	7	5
				アデノウイルス3型	4	
				アデノウイルス4型	3	3
				アデノウイルス5型	5	3
				アデノウイルス(型別不明)	1	
				単純ヘルペスウイルス		1

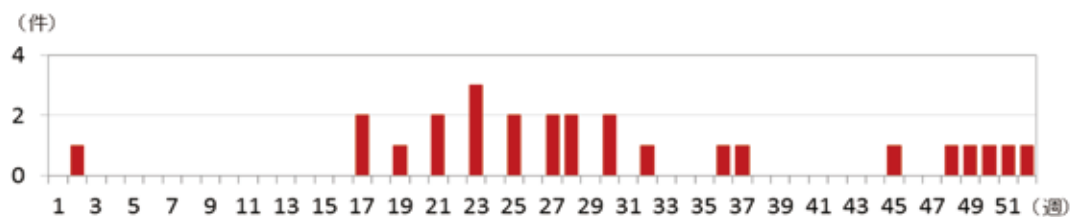


図 8. 咽頭結膜熱患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

エ 感染性胃腸炎

感染性胃腸炎は流行時期に合わせ、毎年第 36 週から翌年の第 35 週までの 1 年間を感染性胃腸炎の流行シーズンとしている。2016 年は第 1～35 週までの 2015/2016 年シーズンと第 36～52 週の 2016/2017 年シーズンに分けられる。

小児科定点医療機関及び基幹定点医療機関において感染性胃腸炎（基幹定点医療機関はロタウイルスを原因とするもの）と診断され、当センターに搬入された患者検体について、第 1 週から第 13 週までの期間は、遺伝子検査（ノロウイルス、サポウイルス及びアデノウイルス）、細胞培養試験（アデノウイルス）及び酵素抗体法による抗原検出試験（ロタウイルス）を実施した。第 14 週以降、小児科定点医療機関の検体についてはノロウイルス、サポウイルス及び A 群ロタウイルス、基幹定点医療機関については A 群ロタウイルス及び C 群ロタウイルスの遺伝子検査をそれぞれ実施した。

感染性胃腸炎と診断され当センターに搬入された患者検体 102 件について、上述の検査を実施し、うち 48 件からノロウイルス等の感染性胃腸炎の原因となるウイルスが検出された。ノロウイルスについてシーズン別に見ると、2015/2016 年シーズンの第 1 週から第 35 週までは GⅡ.4 及び GⅡ.3 の検出が過半数を占めていたが、2016/2017 年シーズンでは 2016 年 12 月末現在、GⅡ.2 が流行の主流となっている（表 3 及び図 9）。

表 3. 感染性胃腸炎の患者検体数及び検出遺伝子／抗原内訳

	2015/2016		2016/2017	計	遺伝子/抗原 検査陽性検体
	1～3月	4月～第35週	第36～52週		
小児科定点	30	34	27	91	43
基幹定点	2	4	0	6	5
計	32	38	27	97	48

検出遺伝子/抗原	2015/2016	2016/2017
ノロウイルスGⅠ.2	1	
ノロウイルスGⅠ.5	1	
ノロウイルスGⅡ.2		11
ノロウイルスGⅡ.3	6	2
ノロウイルスGⅡ.4	8	2
ノロウイルスGⅡ.6		1
ノロウイルスGⅡ.13	2	
サポウイルス	4	
A群ロタウイルス	9	
アデノウイルス31型	2	

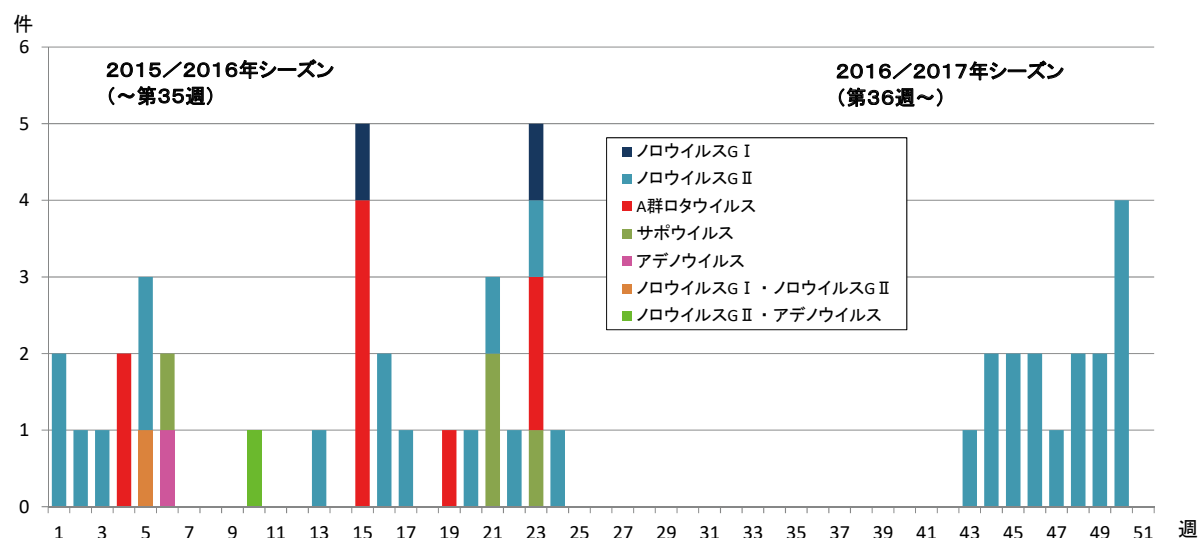


図9. 感染性胃腸炎患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

オ 水痘

小児科定点医療機関で水痘と診断され当センターに搬入された患者検体 16 件（いずれも 4 月以降）について、水痘帯状疱疹ウイルスの遺伝子検査を実施し、このうち 10 件から当該遺伝子が検出された。

カ 手足口病

小児科定点医療機関で手足口病と診断され当センターに搬入された患者検体 71 件について、エンテロウイルスの遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離試験を実施した。このうち 59 件からコクサッキーウイルス等の遺伝子が検出された（表 4）。搬入週別に検出状況を見ると、第 39～42 週付近をピークとして、第 27～49 週に集中して検出されたことが分かる（図 10）。

表 4. 手足口病の搬入検体数及び検出遺伝子内訳

搬入検体数			遺伝子検査 陽性検体数	検出遺伝子	(件)
1～3月	4～12月	計			
1	70	71	59	コクサッキーウイルスA群4型	6
				コクサッキーウイルスA群5型	1
				コクサッキーウイルスA群6型	38
				コクサッキーウイルスA群7型	1
				コクサッキーウイルスA群10型	1
				コクサッキーウイルスA群16型	7
				エンテロウイルス71	1
				ライノウイルス	3
				エンテロウイルス(型別不明)	1

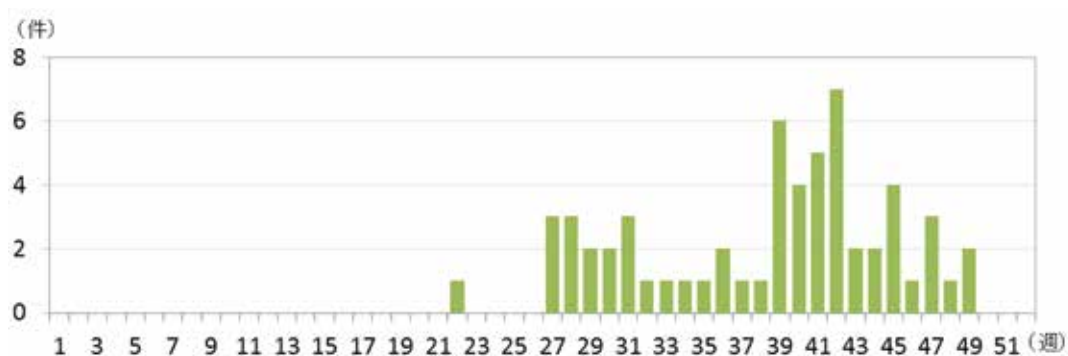


図 10. 手足口病患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

キ 伝染性紅斑

小児科定点医療機関で伝染性紅斑と診断され当センターに搬入された患者検体 22 件（1 月～3 月 3 件、4 月以降 19 件）について、ヒトパルボウイルス B19 の遺伝子検査を実施し、このうち 16 件から当該遺伝子が検出された。

ク 突発性発しん

小児科定点医療機関で突発性発疹と診断され当センターに搬入された患者検体 44 件（1 月～3 月 12 件（うち 1 件はインフルエンザとの重複診断）、4 月以降 32 件）について、ヒトヘルペスウイルス 6 型及び 7 型の遺伝子検査を実施し、このうち 23 件からヒトヘルペスウイルス 6 型、3 件からヒトヘルペスウイルス 7 型の遺伝子が検出された。

ケ ヘルパンギーナ

小児科定点医療機関でヘルパンギーナと診断され当センターに搬入された患者検体 42 件についてエンテロウイルスの遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離試験を実施した。このうち 30 件からコクサッキー A 群ウイルス等の遺伝子が検出された（表 5）。搬入週別に検出状況を見ると、第 27 週をピークとして、第 21～43 週の初夏から晩秋に集中して検出されたことが分かった（図 11）。

表 5. ヘルパンギーナの搬入検体数及び検出遺伝子内訳

搬入検体数			遺伝子検査 陽性検体数
1～3月	4～12月	計	
0	42	42	30

検出遺伝子	(件)
コクサッキーウイルスA群2型	3
コクサッキーウイルスA群4型	15
コクサッキーウイルスA群5型	4
コクサッキーウイルスA群6型	1
コクサッキーウイルスA群10型	5
ライノウイルス	2

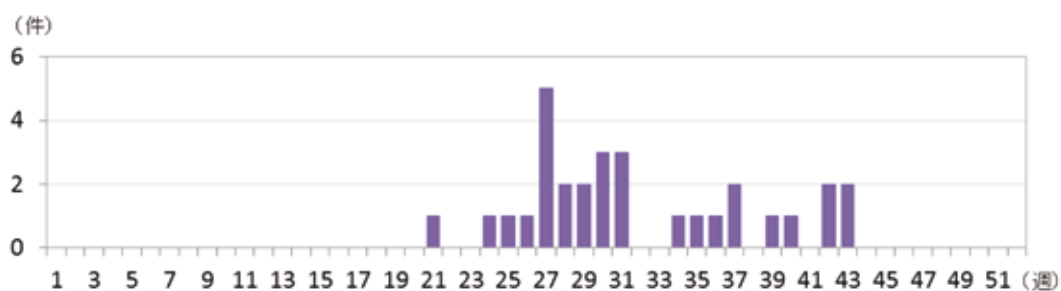


図 11. ヘルパンギーナ患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

コ 流行性耳下腺炎

小児科定点医療機関で流行性耳下腺炎と診断され当センターに搬入された患者検体 109 件について、ムンプスウイルス等の遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離試験を実施した。このうち 80 件からムンプスウイルス遺伝子、16 件から EB ウイルス遺伝子が検出された（重複検出含む）。また 51 件からムンプスウイルスが分離された（表 6）。搬入週別に検出状況を見ると、第 25～30 週前後にピークが見られるものの、年間を通して検出されていたことが分かった（図 12）。

表 6. 流行性耳下腺炎の搬入検体数及び検出遺伝子／分離ウイルス内訳

搬入検体数			遺伝子検査 陽性検体数	検出遺伝子／分離ウイルス	遺伝子検査	分離検査
1～3月	4～12月	計		ムンプスウイルス		
19	90	109	83	EBウイルス	16	

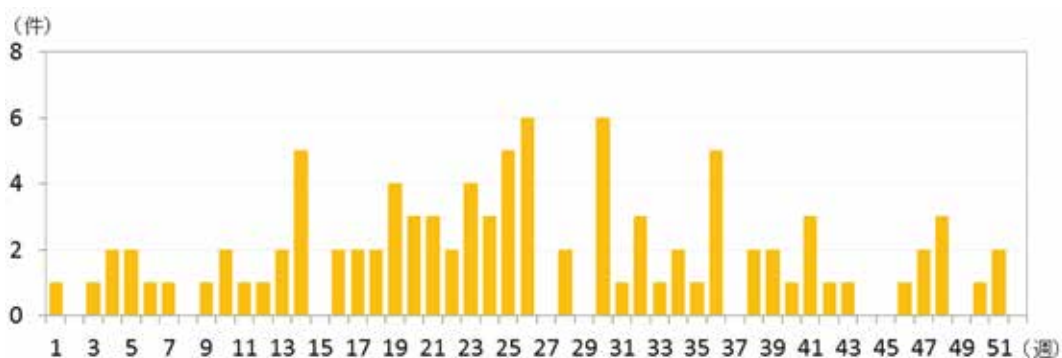


図 12. 流行性耳下腺炎患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

サ 不明発しん症

小児科定点医療機関で不明発しん症と診断され当センターに搬入された患者検体 88 件について、麻疹ウイルス、風しんウイルス、ヒトパルボウイルス B19、ヒトヘルペスウイルス 6 型、7 型の遺伝子検査を実施し、うち 22 件からヒトヘルペスウイルス等の遺伝子が検出された（表 7）。

表 7. 不明発しん症の搬入検体数及び検出遺伝子内訳

搬入検体数			遺伝子検査 陽性検体数
1～3月	4～12月	計	
15	73	88	22

検出遺伝子	(件)
麻疹ウイルスA型	2
風しんウイルス	1
ヒトパルボウイルスB19	2
ヒトヘルペスウイルス6型	15
ヒトヘルペスウイルス7型	2

シ 川崎病

小児科定点医療機関で川崎病と診断され当センターに搬入された患者検体 6 件（1 月～3 月 2 件、4 月以降 4 件）について、アデノウイルス等の遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離試験を実施した。このうち 1 検体からアデノウイルス遺伝子が検出され、同検体からアデノウイルス 2 型が分離された。

ス 無菌性髄膜炎

基幹定点医療機関で無菌性髄膜炎と診断され当センターに搬入された患者検体 106 件について、エンテロウイルス等の遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離試験を実施した。このうち 27 件からエンテロウイルスやパレコウイルスの遺伝子が検出され、8 件からコクサッキーウイルス B 群、エコーウイルス、ムンプスウイルスがそれぞれ分離された（表 8）。

表 8. 無菌性髄膜炎の搬入検体数及び検出遺伝子／分離ウイルス内訳

搬入検体数			遺伝子検査 陽性検体数
1～3月	4～12月	計	
28	78	106	27

検出遺伝子/分離ウイルス	遺伝子検査	分離検査
コクサッキーウイルスB群3型	1	
コクサッキーウイルスB群5型	2	2
エコーウイルス6型	3	3
エコーウイルス18型	4	
ライノウイルス	2	
エンテロウイルス(型別不明)	1	
パレコウイルス3型	12	
ムンプスウイルス	2	2

セ その他

上記ア～スのいずれの疾患にも分類されない検体（上気道炎、気管支炎等）の搬入が 40 件あり（1 月～3 月）、遺伝子検査の結果、4 件からエンテロウイルス、3 件からインフルエンザウイルスの遺伝子が検出された。

（2）眼科定点からの搬入検体

ア 急性出血性結膜炎

定点医療機関で急性出血性結膜炎と診断され当センターに搬入された患者検体 1 件（4 月以降）について、アデノウイルスの遺伝子検査及び培養細胞を用いたウイルス分離試験を実施したが、当該遺伝子は検出されず、ウイルスも分離されなかった。

イ 流行性角結膜炎

定点医療機関で流行性角結膜炎と診断され当センターに搬入された患者検体 37 件について、アデノウイルス及びエンテロウイルスの遺伝子検査及び培養細胞を用いた分離検査を実施した。このうち 22 件からアデノウイルス遺伝子が検出され、4 件からアデノウイルスが分離された（表 9）。

表 9. 流行性角結膜炎の搬入検体数及び検出遺伝子／分離ウイルス内訳

搬入検体数			遺伝子検査 陽性検体数	検出遺伝子／分離ウイルス	遺伝子検査	分離検査
1～3月	4～12月	計				
15	22	37	22	アデノウイルス1型	1	1
				アデノウイルス3型	1	1
				アデノウイルス4型	3	1
				アデノウイルス19型	2	
				アデノウイルス54型	9	
				アデノウイルス56型	1	1
				アデノウイルス(型別不明)	5	

（３）性感染症（STI）定点からの搬入検体

ア 性器ヘルペスウイルス感染症

定点医療機関から搬入された 58 検体（主として性器ヘルペス感染症を疑う患者の陰部尿道擦過物、又は水泡内容物）について、キャプシド蛋白をコードする glycoprotein D 領域を対象としたリアルタイム PCR 法による単純ヘルペスウイルス（HSV-1 型及び HSV-2 型）の遺伝子検査を実施した。

その結果、58 検体中 12 検体（20.7%）から HSV-1 型、11 検体（19.0%）から HSV-2 型の遺伝子が検出された。

イ 尖圭コンジローマ

定点医療機関から搬入された 71 検体（陰部尿道擦過物、尖圭コンジローマ部位擦過物、又は尖圭コンジローマ患部生検材料）について、キャプシド蛋白をコードする L1 領域を対象とした PCR 法によるヒトパピローマウイルス（HPV）遺伝子の検出を行った。標的遺伝子が検出された場合、塩基配列を決定し NCBI Blast を用いた相同性検索により遺伝子型を同定した。さらに、得られた遺伝子型を子宮頸がん等へのリスク評価に基づいて分類した（High リスク、Low リスク及びリスク未分類）。

その結果、71 検体中 62 検体（87.3%）から HPV 遺伝子が検出された。1 検体から 1 種類の HPV 遺伝子型が検出されたのは 52 検体（73.2%）で、リスク評価による分類でみると、16、33、58 型などの High リスク群に分類されたものは 6 検体（8.5%）、6、11 型などの Low リスク群に分類されたものは 46 検体（64.8%）であった。また、10 検体（14.1%）から同時に 2 種類の HPV 遺伝子型が検出された（High-Low リスク：6 検体、Low-Low リスク：4 検体）。

（４）積極的疫学調査により検出されたウイルス検査結果

ア 二類感染症

① 中東呼吸器症候群（MERS コロナウイルス）

都内医療機関で MERS コロナウイルス感染疑いと診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 8 件について遺伝子検査を実施した。

その結果、MERS コロナウイルスについては全て陰性であったが、2 件から季節性インフルエンザ遺伝子が検出された。

② 鳥インフルエンザ（A/H5N1 亜型、A/H7N9 亜型）

都内医療機関で鳥インフルエンザウイルス感染疑いと診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 4 件について遺伝子検査を実施した。

その結果、鳥インフルエンザウイルスについては全て陰性であったが、3 件から季節性インフルエンザウイルス遺伝子が検出された。

イ 四類感染症

① A 型肝炎

都内医療機関で A 型肝炎と診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 65 件について遺伝子検査を実施した。

その結果、53 件から A 型肝炎ウイルス遺伝子が検出され、これらについて遺伝子解析を行ったところ、遺伝子型が IA 型 47 件、IB 型 2 件、IIIA 型 4 件であった。

② E 型肝炎

都内医療機関で E 型肝炎と診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 6 件について遺伝子検査を実施した。

その結果、2 件から E 型肝炎ウイルス遺伝子が検出され、これらについて遺伝子解析を行ったところ、遺伝子型は 3 型が 1 件、型別不明が 1 件であった。

③ 蚊媒介感染症（デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症）

都内医療機関でデング熱と診断、またはデング熱等の蚊媒介感染症疑いと診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 217 件（血液 148 件、尿 69 件）について遺伝子検査を実施した。

その結果、海外感染疑い例のうち 42 件からデングウイルス遺伝子（1 型 9 件、2 型 15 件、3 型 12 件、4 型 6 件）、1 件からチクングニアウイルス遺伝子、4 件（患者 3 例）からジカウイルス遺伝子が検出された。ジカウイルスが検出された 4 件のうち 3 件が尿検体であった。

④ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS ウイルス）

都内医療機関で SFTS 疑いと診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者血液検体 2 件について NP 領域を対象とした RT-PCR 法による SFTS ウイルス遺伝子検査を実施したところ、いずれも陰性であった。

⑤ リケッチア等関連疾患（Q 熱、つつが虫病、日本紅斑熱、発しんチフス、ライム病）

都内医療機関でリケッチア関連疾患疑いと診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 21 件（Q 熱 2 件、つつが虫病 7 件、日本紅斑熱 5 件、リケッチア症 1 件、ライム病 6 件）について遺伝子検査を実施した。Q 熱は *Coxiella burnetii* 遺伝子の *com1* 領域、つつが虫病は *Orientia tsutsugamushi* 遺伝子の 56KDa 領域、日本紅斑熱は紅斑熱群リケッチア遺伝子の *gltA* 領域、ライム病はボレリア属共通な遺伝子の *flaB* 領域を対象とした遺伝子検査によって検出を行った。また、標的遺伝子が検出された場合、塩基配列を決定し NCBI Blast を用いた相同性検索により遺伝子型を同定した。

その結果、つつが虫患者の急性期血液 7 検体中 3 件（42.9%）から血清型：Kuroki 株様の *Orientia tsutsugamushi* 遺伝子が検出されたが、他の検体から病原体遺伝子は検出されなかった。

ウ 五類感染症（全数把握疾患）

① 急性脳炎

都内医療機関で急性脳炎と診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 4 件についてエンテロウイルス等の遺伝子検査を実施した。

その結果、1 件からコクサッキーウイルス A 群 16 型が検出された。

② 水痘（入院を要するもの）

都内医療機関で水痘と診断され、入院に至った事例で、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 2 件について水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）の遺伝子検査を行ったところ、2 件から VZV 遺伝子が検出された。

③ 先天性風疹症候群

都内医療機関で先天性風疹症候群（疑い含む）と診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 5 件について、風疹ウイルスの遺伝子検査を実施したところ、いずれも陰性であった。

④ 麻しん

都内医療機関で麻しん（疑い含む）と診断され、保健所を通じて当センターに搬入された患者検体 157 件について麻疹ウイルスの遺伝子検査を実施した。

その結果、20 件から麻疹ウイルス遺伝子が検出され、遺伝子型別を行ったところ A 型が 1 件、D8 型が 16 件、H1 型が 3 件であった。麻疹ウイルス陰性検体については病原体レファレンス事業により風疹ウイルス、ヒトパルボウイルス B19 等の遺伝子検索も実施し、14 検体から風疹ウイルス 1 件、ヒトパルボウイルス B19 3 件、ヒトヘルペスウイルス 6 型 9 件、ヒトヘルペスウイルス 7 型 2 件を検出した。

2 細菌検査結果

(1) 四類感染症の病原体検索

ア レジオネラ症

レジオネラ症 7 事件、7 件の検体が搬入された。その内訳は、患者喀痰 2 件、患者由来株 5 株であった。喀痰については、レジオネラ属菌の遺伝子検査及び分離培養を実施した結果、2 件とも遺伝子検査は陽性であったが、分離培養は陰性であった。患者由来株についての血清型別試験を実施した結果、4 株が 1 群であり、1 株が型別不能であった。

また、2 事件について患者由来株と環境由来株についてパルスフィールド電気泳動法による遺伝子解析を実施した。その結果、いずれの事件も患者由来株と環境由来株が同一パターンを示した。

(2) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索

ア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

搬入された患者由来株は 64 株(61 事件)で、A 群レンサ球菌が 39 株、B 群レンサ球菌が 10 株、G 群レンサ球菌が 13 株、群別不能が 2 株であった。A 群レンサ球菌 39 株のうち 37 株は *Streptococcus pyogenes* であり、その T 血清型は 1 型:16 株、B3264 型:5 株、28 型:4 株、11 型及び 12 型がそれぞれ 3 株、13 型:2 株、3 型、4 型、6 型、25 型がそれぞれ 1 株であった。M タンパクをコードする遺伝子により型別を行う emm 型別を実施した結果、1 型が 16 株と最も多く、次いで 89 型が 5 株であった。

B 群レンサ球菌 10 株の血清型を実施した結果、Ib 型:3 株、III 型:3 株、V 型:4 株であった。

また、*S.pyogenes* 以外の A 群レンサ球菌 2 株、及びすべての G 群レンサ球菌 13 株は、*S.dysgalactiae* subsp. *equisimilis* であり、群別不能であった 2 株の菌種は、*S.constellatus* と *S.suis* であった。

イ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

搬入された患者由来のインフルエンザ菌は 40 株であり、莢膜型別について免疫血清を用いた血清型及び PCR 法による型別を実施した結果、f 型は 5 株であり、残りの 35 株はすべて型別不能であった。

ウ 侵襲性髄膜炎菌感染症

本疾患の患者由来菌株は 3 株搬入され、PCR 法による型別を実施した結果、3 株すべてが B 群であった。

エ 侵襲性肺炎球菌感染症

搬入された患者由来の肺炎球菌は 125 株(117 事件)であり、それぞれについて莢膜血清型別を実施した。その結果、血清型については、12F 型:21 株が最も多く、次いで 3 型、24F 型が各 11 株、7F 型:10 株、15C 型、35B 型が各 8 株、22F 型、23A 型が各 6 株、10A 型、15A 型が各 5 株、19A 型、33F 型、6B 型が各 4 株、24B 型:3 株、1 型、20 型、38 型、19F 型、23B 型、6C 型が各 2 株、8 型、14 型、31 型、11A 型、6A 型、型別不能が各 1 株であり、1 株は死滅していたため型別できなかった。

オ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

搬入された菌株は患者由来株 1 株であり、*Enterococcus faecium* で *vanB* 遺伝子を保有していた。

カ 薬剤耐性アシネトバクター感染症

搬入された患者由来株は *Acinetobacter baumannii* 1 株であり、PCR 法による耐性遺伝子の検出を実施した結

果、OXA-51-like β -ラクタマーゼをコードする遺伝子とプロモーター活性を有する挿入遺伝子領域 (IS $Aba1$) を保有していた。

キ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

患者由来株は 90 株 (82 症件及び保菌 3 件) が搬入された。菌株の内訳は、*Enterobacter* 属が最も多く 35 株、次いで *Klebsiella pneumoniae* が 21 株、*Escherichia coli* が 16 株、*Citrobacter freundii* が 6 株、*Serratia marcescens* 及び *K. oxytoca* が各 5 株ずつ、*Proteus mirabilis* が 2 株であった。

PCR 法による β -ラクタマーゼ遺伝子の検出を実施した結果、TEM 遺伝子を保有している株が最も多く 20 株、次いで IMP-1 遺伝子保有株が 13 株、CTX-M-1 group 遺伝子保有株が 12 株、CTX-M-9 group 遺伝子保有株が 11 株、EBC 遺伝子保有株が 9 株、SHV 遺伝子保有株が 8 株、CTX-M-2 group 遺伝子保有株、CIT 遺伝子保有株がそれぞれ 5 株、NDM 遺伝子保有株が 4 株であった。また、検査したいずれの耐性遺伝子も保有していなかった株は 22 株であった。

(3) 五類感染症 (定点把握対象) の病原体検索

ア A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

都内の定点医療機関から A 群溶血性レンサ球菌感染症患者由来検体は 97 件であった。その内訳は咽頭スワブが、58 件、気管スワブが 1 件、菌株 38 株であった。

搬入されたスワブから分離された A 群溶血性レンサ球菌は 43 株であり、菌株で搬入された 38 株を合わせた合計 81 株について T 血清型別試験を実施した。その結果、T4 型が 19 株と最も多く、次いで T1 型、T12 型がそれぞれ 16 株、T3 型: 14 株、TB3264 型: 9 株、T2 型: 2 株、T6 型、11 型、25 型がそれぞれ 1 株ずつであり、型別不能株は 2 株であった。

イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑いの患者糞便 1 件について腸管系の細菌検査を実施したが、陰性であった。

ウ 百日咳

都内の定点医療機関から百日咳疑い患者の鼻汁または咽頭拭い液が 29 検体搬入され、遺伝子検索及び分離同定を実施した。その結果、1 検体から百日咳菌遺伝子が検出され、百日咳菌が分離された。

エ マイコプラズマ肺炎

都内の定点医療機関からマイコプラズマ肺炎疑い患者の咽頭拭い液が 32 検体及びマイコプラズマによる髄膜炎疑い患者の髄液 2 検体が搬入され、遺伝子検索及び分離同定を実施した。その結果、13 検体から肺炎マイコプラズマ遺伝子が検出され、14 株の肺炎マイコプラズマが分離された。

オ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 感染症

都内の定点医療機関から MRSA 感染症患者由来検体が 16 検体搬入され、すべて MRSA であった。分離された 16 株について、コアグラーゼ型別 (コ型)、エンテロトキシン (SE) 産生性及び Toxic shock syndrome toxin-1 (TSST-1) 産生性の試験を実施した。コ型の結果、Ⅲ型: 8 株、Ⅱ型: 5 株、Ⅶ型: 2 株、Ⅷ型: 1 株であり、そのうちⅢ型の 8 株中 5 株とⅡ型の 5 株すべてが SEC+TSST-1 産生性株であった。また、Ⅶ型株は SEA 産

生株と SEB 産生株それぞれ 1 株であった。

3 性感染症の病原体検索

2016 年 1 月から 12 月に都内 4 ヶ所の性感染症病原体定点医療機関（STI 定点）より搬入された検体について、クラミジア・トラコマチス、淋菌、膣トリコモナス、パピローマウイルスおよびヘルペスウイルス等の病原体の検出を行うとともに、遺伝子型、血清型等の検出状況を解析した。

（１）クラミジア・トラコマチス、淋菌および膣トリコモナス検査

ア クラミジア・トラコマチスおよび淋菌の検査

STI 定点より搬入された 159 件について検査を実施した。搬入検体の内訳は、男性は陰部擦過物（スワブ）32 件、尿 100 件の合計 132 件、女性はスワブ 23 件、性別不明件は尿 4 件であった。

クラミジア・トラコマチスおよび淋菌の遺伝子検査は、Transcription Mediated Amplification: TMA 法（パンサー、ホロジック社）で実施した。クラミジア・トラコマチスについては、男性 28 件（21.2%）、女性 19 件（82.6%）、性別不明 1 件（25.0%）から遺伝子が検出された。淋菌遺伝子は男性 25 件（18.9%）のみから検出された。クラミジアと淋菌の遺伝子が共に検出されたのは、男性で 1 件（0.8%）であった。

年齢階級別にみた検査結果では（表 1）、男性は 20～40 歳代でクラミジア・トラコマチス遺伝子が 26 件（92.9%）、淋菌遺伝子が 21 件（84.0%）検出された。女性のクラミジア・トラコマチス遺伝子陽性 18 件（年代不明件を除く）すべてが 10～40 歳代に分布していた。また、男性では 20～40 歳代で検出された。

淋菌およびその他の菌の分離培養は、5%ウマ血液寒天培地およびサイヤー・マーチン寒天培地を用い、発育した集落について菌種を同定した。淋菌遺伝子が検出された 25 件のうち 11 件（44.0%）から淋菌が分離された。分離された淋菌については薬剤感受性試験を行った（結果については（オ）に記載）。その他の病原体として、髄膜炎菌が男性から 1 件（0.8%）分離された。

イ 膣トリコモナス検査

女性のスワブ 1 件から、膣トリコモナスの ITS1, 5.8S rRNA, ITS2 領域を標的とした PCR による遺伝子検査を行った結果、膣トリコモナス遺伝子が検出された。

ウ 性別および臨床診断別の性感染症病原体検査結果

臨床診断別の病原体検査成績を表 2 に示した。男性では、尿道炎と診断された 105 件中 25 件（23.8%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、6 件（5.7%）から淋菌遺伝子が検出され、うち 1 件から淋菌が分離された。また 1 件から髄膜炎菌が分離された。

また、性器クラミジア感染症と診断された 5 件中 2 件（40.0%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、1 件（20.0%）から淋菌遺伝子が検出された。

淋菌感染症と診断された 22 件中 1 件（4.5%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、18 件（81.8%）から淋菌遺伝子が検出され、うち 10 件から淋菌が分離された。

女性では、性器クラミジア感染症と診断された 23 件中 19 件（82.6%）からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、また 1 件から膣トリコモナス遺伝子が検出された。

性別不明件では、尿道炎と診断された 3 件中 1 件（33.3%）からクラミジア・トラコマチス

遺伝子が検出された。

表 1. 性別および年齢階級別の病原体検査成績

	年齢階級	検査数	遺伝子検査			分離培養	
			クラミジア・トラコマチス	淋菌	陰トリコモナス	淋菌	髄膜炎菌
男性	10歳代	1	1				
	20歳代	38	10	7		3	1
	30歳代	48	12	12		5	
	40歳代	20	4	2		1	
	50歳代	16	1	3		1	
	60歳代	7		1		1	
	70歳以上	1					
	不明	1					
	計	132	28	25	0	11	1
女性	10歳代	3	3				
	20歳代	7	6		1		
	30歳代	8	5				
	40歳代	4	4				
	不明	1	1				
	計	23	19	0	1	0	0
不明	30歳代	1					
	40歳代	1	1				
	50歳代	1					
	60歳代	1					
	計	4	1	0	0	0	0
合計		159	48	25	1	11	1

表 2. 性別および臨床診断別の病原体検査結果

	臨床診断 (疑い例含む)	検査数	遺伝子検査			分離培養	
			クラミジア・トラコマチス	淋菌	陰トリコモナス	淋菌	髄膜炎菌
男性	尿道炎	105	25	6		1	1
	性器クラミジア感染症	5	2	1			
	淋菌感染症	22	1	18		10	
	計	132	28	25	0	11	1
女性	性器クラミジア感染症	23	19		1		
	計	23	19	0	1	0	0
不明	尿道炎	3	1				
	性器クラミジア感染症	1					
	計	4	1	0	0	0	0
合計		159	48	25	1	11	1

エ クラミジア・トラコマチスの血清型別遺伝子検査の結果

クラミジア・トラコマチスは、血清型に基づいて A～L 型に分類され、アフリカやアジア等のトラコーマ流行地において多く検出されるトラコーマ型の A～C 型、トラコーマ非流行地で主に検出される性器クラミジア感染症型の D～K 型、鼠径リンパ肉芽腫症の起原菌となる L 型にそれぞれ分けられている。

TMA 法により陽性となった検体を対象に、クラミジア・トラコマチス血清型の遺伝子検査を行った。検体よりゲノム DNA を抽出し、血清型特異抗原となる主要外膜蛋白遺伝子 (*omp1*) の可変領域

を挟む共通プライマーにより PCR 法で増幅後、その塩基配列を決定し、NCBI（米国生物工学情報センター）の核酸データベースにおける BLAST 検索および解析により血清型を判定した。

遺伝子検査陽性の 47 件のうち、遺伝子解析により 46 件の血清型が同定出来た。血清型別判定の内訳を表 3 に示した。

D、E、F の 3 つの型の合計で 71.7%であり、2015 年と同様に過半数を占めていた。この他、性器クラミジア感染症型の G～K 型もそれぞれ検出されたが、トラコーマ型（A～C 型）や鼠径リンパ肉芽腫症型（L 型）は検出されなかった。なお、1 件については、血清型別に用いるターゲット部位の核酸増幅が行えず、血清型が不明となった。

表 3. クラミジア・トラコマチスの血清型別結果

検体数	血清型							
	D 及び D/Da	E	F	G	H	I, Ia 及び I/Ia	J 及び Ja	K
46	14	11	8	4	5	1	2	1
(%)	(30.4)	(23.9)	(17.4)	(8.7)	(10.9)	(2.2)	(4.3)	(2.2)

オ 淋菌分離株の薬剤感受性

分離された淋菌 11 株の薬剤耐性試験の結果を表 4 に示した。ペニシリンに対する最小発育阻止濃度はすべての株が中等度（0.12μg/ml）以上であった。また、テトラサイクリンに対する中等度（0.5μg/ml）以上の耐性株は 8 株（72.7%）、シプロフロキサシンに対する耐性株（≥ 1μg/ml）は 7 株（63.6%）、セフロキシムに対する中等度（2μg/ml）以上の耐性株は 5 株（45.5%）であった。セフトアキシム、セフトリアキソンおよびスペクチノマイシンにおいてはすべての株が感受性を示した。

表 4. 淋菌分離株（11 株）の薬剤感受性

薬剤感受性	ペニシリン	テトラサイクリン	シプロフロキサシン	セフロキシム	セフトアキシム	セフトリアキソン	スペクチノマイシン
	PCG	TC	CPFX	CXM	CTX	CTRX	SPCM
耐性 (%)	2 (18.2)	3 (27.3)	7 (63.6)	3 (27.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
中等度耐性 (%)	9 (81.8)	5 (45.5)	0 (0.0)	2 (18.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
感受性 (%)	0 (0.0)	3 (27.3)	4 (36.4)	6 (54.5)	11 (100.0)	11 (100.0)	11 (100.0)

第 3 章

資 料

2 東京都感染症予防検討委員会委員名簿

2016年12月31日現在 : 順不同

氏 名	役 職
◎ 長 岡 常 雄	社会福祉法人 土佐希望の家 副施設長
○ 岡 部 信 彦	川崎市健康安全研究所長
○ 萩 原 温 久 *	萩原医院（東京小児科医会）
永 井 英 明	独立行政法人 国立病院機構東京病院呼吸器センター部長
尾 形 英 雄	結核予防会複十字病院副院長
山 川 博 之	江戸川保健所長
広 松 恭 子 *	町田市保健所長
今 村 顕 史	がん・感染症センター都立駒込病院感染症科部長
澁 谷 智 晃	東京都福祉保健局健康安全部食品危機管理担当課長
村 上 邦仁子 *	東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課疫学情報担当課長
山 下 和 予	国立感染症研究所感染症疫学センター客員研究員
杉 下 由 行 *	東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長
長谷川 道 彦	はせがわクリニック（東京泌尿器科医会）
北 村 邦 夫	一般社団法人日本家族計画協会理事長（東京産婦人科医会）
黒 澤 サト子	くろさわ子ども&内科クリニック（東京小児科医会）
井 上 賢 治	お茶の水・井上眼科クリニック（東京都眼科医会）
遠 藤 弘 良	聖路加国際大学公衆衛生学大学院設置準備室長
平 山 宗 宏	東京大学名誉教授
池 田 忠 生	公益社団法人東京都獣医師会監事

鳥 居 明	東京都医師会理事（疾病担当）
-------	----------------

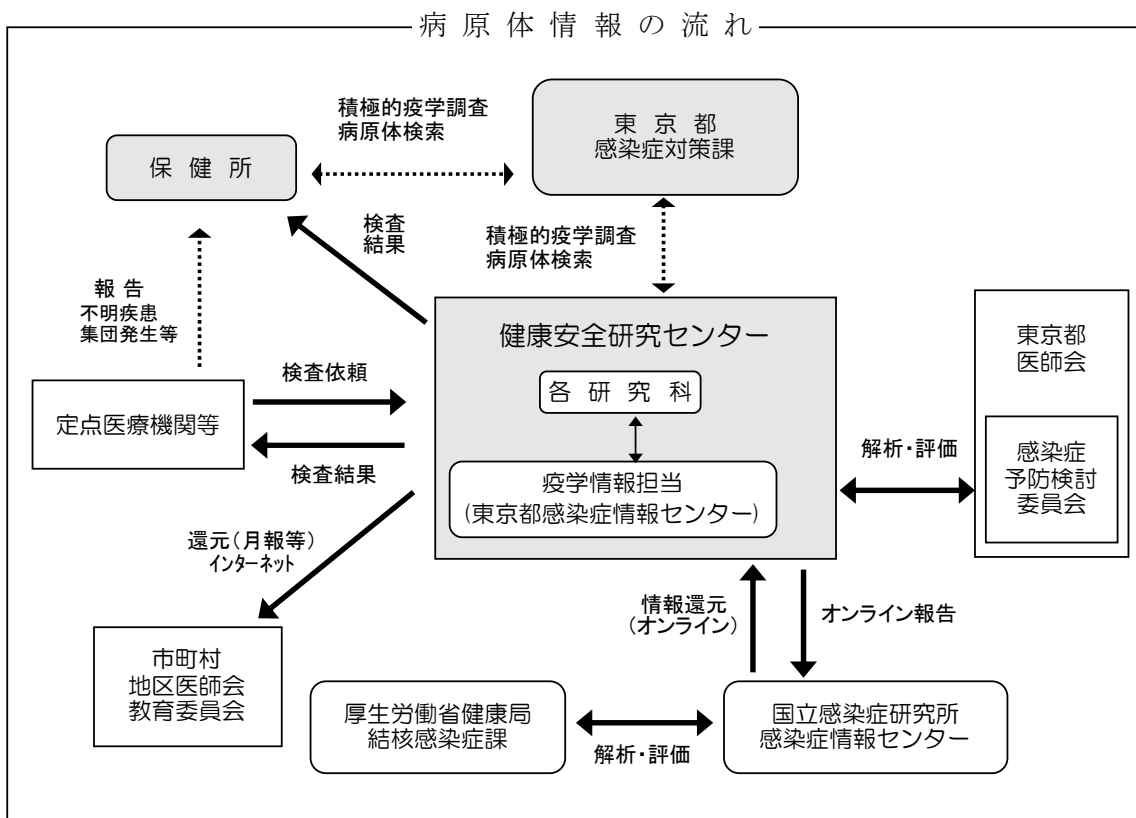
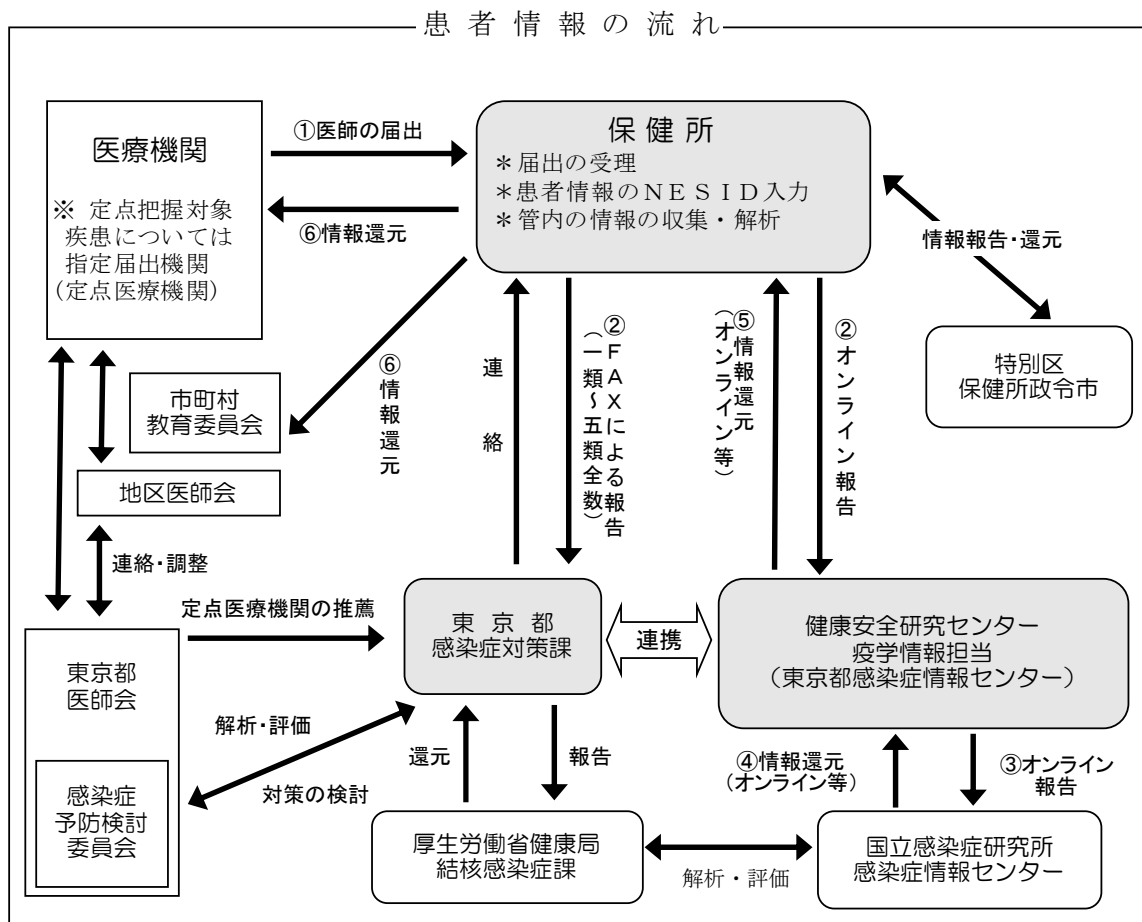
* 平成28年4月1日から

◎委員長 ○副委員長

平成28年3月31日まで

武 隈 孝 治	総合病院 厚生中央病院（東京小児科医会）
大 井 洋	町田市保健所長
寺 田 千 草	東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課疫学情報担当課長代理
西 塚 至	東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長

3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ



東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11 衛福結第680号

平成12年3月30日

最終改正 27 福保健感第1108号

平成28年3月22日

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生状況の正確な把握と分析、その結果の国民や医療関係者への迅速な提供・公開により、感染症に対する有効かつ的確な予防・診断・治療に係る対策を図り、多様な感染症の発生及びまん延を防止するとともに、病原体情報を収集、分析することで、流行している病原体の検出状況及び特性を確認し、適切な感染症対策を立案することを目的として実施するものとする。

第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施体制

1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都、特別区及び保健所政令市における患者情報、疑似症情報及び病原体情報（検査情報を含む。以下同じ。）を収集・分析し、東京都、特別区及び保健所政令市の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター（以下「健康安全研究センター」という。）は、東京都全域の患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

2 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

（1）東京都は、定点把握対象の感染症についての、患者情報及び疑似症情報を収集するため、感

感染症法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点をあらかじめ選定する。

- (2) 東京都は、定点把握対象の五類感染症についての、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下「検体等」という。）を収集するため、病原体定点をあらかじめ選定する。なお、感染症法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、感染症法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定する。

3 検査施設

東京都内における本事業に係る検体等の検査については、健康安全研究センターにおいて実施する。健康安全研究センターは、検査施設における病原体等検査の業務管理要領（以下「病原体検査要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努めることとする。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（別表1の74及び84に掲げるもの）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（別表1の74及び84に掲げるもの）、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」（平成18年3月8日付健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知、平成28年2月12日最終改正。以下「届出基準」という。）に基づき診断した場合は、国の定める届出基準の別記様式1-1から2-1、2-3から4-4、5-11並びに本要綱の別記様式8及び10を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等を提供する。

ウ 保健所

- (ア) 届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼等するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターと協議する。

- (イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。

- (ウ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

- (ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- (イ) 健康安全研究センターは、検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。
- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から求められた場合にあっては、福祉保健局健康安全部感染症対策課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。
- (オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

2 全数把握対象の五類感染症（別表１の７４及び８４に掲げるものを除く。）

（１）調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

全数把握対象の五類感染症（別表１の７４及び８４に掲げるものを除く。）を届出基準に基づき診断した医師は、国の定める届出基準の別記様式５－１から５－１０、５－１２から５－２０及び５－２２を用いて、７日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

イ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、提供する。

ウ 保健所

- (ア) 届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターと協議する。

- (イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。
- (ウ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

- (ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- (イ) 健康安全研究センターは、検体等が送付された場合にあっては、病原体検査要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。
- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、福祉保健局健康安全部感染症対策課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。
- (オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ア) 小児科定点

対象感染症のうち、別表１の８６から９８までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力するよう努めること。

(イ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表１の９９に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記（ア）で選定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

(ウ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表１の１００及び１０１に掲げるものについては、眼科を標ぼうす

る医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。

（エ）性感染症定点

対象感染症のうち、別表１の１０２から１０６までに掲げるものについては、産婦人科、産科若しくは婦人科（産婦人科系）、医療法施行令（昭和二十三年政令第三百二十六号）第三条の二第一項第一号ハ及びニ（２）の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標ぼうする医療機関（主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。

（オ）基幹定点

対象感染症のうち、別表１の９９に掲げるインフルエンザ（届出基準はインフルエンザ定点と異なり、入院患者に限定される）、別表１の１０７から１１４までに掲げるものについては、患者を３００人以上収容する施設を有する病院であって、内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を二次医療圏毎に１か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、病原体定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

（ア）医療機関を病原体定点として選定する場合は、原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

（イ）アの（ア）により選定された患者定点の概ね１０％を小児科病原体定点とし、別表１の８６から９８までを対象感染症とする。

（ウ）アの（ア）及び（イ）により選定された患者定点の概ね１０％をインフルエンザ病原体定点とし、別表１の９９を対象感染症とする。また、インフルエンザ病原体定点を、感染症法第１４条の２第１項に規定する指定提出機関として指定する。

（エ）アの（ウ）により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定し、別表１の１００及び１０１を対象感染症とする。

（オ）アの（エ）により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定し、別表１の１０２から１０６を対象感染症とする。

（カ）アの（オ）により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定し、別表１の９９に掲げるインフルエンザ（入院患者に限る。）、別表１の１０７から１１４までを対象感染症とする。

（３）調査単位等

ア 患者情報

調査単位の期間等は、別表２のとおりとする。

イ 病原体情報

病原体情報のうち、（２）のイの（ウ）により選定された病原体定点に関するものについては、別表１の９９に掲げるインフルエンザの流行期（（２）のアの（イ）により選定された患者定点あたりの患者発生数が東京都全体で１を超えた時点から１を下回るまでの間）には１週間（月曜日から日曜日）を調査単位とし、非流行期（流行期以外の期間）には各月を調査

単位とする。その他病原体定点に関するものについては、各月を調査単位とする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

- (ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。
- (イ) (2) のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれの調査単位の患者発生状況を別記様式 2 から 7 に記載する。
- (ウ) (イ) の届出に当たっては、感染症法施行規則第 7 条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

- (ア) 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のために検体等采取する。
- (イ) 病原体定点は、検体等について、別記様式 1 の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。
- (ウ) (2) のイの (イ) により選定された病原体定点においては、別表 1 の 8 6 から 9 6 までの対象感染症のうち、調査単位ごとに、概ね 4 症例からそれぞれ少なくとも 1 種類の検体を送付するものとする。
- (エ) (2) のイの (ウ) により選定された病原体定点においては、別表 1 の 9 9 に掲げるインフルエンザ（インフルエンザ様疾患を含む。）について、調査単位ごとに、少なくとも 1 検体を送付するものとする。

ウ 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、提供する。

エ 保健所

- (ア) 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の 3 日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとし、併せて、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

また、保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について依頼するものとする。なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターと協議する。

- (イ) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、健康安全研究センターへ検査を依頼するものとする。
- (ウ) 保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

オ 健康安全研究センター

- (ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

- (イ) 健康安全研究センターは、別記様式 1 の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式 1 により保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。また、病原体情報について、速やかに中央感染症情報センターに報告する。
- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて、他の道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。
- (エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、福祉保健局健康安全部感染症対策課等と協議の上、検体等を国立感染症研究所に送付する。
- (オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

4 法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 疑似症定点

疑似症定点は下記のとおりとする。

(ア) 本要綱に定める小児科定点及び内科定点

(イ) 疑似症単独定点

(3) 調査単位

調査単位の期間等は、別表 3 のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 疑似症定点

(ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアの (ア) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を本要綱の別記様式 9 に記載する。なお、届出に当たっては、感染症法施行規則第 7 条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で本要綱の別記様式 2 又は別記様式 3 による報告を行う。

(ウ) (2) のアの (イ) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を感染症健康危機管理情報ネットワークシステム（以下「K-net」という。）へ入力する。なお、届出に当たっては、感染症法施行規則第 7 条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で K-net への入力による報告を行う。

イ 保健所

(ア) 保健所は、(2) のアの (ア) の医療機関から得られた疑似症情報を、随時又は調査対象の週の翌週の火曜日までに、K-net へ入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康

安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

(イ) 保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関、指定提出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての疑似症情報を収集し、症候群サーベイランスシステムに入力する。また、当該情報を分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

5 その他

- (1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。
- (2) 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等については、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外の目的のために用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ、本人等に同意をとることが望ましい。なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の規定に従い行うものとする。
- (3) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて福祉保健局長が定めることとする。

6 特別区及び保健所政令市との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区及び保健所政令市と協議し、連携を図るものとする。

附 則

この実施要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年11月5日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成16年8月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年6月12日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成１９年６月１５日から施行し、同年４月１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２０年１月３１日から施行し、同年１月１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２０年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２０年７月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２２年３月１６日から施行し、同年３月１１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２３年２月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２３年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２３年９月５日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２５年４月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２５年５月２２日から施行し、同年５月６日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２５年１０月１４日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２６年６月１２日から施行し、同年５月１２日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２６年８月１３日から施行し、同年７月２６日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２６年９月１９日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２７年２月２５日から施行し、同年１月２１日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成２７年５月２１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２８年１月１日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２８年２月１５日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成２８年４月１日から施行する。

感染症法に基づく感染症の分類

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

		疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
			患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届 出 種 別	時 期
一 類	1	エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	2	クリミア・コンゴ出血熱					
	3	痘そう					
	4	南米出血熱					
	5	ペスト					
	6	マールブルグ病					
	7	ラッサ熱					
二 類	8	急性灰白髄炎	○	—	○	全数	直ちに
	9	結核	○	○	△※		
	10	ジフテリア	○	—	○		
	11	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウ イルスであるものに限る)	○	○	○		
	12	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウ イルスであるものに限る)	○	○	○		
	13	鳥インフルエンザ (H5N1)	○	○	○		
三 類	14	鳥インフルエンザ (H7N9)	○	○	○	全数	直ちに
	15	コレラ	○	—	○		
	16	細菌性赤痢	○	—	○		
	17	腸管出血性大腸菌感染症	○	—	○		
	18	腸チフス	○	—	○		
四 類	19	パラチフス	○	—	○	全数	直ちに
	20	E型肝炎	○	—	○		
	21	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む。)	○	—	○		
	22	A型肝炎	○	—	○		
	23	エキノコックス症	○	—	○		
	24	黄熱	○	—	○		
	25	オウム病	○	—	○		
	26	オムスク出血熱	○	—	○		
	27	回帰熱	○	—	○		
	28	キャサスル森林病	○	—	○		
	29	Q熱	○	—	○		
	30	狂犬病	○	—	○		
	31	コクシジオイデス症	○	—	○		
	32	サル痘	○	—	○		
	33	ジカウイルス感染症	○	—	○		
	34	重症熱性血小板減少症候群 (病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスである ものに限る。)	○	—	○		
	35	腎症候性出血熱	○	—	○		
	36	西部ウマ脳炎	○	—	○		
	37	ダニ媒介脳炎	○	—	○		
	38	炭疽	○	—	○		
	39	チクングニア熱	○	—	○		
	40	つつが虫病	○	—	○		
	41	デング熱	○	—	○		
	42	東部ウマ脳炎	○	—	○		
	43	鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9を除く)	○	—	○		
	44	ニパウイルス感染症	○	—	○		

※結核の無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要。

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出別	時期
四 類	45 日本紅斑熱	○	—	○	全数	直ちに
	46 日本脳炎	○	—	○		
	47 ハンタウイルス肺症候群	○	—	○		
	48 Bウイルス病	○	—	○		
	49 鼻疽	○	—	○		
	50 ブルセラ症	○	—	○		
	51 ベネズエラウマ脳炎	○	—	○		
	52 ヘンドラウイルス感染症	○	—	○		
	53 発しんチフス	○	—	○		
	54 ボツリヌス症	○	—	○		
	55 マラリア	○	—	○		
	56 野兎病	○	—	○		
	57 ライム病	○	—	○		
	58 リッサウイルス感染症	○	—	○		
	59 リフトバレー熱	○	—	○		
	60 類鼻疽	○	—	○		
	61 レジオネラ症	○	—	○		
	62 レプトスピラ症	○	—	○		
	63 ロッキー山紅斑熱	○	—	○		
指定感染症	—	—	—	—	—	—

※平成28年3月22日現在、政令に基づく指定感染症なし。

2 五類感染症（全数把握）

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届出別	時期
64	アメーバ赤痢	○	—	—	全数	7日以内
65	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	—	—		
66	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	○	—	—		
67	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介 脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ 脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	—	—		
68	クリプトスポリジウム症	○	—	—		
69	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	—	—		
70	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	—	—		
71	後天性免疫不全症候群	○	—	○		
72	ジアルジア症	○	—	—		
73	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	—	—		
74	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	—	—	全数	直ちに
75	侵襲性肺炎球菌感染症	○	—	—	全数	7日以内
76	水痘（患者が入院を要すると認められるものに限 る。）	○	—	—		
77	先天性風しん症候群	○	—	—		
78	梅毒	○	—	○		
79	播種性クリプトコックス症	○	—	—		
80	破傷風	○	—	—		
81	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
82	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	—	—		
83	風しん	○	—	—		
84	麻しん	○	—	—	全数	直ちに
85	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	—	—	全数	7日以内

3 新型インフルエンザ等感染症

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届 出 種 別	時 期
115	新型インフルエンザ	○	○	○	全数	直ちに
116	再興型インフルエンザ	○	○	○		

4 五類感染症（定点把握）

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者	届 出 種 別 (定点)	時 期
86	RSウイルス感染症	○	—	—	別表2参照	
87	咽頭結膜熱	○	—	—		
88	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	—	—		
89	感染性胃腸炎	○	—	—		
90	水痘	○	—	—		
91	手足口病	○	—	—		
92	伝染性紅斑	○	—	—		
93	突発性発しん	○	—	—		
94	百日咳	○	—	—		
95	ヘルパンギーナ	○	—	—		
96	流行性耳下腺炎	○	—	—		
97	不明発しん症（都単独）	○	—	—		
98	川崎病（都単独）	○	—	—		
99	インフルエンザ （鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。）	○	—	—		
100	急性出血性結膜炎	○	—	—		
101	流行性角結膜炎	○	—	—		
102	性器クラミジア感染症	○	—	—		
103	性器ヘルペスウイルス感染症	○	—	—		
104	尖圭コンジローマ	○	—	—		
105	淋菌感染症	○	—	—		
106	膣トリコモナス症（都単独）	○	—	—		
107	クラミジア肺炎（オウム病を除く。）	○	—	—		
108	感染性胃腸炎 （病原体がロタウイルスであるものに限る。）	○	—	—		
109	細菌性髄膜炎 （インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）	○	—	—		
110	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	—	—		
111	マイコプラズマ肺炎	○	—	—		
112	無菌性髄膜炎	○	—	—		
113	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
114	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	—	—		

5 疑似症

	届 出 対 象	届 出 対 象 者			調 査 単 位 (期間)	時 期
		患 者	疑似症患者	無症状病原体保有者		
117	摂氏38℃以上の発熱及び呼吸器症状 （明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）	—	○	—	別表3参照	
118	発熱及び発しん又は水疱	—	○	—		

別表 2

五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期

定点種別	疾 患 名	調査単位 (期間)	時 期
小児科定点 ※	R S ウイルス感染症	週単位 (月曜日から日曜日。以下同じ。)	次の月曜日
	咽頭結膜熱		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		
	感染性胃腸炎		
	水痘		
	手足口病		
	伝染性紅斑		
	突発性発しん		
	百日咳		
	ヘルパンギーナ		
	流行性耳下腺炎		
	不明発しん症 (都単独)		
	川崎病 (都単独)		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)		
内科定点※	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	週単位	次の月曜日
眼科定点	急性出血性結膜炎	週単位	次の月曜日
	流行性角結膜炎		
性感染症 定点	性器クラミジア感染症	月単位	翌月初日
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ		
	淋菌感染症		
	膺トリコモナス症 (都単独)		
基幹 定点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	週単位	次の月曜日
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに限る。)		
	細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された 場合を除く)		
	マイコプラズマ肺炎		
	無菌性髄膜炎		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。入院 患者のみ。)		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	月単位	翌月初日
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
	薬剤耐性緑膿菌感染症		

※小児科定点と内科定点を合わせてインフルエンザ定点とする。

別表 3

疑似症の調査単位と報告時期

定点種別	届 出 対 象	調査単位 (期間)	時 期
疑似症定点	摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)	随時及び週単位 (月曜日から日曜日)	直ちに及び 次の月曜日
	発熱及び発しん又は水疱		

(注)

- 1 感染症法に規定する感染症によるものでないことが明らかである場合には、本届出の対象とはならない。
- 2 感染症法に規定する感染症によるものであることが明らかであり、かつ、いずれの感染症であるかが特定可能な場合には、当該感染症の届出基準に基づき届出を行うこととなるため、本届出の対象とはならない。
- 3 当該疑似症が発生した場合は直ちに報告するとともに、発生が無い場合についても週単位で報告する。

番号	件名等
別記様式 1	感染症発生動向調査病原体定点検査票
別記様式 2	五類感染症（定点把握対象）小児科患者定点報告票
別記様式 3	五類感染症（定点把握対象）インフルエンザ患者定点報告票
別記様式 4	五類感染症（定点把握対象）眼科患者定点報告票
別記様式 5	五類感染症（定点把握対象）性感染症患者定点報告票
別記様式 6－1、6－2	五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票（週報告分）
別記様式 7	五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票（月報告分）
別記様式 8	麻疹発生届
別記様式 9	疑似症定点報告票
別記様式 10	結核発生届

感染症発生動向調査病原体定点検査票

【医療機関記入欄】

医療機関名		医師名		【患者報告】 月 日 ～ 月 日 分で報告	
患者報告を行った該当する1種類の診断名にのみ○をつけてください。 (定点把握疾患の病原体の動向把握を目的とした検査ですので、下記の診断名の疾患を対象としています) ※発生動向調査事業の趣旨をご説明いただき、本人等の同意をとったうえで、検体採取をお願いいたします。					
診断名	小児科	・RSウイルス感染症 ・咽頭結膜熱 ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 ・感染性胃腸炎 ・水痘 ・手足口病 ・伝染性紅斑 ・突発性発しん ・百日咳 ・ヘルパンギーナ ・流行性耳下腺炎 ・川崎病 ・インフルエンザ ※インフルエンザ様疾患含む(迅速診断キット検査結果: A型陽性 B型陽性 陰性) ・不明発しん症 (発熱及び発しん又は水疱を呈し、医療機関で実施可能な検査において病原体同定が困難なもの)			
	内科	・インフルエンザ ※インフルエンザ様疾患含む(迅速診断キット検査結果: A型陽性 B型陽性 陰性)			
	眼科	・流行性角結膜炎 ・急性出血性結膜炎			
	性感染症	・性器クラミジア感染症 ・性器ヘルペスウイルス感染症 ・尖圭コンジローマ ・淋菌感染症 ・膣トリコモナス症			
	基幹	・クラミジア肺炎(オウム病を除く) ・感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスに限る) ・マイコプラズマ肺炎 ・細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因とするものを除く) ・無菌性髄膜炎 ・インフルエンザ ※入院患者のみ (迅速診断キット検査結果: A型陽性 B型陽性 陰性) ・ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 ・メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 ・薬剤耐性緑膿菌感染症			
ID (イニシャル)				居住地	区市町村
発病日	年 月 日	検体採取日	年 月 日	性別	男・女 年齢 歳 月
検体	・便 ・直腸ぬぐい液 ・尿 ・髄液 ・咽頭ぬぐい液、うがい液、鼻汁 ・皮膚病巣(水疱内容、痂皮、創傷) ・吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 ・陰部尿道頸管擦過物/分泌物 ・結膜ぬぐい液(結膜擦過物、眼脂) ・血液(全血、血清、血漿) ・その他 []				
臨床症状・兆候	・発熱(最高 ℃) ・口内・咽頭所見() ・頭痛 ・唾液腺腫脹、リンパ節腫脹(部位) ・発疹(丘疹、紅斑、バラ疹、水疱) ・胃腸炎(下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛) ・上気道/下気道炎(咽頭炎、扁桃炎、肺炎、気管支炎) ・肝機能障害 ・黄疸 ・出血傾向※全身のもの ・筋肉痛、関節痛 ・腎機能障害 ・神経系症状(脳炎、脳症、髄膜炎、意識障害) ・結膜炎、角膜炎、角結膜炎 ・尿路生殖器症状(排尿時痛、かゆみ、膿、下腹部痛、コンジローマ)				
転 帰	経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡(原因)				
基礎疾患					
発生の状況	・散発 ・地域流行 ・家族内発生 ・集団発生(保育所、幼稚園、小学校、中学校、その他 [])				
最近の海外渡航歴	国名	期間	年 月 日	年 月 日	
ワクチン接種歴 (当該疾患に係るもの)	(無、有、不明)		最近の接種年月日 ワクチン名 年 月 日		

センター記入欄につき
ここには記入しないでください。

感染症発生動向調査（小児科定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日(月) ～ 月 日(日)

医療機関名: _____

年齢		～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20歳 以上	合 計
R S ウ イ ル ス 感 染 症	男															
	女															
咽 頭 結 膜 熱	男															
	女															
A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	男															
	女															
感 染 性 胃 腸 炎	男															
	女															
水 痘	男															
	女															
手 足 口 病	男															
	女															
伝 染 性 紅 斑	男															
	女															
突 発 性 発 し ん	男															
	女															
百 日 咳	男															
	女															
ヘ ル パ ン ギ ー ナ	男															
	女															
流 行 性 耳 下 腺 炎	男															
	女															
不 明 発 し ん 症	男															
	女															
川 崎 病	男															
	女															

注1) 川崎病、不明発しん症は東京都独自の報告対象疾患です。

注2) 感染性胃腸炎については、原因の如何に関わらず、届出基準に合致する患者を診断し、又は死体を検案した場合に届出を行うこと。

年齢		～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20 ～29
インフルエンザ (鳥インフルエンザ 及び新型インフル エンザ等感染症を のぞく)	男														
	女														
		30 ～39	40 ～49	50 ～59	60 ～69	70 ～79	80歳 以上	合 計							
	男														
	女														

定点医療機関からのコメント

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合 計
※			

※注

1. 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。

2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

週報

感染症発生動向調査（インフルエンザ定点・疑似症定点）

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名:

インフルエンザ （鳥インフルエン ザ及び新型インフ ルエンザ等感染症 をのぞく）	0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80歳 以上	合計
	男																				

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合計
※			

※注

- 1. 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
- 2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査（眼科定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名：

		0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳 以上	合計
急性出血性 結膜炎	男																				
	女																				
流行性角結膜炎	男																				
	女																				

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査（S T I 定点）

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名:

		0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上	合計
性器クラミジア 感染症	男																	
	女																	
性器ヘルペス ウイルス感染症	男																	
	女																	
尖圭コンジローマ	男																	
	女																	
淋菌感染症	男																	
	女																	
腫トリコモナス症	男																	
	女																	

定点医療機関からのコメント	
---------------	--

感染症発生動向調査（基幹定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名:

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾 病 名*	病原体名称 (検査結果)	病原体検査	
					左記の結果を得た 病原体検査方法**	検体名
1			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
2			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
3			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
4			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
5			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
6			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
7			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
8			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
9			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
10			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	

* 疾病名

1：細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。）

2：無菌性髄膜炎（真菌、結核菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫を含む）

3：マイコプラズマ肺炎

4：クラミジア肺炎（全数届出疾患のオウム病を除く）

5：感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）

** 病原体検査方法

1：分離・同定 2：抗原検出 3：核酸検出（PCR・LAMP等）

4：塗抹検鏡 5：電顕 6：抗体検出

7：その他

<記載上の注意>

- ・細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎：病原体が判明している場合は、その病原体名（複数検出された場合は、主要なもの二種のみ記載）、その結果を得た病原体検査方法（複数の場合は、最も根拠となった方法一つを選択）及びその検体名を記載。病原体が判明していない場合は、病原体名称欄に“検出せず”と記載してください（病原体検査欄の記載は不要）。
- ・マイコプラズマ肺炎：病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *M. pneumoniae* と記載の上、病原体検査方法（1、2、3、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択）及びその検体名を記載してください。
- ・クラミジア肺炎：病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *C. pneumoniae*、*C. trachomatis* を記載の上、病原体検査方法（1、2、3、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択）及びその検体名を記載してください。
- ・感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る。）：病原体検査診断が必須。病原体名称欄にロタウイルスと記載の上、病原体検査方法（1、2、3、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択）及びその検体名を記載してください。 ※基幹定点として指定されている医療機関が小児科定点として指定されている場合、感染性胃腸炎の届出も行うこと。

感染症発生動向調査（基幹定点）
（インフルエンザによる入院患者の報告）

インフルエンザによる入院患者がいない場合でも、0報告であってください。

調査期間 平成 年 月 日～ 年 月 日

医療機関名

ID番号	性別	年齢 (0歳は月齢)	入院時の対応						備考
			ICU入室	人工呼吸器 の利用	頭部CT検査 (予定含む)	頭部MRI検査 (予定含む)	脳波検査 (予定含む)	いずれにも 該当せず	
1	男・女								
2	男・女								
3	男・女								
4	男・女								
5	男・女								
6	男・女								
7	男・女								
8	男・女								
9	男・女								
10	男・女								
11	男・女								
12	男・女								
13	男・女								
14	男・女								
15	男・女								

<記載上の留意>

- インフルエンザに罹患し、入院した患者(院内感染を含む)を報告してください
- 入院時の患者対応については、該当する項目欄の全てに○を記入してください

感染症発生動向調査（基幹定点）

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名：

- * 疾病名（番号を○で囲む）
1：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
2：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
3：薬剤耐性緑膿菌感染症
- ** 検体採取部位
複数部位から検出された場合は、最も重要と考えられる1カ所のみを記載。

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)		疾 病 名*	検体採取部位**
1				1 2 3	
2				1 2 3	
3				1 2 3	
4				1 2 3	
5				1 2 3	
6				1 2 3	
7				1 2 3	
8				1 2 3	
9				1 2 3	
10				1 2 3	

臨床診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施するとともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果について最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に勘案し、麻しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただきますようお願いいたします。

別記様式 5-21

麻 し ん 発 生 届

東京都知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名

印

（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）（ ） — （※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検案）した者（死体）の種類					
・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体					
2 当該者氏名	3 性別	4 生年月日	5 診断時の年齢(0歳は月齢)	6 当該者職業	
	男・女	年 月 日	歳 (か月)		
7 当該者住所					
電話 () —					
8 当該者所在地					
電話 () —					
9 保護者氏名		10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)			
		電話 () —			

病 型		13 感染原因・感染経路・感染地域
1) 麻しん（検査診断例） 2) 麻しん（臨床診断例） 3) 修飾麻しん（検査診断例）		①感染原因・感染経路（確定・推定） 1 飛沫・飛沫核感染（感染源となった麻疹患者・状況：（ ）） 2 接触感染（感染源となった麻疹患者・物の種類・状況：（ ）） 3 その他（ ）） ②感染地域（確定・推定） 1 日本国内（都道府県 市区町村） 2 国外（国 詳細地域 渡航期間（ ）） ③麻しん含有ワクチン接種歴 1 回目 有（ 歳）・無・不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（S・H 年 月 日・不明） 製造会社/Lot番号（ / ・不明） 2 回目 有（ 歳）・無・不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（S・H 年 月 日・不明） 製造会社/Lot番号（ / ・不明）
11 症 状	・発熱（月 日出現） ・咳 ・鼻汁 ・結膜充血 ・眼脂 ・コプリック斑 ・発疹（月 日出現） ・肺炎 ・中耳炎 ・腸炎 ・クルーズ ・脳炎（急性脳炎の届出もお願いします） ・その他（ ）	14 初診年月日 平成 年 月 日 15 診断（検案※）年月日 平成 年 月 日 16 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日 17 発病年月日（*） 平成 年 月 日 18 死亡年月日（※） 平成 年 月 日
12 診断方法	陰性結果を含め実施したもの全て記載して下さい。 (ア) 分離・同定による病原体の検出 検体：咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ） 検体採取日（月 日） 結果（陽性・陰性） 遺伝子型：（ ） (イ) 検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体：咽頭拭い液・血液・髄液・尿・その他（ ） 検体採取日（月 日） 結果（陽性・陰性） 遺伝子型：（ ） (ウ) 血清IgM抗体の検出 検体採取日（月 日） 結果（陽性・陰性・判定保留） 抗体価：（ ） (エ) ペア血清での抗体の検出 検体採取日（1回目 月 日 2回目 月 日） 抗体価（1回目 2回目） 結果：抗体陽転・抗体価の有意上昇 検査方法：EIA・HI・NT・PA・その他（ ） (オ) その他の検査方法（ ） 検体（ ） 検体採取日（月 日） 結果（ ） (カ) 臨床決定（ ）	19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項

（1, 3, 11 から 13 欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 14 から 18 欄は年齢、年月日を記入すること。（※）欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。11, 12 欄は、該当するものすべてを記載すること。）

診断した医師の方へのお願い

感染症法第15条により、積極的疫学調査を実施致します（この場合、医師の守秘義務は解除されます）。しかし、迅速な感染拡大防止のため、保健所の調査前であっても、患者（又は保護者）の同意が得られた場合には、下記及び裏面調査票により情報提供をお願い致します。

ア. 集団生活：無、有（園児、小・中・高・大・その他の学生、施設入所者、その他（ ））
イ. 集団に接する職業：無、有（保育士、教師、施設職員、医療従事者、その他（ ））
ウ. 集団に接する機会：無、有（施設での実習、ボランティア活動、その他（ ））

保健所への裏面調査票記載の情報提供に関する患者（あるいは保護者）の同意（有・無）

※ 下記の個人情報等については、患者（あるいは保護者）の同意が取れた場合に、情報提供をお願い致します。
質問については、可能な範囲でご記入ください。

保健所における麻しん対応調査票

所属名（保育園、学校、勤務先等）	
連絡先（保育園、学校、勤務先）	（ ） ー
同居している家族の構成	

質問１ 診断前までに以下の症状がありましたか。該当する項目を○で囲んでください。また、症状があった場合には詳しく教えてください。

- 1) 37.5℃以上の発熱：無、不明、有（期間： 月 日～ 月 日）
- 2) 発疹：無、不明、有（頭部、顔、体、手足、その他（ ）、期間 月 日～ 月 日）
- 3) 咳：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）
- 4) 鼻水：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）
- 5) 目の充血：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）

質問２ 患者の周囲の方についてお聞きます。

- 1) 患者家族や周囲の方で、最近、麻しんに罹患した人はいいますか。
無、有（患者との関係： 、年齢： 歳）
- 2) 患者家族などで麻しんに未罹患かつワクチン未接種の人はいいますか。
無、有（患者との関係： 、年齢： 歳）

質問３ 感染の機会に係わる生活状況についてお聞きます。発熱初日の２週間前から解熱３日後までの期間についてお答えください。

- 1) 海外渡航歴 無、有 渡航先（ ）、渡航期間（ 月 日～ 月 日）
- 2) 最終登園・登校・出勤日：（ 月 日）
- 3) 人が多く集まる所（クラブ、習い事、イベント等）の参加：無、有（場所： 時期： ）

感染症発生動向調査（疑似症定点）

報告日 平成 年 月 日

医療機関名: _____

	届出基準	年齢	性別	備考（定点医療機関からのコメント）
1	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
2	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
3	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
4	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
5	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
6	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
7	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
8	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
9	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	
10	1 ・ 2	歳	男 ・ 女	

【届出基準】 1：摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）
 （上欄の数字を○で囲む） 2：発熱及び発しん又は水泡

結 核 発 生 届

東京都知事 (保健所)
特別区長 (保健所)
保健所政令市長 (保健所)

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項(同条第6項において準用する場合を含む。)の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 印 (署名又は記名押印のこと)

従事する病院(科)・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地(※)

電話番号(※) () -

(※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載)

1 診断(検案)した者(死体)の類型				
1) 患者(確定例)	2) 無症状病原体保有者(潜在性結核感染症)	3) 疑似症患者	4) 感染症死亡者の死体	5) 感染症死亡疑いの死体
2 当該者氏名(ふりがな)	3 性別	4 生年月日	5 診断時の年齢(0歳は月齢)	6 当該者職業(具体的に)
()	男・女	年 月 日	歳 (か月)	
7 当該者住所				
電話 () -				
8 当該者所在地				
電話 () -				
9 保護者氏名	10 保護者住所 (9、10は患者が未成年の場合のみ記入)			
	電話 () -			

病 型		18 感染原因・感染経路・感染地域
1) 肺結核	2) その他の結核 ()	① 感染原因・感染経路 (確定・推定) 1 飛沫核・飛沫感染 (感染源の種類・状況) 2 その他 () ② 感染地域 (確定・推定) 1 日本国内 (都道府県 市町村) 2 国外 (国 詳細地域)
11 症状 ・せき ・たん ・発熱 ・胸痛 ・呼吸困難 ・その他 () ・なし	12 診断方法 遺病伝子体の検出 1) 塗抹検査 (- ± 1+ 2+ 3+) 又はG 号 検体: 喀痰・その他 () 2) 培養検査 - + (個) 検査中 検体: 喀痰・その他 () 3) 核酸増幅法 - + 未実施 検体: 喀痰・その他 ()	
4) 病理検査における特異的所見の確認 検体: () 所見: ()		
5) ツベルクリン反応検査 月 日判定 x x (x) (発赤・硬結・水泡・壊死)		
6) リンパ球の菌特異蛋白刺激による放出インターフェロンγ試験 月 日実施(陽性・判定保留・陰性)		19 その他感染症のまん延の防止及び当該者の医療のために医師が必要と認める事項 1) 診断時の入院在宅の別 入院(予定)日: 月 日 ・ 在宅 (医療機関名:) 2) 当該者の同居者数 人(うち乳幼児 有・無) ・ 単身 3) その他
7) 画像検査における所見の確認 学会分類 ※○で囲む。 その他 病側 r l b 該当なし 病型 I II III IV V H Pl Op O 拡がり 1 2 3 該当なし		
8) その他の方法 () 検体 () 結果 ()		
9) 臨床決定 ()		
13 初診年月日 平成 年 月 日		(1, 3, 11, 12, 18欄は該当する番号等を○で囲み、4, 5, 13から17欄は年齢、年月日を記入すること。(※)欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。(※)欄は、患者(確定例)を診断した場合のみ記入すること。11, 12欄は、該当するものすべてを記載すること。)
14 診断(検案(※))年月日 平成 年 月 日		
15 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日		
16 発病年月日(※) 平成 年 月 日		
17 死亡年月日(※) 平成 年 月 日		

この届出は診断後直ちに行ってください

感染症発生動向調査事業報告書
平成 28 年（2016 年）

平成 29 年 7 月

登録番号 (29) 4

編集・発行 東京都健康安全研究センター
〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-24-1
電 話 (03) 3363-3231
印刷所 有限会社 雄久社
〒154-0017 東京都世田谷区世田谷 1-24-7
電 話 (03) 5451-7030